

平成31年度
授業科目案内(シラバス)

美術工芸学部



金沢美術工芸大学
KANAZAWA COLLEGE OF ART

平成31年度シラバス

番号	(A1) -01	履修コード	1101Z1
科目名	哲学 I	科目英語名	Philosophy I
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	80名
担当教員	星野 太		
授業概要	テキストを講読しながら、哲学の基本的な方法について学ぶ。		
到達目標	哲学的なテキストの読解を通して、物事を批判的かつ論理的に考える力を養う。		
授業計画	<p>マルクス・ガブリエル『なぜ世界は存在しないのか』（2018年）の講読・解説と、参考書などの教材を用いた補足を交互に行なう。</p> <p>第1回：イントロダクション：作品としての哲学書 第2回：問いの設定：存在するとはどういうことか 第3回：第1章「これはそもそも何なのか、この世界とは？」（1） 第4回：第1章「これはそもそも何なのか、この世界とは？」（2） 第5回：第2章「存在するとはどのようなことか」（1） 第6回：第2章「存在するとはどのようなことか」（2） 第7回：第3章「なぜ世界は存在しないのか」（1） 第8回：第3章「なぜ世界は存在しないのか」（2） 第9回：第4章「自然科学の世界像」（1） 第10回：第4章「自然科学の世界像」（2） 第11回：第5章「宗教の意味」（1） 第12回：第5章「宗教の意味」（2） 第13回：第6章「芸術の意味」（1） 第14回：第6章「芸術の意味」（2） 第15回：最終総括</p> <p>* 講読の進度に応じて、以上の計画には変更がありうる。</p>		
予習・復習	予習として、次回の範囲をあらかじめ読んでおくこと。		
教科書	マルクス・ガブリエル『なぜ世界は存在しないのか』（清水一浩訳、講談社、2018年）		
参考書	講義中に指示する。		
教材	講義中に配布する。		
履修上の注意	教科書を必ず購入し、毎回持参すること（教科書は学内のかゆう堂で販売する）。また、毎回配布するリアクションペーパーに、授業内容についての質問や感想を積極的に述べることを求める。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加・貢献度に対して30%を、学期末に課すレポートに対して70%を配分する。また、履修者多数の場合、必要に応じて中間テストを実施する可能性がある。授業への参加・貢献度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、50%以上の水準に達した。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加・貢献度に対して30%を、学期末に課すレポートに対して70%を配分する。また、履修者多数の場合、必要に応じて中間テストを実施する可能性がある。授業への参加・貢献度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -02	履修コード	1102Z1
科目名	哲学Ⅱ	科目英語名	Philosophy Ⅱ
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	80名
担当教員	星野 太		
授業概要	現代哲学における主要なテーマを取り上げながら、21世紀の哲学の現状について学ぶ。		
到達目標	哲学の議論やテキストに触れることを通して、物事を批判的かつ論理的に考える力を養う。		
授業計画	<p>講義は以下の流れに沿って進める。</p> <p>第1回：イントロダクション：制作／思考のツールとしての哲学 第2回：総説1：現代哲学のマッピング（大陸vs英米、西洋vs東洋） 第3回：総説2：「言語論的転回」から「存在論的転回」へ（20→21世紀） 第4回：存在するとはどういうことか：M・ガブリエルと「新しい実在論」 第5回：人間なしに世界は存在するか：Q・メイヤスーと「思弁的実在論」 第6回：温暖化と絶滅：エコロジーをめぐる哲学（1） 第7回：温暖化と絶滅：エコロジーをめぐる哲学（2） 第8回：中間総括 第9回：総説3：生きているとはどういうことか：「生の哲学」について 第10回：総説4：幹細胞、遺伝子治療、クローン：21世紀の「生の哲学」 第11回：生命の操作可能性がもたらすもの：21世紀の生の哲学（1） 第12回：個体、群れ、極限環境微生物：21世紀の生の哲学（2） 第13回：人工生命が突きつける問題：21世紀の生の哲学（3） 第14回：中間総括 第15回：最終総括</p> <p>* 講義の進度に応じて、以上の計画には変更がありうる。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。		
教科書	なし。教員が作成した資料を配布する。		
参考書	マルクス・ガブリエル『なぜ世界は存在しないのか』（講談社、2018年）、カンタン・メイヤスー『有限性の後で』（人文書院、2016年）。それ以外は講義中に適宜指示する。		
教材	適宜配布する。		
履修上の注意	毎回配布するリアクションペーパーに、授業内容についての質問や感想を積極的に述べること。哲学の予備知識は必要ないが、受講者には講義で扱う事柄について真摯に思考することを求める。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加・貢献度に対して30%を、学期末に課すレポートに対して70%を配分する。また、履修者多数の場合、必要に応じて中間テストを実施する可能性がある。授業への参加・貢献度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、50%以上の水準に達した。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加・貢献度に対して30%を、学期末に課すレポートに対して70%を配分する。また、履修者多数の場合、必要に応じて中間テストを実施する可能性がある。授業への参加・貢献度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -03	履修コード	1103Z1
科目名	心理学 I	科目英語名	Psychology I
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義では、人間理解の基礎として、人間の心理および行動を理解することを目標とする。特に、人間生活に密接に関連する学習や動機付け、社会関係、メンタルヘルスの授業では、実習や体験を重視し、できる限り実体験を伴うよう配慮する。		
到達目標	学生が、心理学の基本的な事項を理解するとともに、日常生活において望ましいあり方を実践できる援助とできるようになることを目的とする。また、アカデミックな世界観、人間に対する視点を涵養することもあわせて目標とする。		
授業計画	1 オリエンテーション 心理学って何? (1) 心の科学とは 2 心理学って何? (2) 3 脳と心 4 学習 (1) 学習とは何か 5 学習 (2) 記憶の世界 6 感情と動機づけ 7 社会的認知 8 社会心理学 (2) 「恋ごころ」の科学 対人社会心理 9 社会心理学 (3) 3人よれば~集団の社会心理 10 君ってどんな人? 性格・人格とテスト性格は変えられるか? 人格の形成と発達 11 悩みを科学する ストレスと健康 12 心の問題を解決する (1) カウンセリングと心理療法 13 心の問題を解決する (2) 心理療法の実際 14 講義のまとめ 15 試験		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。特に、次回の内容について、教科書で確認することは必須とする。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	兵藤・緑川 (編) 心の科学 ナカニシヤ出版		
参考書	無藤ら (編) 心理学 有斐閣		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 1 期末試験の点数 (50%) レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価 (50%) それぞれの課題や参加については、授業内でポイント (点数) を提示する。 授業における発言、小課題 (客観式) での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 1 期末試験の点数 (50%) レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価 (50%) それぞれの課題や参加については、授業内でポイント (点数) を提示する。 授業における発言、小課題 (客観式) での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で70%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -04	履修コード	1104Z1
科目名	心理学Ⅱ	科目英語名	Psychology Ⅱ
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義では、心理学1を習得した学生が、さらに深い理解を得られるよう、心理学の研究手法の学習・体験を行う。特にメディアに関連する心理学の世界を対象とし、実験・調査などの手法を学習することによって、美術系研究において「データをもとに研究を展開できる」スキルを養うのが本講義の目標である。		
到達目標	学生が、心理学をなかだちとして世界や人間に対する幅広い視点で考えることができることを第1の目的とする。また、メディア研究を通して、人間の知識利用や認識の問題について、その現代的な考察にふれることも目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 メディアが意味するもの 3 マンガ・アニメの理解 4 映像の理解 (1) カット技法と理解のメカニズム 5 映像の理解 (2) スキーマとスクリプト 6 伝達・表現・コミュニケーション 7 魅力・好意 8 流行の成立と伝達 9 装粧行動 10 子どもとメディア 11 メディアとしての芸術と芸術教育 12 クリエイションとクリエイティビティ (1) 創造性と創造的思考 13 クリエイションとクリエイティビティ (2) 創造性の促進と抑制 14 クリエイションとクリエイティビティ (3) 創造的活動を高める 15 レポート提出と解説 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。特に、毎回提示される授業内容と資料については、自分で次回まで改めてまとめること。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	兵藤ら「こころの科学」ナカニシヤ出版		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数 (50%) レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価 (50%) それぞれの課題や参加については、授業内でポイント(点数)を提示する。 <p>授業における発言、小課題(客観式)での回答をそのつどカウントする。</p> <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している 		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数 (50%) レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価 (50%) それぞれの課題や参加については、授業内でポイント(点数)を提示する。 <p>授業における発言、小課題(客観式)での回答をそのつどカウントする。</p> <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で70%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している 		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -05	履修コード	1120Z1
科目名	歴史	科目英語名	History
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	近現代史に焦点をあてた講義をおこなう。前半では、金沢の近現代史を「都市形成」という観点から時系列的に追っていく。後半では、近現代史の重要なテーマである「ポストコロニアル」に関連した事象を取り上げ、現代社会に通底する問題にせまっていく。		
到達目標	いわゆる「暗記型の歴史のお勉強」ではなく、自分の身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察することを目指します。		
授業計画	<p>Warm-up: 近現代史の見かた—「日本」の「伝統」とは何か？</p> <p>The First Half: 金沢の近現代史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治時代の金沢—「加賀百万石」から「裏日本」へ— ・ 「軍隊を誘致せよ！」—「軍都」金沢の形成— ・ 「学都」への道—第四高等学校の歴史をたどる— ・ 太平洋戦争と金沢 ・ 戦後の金沢—「伝統」と「アート」による街づくり— <p>Half Time: 映画から近現代史を考える</p> <p>The Second Half: ポストコロニアル文化の諸相</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポストコロニアルとはいつだったのか？ ・ 彼（女）らはなぜ踊り始めたのか？ —ロンドンにおけるノッティンゲルヒル・カーニヴァルの誕生— ・ 黒い音楽、白い暴動—「反ナチ・カーニヴァル」に集ったものたち— ・ 英語圏の中心でパトワを叫ぶ—L. K. J. のダブ・ポエトリー— ・ ポストコロニアル・アート <p>Additional Time: 期末試験</p>		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
教材	パワーポイントを使用する。またプリント資料を必要に応じて配布する。		
履修上の注意	この科目は、平成24年度以降入学者を対象とする授業科目である。平成23年度以前入学者には、シラバス第3章「新旧授業科目対応表」に該当する場合以外は単位が認められない。履修者の関心や傾向により講義内容が変更になる場合もある。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>毎回提出するレスポンスカードと期末試験とを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A] 近現代史に関する視野を広げ、身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察することができた。 [B] 近現代史に関する視野を広げ、身近な事象が歴史の問題につながっていることを確認できた。 [C] 近現代史に関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>毎回提出するレスポンスカードと期末試験とを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S] 近現代史に関する視野を広げ、身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察した解答を作成できた。 [A] 近現代史に関する視野を広げ、身近な事象と歴史の問題を結びつけて考察することができた。 [B] 近現代史に関する視野を広げ、身近な事象が歴史の問題につながっていることを確認できた。 [C] 近現代史に関する視野を広げることができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -06	履修コード	1107Z1
科目名	日本国憲法	科目英語名	Japanese Constitution
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	(非常勤) 今井竜也		
授業概要	憲法における基本的人権の持つ意味と、人権保障において国の統治組織が果たす役割を、さまざまな社会問題を通じて考える。		
到達目標	憲法に規定されている基本的人権の意味、および国の統治機構の役割を正しく理解するとともに、憲法と関連する様々な社会問題を考えることで、憲法をはじめとする法全般、および社会に対する問題意識を高め、自分なりの見識を持てるようになること。		
授業計画	<p>本学「大学憲章」に記された「芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成」するカリキュラムの一環として、日本国憲法について、以下の順で関係法令や判例も含めて概説し、それを元に、受講生の意見(ミニツツペーパーを活用)紹介、授業内容に関する質疑応答を含めた双方向授業とします。受講生の積極的な授業参加を期待します。</p> <p>第1回 「憲法」とは何か 第2回 人権という概念はどのようにして生まれたのか 第3回 日本国憲法はどのようにして作られたのか 第4回 国会・内閣・裁判所、国を統治する組織のはたらき 第5回 環境権と環境問題 第6回 安楽死・尊厳死と自己決定権 第7回 勤労の権利と労働基本権 第8回 食品安全と法 第9回 犯罪、刑罰と法 第10回 国民の司法参加と裁判員制度 第11回 生存権概念と保障のあり方 第12回 消費者と法 第13回 表現の自由をめぐる問題と判例 第14回 法の下での平等と家族・家庭生活 第15回 憲法改正をめぐる諸問題</p>		
予習・復習	憲法や法律、裁判に関する記事は毎日報道されています。授業内容に関係のあるものについては、こちらからも適宜紹介し、予習ないしは復習課題として提示していきます。ここで紹介したものについては、きちんと読んだ上で授業に参加してください。		
教科書	使用しない。		
参考書	文庫本・新書本を中心に、授業内で適宜紹介する。		
教材	パワーポイントを使用。毎時間、資料集、ミニツツペーパー、およびハンドアウト(その日の授業終了後)を配布する。		
履修上の注意	教員免許取得に必要な科目です。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>毎回、受講生が提出するミニツツペーパー(MP)、およびレポートの内容を総合して、単位認定を行います。MP30%、レポート70%の比率とします。MPIは、授業内容を正確に理解し、整理したうえで、自らの意見を端的に文章化できているかを基準に評価します。レポートは、授業内容に関する課題に答えてもらいます。MP部分を除いた評価基準は以下のとおりとします。</p> <p>[A] 憲法に関する視野を広げ、人権尊重の重要性を高いレベルで理解することができた。 [B] 憲法に関する視野を広げ、人権尊重の重要性を理解することができた。 [C] 憲法に関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>[S] 憲法に関する視野を広げ、人権尊重の重要性を高いレベルで理解した上で、高い見識と知識に基づき、憲法及び社会問題について理路整然と意見や提言が出来た。 [A] 憲法に関する視野を広げ、人権尊重の重要性を高いレベルで理解することができた。 [B] 憲法に関する視野を広げ、人権尊重の重要性を理解することができた。 [C] 憲法に関する視野を広げることができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -07	履修コード	1108Z1
科目名	文学 I	科目英語名	Literature I
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	福永武彦『忘却の河』講読 『忘却の河』は、とある戦後の中流家庭の諸肖像を描きながら、人間の生死、愛憎を扱った、極めて優れた典型的現代小説です。テーマ的には重々しいが、読者を引込む巧みな構成と美しい表現力を持っています。本授業では、戦後文学を題材にして、描かれたテーマを味わい、同時に文学を研究するための基礎的方法を学びます。		
到達目標	大学生の一般教養として、文学作品を読む力を養うために、次の3点を心掛けます。1、2、3の順に難度が上がるので、是非挑戦してください。 1. 複雑な構成の作品を、前後関係などに注意して、丹念にたどって読む。 2. 作品の背景となっている哲学や芸術思想などを理解しつつ、作品を読む。 3. 作品から見出だされるテーマを読み取り、自分の生き方と関係づけて読む。		
授業計画	講義・講読形式で授業を行います。作品は全七章から成っていて、週割りと章・各主題との対応は次の通りです。 1回 一章 忘却の河 [父] 小説世界とその導入について 2回 同 戦前の社会運動、病気について 3回 同 小石について一罪をあがなうことは可能か 4回 二章 煙塵 [姉] 忘れられた記憶 5回 同 香水について一共通を媒介する物質性 6回 三章 舞台 [妹] 実存主義とサルトル『出口なし』 7回 同 母の生を仮想的に反復することについて1 8回 四章 夢の通路 [母] 和歌＝平仮名の話し言葉 9回 同 恋愛小説における恋愛不可能性と罪の肯定 10回 五章 硝子の城 [先生] 戦後の社会運動、芸術について 11回 同 恋愛小説における恋愛可能性と罪の回避 12回 六章 喪中の人 [妹] 本当の恋愛を保証するものはなにか 13回 同 母の生を仮想的に反復することについて2 14回 七章 賽の河原 [父] ふるさと一贖罪と救済のあいだに 15回 同 見出だされた記憶		
予習・復習	授業の週割り分は事前に読了しておいてください。また、レポート作成のために何度も読み返してください。		
教科書	福永武彦『忘却の河』新潮文庫 594円（定価） 教科書は初回から使います。学内の売店（かゆう堂）でも販売しています。		
参考書	新潮社『福永武彦全集』		
教材			
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	評価の方法：レポート1回(学期末)。授業時間内での感想文の提出（ほぼ毎回） 評価の基準： [A] 上記の到達目標の3までが達成されている。 [B] 上記の到達目標の1がおおむね達成されている。 [C] 上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	評価の方法：レポート1回(学期末)。授業時間内での感想文の提出（ほぼ毎回） 評価の基準： [S] 上記の到達目標が3まで極めて優れた視点と表現力を持って達成されている。 [A] 上記の到達目標の3までが達成されている。 [B] 上記の到達目標の1がおおむね達成されている。 [C] 上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -08	履修コード	1109Z1
科目名	文学Ⅱ	科目英語名	Literature Ⅱ
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	<p>「常なるもの」をめぐる日本古典文学 「常なるもの」とは変わらぬもの、永遠不変のものであり、それは恒常的・絶対的であるゆえに、普遍的な価値がある、と人は考える。「常なるもの」の反対は「無常」だが、無常とは絶え間なく変転するさまである。たとえば人生は無常であり（つまり最後はいつも死を迎える）、むなしい。人はそのむなしさから逃れようとして、いつも「常なるもの」を追い求めてきた。世界観とは、端的に言うなら、この「常なるもの」の価値体系である。</p> <p>日本古典文学において、平安文学、中世文学を概観し、近世文学における仮名草子・浮世草子（特に気質物）を読み、この「常なるもの」という問題を考える。</p>		
到達目標	<p>上記「常なるもの」について、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. それを概念的に理解し、言葉で再構成する。 2. それを、具体的な文学作品を通して理解する。 3. さらに、それを自分自身の生き方・考え方と比較対照する。 		
授業計画	<p>週割りと扱う作品・概要は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 概要説明（1）― 「常なるもの」とは？ 2回 概要説明（2）― 「常なるもの」の現代的諸相 3回 『伊勢物語』― 喪失感の発見 4回 『紫式部日記』― 喪失感の自覚、日本化された浮世（フセイ） 5回 『更級日記』― 物語おたくの夢と現実 6回 『方丈記』『徒然草』、中世和歌― 中世的美意識（遁世、無常、幽玄、わび、さび） 7回 『仁勢物語』― 権威的古典とその逐語的パロディ 8回 『浮世物語』― 享楽主義的現世観の誕生、憂き世から浮世へ 9回 『好色一代男』― 享楽主義的現世観と諷刺的方法・思想 10回 『万の文反古』― 享楽主義的現世観の限界 11回 『世間子息気質』― 江戸のおたく小説、気質物の偏倚と執着 12回 『大系図蝦夷噺』― 視覚的ドタバタ劇の成立 13回 『教訓私儘育』― 江戸の懐疑主義、価値体系の虚構性 14回 『諸道聴耳世間猿』『世間妄形氣』― 懐疑主義の徹底と転回 15回 まとめ 		
予習・復習	講義中に扱った作品を、配布プリントで熟読すること。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	<p>唐木順三『無常』（ちくま学芸文庫） 小林秀雄「無常といふ事」（新潮文庫など） 高橋明彦「愚人譚をめぐる小説の系譜」（『日本文学』1989年8月号） 高橋明彦「多田南嶺・齟齬の位相―気質物三作から」（『都大論究』28号、1991年3月）。</p>		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>評価の方法：レポート1回(学期末)。授業時間内での感想文の提出（ほぼ毎回） 評価の基準： [A] 上記の到達目標の3まできちんと達成されている。 [B] 上記の到達目標の2までがおおむね達成されている。 [C] 上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>評価の方法：レポート1回(学期末)。授業時間内での感想文の提出（ほぼ毎回） 評価の基準： [S] 上記の到達目標が3まで極めて優れた視点と表現力を持って達成されている。 [A] 上記の到達目標の3まできちんと達成されている。 [B] 上記の到達目標の2までがおおむね達成されている。 [C] 上記の到達目標の1がとりあえず達成されている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -09	履修コード	1110Z1
科目名	文学Ⅲ	科目英語名	Literature Ⅲ
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	60名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	マンガ作品を取り上げ、文献学およびマンガ表現論の二側面から講義します。文学研究も含んだ、広義の文献学的アプローチを学ぶ授業です。本年度は、椋図かずお『14歳』（全4巻）を読み、総論的にこれを講義します。		
到達目標	①マンガ研究における文献学的アプローチを理解する (a) 作品注釈（描かれた事物に関する詳細な注釈） (b) 主題論（作品のテーマについて） ②マンガ表現論を理解する (c) 描線論（マンガにおける線と図像との関係について） (d) コマ割り論（マンガのコマにおける継起性と並存性について）		
授業計画	○計画概要 描線論・コマ割り論については、マンガ表現論の最先端を講義します。（第1回～6回） 主題論については、作品テーマを他の参考作品との比較も含めて考察します。同時に、常に描線やコマ割りの問題にも触れます。（第7～15回） ○週割り 1回 描線論（1）描線論（エネルギー、描線の意味するもの） 2回 描線論（2）描線論（デュナミス、意味に還元不能な描線性） 3回 コマ割り論（1）コマにおける継起性 4回 コマ割り論（2）コマにおける並存性 5回 コマ割り論（3）コマにおける並存性の解放 6回 コマ割り論（4）コマにおける継起性の解放 7回 『14歳』読解 1 食べ物の存在論—チキン・ジョージ登場 8回 2 不老不死と科学万能主義 9回 3 椋図作品の総決算（1）—椋図神学と救世主の物語 10回 4 政治とプロパガンダ、ものと人権 11回 5 S F的な古典—宇宙人の来訪と地球の脱出と 12回 6 椋図作品の総決算（2）—新たな未来像（スチームパンク） 13回 7 終末思想とエコロジー—『風の谷のナウシカ』との比較 14回 8 青虫の世界—フラクタルな可能世界 15回 9 椋図作品の総決算（3）—椋図かずおの生命思想		
予習・復習	授業中で指示された関連作品、および下掲の参考文献を事前に読んでおくこと。		
教科書	プリントを配ります。椋図かずお『14歳』全4巻（小学館）は無くても構いません。		
参考書	高橋明彦『椋図かずお論』（2015年・青弓社）特に、第7章、第8章のマンガ表現論に関する部分		
教材	配付プリント、ビデオプロジェクタ、ビデオ、私の個人サイト、初出雑誌		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	評価方法：レポート1回（学期末）。平常点（授業中の提出物、ほぼ毎回）。 評価基準： [A] 上記の到達目標の各点について、十分な達成が見られる。 [B] 上記の到達目標のいずれかについて、十分な達成が見られる。 [C] 上記の到達目標のいずれかについて、最低限の理解がある。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	評価の方法：レポート1回（学期末）。授業時間内での感想文の提出（ほぼ毎回） 評価の基準： [S] 上記の到達目標が3まで極めて優れた視点と表現力を持って達成されている。 [A] 上記の到達目標の3まできちんと達成されている。 [B] 上記の到達目標の2までがおおむね達成されている。 [C] 上記の到達目標の1がとりにあらず達成されている。		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -10	履修コード	1111Z1
科目名	文学Ⅳ	科目英語名	Literature Ⅳ
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	2	定員	30名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	映画化されている文学作品をテキストと映像の二つの面から鑑賞する。抜粋による作品の紹介、映画鑑賞、レポート、講義とディスカッションという流れのなかで、作家・作品紹介を端緒として、作家・監督のねらい、作品の成立過程、文体と映像表現、ストーリーの展開と脚色、音楽の効果、成立した時代と作品の周辺、以後の文学・映像作品への影響等に注目し考察する。		
到達目標	映画化された文学作品の鑑賞を通してすぐれた文学作品に触れる。芸術作品の創造の現場を検証、芸術の相互関連性についての理解を深める。		
授業計画	<p>芥川龍之介『藪の中』『羅生門』、黒澤明『羅生門』</p> <p>第1回 芥川龍之介『藪の中』紹介、黒澤明『羅生門』鑑賞</p> <p>第2回 黒澤明『羅生門』鑑賞、レポート作成・提出</p> <p>第3回 講義とディスカッション（作品の成立）</p> <p>第4回 講義とディスカッション（ストーリーの展開、原作との比較）</p> <p>第5回 講義とディスカッション（音楽と映像）</p> <p>第6回 講義とディスカッション（レポートの紹介、作品の周辺とその影響）</p> <p>第7回 講義とディスカッション（黒澤作品とその時代）</p> <p>アントニー・バージェス『時計じかけのオレンジ』、スタンリー・キューブリック『時計じかけのオレンジ』</p> <p>第8回 アントニー・バージェス『時計じかけのオレンジ』紹介 スタンリー・キューブリック『時計じかけのオレンジ』鑑賞</p> <p>第9回 『時計じかけのオレンジ』鑑賞、レポート作成・提出</p> <p>第10回 講義とディスカッション（作品の成立）</p> <p>第11回 講義とディスカッション（ストーリーの展開、原作との比較）</p> <p>第12回 講義とディスカッション（音楽と映像）</p> <p>第13回 講義とディスカッション（レポートの紹介、作品の周辺とその影響）</p> <p>第14回 講義とディスカッション（キューブリックフィルモグラフィー）</p> <p>第15回 総括</p>		
予習・復習	とりあげる二作品を含め授業中に紹介する作品の講読をすすめる。		
教科書	特になし。		
参考書	芥川龍之介『地獄変・偷盗』（新潮文庫）、『羅生門・鼻』（新潮文庫）、黒澤明『蝦蟇の油』（岩波現代文庫）、夏目漱石『文鳥・夢十夜』（新潮文庫）、アントニー・バージェス『時計じかけのオレンジ』（ハヤカワ文庫）、アーサー・クラーク『2001年宇宙の旅』（ハヤカワ文庫）、ステイヴン・キング『シャイニング』（文春文庫）、レマルク『西部戦線異状なし』（新潮文庫）、野坂昭如『火垂るの墓』（新潮文庫）他。		
教材	DVD・ビデオ・CD：『羅生門』、『夢』、『ミスティ』、『クロサワ』、『「七人の侍」研究』、『八月の狂詩曲』、『ボレロ』、『愛と哀しみのボレロ』、『ネオファンタジア』、『猫の恩返し』、『デジモンアドベンチャー』、『時計じかけのオレンジ』、『Stanley Kubrick, A life in pictures』、『非情の罠』、『突撃』、『ロリータ』、『博士の異常な愛情』、『2001年宇宙の旅』、『バリー・リンドン』、『シャイニング』（キューブリック版、キング版）、『フルメタルジャケット』、『アイズワイドシャット』、『雨に唄えば』、『グッバイ、レーニン!』、『レオン』、『アメリカ』、『デリカテッセン』、『西部戦線異状なし』、『ジョニーは戦場へ行った』他。		
履修上の注意	定員を超えた場合レポート等による選抜を行います。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	出席カードの記入（20%）と授業内のレポート（400字）2回（40%）、学期末レポート（2000字）1回（40%）を総合して評価する。 [A] 上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B] 上記到達目標を達成することができた。 [C] 上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	出席カードの記入（20%）と授業内のレポート（400字）2回（40%）、学期末レポート（2000字）1回（40%）を総合して評価する。 [S] 上記到達目標を高いレベルで達成し、自らの視点で考察することができた。 [A] 上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B] 上記到達目標を達成することができた。 [C] 上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -11	履修コード	1113Z1
科目名	文化人類学	科目英語名	Cultural Anthropology
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	100名
担当教員	(非常勤) 鏡味治也		
授業概要	文化人類学は文化から人間を考える学問である。文化概念は近代社会を作るうえで大きな役割を果たした。講義ではまず文化概念の意味内容を紹介し、教員の実務体験も踏まえて、文化人類学が取り組んできた課題を歴史的に概観し、文化から人間を考える今日的意味を問う。		
到達目標	文化という言葉が指す複層的な意味を把握し、それが近代社会でいかに重要な役割を担い、また課題を提示しているかを受け止め、文化を通して人間を考える見方を身につけて、未来社会への展望を描けるようにする。		
授業計画	<p>前半はまず「文化」という言葉の登場とその意味内容の歴史の変遷をたどり、それが近代世界を成立させるうえでいかに重要な役割を果たしたかを検討する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 文化概念の発生と展開 第3回 ドイツの「文化」対フランスの「文明」 第4回 ネーションとナショナリズム 第5回 イギリスの文化概念 第6回 アメリカの文化概念 第7回 総括、中間試験</p> <p>後半は文化という観点から人間を考える文化人類学の成立と展開を概観し、その取り組んできた課題の今日的な意味を考える。</p> <p>第8回 文化人類学の成立 第9回 人類社会の発展段階説 第10回 トーテミズムとタブー 第11回 実証的現地調査と文化領域説 第12回 出自理論と縁組理論 第13回 儀礼研究、認識論、神話論、象徴研究 第14回 植民地主義批判、フェミニズム批判、民族誌批判 第15回 総括、期末試験</p>		
予習・復習	授業前にテキストを読み、授業後にノートを整理する		
教科書	鏡味治也『キーコンセプト 文化』（2010年、世界思想社）		
参考書			
教材			
履修上の注意	試験は教科書・ノート持ち込み可にするので、かならずノートをとること		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>中間試験40点、期末試験40点、宿題2回20点の合計で評価</p> <p>[A] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握し、自分の考えに反映できた [B] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握できた [C] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点を理解できた</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>中間試験40点、期末試験40点、宿題2回20点の合計で評価</p> <p>[S] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく咀嚼して自分の考えを表明できた [A] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握し、自分の考えに反映できた [B] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点をよく把握できた [C] 文化概念の意味内容と文化人類学の視点を理解できた</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -12	履修コード	1115Z1
科目名	考古学	科目英語名	Archaeology
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	30名
担当教員	(非常勤) 小嶋芳孝		
授業概要	日本列島における人類の出現から縄文時代を概観した後、古代国家の形成期である弥生時代から古墳時代を重点的に講義する。石川県教育委員会に32年間勤務。この間、博物館学芸員や遺跡の保存活用・発掘調査などの業務に従事。こうした経験をもとに、考古学の最新情報を伝えたい。		
到達目標	初期国家形成期における日本列島の社会・文化的な様相を理解する。		
授業計画	第1回 考古学とは何か（歴史学における考古学の位置づけを考える） 第2回 日本列島の旧石器時代（猿人・原人・新人） 第3回 日本列島の新石器時代（縄文時代の概要） 第4回 日本列島の新石器時代（貝塚から分かる縄文人の生活文化） 第5回 日本列島の新石器時代（縄文人の装身具・糸で石を切る） 第6回 農耕社会の形成（弥生時代の概要） 第7回 『倭人伝』を読む（倭の地理情報と邪馬台国） 第8回 『倭人伝』を読む（倭の社会と習俗） 第9回 『倭人伝』を読む（女王国の卑弥呼） 第10回 『倭人伝』を読む（卑弥呼の危機） 第11回 『倭人伝』を読む（卑弥呼の死去と卑弥呼の墓） 第12回 弥生時代の首長墓と古墳（古代国家の形成を考える） 第13回 古墳時代前期の社会（大王権の成立） 第14回 古墳時代後期の社会（継体朝の成立から見る6世紀の社会） 第15回 装飾古墳と壁画古墳（高松塚古墳とキトラ古墳を東アジア壁画文化の中で考える）		
予習・復習	講義中に資料に関する質問をするので、講義前や終了後に資料を良く読んで理解すること。疑問点は、講義中や講義後に尋ねてください。また、県立歴史博物館や石川県埋蔵文化財センターなど、身近にある博物館等を適宜見学して地域の歴史や考古学の知見を深めてください。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	東潮『邪馬台国の考古学』角川選書503・角川学芸出版2012年		
教材	DVD・パワーポイント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業中の小テスト（30%） 学期末レポート（70%） [A] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を高いレベルで理解した。 [B] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を理解することができた。 [C] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深めることができた		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業中の小テスト（30%） 学期末レポート（70%） [S] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を特に高いレベルで理解した。 [A] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を高いレベルで理解した。 [B] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深め、初期国家の様相を理解することができた。 [C] 縄文時代から古墳時代に関する知見を深めることができた		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -13	履修コード	1116Z1
科目名	生涯学習概論	科目英語名	Theory of Life Long Education
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	○桑村佐和子、(非常勤) 東雅宏、未定		
授業概要	生涯学習と生涯学習支援・推進の基本についての理解を図ることを目的とする。生涯学習の意義、生涯学習推進の背景、生涯学習と社会教育や学校教育等との関係、生涯学習関連施策の動向、社会教育の内容・方法・形態・指導者・施設の実態などを概観する。石川県内の市町で生涯学習支援を担っている講師による、現場での実務経験に基づいた実践に関わる講義を基に、現場での生涯学習支援のあり方を考察する。		
到達目標	博物館の教育普及活動の基礎である、生涯学習・生涯学習支援の基本的な考えを身に付ける。		
授業計画	<p>以下の内容を15回に振り分ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 生涯学習とは <ol style="list-style-type: none"> 生涯学習の定義 生涯学習と社会教育 生涯学習推進の経緯 生涯学習と生涯学習支援 <ol style="list-style-type: none"> 生涯各期の学習の特徴 社会教育の内容・方法・形態 社会教育関係指導者 社会教育関係施設 生涯学習推進の動向 <ol style="list-style-type: none"> 生涯学習関連施策と社会教育行政 <ul style="list-style-type: none"> 金沢市の生涯学習推進行政 (金沢市生涯学習課の仕事を実務経験をもとに講義してもらいます。) 学社連携・融合 地域における生涯学習支援 <ul style="list-style-type: none"> 学習者自身の気づきを大切にする実践 (白山市における青少年教育を中心に、実際の講座等を例にして社会教育事業を企画する基本的な考え方を講義してもらいます。) 生涯学習のまちづくり (能登におけるまちづくりを行っている方に、その実際とその基になる考えを講義してもらいます。) <p>※実際に生涯学習支援をされている方を講師として呼びますので、講師のご都合により、順番を入れ替える可能性があります。 また、受講者数、授業の進捗によってはグループワークを取り入れる予定です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜、紹介する。		
教材	適宜、視聴覚教材を用いる。		
履修上の注意	学外から生涯学習関係者をお呼びしたり、グループワークを取り入れるつもりです。継続的で、積極的な参加を求めます。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>期末テスト(70%)と授業での小課題(30%)によって評価する。 期末テストの評価の基準は、以下のとおりである。 [A]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>期末テスト(70%)と授業での小課題(30%)によって評価する。 期末テストの評価の基準は、以下のとおりである。 [S]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識を修得しており、それをもとに多面的、実践的に考えることができる。</p>		

[A]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。
[B]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。
[C]生涯学習と生涯学習支援の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。

平成31年度シラバス

番号	(A1) -14	履修コード	1121Z1
科目名	人間と文化	科目英語名	Human and Culture
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	30名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	<p>(テーマ) 江戸のメディア --- 近世印刷出版史論</p> <p>近世(江戸時代)は印刷の技術革新がなされ、出版が営利事業として成立し、流通が確立した日本最初の時代である。書物においては、民間の本屋が林立し、株仲間が組織され、数多くの書籍が製作された。絵画においても、絵手本・浮世絵等は本屋のプロデュースによるものである。一方、官営・藩営・寺社等の書物・印刷物の作成も盛んであり、また、文学・絵画等の芸術・学問的なもののみならず、草双紙・暦・実用書・日用雑貨なども印刷文化の中で消費されている。明治時代以降の出版文化・技術革新も視野にいれつつ、これらの諸現象を、初歩的な解説も含め、多面的に概括する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出版機構に関して、日本近世の具体的事例に則して理解する。 2. 表現の自由や抑圧、筆禍などと制度・法律との関係について理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉の本質 2. 印刷の諸相 3. 近世初期の印刷技術と印刷物 4. 仮名草子の出版—京都町版の萌芽 5. 浮世草子の出版—井原西鶴と大坂の出版 6. 享保七年の出版条例—本屋仲間の成立 7. 三都の本屋仲間の活躍と独占 8. 新しい学問と出版—須原屋市兵衛をめぐって 9. 江戸のサブカルチャー—地本問屋について 10. 三都の本屋仲間の連携—近藤淳二植字板一件 11. 藩版の多様性 12. 流通概念について—読書・学習の意義 13. 筆禍とプロパガンダ 14. 春本—性と出版、猥褻問題 15. 近代の検閲—日本国憲法第21条まで 		
予習・復習	配布プリントを中心に十分にやっておくこと。		
教科書	プリントを配付する。 ホームページを用意しているので(半魚文庫、書誌学で検索)、スマホ等携帯端末で見ること。		
参考書	『日本古典籍書誌学辞典』(岩波書店)		
教材	配付プリントのほか、和本・版木などを供覧する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>評価の方法: レポート(学期末) 授業時間内での感想文の提出(毎回)</p> <p>評価の基準: [A] 到達目標の2までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も出来た(80点以上)。 [B] 到達目標の1までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も受けた。 [C] 提出物が充足し、筆記試験を受けた(50点以上)。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>評価の方法: レポート(学期末) 授業時間内での感想文の提出(毎回)</p> <p>評価の基準: [S] 到達目標が2まで極めて優れた理解を持って達成され、提出物が充足し、筆記試験も出来た。 [A] 到達目標の2までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も出来た。 [B] 到達目標の1までが達成され、提出物が充足し、筆記試験も受けた。 [C] 提出物が充足し、筆記試験を受けた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -15	履修コード	1122Z1
科目名	フレッシュマンセミナー	科目英語名	Freshman Seminar
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	○荷方邦夫・大森 啓・村山祐子・鈴木康雄		
授業概要	大学入学直後の新生を対象に、大学での活動をより活発にし、学生生活を実りあるものとするために、少人数のグループ学習を含む活動を行い、そこで大学における勉学の方法や充実した学生生活の送り方を学ぶ機会を作る。大学とはどんなところか、ここで何ができるかを知り、自らが何になるか、何をするかについて考える。そして、4年間という限られた時間を最大限有効に使うのに必要な見方・考え方を、トレーニングを通じて習得することを目的とする。		
到達目標	自らの力で、大学における学習・研究を遂行する基本的な能力を身につけるとともに、自身の生涯にわたるキャリアデザインについて、関心・姿勢・実現のための取り組みができるようになること。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとオリエンテーション 2. かかわりの誕生、少人数グループによるコミュニケーション 3. 大学における学びとは 大学は何をするところだろうか 大学生の学び・研究 4. TED in KANABI 自己を説明する 5. キャリアデザインとは何か 6. リレー講義 私がきた道 (1) 大森 7. リレー講義 私がきた道 (2) 山崎 8. リレー講義 私がきた道 (3) 鈴木 9. リレー講義 私がきた道 (4) 村山 10. リレー講義 私がきた道 (5) 荷方 11. 学びを伝える、考えを伝える (1) レポートライティングの方法 12. 学びを伝える、考えを伝える (2) 言葉と文章を考える 13. 学びを伝える、考えを伝える (3) プレゼンテーションの技法 14. 学生相互による討議 15. 試験 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。特に、毎回提示される授業内容と資料については、自分で次回まで改めてまとめること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)			
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数 (50%) 客観式テストを行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価 (50%) それぞれの課題や参加については、授業内でポイント (点数) を提示する。 授業内の小課題 (概ね40%)、発言や積極的な参加 (概ね10%) 授業における発言、小課題での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [S] 上記の基準の上1と2で90%以上のポイントを獲得している [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で70%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している 		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -16	履修コード	1123Z1
科目名	博物館概論	科目英語名	Introduction of Museum Study
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分	博物館必修科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷 拓		
授業概要	私立ならびに公立美術館の学芸員経験がある教員が、現場感覚を交えてミュージアム（美術館や博物館）の活動や歴史、今日的課題について講義する。		
到達目標	学生が自らの制作・研究活動と関連づけながら、ミュージアムについて思考できるようにする。		
授業計画	<p>第1回 ミュージアムを知りたい／学芸員になりたい（イントロダクション）</p> <p>第2回 動物園も「ミュージアム」である</p> <p>第3回 学芸員の仕事を【1】 展示する／展覧会を企画する</p> <p>第4回 学芸員の仕事を【2】 収集する／保存する／学習機会を作る</p> <p>第5回 ミュージアムの歴史を知る【1】 日本のミュージアム</p> <p>第6回 ミュージアムの歴史を知る【2】 石川県のミュージアム</p> <p>第7回 ミュージアムの歴史を知る【3】 フランスのミュージアム</p> <p>第8回 知っておきたい【1】 博物館法</p> <p>第9回 知っておきたい【2】 文化遺産とミュージアム</p> <p>第10回 資料を管理する</p> <p>第11回 ミュージアム「を」・「で」・「は」学ぶ</p> <p>第12回 「コレクションすること」「展示すること」について考えてみる</p> <p>第13回 ミュージアムは誰のため？</p> <p>第14回 ミュージアムの未来を考えてみる</p> <p>第15回 まとめ</p>		
予習・復習	ミュージアム（美術館や博物館）に積極的に出かけること。見学の際に展示の意図や各館の成り立ち（設置主体、特色、歴史など）についても知るようにすること。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	吉田憲司『博物館概論』放送大学教育振興会、並木誠士・吉中充代・米屋優編『現代美術館学』昭和堂など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は、必ず1年次に履修すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[A] ミュージアムに関する知識を高い水準で修得している。</p> <p>[B] ミュージアムに関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] ミュージアムに関する一定の知識を持っている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と期末試験もしくはレポートの総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[S] ミュージアムの活動全般に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。</p> <p>[A] ミュージアムに関する知識を高い水準で習得している。</p> <p>[B] ミュージアムに関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] ミュージアムに関する一定の知識を持っている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -17	履修コード	1124Z1
科目名	金沢の文化行政	科目英語名	Cultural administration in Kanazawa
科目区分	教養科目 A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度	平成31年度以降入学者	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	山村慎哉		
授業概要	大学憲章に謳うように本学は1946年、「学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立された」。この科目は、公立大学法人金沢美術工芸大学の設置団体である金沢市と連携して、金沢美術工芸大学学長ならびに金沢市の各課の実務担当者を講師に招いて開講するもので、金沢の文化行政のなかでも特に本学とのかかわりが深い施策を中心に講義する。		
到達目標	学長や金沢市の各課の実務担当者等の講義を通して、金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割について考える力を養う。		
授業計画	<p>下記のテーマにおける具体的な施策について、学長ならびに金沢市各課の実務担当者等による講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（学長） 2 学生とつくる魅力的なまち（金沢市市民協働推進課） 3 金沢市の文化行政（金沢市文化政策課） 4 工芸のまち・金沢（金沢市クラフト政策推進課） 5 ユネスコ創造都市の取り組み（金沢市企画調整課） 6 金沢市の国際交流（金沢市国際交流課） 7 金沢での起業（金沢市商工業振興課） 8 観光によるまちづくり（金沢市観光政策課） 9 空き家の活用（金沢市住宅政策課） 10 金沢の文化財保護と活用（金沢市文化財保護課） 11 金沢の歴史文化資産を活かしたまちづくり（金沢市歴史都市推進課） 12 景観50年のあゆみ（金沢市景観政策課） 13 暮らしの中に図書館を（金沢市図書館総務課） 14 金沢美術工芸大学の社会貢献（本学社会連携センター） 15 まとめ 		
予習・復習	予習として金沢市のHPを閲覧し、市政の概要を把握しておくことが望ましい。		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
教材	適宜、資料を配付する。		
履修上の注意	各課の都合により、順番や内容が変更される可能性がある。		
成績評価（平成29年度以前入学者）			
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>各講義の小レポートと期末レポートにより成績評価を行い単位を認定する。</p> <p>[S] 金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割について極めて優れた考察を行った。</p> <p>[A] 金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割について優れた考察を行った。</p> <p>[B] 金沢の文化行政に関する基本的な知識を得るとともに、芸術が地域社会に果たす役割についての考察を行った。</p> <p>[C] 金沢の文化行政に関する基本的な知識を得た。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A1) -18	履修コード	1125Z1
科目名	キャリアデザイン	科目英語名	Career Design
科目区分	教養科目A	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	平成31年度以降入学者	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	50名
担当教員	(非常勤) ○平塚聖子		
授業概要	社会における企業の位置付けや役割、仕組みへの知識や情報収集の方法、ポートフォリオの重要性について講義する。更に、デザイン、アート分野におけるクリエイターとしての働き方、社会や企業との関わり方について国内外企業での実務経験を基に講義する。企業、起業実務経験豊富なゲスト講師を交え幅広い見解によるキャリアデザインについての視野を広める。それを受けて、学生によるワーキングシュミレーションや自己のプロデュースを考察するためにワークショップ、ディスカッションを取り入れる。		
到達目標	社会や企業についての基礎知識、自己プロデュース方法を習得する。デザイン、アート分野におけるクリエイターとしての社会や企業、ビジネスとの関わり方を学び、現実的な自己のキャリアデザインを試みることを目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインについて 2. 社会、企業、ビジネスの関係 3. ワーキング1：日本 4. ワーキング2：諸外国（欧米・アジア圏） 5. ワーキング3：クライアントワーク 6. ワーキング4：クライアントワーク ゲストスピーカー：下浜臨太郎 7. ワーキング4：トライアル&エラー 8. 情報収集とマーケティングリサーチについて 9. ポートフォリオの重要性とアプローチ方法 ゲストスピーカー：河崎圭吾 10. セルフプロデュース1： 11. セルフプロデュース2： ゲストスピーカー：畠山耕治 12. セルフプロデュース3：トライアル 13. “キギョウ”（企業、起業）についての考察（ディスカッション含む） 14. プレゼンテーション：トライアル 15. まとめ：キャリアデザインについての考察（ディスカッション含む） 		
予習・復習	授業で紹介された参考資料等を精読すること		
教科書	必要に応じて、資料を配付する。		
参考書	適宜、授業中に紹介する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	一部ワークショップ、ディスカッションを含むため、積極的な参加を求める。		
成績評価（平成29年度以前入学者）			
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>積極的な授業への参加状況（50%）ワークショップやディスカッション内での課題発表（50%）を総合して評価する。</p> <p>[S] キャリアデザインに関する基本的知識を良く理解し、深い考察と見解を交えた自己のキャリアデザインに到達した。</p> <p>[A] キャリアデザインに関する基本的知識を良く理解し、考察や見解を交え自己のキャリアデザインに到達した。</p> <p>[B] キャリアデザインに関する基本的知識を理解し、考察や見解を交え自己のキャリアデザインに取り組むことができた。</p> <p>[C] キャリアデザインに関する基本的知識を理解し考察することができている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -01	履修コード	121021
科目名	情報処理	科目英語名	Computational Programing
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	映像メディア室
単位	2	定員	29名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	ウェブ・コンテンツとして利用可能なスクリプト言語JavaScriptを使ったプログラミングの入門コースとして開講する。 プログラミングに必要な諸概念・基本命令等を講義後、パソコンを用いた短いプログラミングにより操作内容を確認・理解し、さらに、問題を解くことにより理解の進展を図る。		
到達目標	プログラミングにおける基礎概念・文法構造を修得し、テキストの入出力からアニメーション・プログラムの作成までを扱う。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（プログラミングを習得するための「考え方」について） 2. HTMLの基本タグを用いて、ブラウザ上に出力可能なファイルを作成する。 3. 2.の内容をJavaScriptで出力し、オブジェクト、メソッド、プロパティの概念を習得する。 4. 変数の扱い、フォーム・オブジェクトの参照 5. 条件分岐 6. ファンクションおよび16進法による色表示 7. 繰り返し 8. ここまでのまとめ（命令の組み合わせによる高度化1）/ ルーレットを作成 9. オブジェクトの生成（画像と日付） 10. 配列とアニメーション 11. ここまでのまとめ（命令の組み合わせによる高度化2）/ アニメーションの制御 12. プール代数 13~15. 課題作成 <p>JavaおよびJava関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Incの商標または登録商標です。</p>		
予習・復習	実践能力を高めるために、授業で扱ったプログラム内容と出力結果との対応関係、プログラムの流れを強く意識すること。また、自ら積極的に応用を試みてください。		
教科書	webコンテンツを用いて例示すると共に、授業内容に関するプリントを配布します。		
参考書	web上にあるHTMLやJavaScriptのリファレンス・サイトを利用されたい。		
教材	映像メディア室のPCで使用可能な記憶媒体を持参		
履修上の注意	例年、コンピュータの台数に応じて受講制限（抽選）が実施されています。 英語および数学的思考のごく基礎的な素養を必要とします。 基本的な操作の積み重ねによって、大掛かりなプログラムの作成が可能になります。そのような性質上、欠席すると何をやっているのかわからない状態になります。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	JavaScriptを駆使したwebコンテンツ（共通課題および自由課題）からプログラムの作成能力および創意工夫した点を評価して単位認定を行います。 [A]プログラミングの諸概念・命令を理解し、応用的なプログラムの作成ができる [B]授業中に取り上げたプログラムに十分な改良を施せるレベルの理解と実践力が認められる [C]授業中に取り上げたプログラムに改良を施せるレベルの理解が認められる		
成績評価（平成30年度以降入学者）	JavaScriptを駆使したwebコンテンツ（共通課題および自由課題）からプログラムの作成能力および創意工夫した点を評価して単位認定を行います。 [S]プログラミングの諸概念・命令を理解・応用し、卓越したプログラムの作成ができる [A]プログラミングの諸概念・命令を理解し、主体的にプログラムの作成ができる [B]授業中に取り上げたプログラムに十分な改良を施せるレベルの理解と実践力が認められる [C]授業中に取り上げたプログラムに改良を施せるレベルの理解が認められる		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -02	履修コード	1201Z1
科目名	スポーツ科学	科目英語名	Sport Science
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	(非常勤) 嶋山進一		
授業概要	本講義では、健康およびスポーツ科学に関する基礎知識を幅広く身につけ、現在および将来のスポーツ活動の実施において適切に判断を下すことができるようになることを目標とする。		
到達目標	健康およびスポーツ科学における基礎知識を習得し、今後の健康の維持増進やスポーツ活動の実施に役立てることができる。また、部活動に参加している者は競技力の向上のための基礎知識を得るためにも役立てることができる。		
授業計画	<p>受講生の興味関心、外部講師のスケジュールによって内容や順序の変動はあるが、概ね以下の流れに沿って進める。</p> <p>第1回 オリエンテーション 講義の進め方、教科書紹介 第2回 教科書販売 スポーツとは～歴史と意義～ 第3回 健康の概念とその特徴 第4回 生活習慣病と関連する要因 第5回 健康を維持増進するための運動 第6回 適切な運動 第7回 ダイエット理論と計画 第8回 体力とは 第9回 薬物乱用 第10回 トレーニング理論と実際 第11回 運動と水分補給、アップとクーリングダウン 第12回 セクシャルマイノリティ 第13回 地域のスポーツクラブ 第14回 障害者のスポーツ 第15回 試験</p> <p>授業の仕方として、各回の出席カードに、授業内容に沿った問題を課すことで学習が深まるようにする。</p>		
予習・復習	健康やスポーツ科学全般に関する内容を幅広く扱うので、各自講義内容を予習復習し、不明点等は次回講義までに学習しておくことが望ましい。		
教科書	<p>タイトル(出版年)：健康・スポーツ科学講義 第2版(2011年) 監修：出村慎一 編集：佐藤 進, 山次俊介, 長澤吉則, 吉村喜信 定価：2,700円 (※教員を通して授業でまとめて購入の場合2,500円で購入できる)</p> <p>例年、1回目に購入希望調査をし、2回目に販売という流れで進めている。 教科書を用いて講義を進めるため必ず準備すること。</p>		
参考書	なし		
教材	パワーポイント、ビデオ		
履修上の注意	なし		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>受講態度およびテストを総合して単位認定を行う</p> <p>[A] スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められ、自身の生活の中で適切に判断し活用できるようになった。 [B] スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められる。 [C] スポーツ科学における基礎事項に関して一定の理解が認められる。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>受講態度およびテストを総合して単位認定を行う</p> <p>[S] スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められ、生活の中で適切に判断し活用できるようになった。 [A] スポーツ科学における基礎事項に関して十分な理解が認められる。 [B] スポーツ科学における基礎事項に関して理解が認められる。 [C] スポーツ科学における基礎事項に関して一定の理解が認められる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -03	履修コード	1206Z1
科目名	物質の科学	科目英語名	Chemistry
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	本講義では、(1)肉眼では見えない原子・分子の存在に確信を持つに至った経緯、(2)肉眼では見えない原子・分子の振る舞いを規定する化学熱力学の考え方、(3)「見える」という感覚の化学について解説します。		
到達目標	「クリエイティブ」とは「ない」を「ある」にすることだと考えます。したがって、クリエイターにとっては、「ない」ということにどれほど想いを馳せることができるかは重要な資質でありましょう。原子・エネルギーという目に見え「ない」概念の理解を通して、「クリエイティブ」な心を涵養することを目標とします。		
授業計画	<p>この講義は1回の講義で完結するような区切りを設けません。講義で扱う内容の流れは以下の通りです。</p> <p>0. ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術系大学で教養科目として化学を学ぶ意義について <p>1. 見え「ない」けれど「ある」ということ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代原子論と個人主義 ・気体の状態方程式とコロイド溶液の浸透圧の方程式 ・ブラウン運動に関するアインシュタインの理論 ・原子の構造と放射壊変 <p>2. 見え「ない」けれど世界を支配する法則が「ある」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱力学から化学熱力学・散逸構造理論までの小史 ・熱力学の法則（カルノーによる川の流れと熱の流れのアナロジー） ・化学熱力学（ギブスによる蒸気機関と試験管内化学反応のアナロジー） ・化学熱力学の具体例1（コンクリートの製造と劣化） ・化学熱力学の具体例2（米生産の効率とリターン） <p>3. そもそも「見える」とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁波と物質の相互作用（発色原理） ・視細胞中の化学 <p>1～3の各項目の最終日には、小テストを行います。</p>		
予習・復習	日常を「物質・エネルギーの流れ」として考察し、また、様々な事象にアナロジーの適用を心がけてください。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	後期に開講される教養科目「エコロジー」における基本概念である「熱力学の法則」は、この講義内でより詳しく取り上げています。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業計画の3つの項目ごとの小テストの得点と期末レポート課題を総合して成績評価します。</p> <p>[A] 十分な理解と考察力が認められる。</p> <p>[B] 一定の理解と考察力が認められる。</p> <p>[C] 一定の理解が認められる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業計画の3つの項目ごとの小テストの得点と期末レポート課題を総合して成績評価します。</p> <p>[S] 十分な理解と特に優れた考察力が認められる。</p> <p>[A] 十分な理解と考察力が認められる。</p> <p>[B] 一定の理解と考察力が認められる。</p> <p>[C] 一定の理解が認められる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -04	履修コード	1207Z1
科目名	材料の科学	科目英語名	Material Science
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	美術・工芸・デザイン関連の基礎的材料に関して、科学的観点から考察・解説します。		
到達目標	材料に関して、科学的観点から考察する能力を培う。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. BZ反応と自然に見られる模様 3. 金属と合金（金属の構造と展延性） 4. 金属と合金（二元合金の相図、変態、加工硬化と焼鈍） 5. 金属と合金（腐食と防食） 6. 色材（視覚の発生と色感・混色、分光学） 7. 色材（光学現象と外観） 8. 色材（化学物質としての顔料・染料） 9. 1～8までの内容のまとめ（テストを含む） 10. 紙（製紙法およびサイジングと填料の効果） 11. 粘土・セラミックス（カオリンの組成と構造、可塑性と焼成） 12. 高分子（プラスチック） 13. 高分子（松田権六の『うるしの話』（岩波文庫）と漆の生化学） 14. 6～12までの内容のまとめ（テストを含む） 15. 材料または工程に関する科学的調査・考察 		
予習・復習	化学の諸概念は体験が伴わないことには理解が進みません。講義中に触れる私の体験談やサジェスションを参考にして、自ら体験してみることが理解と探究心を向上させるかと思えます。（危険が伴う恐れがある場合は、相談してください。日々の制作における技術的な問題についてもお答えします。）さらに、下記参考書を読むなどして、知識・理解の深化を図ってください。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	<p><金属・合金>『工芸家のための金属ノート』鹿取一男（著）アグネ技術センター、『金属材料学』武井英雄（著）理工学社、<色材>『絵具の科学』ホルベイン工業技術部（編）中央公論美術出版社、『工芸のための染料の科学』青柳太陽（著）理工学社、『藍染めの歴史と科学』三木産業（株）技術室（編）裳華房、<紙>『おもしろい紙の話』小宮英俊（著）日刊工業、<粘土>『粘土の話』白水春雄（著）技報堂出版、<漆>『うるしの話』松田権六（著）岩波文庫</p>		
教材	配付プリント		
履修上の注意	高校レベルの化学の基礎知識を前提としており、復習されたし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>講義で扱った基礎的材料に関する理解を問う論述試験（2回）、および作品・製品または制作行程について自ら材料科学的観点から考察した小論文を総合して成績評価します。</p> <p>[A] 十分な理解と考察力が認められる。 [B] 一定の理解と考察力が認められる。 [C] 一定の理解が認められる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>講義で扱った基礎的材料に関する理解を問う論述試験（2回）、および作品・製品または制作行程について自ら材料科学的観点から考察した小論文を総合して成績評価します。</p> <p>[S] 十分な理解と考察力が認められる。材料科学的観点の自立的な考察力が認められる。 [A] 十分な理解と考察力が認められる。 [B] 一定の理解と考察力が認められる。 [C] 一定の理解が認められる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -05	履修コード	1208Z1
科目名	エコロジー	科目英語名	Human Ecology
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	
履修区分	選択	教室	
単位	2	定員	100名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	「物質とエネルギーの流れが、機能的、構造的秩序を作り出し、それを維持するために使われている」という現代科学的世界観に則して、生態学および熱力学の基礎概念を解説し、とりわけエネルギー制約の観点から「人類の生態学的危機」とも呼ばれる現状について考察します。		
到達目標			
授業計画			
予習・復習			
教科書			
参考書			
教材			
履修上の注意	「エコロジー」理解の基礎となる「熱力学の法則」については前期開講の教養科目「物質の科学」において、社会の崩壊に関して欧米で最もよく引用されているジョセフ・ティンターの「複雑な社会の崩壊」については後期開講の教養科目「科学技術史」において、ロジスティック曲線などの理論式の導出に関しては前期開講の教養科目「数理科学」でそれぞれ扱っています		
成績評価（平成29年度以前入学者）	向学状況（講義の都度、所感を記入）およびレポート課題を総合して単位認定します。 [A] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解と考察力が認められる。 [B] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解が認められる。 [C] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について一定の理解が認められる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	向学状況（講義の都度、所感を記入）およびレポート課題を総合して単位認定します。 [S] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解と考察力、および主体的な問題把握能力が認められる。 [A] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解と考察力が認められる。 [B] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について十分な理解が認められる。 [C] 「人類の生態学的危機」と呼ばれる現状について一定の理解が認められる。		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -06	履修コード	1209Z1
科目名	科学技術史	科目英語名	History of Science and Technology
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	100名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	人類の歴史を科学および技術に主眼を置いて振り返り、また、歴史発展パターンを抽出する考え方（クーン、トインビー、テインター）を紹介します。		
到達目標	科学と技術の歴史から、1. 古代ギリシア期における「概念」の発見、2. ルネッサンス期における実験的検証、3. 科学革命期における理論付け、4. 19世紀以降の応用科学、という人類の知的進歩における大きな発展パターンを読み取ることができる。このパターンは、1. 着想、2. 試行錯誤、3. 決論付け、4. 応用的展開、のように、個人が何かを完遂する営みにおけるパターンと相似している。フラクタルな世界における自己相似性に想いを馳せ、「温故知新」や「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」といった言葉に理あり、という認識に至ることを目標とする。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・科学と技術の歴史の変遷を顧みる 1. 人類の起源と農業革命 / 文明社会に至るホモ・サピエンスの特徴について 2. オリент文明 / 生活上の必要を満たす技術、アノニマスな文明 3. 古代ギリシア / 「概念」の発見と科学の誕生、エポニマスな営み 4. ローマ帝政時代 / 支配と技術 5. 中世 / アラビア世界に温存された科学 6. ルネッサンス期 / 実験的検証と印刷革命、宗教革命と近代資本主義 7. 科学革命期 / デカルト（方法的懐疑）とベーコン（「知は力なり」） 8. 宇宙観 / 機械仕掛けの宇宙観（ニュートン）とカオス（ポアンカレ） 9. 産業革命 / 化石燃料のエネルギー解放によってもたらされた社会変化 10. 生命観 / 創世記・進化論・利己的遺伝子 11. 20世紀的出来事 / 戦後日本の科学技術史 ・科学と技術の変遷および文明社会におけるパターンを抽出する 12. トーマス・クーンの「パラダイム」 / 個別の考え方の変化 13. アーノルド・トインビーの「歴史の研究」 / 文明の盛衰 14. ジョセフ・テインターの「複雑な社会の崩壊」 / 崩壊した社会の共通点 15. 総括 		
予習・復習	ジャレッド・ダイヤモンド『人間はどこまでチンパンジーか』（新曜社）、ジャレッド・ダイヤモンド『文明崩壊』（草思社）、『漱石文明論集』（岩波文庫）、マックス・ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波文庫）など、文明の来し方・有り様について深く考察した著作を読むことにより、講義で扱っている内容に意義を見出せるように努めて下さい。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	授業中に適宜紹介しますが、「ファザコン娘に恋をして—文明という自然現象—」（ナカニシヤ出版）に記した考察を多々言及します。 トーマス・クーン「科学革命の構造」（みすず書房）、アーノルド・トインビー「歴史の研究」（世界の名著、中公）		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>文明論的内容の小論文により、単位認定します。</p> <p>[A] 科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを十分に考察し、文明の未来を展望している。</p> <p>[B] 科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを考察する力が認められる。</p> <p>[C] 科学・技術の観点から、人類の歩みの概要をまとめている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>文明論的内容の小論文により、単位認定します。</p> <p>[S] 科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを十分に考察し、文明の未来を論理的に展望している。</p> <p>[A] 科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを十分に考察し、文明の未来を展望している。</p> <p>[B] 科学・技術の観点から、人類の歩みを概観し、転換期のポイントを考察する力が認められる。</p> <p>[C] 科学・技術の観点から、人類の歩みの概要をまとめている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A2) -07	履修コード	1211Z1
科目名	数理科学	科目英語名	Mathematical sciences
科目区分	教養科目B	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	40名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・この世界に数理が潜んでいることに気づき、それが私たちの感覚にも関与していることを考える。 ・様々な現象を数理モデルとして考察するために、指数法則・対数について理解し、微分方程式の解法（数値解および解析解）を学ぶ。 ・データ解析法の基礎を学ぶ 		
到達目標	この世界に数理が潜んでいることを認識し、様々な自然現象や社会現象を数学的モデルとして考察する方法を理解する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスおよび開平法 <ul style="list-style-type: none"> ・自然あるいは美の数理 2. プラトンの「線分の比喩」、黄金比、五角形、白銀比、二次方程式の解 3. ダ・ヴィンチ作「ウィトルウィウスの人体図」 4. フィボナッチ数列と黄金比、漸化式 5. 指数法則とネイピア数の再発見、二進法 6. ネイピア数と対数 7. ウェーバー・フェヒナーの法則、震度、dB、pH、計算尺 ・数学的モデル化 8. 微分法の基礎、近似式、指数関数・対数関数の導関数、 9. 積分(置換積分) 10. 現象のモデル化：微分方程式 $dN/dt=a$、$dN/dt=aN$ (放射壊変、薬物動態など) 11. 現象のモデル化：微分方程式 ロジスティック曲線 $dN/dt=aN-bN^2$ (人口動態、マーケティング理論、資源開発) 12. ベルヌーイの微分方程式としてロジスティック方程式を解く 13. 微分方程式の差分法による数値計算法 ・データ解析 14. 数理モデルと実データの照合(最小二乗法) 15. まとめ(テストを含む) <p>・毎回の授業には、定規、および平方根の計算ができる電卓もしくはモバイル器機を持参すること。</p>		
予習・復習	手計算を繰り返し、数学問題に向き合ったとき特有の「わかる」「わかった」という感覚を得られるように努めてください。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	スコット・オルセン『黄金比 自然と芸術にひそむもっとも不思議な数の話』(創元社)、佐藤雅彦ら『日常にひそむ数理曲線』(小学館)、堀場芳数『対数eの不思議』(講談社ブルーバックス)、D. バージェスら『微分方程式で数学モデルを作ろう』(日本評論社)		
教材	基本的な事柄についてはプリント資料を配布するが、数式の誘導などは敢えて板書する。また、手計算という行為を通して理解を深める。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	講義で扱う数学的操作に関連した記述式試験、および任意の数学的モデルに関して調査・考察したレポート課題を総合して成績評価する。 [A] 十分な理解と応用的能力が認められる。 [B] 一定の理解と応用的能力が認められる。 [C] 一定の理解が認められる。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	講義で扱う数学的操作に関連した記述式試験、および任意の数学的モデルに関して調査・考察したレポート課題を総合して成績評価する。 [S] 十分な理解と卓越した応用的能力が認められる。 [A] 十分な理解と応用的能力が認められる。 [B] 一定の理解と応用的能力が認められる。 [C] 一定の理解が認められる。		

平成31年度シラバス

番号	(A3)-01	履修コード	1522Z5
科目名	英語（一）	科目英語名	English（1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次①	曜日・時限	前期：火曜5・6限 後期：木曜5・6限
履修区分	選択	教室	前期：研修室 後期：第1教室
単位	4	定員	
担当教員	(非常勤) Bradd Winfield (ブラッド・ウィンフィールド) ・○正木恵美		
授業概要	<p>(ウィンフィールド担当) The classes will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture.</p> <p>(正木担当) この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。</p>		
到達目標	<p>(ウィンフィールド担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English. <p>(正木担当) リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。</p>		
授業計画	<p>Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class.</p> <p>(ウィンフィールド担当)</p> <p>CLASS SCHEDULE / TRACK LIST:</p> <p>My name on a car - Cliff Martinez..... (Introduction) Hometown unicorn - SFA..... (Your hometown) Where - Colder..... (asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth..... (Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books..... (Describing people) Postcards from Italy - Beirut..... (Past experiences) Before we begin - Broadcast..... (test review/ preparation) First interlude - John Cage..... (mid term test) Copy Cat - The Bay Kays..... (creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima..... (inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 (21 answers, then 21 questions) Pata Pata - Miriam Makeba..... (homophones and idioms) Feeling that - Noze..... (the senses) The next to last song - Bjork..... (future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre..... (final test/ presentation)</p> <p>In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken).</p> <p>(正木担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 		

	<p>2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 4. Chapter4: The Bhutanese 5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15. 定期テスト</p> <p>この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること。</p>
予習・復習	<p>(ウィンフィールド担当) 適宜、授業内で指示する。</p> <p>(正木担当) 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。</p>
教科書	<p>(ウィンフィールド担当) 資料を配付する。 (正木担当) Welcome to BBC on DVD (成美堂、2008年)</p>
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A] High skill level in English as a means of personal communication. [B] Functional level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication.</p> <p>(正木担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。 全開講数の3分の1以上の欠席者は試験を受けられない。</p>
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S] High skill level in English as a means of personal communication. [A] Functional level in English as a means of personal communication. [B] Basic level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication.</p> <p>(正木担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S] ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>

平成31年度シラバス

番号	(A3)-02	履修コード	1522Z6
科目名	英語 (一)	科目英語名	English (1)
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次②	曜日・時限	前期：木曜5・6限 後期：水曜7・8限
履修区分	選択	教室	前期：視聴覚教室 後期：第1教室
単位	4	定員	
担当教員	(非常勤) Bradd Winfield (ブラッド・ウィンフィールド) ・○正木恵美		
授業概要	<p>(ウィンフィールド担当) The class will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture.</p> <p>(正木担当) この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。</p>		
到達目標	<p>(ウィンフィールド担当) 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English.</p> <p>(正木担当) リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。</p>		
授業計画	<p>Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class.</p> <p>(ウィンフィールド担当)</p> <p>CLASS SCHEDULE / TRACK LIST:</p> <p>My name on a car - Cliff Martinez..... (Introduction) Hometown unicorn - SFA..... (Your hometown) Where - Colder..... (asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth..... (Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books..... (Describing people) Postcards from Italy - Beirut..... (Past experiences) Before we begin - Broadcast..... (test review/ preparation) First interlude - John Cage..... (mid term test) Copy Cat - The Bay Kays..... (creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima..... (inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 (21 answers, then 21 questions) Pata Pata - Miriam Makeba..... (homophones and idioms) Feeling that - Noze..... (the senses) The next to last song - Bjork..... (future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre..... (final test/ presentation)</p> <p>In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken).</p> <p>(正木担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 4. Chapter4: The Bhutanese 		

	<p>5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15. 定期テスト</p> <p>この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること</p>
予習・復習	<p>(ウィンフィールド担当) 適宜、授業内で指示する。</p> <p>(正木担当) 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。</p>
教科書	<p>(ウィンフィールド担当) 資料を配付する。 (正木担当) Welcome to BBC on DVD (成美堂、2008年)</p>
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A] High skill level in English as a means of personal communication. [B] Functional level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication.</p> <p>(正木担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S] High skill level in English as a means of personal communication. [A] Functional level in English as a means of personal communication. [B] Basic level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication.</p> <p>(正木担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S] ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>

平成31年度シラバス

番号	(A3)-03	履修コード	1522Z7
科目名	英語（一）	科目英語名	English（1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科1年次①	曜日・時限	前期：木曜7・8限 後期：水曜5・6限
履修区分	必修	教室	前期：視聴覚教室 後期：第1教室
単位	4	定員	
担当教員	(非常勤) Bradd Winfield (ブラッド・ウィンフィールド) ・○正木恵美		
授業概要	<p>(ウィンフィールド担当) The class will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture.</p> <p>(正木担当) この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。</p>		
到達目標	<p>(ウィンフィールド担当) 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English.</p> <p>(正木担当) リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。</p>		
授業計画	<p>Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class.</p> <p>(ウィンフィールド担当)</p> <p>CLASS SCHEDULE / TRACK LIST:</p> <p>My name on a car - Cliff Martinez..... (Introduction) Hometown unicorn - SFA..... (Your hometown) Where - Colder..... (asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth..... (Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books..... (Describing people) Postcards from Italy - Beirut..... (Past experiences) Before we begin - Broadcast..... (test review/ preparation) First interlude - John Cage..... (mid term test) Copy Cat - The Bay Kays..... (creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima..... (inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 (21 answers, then 21 questions) Pata Pata - Miriam Makeba..... (homophones and idioms) Feeling that - Noze..... (the senses) The next to last song - Bjork..... (future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre..... (final test/ presentation)</p> <p>In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken).</p> <p>(正木担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 4. Chapter4: The Bhutanese 		

	<p>5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15. 定期テスト</p> <p>この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること</p>
予習・復習	<p>(ウィンフィールド担当) 適宜、授業内で指示する。 (正木担当) 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。</p>
教科書	<p>(ウィンフィールド担当) 資料を配付する。 (正木担当) Welcome to BBC on DVD (成美堂、2008年)</p>
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A] High skill level in English as a means of personal communication. [B] Functional level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication. (正木担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S] High skill level in English as a means of personal communication. [A] Functional level in English as a means of personal communication. [B] Basic level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication. (正木担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S] ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>

平成31年度シラバス

番号	(A3)-04	履修コード	1522Z8
科目名	英語 (一)	科目英語名	English (1)
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科1年次②	曜日・時限	前期：金曜9・10限 後期：木曜7・8限
履修区分	必修	教室	前期：第3教室 後期：第1教室
単位	4	定員	
担当教員	(非常勤) Bradd Winfield (ブラッド・ウィンフィールド) ・○廣田 篤		
授業概要	<p>(ウィンフィールド担当) The class will focus on the English language in the context of creative arts and design. Vocabulary, terminology and descriptive, critical phrases will be introduced to the students, furthering their understanding of art, design, and culture.</p> <p>(廣田担当) この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。</p>		
到達目標	<p>(ウィンフィールド担当) 1. To encourage students to initiate, participate and engage in a range of creative workshops and current topics. 2. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others, in English.</p> <p>(廣田担当) リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。</p>		
授業計画	<p>Each class provides exercises to use English as a means of personal communication, through pair and small group work. Students will also be called on to answer questions and express opinions. Weekly follow-up exercises are required to be completed outside of class.</p> <p>(ウィンフィールド担当)</p> <p>CLASS SCHEDULE / TRACK LIST:</p> <p>My name on a car - Cliff Martinez..... (Introduction) Hometown unicorn - SFA..... (Your hometown) Where - Colder..... (asking for directions/info) Object objects - Deptford Goth..... (Describing objects) An animated description of Mr Maps - The Books..... (Describing people) Postcards from Italy - Beirut..... (Past experiences) Before we begin - Broadcast..... (test review/ preparation) First interlude - John Cage..... (mid term test) Copy Cat - The Bay Kays..... (creative writing) I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima..... (inspirations/dislikes) Agenda 21 - Secret Chiefs 3 (21 answers, then 21 questions) Pata Pata - Miriam Makeba..... (homophones and idioms) Feeling that - Noze..... (the senses) The next to last song - Bjork..... (future goals/preparation for final test) Slideshow at Free university - Le Tigre..... (final test/ presentation)</p> <p>In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken).</p> <p>(廣田担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter2: Rings and Things 3. Chapter3: Bringing up Baby 		

	<p>4. Chapter4: The Bhutanese 5. Chapter5: Into the Wilderness 6. Chapter6: Jade 7. Chapter7: The Mongols 8. Chapter8: Diamonds 9. Chapter9: Gorillas in Our Midst 10. Chapter10: A Father's Labor 11. Chapter11: Queues 12. Chapter12: Ahead of Fashion 13. Chapter13: Learning to See 14. Chapter14: Smallest 15. 定期テスト</p> <p>この授業は前期と後期で担当教員、内容、テキスト等が変わるので注意すること</p>
予習・復習	<p>(ウィンフィールド担当) 適宜、授業内で指示する。 (廣田担当) 各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。</p>
教科書	<p>(ウィンフィールド担当) 資料を配付する。 (廣田担当) Welcome to BBC on DVD (成美堂、2008年)</p>
参考書	特になし。
教材	特になし。
履修上の注意	特になし。
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [A] High skill level in English as a means of personal communication. [B] Functional level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication. (廣田担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>(ウィンフィールド担当) 20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S] High skill level in English as a means of personal communication. [A] Functional level in English as a means of personal communication. [B] Basic level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication. (廣田担当) 授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S] ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A] ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。</p>

平成31年度シラバス

番号	(A3)-05	履修コード	1522Z9
科目名	英語（一）	科目英語名	English（1）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	前期：金曜7・8限 後期：金曜5・6限
履修区分	必修	教室	前期：視聴覚教室 後期：LAVC室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）○廣田 篤		
授業概要	この授業では、イギリスのBBCドキュメンタリーをもとに、大学生に必要な総合的な英語力を身につけていきます。		
到達目標	リーディング力・リスニング力の向上はもとより、英文を通して自ら考え、判断し、課題を解決する思考力を養うことを目指します。		
授業計画	<p>（前期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、Chapter1: Hamburger History 2. Chapter1: Hamburger History 3. Chapter2: Rings and Things 4. Chapter2: Rings and Things 5. Chapter3: Bringing up Baby 6. Chapter3: Bringing up Baby 7. Chapter4: The Bhutanese 8. Chapter4: The Bhutanese 9. Chapter5: Into the Wilderness 10. Chapter5: Into the Wilderness 11. Chapter6: Jade 12. Chapter6: Jade 13. Chapter7: The Mongols 14. Chapter7: The Mongols 15. 定期テスト <p>（後期）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、Chapter8: Diamonds 2. Chapter8: Diamonds 3. Chapter9: Gorillas in Our Midst 4. Chapter9: Gorillas in Our Midst 5. Chapter10: A Father's Labor 6. Chapter10: A Father's Labor 7. Chapter11: Queues 8. Chapter11: Queues 9. Chapter12: Ahead of Fashion 10. Chapter12: Ahead of Fashion 11. Chapter13: Learning to See 12. Chapter13: Learning to See 13. Chapter14: Smallest 14. Chapter14: Smallest 15. 定期テスト 		
予習・復習	各単元に出てくる単語の意味はあらかじめ調べておくこと。 その他授業内で指示する。		
教科書	Welcome to BBC on DVD（成美堂、2008年）		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。 [B]ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。 [C]ドキュメンタリーの内容を理解することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業態度30%、課題20%、定期テスト50% [S]ドキュメンタリーの内容だけでなく、その文化的・社会的背景も理解し、英語力と思考力を十分養うことができた。 [A]ドキュメンタリーの内容をよく理解し、英語力と思考力も養うことができた。		

[B] ドキュメンタリーの内容を理解し、英語力を向上させることができた。

[C] ドキュメンタリーの内容を理解することができた。

平成31年度シラバス

番号	(A3)-06	履修コード	1523Z5
科目名	英語（二）	科目英語名	English（2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次①	曜日・時限	火曜7・8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	4	定員	
担当教員	稲垣健志		
授業概要	英文でEメールを書くことによって、文法・成句・慣用表現などを総合的に学習していきます。さまざまな場面に対応した英文に取り組むことで、自分の考えやメッセージを正しく伝えられる英作文能力を身につけることを目指します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な英文を用いて、Eメールを作成する力をつける。 2. 自分の意見・考えを相手に伝える表現力を身につける。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Unit 1: 自己紹介をする 3. Unit 2: 依頼する 4. Unit 3: アドバイスを求める 5. Unit 4: アドバイスや提案をする 6. Unit 5: 約束する 7. Unit 6: 謝罪する 8. 中間テスト 9. Unit 7: 予約する 10. Unit 8: 苦情を述べる 11. Unit 9: 招待する 12. Unit10: 道案内する 13. Unit11: リマインダーを送る 14. Unit12: 誘いを断る 15. 期末テスト <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Unit 13: 励ます 3. Unit 14: 祝福する 4. Unit 15: フォーマルな依頼をする 5. Unit 16: 申し出る 6. Unit 17: 感謝の意を述べる 7. Unit 18: 報告する 8. 中間テスト 9. Unit 19: お見舞いの気持ちを伝える 10. Unit 20: 募集する 11. Unit 21: 季節の挨拶をする 12. Unit 22: 応募する 13. Unit 23: 問い合わせる 14. Unit 24: お悔やみを述べる 15. 期末テスト 		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	成岡恵子、早野薫、Sean M. Hackett, Write Me Back Soon!: Communicating through Email (金星堂)		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題30% 中間テスト20% 期末テスト50%</p> <p>A) 授業で習った表現方法を理解し、それを応用して自分の意見を正確に伝えるメールを作成できた B) 授業で習った表現方法を理解し、それをもとにオリジナルのメールを作成できた C) 授業で習った表現方法を使ってメールを作成できた</p>		

成績評価（平成30年度以降入学者）	課題30% 中間テスト20% 期末テスト50% S) 授業で習った表現方法を理解し、それを応用しながら独創的な内容のメールを作成できた A) 授業で習った表現方法を理解し、それを応用して自分の意見を正確に伝えるメールを作成できた B) 授業で習った表現方法を理解し、それをもとにオリジナルのメールを作成できた C) 授業で習った表現方法を使ってメールを作成できた
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(A3)-07	履修コード	1523Z6
科目名	英語（二）	科目英語名	English（2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次②	曜日・時限	前期：火曜7・8限 後期：金曜9・10限
履修区分	選択	教室	前期：第3教室 後期：第2教室
単位	4	定員	
担当教員	○稲垣健志・（非常勤）正木恵美		
授業概要	英文でEメールを書くことによって、文法・成句・慣用表現などを総合的に学習していきます。さまざまな場面に対応した英文に取り組むことで、自分の考えやメッセージを正しく伝えられる英作文能力を身につけることを目指します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な英文を用いて、Eメールを作成する力をつける。 2. 自分の意見・考えを相手に伝える表現力を身につける。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Unit 1: 自己紹介をする 3. Unit 2: 依頼する 4. Unit 3: アドバイスを求める 5. Unit 4: アドバイスや提案をする 6. Unit 5: 約束する 7. Unit 6: 謝罪する 8. 中間テスト 9. Unit 7: 予約する 10. Unit 8: 苦情を述べる 11. Unit 9: 招待する 12. Unit10: 道案内する 13. Unit11: リマインダーを送る 14. Unit12: 誘いを断る 15. 期末テスト <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Unit 13: 励ます 3. Unit 14: 祝福する 4. Unit 15: フォーマルな依頼をする 5. Unit 16: 申し出る 6. Unit 17: 感謝の意を述べる 7. Unit 18: 報告する 8. 中間テスト 9. Unit 19: お見舞いの気持ちを伝える 10. Unit 20: 募集する 11. Unit 21: 季節の挨拶をする 12. Unit 22: 応募する 13. Unit 23: 問い合わせる 14. Unit 24: お悔やみを述べる 15. 期末テスト 		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	成岡恵子、早野薫、Sean M. Hackett, Write Me Back Soon!: Communicating through Email（金星堂）		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題30% 中間テスト20% 期末テスト50%</p> <p>A) 授業で習った表現方法を理解し、それを応用して自分の意見を正確に伝えるメールを作成できた B) 授業で習った表現方法を理解し、それをもとにオリジナルのメールを作成できた C) 授業で習った表現方法を使ってメールを作成できた</p>		

成績評価（平成30年度以降入学者）	課題30% 中間テスト20% 期末テスト50% S) 授業で習った表現方法を理解し、それを応用しながら独創的な内容のメールを作成できた A) 授業で習った表現方法を理解し、それを応用して自分の意見を正確に伝えるメールを作成できた B) 授業で習った表現方法を理解し、それをもとにオリジナルのメールを作成できた C) 授業で習った表現方法を使ってメールを作成できた
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(A3)-08	履修コード	152377
科目名	英語（二）	科目英語名	English（2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科2年次①	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	前期：視聴覚教室 後期：第3教室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）廣田 篤		
授業概要	この授業では、デザインに関する英語テキストを読み、グループワークを通してその内容について議論し知識を深めていきます。適宜、リスニングやライティングなども交えて、授業を進めていきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容の正確な理解はもとより、機械的ではない豊かな表現力を伴った翻訳をする。 2. 本文内容についてグループで議論し、デザインの知識を深める。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Ford Model T 3. Coca-Cola Bottle 4. Juicy Salif Lemon Squeezer 5. リスニング・ライティング演習 6. Leica Camera 7. Harley-Davidson Motorbike 8. 中間テスト 9. Le Corbusier Chairs 10. Acro Floor Lamp 11. Red/Blue Chair 12. リスニング・ライティング演習 13. Chrysler Building 14. Bird Kettle 15. 期末テスト <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Mackintosh Ladderback Chair 3. Chanel No.5 4. Swatch Watch 5. リスニング・ライティング演習 6. Guggenheim Museum Bilbao 7. PH Lamp 8. 中間テスト 9. Casa Batlló 10. Swiss Army Knife 11. La Cornuta Coffee Machine 12. リスニング・ライティング演習 13. McDonald's Fast Food Pack 14. Apple iMac 15. 期末テスト 		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと		
教科書	Jamie West, Design Makes the World Go 'Round.（センゲージ ラーニング）		
参考書	配布プリント		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題30% 中間テスト20% 期末テスト50%</p> <p>A) 本文を表現力豊かに翻訳し、その内容について活発に議論できた。 B) 本文の内容を理解し、機械的ではない表現で翻訳することができた。 C) 本文の内容が理解し、翻訳することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題30% 中間テスト20% 期末テスト50%</p> <p>S) 本文を表現力豊かに翻訳し、その内容を議論する中で自身の知識も深めることができた。 A) 本文を表現力豊かに翻訳し、その内容について活発に議論できた。</p>		

者)

- B) 本文の内容を理解し、機械的ではない表現で翻訳することができた。
- C) 本文の内容が理解し、翻訳することができた。

平成31年度シラバス

番号	(A3)-09	履修コード	1523Z8
科目名	英語（二）	科目英語名	English（2）
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科2年次②	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	必修	教室	前期：第3教室 後期：LAVC室
単位	4	定員	
担当教員	（非常勤）廣田 篤		
授業概要	この授業では、デザインに関する英語テキストを読み、グループワークを通してその内容について議論し知識を深めていきます。適宜、リスニングやライティングなども交えて、授業を進めていきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内容の正確な理解はもとより、機械的ではない豊かな表現力を伴った翻訳をする。 2. 本文内容についてグループで議論し、デザインの知識を深める。 		
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Ford Model T 3. Coca-Cola Bottle 4. Juicy Salif Lemon Squeezer 5. リスニング・ライティング演習 6. Leica Camera 7. Harley-Davidson Motorbike 8. 中間テスト 9. Le Corbusier Chairs 10. Acro Floor Lamp 11. Red/Blue Chair 12. リスニング・ライティング演習 13. Chrysler Building 14. Bird Kettle 15. 期末テスト <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. Mackintosh Ladderback Chair 3. Chanel No. 5 4. Swatch Watch 5. リスニング・ライティング演習 6. Guggenheim Museum Bilbao 7. PH Lamp 8. 中間テスト 9. Casa Batlló 10. Swiss Army Knife 11. La Cornuta Coffee Machine 12. リスニング・ライティング演習 13. McDonald's Fast Food Pack 14. Apple iMac 15. 期末テスト 		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと		
教科書	Jamie West, Design Makes the World Go 'Round.（センゲージ ラーニング）		
参考書	配布プリント		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題30% 中間テスト20% 期末テスト50%</p> <p>A) 本文を表現力豊かに翻訳し、その内容について活発に議論できた。</p> <p>B) 本文の内容を理解し、機械的ではない表現で翻訳することができた。</p> <p>C) 本文の内容が理解し、翻訳することができた。</p>		
	課題30% 中間テスト20% 期末テスト50%		

成績評価（平成 30年度以降入学者）	S) 本文を表現力豊かに翻訳し、その内容を議論する中で自身の知識も深めることができた。 A) 本文を表現力豊かに翻訳し、その内容について活発に議論できた。 B) 本文の内容を理解し、機械的ではない表現で翻訳することができた。 C) 本文の内容が理解し、翻訳することができた。
-------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(A3)-10	履修コード	1523Z9
科目名	英語 (二)	科目英語名	English (2)
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	必修	教室	前期：視聴覚教室 後期：第3教室
単位	4	定員	20名
担当教員	(非常勤) Bradd Winfield (ブラッド・ウィンフィールド)		
授業概要	Student' s will learn the English language in the context of arts and design through 90 minute workshops. Each workshop will be preceded by a short lecture. Which in turn will give the student a broader knowledge of that classes task and help guide them on the path to creating a unique image in the time allotted. Examples will be shown from all over the world, and students will be encouraged to take a step out of their comfort zone.		
到達目標	<p>1. To encourage students to participate and engage in a range of creative workshops. To build confidence, so that the students are able to share their ideas and inspirations with others in English.</p> <p>2. Focusing on conversation and presentations. Students will self-negotiate projects and share ideas in English.</p> <p>3. Students will be asked to make conversation on subjects such as narrative, personal interests, thought process, Culture and identity. Students will also take part in critiques asking questions of them to solve design and art related problems, with solutions focusing towards an English speaking audience.</p>		
授業計画	<p>Semester 1</p> <p>CLASS SCHEDULE / TRACK LIST:</p> <p>My name on a car - Cliff Martinez.....(Introduction)</p> <p>Hometown unicorn - SFA.....(Your hometown)</p> <p>Where - Colder.....(asking for directions/info)</p> <p>Object objects - Deptford Goth.....(Describing objects)</p> <p>An animated description of Mr Maps - The Books.....(Describing people)</p> <p>Postcards from Italy - Beirut.....(Past experiences)</p> <p>Before we begin - Broadcast.....(test review/ preparation)</p> <p>First interlude - John Cage.....(mid term test)</p> <p>Copy Cat - The Bay Kays.....(creative writing)</p> <p>I wanna be like you - Jungle book/Louis Prima.....(inspirations/dislikes)</p> <p>Agenda 21 - Secret Chiefs 3(21 answers, then 21questions)</p> <p>Pata Pata - Miriam Makeba.....(homophones and idioms)</p> <p>Feeling that - Noze.....(the senses)</p> <p>The next to last song - Bjork.....(future goals/preparation for final test)</p> <p>Slideshow at Free university - Le Tigre.....(final test/ presentation)</p> <p>In addition, 3 extra classes will be introduced and 3 classes removed from the above list (in keeping with the students primary subject being taken).</p> <p>Semester 2</p> <p>SCHEDULE / LESSONS</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Portrait in a landscape: lecture and workshop. 2. Portrait in a landscape: workshop and group presentation. 3. English TEA-Shirt: lecture and workshop. 4. English TEA-Shirt: group presentation and critique. 5. it looks like type, taste like chicken: lecture and workshop. 6. it looks like type, taste like chicken: group presentation and critique. 7. QUESTION TIME: One to One verbal conversation check. 8. Red and Blue cow soap: lecture and workshop. 9. Red and Blue cow soap: workshop and group presentation. 		

	10. objects that fit in your hand: lecture and workshop. 11. 99 Penultimate chapters: lecture and workshop 12. 99 Penultimate chapters: group presentation and critique. 13. EPOCH: lecture and workshop 14. EPOCH: workshop and group critique. 15. FINAL PRESENTATION.
予習・復習	適宜、授業内で指示する。
教科書	特になし
参考書	特になし
教材	資料を配布する。
履修上の注意	特になし
成績評価（平成29年度以前入学者）	25% participation 25% mid-term 50% presentation A - High skill level in English as a means of personal communication. B - Functional level in English as a means of personal communication. C - Improvement level in English as a means of personal communication.
成績評価（平成30年度以降入学者）	20% Participation, 30% Mid-term, 50% Final/Presentation [S] High skill level in English as a means of personal communication. [A] Functional level in English as a means of personal communication. [B] Basic level in English as a means of personal communication. [C] Improvement in English as a means of personal communication.

平成31年度シラバス

番号	(A3)-11	履修コード	1524Z1
科目名	英語（三）	科目英語名	English（3）
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	自由	教室	学科演習室
単位	2	定員	
担当教員	稲垣健志		
授業概要	この授業では、モダンアートについて書かれた英文を精読することで、英語力のさらなる向上はもとより、モダンアート作品や運動に関する知識も深めていきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の正確な把握だけでなく、モダンアート作品や運動がうまれる歴史的・社会的背景も理解する。 ・理解した内容を自身の制作活動にも活かす。 		
授業計画	<p>Susie Hodge, How to Survive Modern Art(2009)を精読していきます。 授業は前半に英文の精読、後半に内容の確認とディスカッションというかたちで進めていきます。</p> <p>具体的に取り上げる主なトピックは以下のとおりです。</p> <p>What is Modern Art? Inspiration Pattern & Shape Rodin, Brancusi&Giacometti Cubism Dada De Stijl War & Destruction The Bauhaus 1919-33 Harlem Renaissance New Objectivity Art & Politics Pop Art Op Art Minimalism Land Art Performance Art & Arte Povera YBAs(Brit Art) Disital Art</p> <p>その他、参加学生の関心、制作テーマに合わせたトピックも取り上げていく予定です。</p>		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	配布プリント		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 各トピックの内容の社会的背景を理解し、その成果を自身の制作活動に反映させることができた。</p> <p>[B] 各トピックの内容を理解し、その知識を自身の制作活動に活かすことができた。</p> <p>[C] 各トピックの内容を訳し、理解することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(A3)-12	履修コード	1525Z1
科目名	英語（四）	科目英語名	English（4）
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	自由	教室	学科演習室
単位	2	定員	10名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	この授業は「なぜ英語ができるようになりたいのか」、「なぜ英語が必要なのか」という根本的な問いから始めます。そして自らの大学での英語学習を総括し、さらに卒業後を見据えたうえで、課題を設定してそれに取り組めます。		
到達目標	それぞれの弱点、関心、必要性に応じた課題をこなし、卒業後に活かせる英語力を身につける。		
授業計画	<p>ただ漠然と「英語ができるようになりたい。」と考えているだけでは、なかなか英語力は向上しません。 この授業は「なぜ英語ができるようになりたいのか」、「英語を使って何をしたいのか」ということを考えるところからスタートします。 そのうえで、大学での英語学習の経験と卒業後を見据えて各自の課題を担当教員とともに設定します。</p> <p>前期： 各自の課題および目標の設定</p> <p>例) TOEICの苦手パートの演習 TOEIC目標点数クリアのための計画作りおよび演習 留学に向けたTOEFL・IELTSの演習 大学レベルの英語力に向けた基礎演習 大学院入試に向けた専門的演習</p> <p>* 学期末に別途課題を出す。</p> <p>後期： 前期の成果と学期末課題の結果をふまえて、さらにステップアップした課題および目標を設定する</p> <p>例) TOEICの苦手パートを含む総合的な演習 TOEIC目標点数の再設定と時間配分を考慮した演習 具体的な留学先を想定したTOEFL・IELTS演習 大学レベルの英語力に向けた応用演習 具体的な大学院の過去問題演習</p> <p>* 教材等は基本的にこちらで用意する。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	教員側で準備する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示または配布する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業態度30%、小テスト20%、課題50% [A] 適切な課題を設定し、それをクリアしたうえで卒業後に活かせる英語力を身につけることができた。 [B] 適切な課題を設定し、概ねそれをクリアすることができた。 [C] 適切な課題を設定し、一年を通じてそれに取り組むことができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(A3)-13	履修コード	1526Z1
科目名	フランス語（一）A	科目英語名	French（1）A
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	4	定員	30名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	フランス語の基本的な表現を習得し文法のしくみを把握する。ヨーロッパ文化の紹介。		
到達目標	初級文法の習得。実用フランス語検定5級レベルの力をつける。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、発音 第2回 danser、人称代名詞 第3回 平叙文と疑問文(1)、etre, avoir, faire、否定文 第4回 疑問文(2)、疑問副詞、疑問代名詞、数(1から20) 第5回 疑問形容詞、所有形容詞、il estとc'est 第6回 定冠詞・不定冠詞・部分冠詞、形容詞 第7回 形容詞の位置、代名動詞、aller, partir、数(1から80) 第8回 定冠詞の縮約、様々な否定文、prendre 第9回 指示形容詞、話しの流れと語調 第10回 venir, voir, devoir 第11回 近接未来・近接過去、複合過去形(1) 第12回 1日の表現・曜日の表現、mettre, descendre 第13回 数(1から100)、質問及び調整日 第14回 質問及び調整日 第15回 前期総括、試験 第16回 場所の表現、目的語代名詞 第17回 il y a, pouvoir, vouloir、不定法の単純形・複合形 第18回 命令法、位置の表現、非人称構文 第19回 接続法(1)、中性代名詞、depuisと時制 第20回 半過去形 第21回 複合過去形(2)、過去における近接未来・過去 第22回 ジェロンディフ、複合過去形と半過去形 第23回 大過去形、connaître, savoir, plaire 第24回 原因理由の表現、比較級・最上級 第25回 単純未来形、前未来形、可能性の高い仮定 第26回 話法、条件法 第27回 接続法(2) 第28回 質問及び調整日 第29回 質問及び調整日 第30回 後期総括、試験 毎回、動詞活用テスト。また、アニメ、映画、シャンソン、詩、ニュース等の紹介。</p>		
予習・復習	教科書の予習及び動詞活用の暗記を心がけること。		
教科書	松山博文著『フランス文法のまとめ』白水社		
参考書	適宜指示する。		
教材	CD、DVD、ウェブサイト等。		
履修上の注意	芸術学専攻を除く美術科の学生は、フランス語（一）Bを履修してください。すでにフランス語初級文法を習得している学生は登録前に相談に来て下さい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	毎週の動詞活用テスト（20%）と年二回の筆記試験（聞き取りを含む）（80%）。 [A] 初級フランス語文法を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [B] 初級フランス語文法を習得し、それを応用することができた。 [C] 初級フランス語文法を習得することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	毎週の動詞活用テスト（20%）と年二回の筆記試験（聞き取りを含む）（80%）。 [S] 初級フランス語文法を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [A] 初級フランス語文法を習得し、それを応用することができた。 [B] 初級フランス語文法を習得することができた。 [C] 初級フランス語文法を大まかに理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(A3)-14	履修コード	1526Z2
科目名	フランス語（一）B	科目英語名	French（1）B
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	4	定員	30名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	フランス語の基本的な表現を含む150文を暗記し、口語表現の能力を養成する。ヨーロッパの文化の紹介。		
到達目標	基本的な会話力の習得。 実用フランス語検定5級レベルの力をつける。		
授業計画	<p>各回ごとに、よく使うフランス語の表現を5つ、発音、文法、綴り等に留意しながら暗記する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 名前を言う 2 住んでいるところを言う 3 年齢を言う 4 数を言う 5 職業を言う 6 国籍を言う 7 好き嫌いと言う 8 電話番号を言う 9 時間と言う 10 今日することを言う 11 曜日を言う 12 場所を言う 13 天候を言う 14 道を聞く、教える 15 前期総括、試験 16 過去のことを言う 17 過去のことを言う 18 説明する 19 理由を言う 20 感想を言う 21 買い物をする 22 誘う 23 未来のことを言う 24 予定を言う 25 頼む 26 人の話を伝える 27 丁寧に話す 28 客観的に話す 29 質問及び調整日 30 後期総括、試験 <p>ヨーロッパ（特にフランスの）音楽、映画、ファッション、美術、文学、建築等を紹介する。</p>		
予習・復習	テキストの予習と140文の暗記を心がけること。		
教科書	中川努／青柳りさ著『話せる！音読 フランス語200文』第三書房 1700円		
参考書	適宜指示する。		
教材	CD、DVD、ウェブサイト等。		
履修上の注意	芸術学専攻の学生・文法の習得を希望する学生はフランス語（一）Aを受講して下さい。 すでにフランス語初級文法を習得している学生は登録前に相談に来て下さい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	毎週の小テスト（40％）、年2回の筆記試験（聞き取りを含む）（60％） [A]初級フランス語会話を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [B]初級フランス語会話を習得し、それを応用することができた。 [C]初級フランス語会話を習得することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	毎週の小テスト（40％）、年2回の筆記試験（聞き取りを含む）（60％） [S]初級フランス語会話を習得し、それを高いレベルで応用することができた。 [A]初級フランス語会話を習得し、それを応用することができた。		

[B] 初級フランス語会話を習得することができた。
[C] 初級フランス語会話をある程度習得することができた。

平成31年度シラバス

番号	(A3)-15	履修コード	1527Z1
科目名	フランス語 (二)	科目英語名	French (2)
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	前期：月曜9・10限 後期：火曜9・10限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	4	定員	60名
担当教員	青柳りさ		
授業概要	文法事項の復習と、読み・聞き・書き・話す力の養成。 フランス語の基本的な表現を含む200文を暗記し、口語表現の能力を養成する。 ヨーロッパ文化への理解を深める。		
到達目標	日常生活に必要な基本構文、基本語彙の習得。実用フランス語検定4級レベルの力をつける。		
授業計画	<p>1. 「フランス語200文」(前期毎週10文、後期毎週5文)を暗記する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 名前、住んでいるところを言う 2 年齢、数を言う 3 職業、国籍を言う 4 好き嫌い、電話番号を言う 5 時間を言う 6 今日することを言う 7 曜日を言う 8 場所を言う 9 天候を言う 10 道を聞く、教える 11 月を言う、過去のことを言う 12 過去のことを言う 13 過去のことを言う 14 説明、描写する 15 前期総括、試験 16 好き嫌いを言う 17 理由を言う 18 買い物をする 19 過去のことを言う 20 過去のことを言う 21 感想を言う 22 誘う 23 たずねる、頼む 24 予定を言う 25 人の発言を伝える 26 意見を言う 27 客観的に話す 28 復習 29 復習 30 総括、試験 <p>2. 「フランス語200文」を応用する。</p> <p>3. ヨーロッパ(特にフランスの)ニュース、音楽、映画、ファッション、美術、文学、建築等を紹介する。</p>		
予習・復習	テキストの予習と200文の暗記を心がけること。		
教科書	中川努／青柳りさ著『話せる！音読 フランス語200文』第三書房 1700円		
参考書	適宜指示する。		
教材	CD、DVD、ウェブサイト等。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	毎週の小テスト(50%)、年2回の期末試験(50%) [A] フランス語200文を確実に習得し、それを応用することができた。 [B] フランス語200文を確実に習得することができた。 [C] フランス語200文を習得することができた。		
成績評価(平成30年度以降)	毎週の小テスト(50%)、年2回の期末試験(50%) [S] フランス語200文を確実に習得し、それを高いレベルで応用することができた。		

入学者)

[A] フランス語200文を確実に習得し、それを応用することができた。
[B] フランス語200文を確実に習得することができた。
[C] フランス語200文を習得することができた。

平成31年度シラバス

番号	(A3)-16	履修コード	1536Z1
科目名	フランス語会話（中級）	科目英語名	French Conversation（intermediate class）
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	自由	教室	LAVC室
単位	2	定員	30名
担当教員	（非常勤）Cecile Andrieu（セシル・アンドリュ）		
授業概要	初級レベルの日常会話の習得 美術言語の導入		
到達目標	日常会話に役立つ基本語彙および構文を習得する。 美術に関する基本語彙を学び、簡単な質疑・論評のなかで実践する。 日常あるいは専門的な様々なシチュエーションにおける会話に慣れる。		
授業計画	<p>一回の授業構成は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキスト、配付資料、視聴覚機材等を用いて、日常会話に必要な基本構文、熟語、言い回しを習得する。 毎週、異なる会話のシチュエーションが提起される。 2. 教員あるいは学生から提起されるキーワード、美術・デザイン等の専門用語を習得し、グループあるいは個人で、短い文をつくり繰り返して「話し、書く」練習をする。 3. 前・後期それぞれ1～2回、10分から15分で、研究、制作、発表、その他のテーマで発表および質疑応答を行う。 学生は2～3週間かけて発表の準備を行う。準備段階において発表のプラン等についての指導を受けることができる。 <p>* 授業計画は、学生の人数、レベル、習熟度等によって変更される可能性あり。また各々のレベルによって達成目標にも柔軟性をもたせる。</p>		
予習・復習	<p>前回の授業で学んだ構文、語彙の復習。 個人あるいはグループで、アーティスト、美術界の動き、あるいは与えられたテーマ、自分で選んだテーマにかかわる語彙を学ぶ。 1～2回の研究発表の準備。</p>		
教科書	A PROPOS A1 (PUG)		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	フランス語既習者を対象とします。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>予習と復習（30%） 授業への参加：理解し理解されること、（語彙の不足や多少の文法的な間違いがあったとしても）積極的な質疑応答への取り組みを評価する（40%） 発表（30%）</p> <p>[A] 初級フランス語を確実に習得し、それを高いレベルでフランス語会話に応用することができた。</p> <p>[B] 初級フランス語を確実に習得し、それをフランス語会話に応用することができた。</p> <p>[C] 初級フランス語を確実に習得することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(A3)-17	履修コード	1537Z1
科目名	フランス語会話（上級）	科目英語名	French Conversation (upper class)
科目区分	外国語科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	自由	教室	前期：学科演習室 後期：LAVC室
単位	2	定員	30名
担当教員	(非常勤) Cecile Andrieu (セシル・アンドリュ)		
授業概要	Entrainement a la conversation courante (niveau superieur) ainsi qu'a differentes situations de dialogue propres au domaine de l'art.		
到達目標	Enrichissement de son vocabulaire general et de son vocabulaire artistique. Maitrise des principales structures grammaticales en usage dans la conversation (courante et specialisee). Acquisition d'une certaine aisance dans differentes situations de dialogue (questions et reponses spontanees...).		
授業計画	<p>Chaque cours se divisera en plusieurs sequences comprenant :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Entrainement oral a des structures grammaticales plus ou moins complexes a l'aide de documents ecrits (extraits de manuels) ou audio-visuels. Chaque semaine une situation de dialogue differente sera proposee. 2. Acquisition d'un vocabulaire specialise plus sophistique a partir de la lecture d'articles, ou de l'ecoute de documents audio-visuels qui seront selectionnes tantot par l'instructeur, tantot par les etudiants. 3. Expose(s) de 10 a 15 minutes par chaque etudiant (1~2 par semestre) sur ses recherches artistiques, sa demarche (concept, procedure, questionnements...), une exposition ou sur tout autre sujet, suivi d'un court debat avec les autres etudiants. L'etudiant aura deux ou trois semaines pour le(s) preparer et recevra des instructions ou un plan d'expose pour l'aider dans sa preparation. <p>* Le plan ci-dessus est susceptible d'etre modifie en fonction du nombre et du niveau des etudiants, mais aussi de leur progression. Les exigences seront differentes suivant le niveau de l'etudiant.</p>		
予習・復習	Revision hebdomadaire du vocabulaire et des points abordes au cours precedent. Recherche (ponctuelle) en vue de presentations, individuelles ou en groupe, et preparation de celles-ci.		
教科書	A PROPOS A2 (PUG)		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>Participation aux discussions et debats (60%) Exposes: contenu, niveau de preparation et de presentation (40%) [A] Tres bonne maitrise de la langue francaise. Excellentes competences d'expression et de comprehension orales. [B] Bonne maitrise des bases de la langue francaise. Competences d'expression et de comprehension orales satisfaisantes. [C] A acquis les rudiments de la langue francaise suffisants pour mener et comprendre une conversation francaise courante.</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(A3)-18	履修コード	1532Z1
科目名	ドイツ語基礎	科目英語名	German Basic Course
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	木曜5・6限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	4	定員	30名
担当教員	(非常勤) 堀美佐子		
授業概要	ドイツ語の簡単な会話と文章を習得し、ドイツ語の文法のしくみを理解する。		
到達目標	ドイツ語の初級文法を習得し、ドイツ事情を理解する。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 発音</p> <p>第2回 あいさつ表現 基数(1~10)</p> <p>第3回 人称代名詞 動詞の不定形</p> <p>第4回 規則動詞の現在人称変化</p> <p>第5回 sein動詞とhaben動詞の現在人称変化</p> <p>第6回 平叙文と疑問文 語順</p> <p>第7回 名詞の性 定冠詞と不定冠詞</p> <p>第8回 定冠詞と名詞の格変化</p> <p>第9回 不定冠詞と名詞の格変化</p> <p>第10回 名詞の複数形と格変化</p> <p>第11回 疑問詞</p> <p>第12回 命令形</p> <p>第13回 不規則動詞の現在人称変化</p> <p>第14回 zu 不定詞</p> <p>第15回 前期まとめ、試験</p> <p>第16回 基数(11~100)</p> <p>第17回 時刻・西暦・年齢・身長・値段の表現</p> <p>第18回 形容詞と副詞</p> <p>第19回 形容詞の格変化</p> <p>第20回 前置詞[1]</p> <p>第21回 前置詞[2]</p> <p>第22回 定冠詞類の格変化</p> <p>第23回 不定冠詞類の格変化</p> <p>第24回 動詞の三基本形</p> <p>第25回 過去形</p> <p>第26回 現在完了形</p> <p>第27回 話法の助動詞 未来形</p> <p>第28回 受動態</p> <p>第29回 関係代名詞</p> <p>第30回 後期まとめ、試験</p>		
予習・復習	配布プリントの予習・復習と単語の暗記を心がけること。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	辞書や参考書については、最初の授業で指示する。		
教材	プリントを配布する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	毎週の課題プリント(30%)、中間テスト(2回)並びに学期末試験(2回)を総合して単位認定を行う。 [A] 初級ドイツ語の読解力と表現力を非常に正確に習得できた。 [B] 初級ドイツ語の読解力と表現力をかなり正確に習得できた。 [C] 初級ドイツ語の読解力と表現力を習得できた。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	毎週の課題プリント(30%)、中間テスト(2回)並びに学期末試験(2回)を総合して単位認定を行う。 [S] 初級ドイツ語の読解力と表現力を正確に習得し、かつ文法事項を高いレベルで応用することができた。 [A] 初級ドイツ語の読解力と表現力を非常に正確に習得できた。 [B] 初級ドイツ語の読解力と表現力をかなり正確に習得できた。 [C] 初級ドイツ語の読解力と表現力を習得できた。		

平成31年度シラバス

番号	(A3)-19	履修コード	1533Z1
科目名	イタリア語基礎	科目英語名	Italian Basic Course
科目区分	外国語科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	木曜7・8限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	4	定員	50名
担当教員	石黒盛久		
授業概要	イタリア語の初等文法を教授する。		
到達目標	イタリア語の初等文法（現在・過去・未来形等）を理解し、運用できるようにする。		
授業計画	<p>1-出会いのあいさつ／心身の状態を訪ねる 練習問題</p> <p>2-電話でのあいさつ／別れの挨拶 練習問題</p> <p>3-自己紹介／相手の名を尋ねる 練習問題</p> <p>4-人を相手に紹介する／名前の綴りを説明する 練習問題</p> <p>5-自分の出身地や国籍を言う／相手の出身地や国籍を尋ねる 練習問題</p> <p>6-第三者の出身地や国籍を尋ねる 練習問題</p> <p>7-特定のもの・人に関して特徴・特質などを述べたり、評価したりする 練習問題</p> <p>8-互いの性格について質疑応答する 練習問題</p> <p>9-お互いの所属学部・学科・サークル活動について質疑応答する 練習問題</p> <p>10-お互いの学年・専攻などについて質疑応答する 練習問題</p> <p>11-自分の住所などについて描写する 練習問題</p> <p>12-特定の授業などに関して、教室・開始時間・学生数・担当者などを尋ねる 練習問題</p> <p>13-所有する物につき質疑応答する 練習問題</p> <p>14-兄弟姉妹、年齢などに関して質疑応答する 練習問題</p> <p>15-前期末試験</p> <p>16-住まいと仕事について質疑応答する 練習問題</p> <p>17-アルバイトなどにつき質疑応答する 練習問題</p> <p>18-好きな活動や人物、食べ物などにつき質疑応答する 練習問題</p> <p>19-関心のある音楽やスポーツなどについて質疑応答する 練習問題</p> <p>20-典型的な一日について質疑応答する 練習問題</p> <p>21-利用する交通機関やよく行く店などについて質疑応答する 練習問題</p> <p>22-特定の施設などについて到達方法や開館時間を尋ねる 練習問題</p> <p>23-特定の人物などに関して情報を求めたり、相手が知っているか尋ねる 練習問題</p> <p>24-比較的最近行ったことにつき対話する 練習問題</p> <p>25-自分の経験・体験について互いに述べ合う 練習問題</p> <p>26-過去の状態について語ったり、質問したりする 練習問題</p> <p>27-将来のことについて述べたり、質問したりする 練習問題</p> <p>28-他人や新聞などから得た情報について述べる 練習問題</p> <p>29-特定の現象・問題などに関して自分の見解を述べる 練習問題</p> <p>30-後期末試験</p>		
予習・復習	<p>【予習】先立って指定する教科書の当該部分に目を通して置くこと</p> <p>【復習】当該授業で学習した項目に関する教科書の練習問題を解き提出すること</p>		
教科書	Biglie Ascolto e Produzione Orale 朝日出版社		
参考書	基本語彙集が教科書についていますので、辞書の購入は特に必要ありません		
教材	上記教科書を開講時に購入のこと その他必要に応じプリント配布		
履修上の注意	復習の提出用のノートを作っておいてください		
成績評価（平成29年度以前入学者）	前期二回、後期二回の試験の結果と提出物の評価を加味して単位認定を行う [A] イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に高いレベルで習熟している [B] イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に習熟している [C] イタリア語の文法・表現を理解している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	前期二回、後期二回の試験の結果と提出物の評価を加味して単位認定を行う [S] イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に極めて高いレベルで習熟している [A] イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に高いレベルで習熟している		

[B] イタリア語の文法・表現を理解し、その運用に習熟している
[C] イタリア語の文法・表現を理解している。

平成31年度シラバス

番号	(A4)-01	履修コード	1601Z1
科目名	体育実技（一）	科目英語名	Health and Physical Education 1
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	木曜7・8限
履修区分	必修	教室	体育館・運動場
単位	1	定員	65名
担当教員	(非常勤) ○嶋山進一・竹井早葉子		
授業概要	様々な運動、スポーツの実践を通し、生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得することができる。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方、受講マナーなどを説明する。また、シューズの販売も行う。</p> <p>第2回～第6回 体カテストの実施 文科省の体カテストに基づき、50m走、20mシャトルラン、ハンドボール投げ、反復横とび、上体起こし、長座体前屈、握力、立ち幅跳びを実施する。天候等によって実施順は変更する。</p> <p>第7回～15回 生涯スポーツの実践 1 2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目を実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定される。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では2～3種類の種目を並行して実施していく。</p> <p>第16回～30回 生涯スポーツの実践 2 2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目や体カトレーニングを実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定される。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。ただし、12月以降は天候を考慮し、両グループ体育館での実施になることがある。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では1～2種類の種目の実施と体カトレーニングを実施する。</p> <p>実施種目 バスケットボール、バレーボール、サッカー、バドミントン、卓球、ソフトボール、フライングディスク、ユニバーサルホッケー等</p> <p>実施種目にそって適宜実技テストを実施する。</p>		
予習・復習	体育館・グラウンドで課題等の練習を行ってください		
教科書	資料を配付する		
参考書	なし		
教材	なし		
履修上の注意	なし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。</p> <p>特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、特に体力や技能を向上することができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。</p> <p>特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(A4)-02	履修コード	1601Z2
科目名	体育実技（一）	科目英語名	Health and Physical Education 1
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科・工芸科1年次	曜日・時限	木曜5・6限
履修区分	必修	教室	体育館・運動場
単位	1	定員	80名
担当教員	（非常勤）○嶋山進一・竹井早葉子		
授業概要	様々な運動、スポーツの実践を通して、生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方、受講マナーなどを説明する。また、シューズの販売も行う。</p> <p>第2回～第6回 体カテストの実施 文科省の体カテストに基づき、50m走、20mシャトルラン、ハンドボール投げ、反復横とび 上体起こし、長座体前屈、握力、立ち幅跳びを実施する。天候等によって実施順は変更する。</p> <p>第7回～15回 生涯スポーツの実践 1 2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目を実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定される。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では2～3種類の種目を並行して実施していく。</p> <p>第16回～30回 生涯スポーツの実践 2 2つのグループに分かれて様々なスポーツ種目や体カトレーニングを実施する。実施種目は受講生の男女比率や競技経験、天候等を考慮し決定される。各グループはグラウンドと体育館での実技を交互に実施する。ただし、12月以降は天候を考慮し、両グループ体育館での実施になることがある。グラウンドでは2～3種類の種目を3～4回ずつ順番に、体育館では1～2種類の種目の実施と体カトレーニングを実施する。</p> <p>実施種目 バスケットボール、バレーボール、サッカー、バドミントン、卓球、ソフトボール、フライングディスク、ユニバーサルホッケー等</p> <p>実施種目にそって適宜実技テストを実施する。</p>		
予習・復習	体育館・グラウンドで課題等の練習を行ってください		
教科書	資料を配付する		
参考書	なし		
教材	なし		
履修上の注意	なし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。</p> <p>[B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。</p> <p>[C]積極的に運動に親しむことができた。</p>		

	特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、特に体力や技能を向上することができた。</p> <p>[A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。</p> <p>[B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。</p> <p>[C]積極的に運動に親しむことができた。</p> <p>特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。</p>

平成31年度シラバス

番号	(A4)-03	履修コード	1602Z1																																																
科目名	体育実技 (二)	科目英語名	Health and Physical Education 2																																																
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技																																																
資格区分		開講学期	前期																																																
入学年度		毎週・集中	毎週																																																
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	金曜9・10限																																																
履修区分	必修	教室	体育館・運動場																																																
単位	1	定員	65名																																																
担当教員	(非常勤) ○嶋山進一・竹井早葉子																																																		
授業概要	受講生が主体となって、様々な運動・スポーツを選択・実践していく過程を通して、生涯に渡るスポーツとの関わり方を学ぶ。																																																		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。																																																		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方などを説明する。屋内種目および屋外種目の選択をする。</p> <p>第2回～第15回 屋内と屋外でスポーツを実施する。 また、生涯スポーツの基礎知識として、ニュースポーツ種目を紹介、実践する。</p> <p>実技実施種目は受講生の希望に合わせて実施される。 あくまでも実施例であり、種目、構成等は人数や希望に合わせて変更する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 35%; text-align: center;">屋内</th> <th style="width: 35%; text-align: center;">屋外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>体力測定</td> <td>野球orサッカー、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>バドミントン、バスケットボール</td> <td>野球orサッカー、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>バドミントン、バスケットボール</td> <td>陸上、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>バレーボール、卓球</td> <td>陸上、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>バレーボール、卓球</td> <td>テニス</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ピラティス</td> <td>ピラティス</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>スポーツGOMI拾い</td> <td>スポーツGOMI拾い</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>昔遊び(竹馬、縄跳び等)</td> <td>テニス</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>昔遊び(竹馬、縄跳び等)</td> <td>選択種目</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>太極拳</td> <td>太極拳</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>体力測定</td> <td>選択種目</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>エアロビックエクササイズ</td> <td>選択種目</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>テスト</td> <td>テスト</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>テスト</td> <td>テスト</td> </tr> </tbody> </table> <p>屋外の選択種目は、野球orサッカー(希望者が多い方)、陸上、テニス、スラックラインで、自身の希望する種目を練習し、課題に取り組む。 屋外は雨天時、ドッジボール、運動遊び(鬼ごっこ等)から希望種目を実施する。</p>				屋内	屋外	第1回	オリエンテーション	オリエンテーション	第2回	体力測定	野球orサッカー、スラックライン	第3回	バドミントン、バスケットボール	野球orサッカー、スラックライン	第4回	バドミントン、バスケットボール	陸上、スラックライン	第5回	バレーボール、卓球	陸上、スラックライン	第6回	バレーボール、卓球	テニス	第7回	ピラティス	ピラティス	第8回	スポーツGOMI拾い	スポーツGOMI拾い	第9回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)	テニス	第10回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)	選択種目	第11回	太極拳	太極拳	第12回	体力測定	選択種目	第13回	エアロビックエクササイズ	選択種目	第14回	テスト	テスト	第15回	テスト	テスト
	屋内	屋外																																																	
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション																																																	
第2回	体力測定	野球orサッカー、スラックライン																																																	
第3回	バドミントン、バスケットボール	野球orサッカー、スラックライン																																																	
第4回	バドミントン、バスケットボール	陸上、スラックライン																																																	
第5回	バレーボール、卓球	陸上、スラックライン																																																	
第6回	バレーボール、卓球	テニス																																																	
第7回	ピラティス	ピラティス																																																	
第8回	スポーツGOMI拾い	スポーツGOMI拾い																																																	
第9回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)	テニス																																																	
第10回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)	選択種目																																																	
第11回	太極拳	太極拳																																																	
第12回	体力測定	選択種目																																																	
第13回	エアロビックエクササイズ	選択種目																																																	
第14回	テスト	テスト																																																	
第15回	テスト	テスト																																																	
予習・復習	体育館・グラウンドで課題に合わせて適宜練習を行ってください																																																		
教科書	資料を配付する																																																		
参考書	なし																																																		
教材	なし																																																		
履修上の注意	なし																																																		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。</p> <p>特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。</p>																																																		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、特に体力や技能を向上することができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することが</p>																																																		

できた。
[B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。
[C]積極的に運動に親しむことができた。

特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。

平成31年度シラバス

番号	(A4)-04	履修コード	1602Z2																																																																
科目名	体育実技 (二)	科目英語名	Health and Physical Education 2																																																																
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技																																																																
資格区分		開講学期	前期																																																																
入学年度		毎週・集中	毎週																																																																
専攻・年次	デザイン科・工芸科2年次	曜日・時限	金曜7・8限																																																																
履修区分	必修	教室	体育館・運動場																																																																
単位	1	定員	80名																																																																
担当教員	(非常勤) ○嶋山進一・竹井早葉子																																																																		
授業概要	受講生が主体となって、様々な運動・スポーツを選択・実践していく過程を通して、生涯に渡るスポーツとの関わり方を学ぶ。																																																																		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。																																																																		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方などを説明する。屋内種目および屋外種目の選択をする。</p> <p>第2回～第15回 屋内と屋外でスポーツを実施する。 また、生涯スポーツの基礎知識として、ニュースポーツ種目を紹介、実践する。</p> <p>実技実施種目は受講生の希望に合わせて実施される。 あくまでも実施例であり、種目、構成等は人数や希望に合わせて変更する。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 50%; text-align: center;">屋内</th> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 50%; text-align: center;">屋外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td></td> <td>オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>体力測定</td> <td></td> <td>野球orサッカー、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>バドミントン、バスケットボール</td> <td></td> <td>野球orサッカー、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>バドミントン、バスケットボール</td> <td></td> <td>陸上、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>バレーボール、卓球</td> <td></td> <td>陸上、スラックライン</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>バレーボール、卓球</td> <td></td> <td>テニス</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ピラティス</td> <td></td> <td>ピラティス</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>スポーツGOMI拾い</td> <td></td> <td>スポーツGOMI拾い</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>昔遊び(竹馬、縄跳び等)</td> <td></td> <td>テニス</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>昔遊び(竹馬、縄跳び等)</td> <td></td> <td>選択種目</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>太極拳</td> <td></td> <td>太極拳</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>体力測定</td> <td></td> <td>選択種目</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>エアロビックエクササイズ</td> <td></td> <td>選択種目</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>テスト</td> <td></td> <td>テスト</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>テスト</td> <td></td> <td>テスト</td> </tr> </tbody> </table> <p>屋外の選択種目は、野球orサッカー(希望者が多い方)、陸上、テニス、スラックラインで、自身の希望する種目を練習し、課題に取り組む。 屋外は雨天時、ドッジボール、運動遊び(鬼ごっこ等)から希望種目を実施する。</p>				屋内		屋外	第1回	オリエンテーション		オリエンテーション	第2回	体力測定		野球orサッカー、スラックライン	第3回	バドミントン、バスケットボール		野球orサッカー、スラックライン	第4回	バドミントン、バスケットボール		陸上、スラックライン	第5回	バレーボール、卓球		陸上、スラックライン	第6回	バレーボール、卓球		テニス	第7回	ピラティス		ピラティス	第8回	スポーツGOMI拾い		スポーツGOMI拾い	第9回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)		テニス	第10回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)		選択種目	第11回	太極拳		太極拳	第12回	体力測定		選択種目	第13回	エアロビックエクササイズ		選択種目	第14回	テスト		テスト	第15回	テスト		テスト
	屋内		屋外																																																																
第1回	オリエンテーション		オリエンテーション																																																																
第2回	体力測定		野球orサッカー、スラックライン																																																																
第3回	バドミントン、バスケットボール		野球orサッカー、スラックライン																																																																
第4回	バドミントン、バスケットボール		陸上、スラックライン																																																																
第5回	バレーボール、卓球		陸上、スラックライン																																																																
第6回	バレーボール、卓球		テニス																																																																
第7回	ピラティス		ピラティス																																																																
第8回	スポーツGOMI拾い		スポーツGOMI拾い																																																																
第9回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)		テニス																																																																
第10回	昔遊び(竹馬、縄跳び等)		選択種目																																																																
第11回	太極拳		太極拳																																																																
第12回	体力測定		選択種目																																																																
第13回	エアロビックエクササイズ		選択種目																																																																
第14回	テスト		テスト																																																																
第15回	テスト		テスト																																																																
予習・復習	体育館・グラウンドで課題に合わせて適宜練習を行ってください																																																																		
教科書	資料を配付する																																																																		
参考書	なし																																																																		
教材	なし																																																																		
履修上の注意	なし																																																																		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C]積極的に運動に親しむことができた。</p> <p>特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。</p>																																																																		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、特に体力や技能を向上することができた。 [A]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することが</p>																																																																		

できた。
[B]積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。
[C]積極的に運動に親しむことができた。

特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。

平成31年度シラバス

番号	(A4)-05	履修コード	1603Z1
科目名	体育実技（三）	科目英語名	Health and Physical Education 3
科目区分	保健体育科目	授業形態	実技
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	自由	教室	体育館・運動場
単位	1	定員	60名
担当教員	（非常勤）嶋山進一		
授業概要	様々な運動、スポーツの実践を通して、専門的な技術の習得とともに生涯にわたるスポーツとの関わり方を学ぶ。		
到達目標	体力の向上を図るとともに、生涯スポーツを継続的に実践するための基礎を習得する。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価の仕方などを説明する。</p> <p>第2回～第15回 生涯スポーツの基礎知識としてニュースポーツ種目を紹介するとともに、受講生個々の希望種目を実施する。また、運動遊びやニュースポーツに加え、受講生個々の希望に合わせて、運動遊びや、体力レベルにあった筋力トレーニング、陸上競技、トランポリン（学外）、マット運動等を行うこともできる。 受講人数によっては希望種目を実施できない可能性がある。</p> <p>受講生によって選択された3～4種類の種目をローテーションしながら実施していく。</p> <p>実施種目の例 屋内：バスケットボール、バレーボール、卓球、バドミントン、ユニバーサルホッケー 屋外：サッカー、ソフトボール、フライングディスク、テニス、ペタンク、スラックライン</p> <p>実施種目にそって適宜実技テストを実施する。</p>		
予習・復習	体育館・グラウンドで課題に合わせて適宜練習を行ってください		
教科書	資料を配付する		
参考書	なし		
教材	なし		
履修上の注意	なし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>受講態度および実技テストを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A] 積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得し、体力や技能を向上することができた。 [B] 積極的に運動に親しみ、様々なスポーツの基礎を習得することができた。 [C] 積極的に運動に親しむことができた。</p> <p>特別な事情がない限り、全授業数の1/3を超える欠席者は単位の認定は行わない。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-01	履修コード	3056Z1・3056Z3
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	日本画専攻・彫刻専攻1年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	25名
担当教員	(非常勤) 宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	<p>本授業では、以下の内容から1つ又は複数を選ぶ。設備の準備状況により変更される場合があるためここでは明示しない。 1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるので継続して出席することが必要。</p> <p><映像制作> ・デジタル一眼レフカメラ、デジタルビデオカメラを用いた撮影 ・Adobe Premiereを利用した映像編集、音声編集</p> <p><画像編集> ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを利用した画像編集</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PremiereはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。日本画Z1、彫刻Z3となる。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-02	履修コード	3056Z2・3056Z4
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻・芸術学専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	25名（専攻ごと）
担当教員	（非常勤）宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	<p>本授業では、以下の内容から1つ又は複数を選ぶ。設備の準備状況により変更される場合があるためここでは明示しない。 1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるので継続して出席することが必要。</p> <p><映像制作> ・デジタル一眼レフカメラ、デジタルビデオカメラを用いた撮影 ・Adobe Premiereを利用した映像編集、音声編集</p> <p><画像編集> ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを利用した画像編集</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PremiereはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（4GB以上）		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。油画Z2、芸術学Z4となる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-03	履修コード	3056Z5
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	25名
担当教員	(非常勤) 宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	<p>本授業では、以下の内容から1つ又は複数を選ぶ。設備の準備状況により変更される場合があるためここでは明示しない。 1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるので継続して出席することが必要。</p> <p><映像制作> ・デジタル一眼レフカメラ、デジタルビデオカメラを用いた撮影 ・Adobe Premiereを利用した映像編集、音声編集</p> <p><画像編集> ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを利用した画像編集</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PremiereはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。視覚デザイン専攻はZ5となる。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-04	履修コード	3056Z6
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression & Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	25名
担当教員	(非常勤) 宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお、本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	<p>本授業では、以下の内容から1つ又は複数を選ぶ。設備の準備状況により変更される場合があるためここでは明示しない。 1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるので継続して出席することが必要。</p> <p><映像制作> ・デジタル一眼レフカメラ、デジタルビデオカメラを用いた撮影 ・Adobe Premiereを利用した映像編集、音声編集</p> <p><画像編集> ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを利用した画像編集</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PremiereはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	専攻により、3056以下の履修コードが異なる。製品デザイン専攻はZ6となる。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-05	履修コード	3801Z1
科目名	日本美術史 I	科目英語名	History of Japanese Art I
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	(非常勤) 森 仁史		
授業概要	日本美術の歴史を概観し、日本美術史の流れを包括的に把握するとともに、視覚教材による作品の鑑賞を通して、幅広い知識と表現の特質に対する理解を深める。なお、本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	日本美術の歴史や素材・技法・表現の特質について、包括的に把握し、客観的かつ適切に記述・解説できること。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 美術史への導入 2. 先史～古代（美術の始まり） 3. 奈良時代（仏教伝来以降） 4. 平安時代～鎌倉時代（国風文化以降） 5. 平安時代末～室町時代初期 6. 室町時代～安土桃山時代（茶の湯の発展） 7. 安土桃山時代～江戸時代初期（武家文化） 8. 江戸時代初期（文人文化、奇想の画家） 9. 江戸時代後期～幕末（近代への眼覚め） 10. 幕末～明治時代中期（西洋文化の摂取と展開） 11. 明治時代後期～大正時代中期（日本社会の変化） 12. 1920年代（アヴァンギャルド） 13. 1930-50年代（日本の美術の体制化） 14. 戦争と美術 15. 戦後美術（前衛～近代の解体） <p>毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。</p>		
予習・復習	事前に関連作品に目を通し、講義に備えることが望ましい。講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。		
履修上の注意	毎回配るコメント用紙に、各授業の内容に対する意見を積極的に述べることを求める。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業への参加度 30% 学期末レポート 70% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに建設的な自己の見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業への参加度 30% 学期末レポート 70% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに建設的な独自の見解を提示することができ、かつ特に秀でた学術レベルにある。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに建設的な独自の見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-06	履修コード	3802Z1
科目名	日本美術史Ⅱ	科目英語名	History of Japanese Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	後日揭示
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	70名
担当教員	○水野さや（非常勤）松原 茂・未定		
授業概要	<p>日本美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、歴史的作品的考察を通し、日本における造形美術の特徴を把握する。また、アジア地域の作品との造形的および思想的な共通性・普遍性も視野に入れ、アジア的視座に基づく日本美術の理解を目指す。各分野の代表的な作例を取り上げることにより、造形活動に認められた規則性と変容性の幅を知り、さらに、歴史・思想・外交・コミュニティなどの制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知らずして、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒としたい。</p>		
到達目標	<p>本授業の目標は、主に以下の3点である。 (1) 日本美術の歴史や表現の特質について総合的に把握することができること (2) アジアの視座にもとづく日本的造形の共通性と特異性を客観視できること (3) 上記(1)・(2)をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること</p>		
授業計画	<p>本授業は、日本美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、3名の講師により、全15回の講義を構成する。</p> <p>1～5. 仏教造像 担当：水野さや 集中講義（後日揭示） 飛鳥時代、朝鮮半島からの仏教伝播により、日本に新しい芸術のジャンルが創始された。それが仏教美術である。特に仏・菩薩の造像は、人間を象った立体造形の分野において、これまでの日本人の人体観を飛躍的に変容させたと言える。もちろん、仏像はその教理的背景を踏まえて造像される。しかし、そこには日本人特有の立体観・装飾観が常に活かされてきた。このような観点から、飛鳥から鎌倉時代にかけて造立された仏像を概観する。</p> <p>6～10. 絵画 担当：松原 茂 集中講義（後日揭示） 中世絵巻に見られる独自の画面構成、障壁画に見られる特有の画面空間認識など、日本の中世から近世絵画には、中国および朝鮮半島における絵画とは異なる顕著な特徴もある。このような国内の絵画作品を中心に、技法や表現およびその背景を概観することが本講義の目的である。中国の水墨画の受容と変容、和歌、立花、香、茶などの日本国内の様々な文化現象との関係などにも触れながら、中世から近世にいたる日本絵画における諸問題を考察する。</p> <p>11～15. 建築 担当：非常勤講師（未定） 集中講義（後日揭示） 建築は、絵画や工芸作品以上に、それが造られる環境の影響を直接的に受ける。社殿建築に見られる原理と簡素な構造、仏教建築に見られる教理的制約と荘厳、住宅建築に見られる気候・風土に根ざした居住性と装飾など、そのいずれもが、日本人としての生き方そのものを反映しているとも言えよう。本講義では、古代から近世にいたる代表的な日本建築を概観することにより、こうした問題について目を向けていきたい。</p> <p>なお、各講義は、最新の学術情報や展覧会情報を織り込みながら、学生の関心に応じて多少の調整を行うつもりである。そのため、講義内容に若干の変更が生じる可能性がある。</p>		
予習・復習	各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	個別テーマ、時代ごとの参考文献は各講師より適宜指示する。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。各講義日程の詳細は事務局前の掲示板にて連絡する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出（自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出（自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度およびレポート提出</p>		

	(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達およびレポート提出(授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート)</p> <p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出(自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出(自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)</p> <p>[C] 授業内容の理解度およびレポート提出(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)</p>

平成31年度シラバス

番号	(B1)-07	履修コード	3802Z1
科目名	日本美術史Ⅱ	科目英語名	History of Japanese Art II
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科・工芸科1年次	曜日・時限	後日揭示
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	○水野さや（非常勤）松原 茂・未定		
授業概要	<p>日本美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、歴史的作品の考察を通し、日本における造形美術の特徴を把握する。また、アジア地域の作品との造形的および思想的な共通性・普遍性も視野に入れ、アジアの視座に基づく日本美術の理解を目指す。各分野の代表的な作例を取り上げることにより、造形活動に認められた規則性と変容性の幅を知り、さらに、歴史・思想・外交・コミュニティーなどの制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知らずして、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒としたい。</p>		
到達目標	<p>本授業の目標は、主に以下の3点である。 (1) 日本美術の歴史や表現の特質について総合的に把握することができること (2) アジアの視座にもとづく日本的造形の共通性と特異性を客観視できること (3) 上記(1)・(2)をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること</p>		
授業計画	<p>本授業は、日本美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、3名の講師により、全15回の講義を構成する。</p> <p>1～5. 仏教造像 担当：水野さや 集中講義（後日揭示） 飛鳥時代、朝鮮半島からの仏教伝播により、日本に新しい芸術のジャンルが創始された。それが仏教美術である。特に仏・菩薩の造像は、人間を象った立体造形の分野において、これまでの日本人の人体観を飛躍的に変容させたと言える。もちろん、仏像はその教理的背景を踏まえて造像される。しかし、そこには日本人特有の立体観・装飾観が常に活かされてきた。このような観点から、飛鳥から鎌倉時代にかけて造立された仏像を概観する。</p> <p>6～10. 絵画 担当：松原 茂 集中講義（後日揭示） 中世絵巻に見られる独自の画面構成、障壁画に見られる特有の画面空間認識など、日本の中世から近世絵画には、中国および朝鮮半島における絵画とは異なる顕著な特徴もある。このような国内の絵画作品を中心に、技法や表現およびその背景を概観することが本講義の目的である。中国の水墨画の受容と変容、和歌、立花、香、茶などの日本国内の様々な文化現象との関係などにも触れながら、中世から近世にいたる日本絵画における諸問題を考察する。</p> <p>11～15. 建築 担当：非常勤講師（未定） 集中講義（後日揭示） 建築は、絵画や工芸作品以上に、それが造られる環境の影響を直接的に受ける。社殿建築に見られる原理と簡素な構造、仏教建築に見られる教理的制約と荘厳、住宅建築に見られる気候・風土に根ざした居住性と装飾など、そのいずれもが、日本人としての生き方そのものを反映しているとも言えよう。本講義では、古代から近世にいたる代表的な日本建築を概観することにより、こうした問題について目を向けていきたい。</p> <p>なお、各講義は、最新の学術情報や展覧会情報を織り込みながら、学生の関心に応じて多少の調整を行うつもりである。そのため、講義内容に若干の変更が生じる可能性がある。</p>		
予習・復習	各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	個別テーマ、時代ごとの参考文献は各講師が適宜指示する。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。 各講義日程の詳細は事務局前の掲示板にて連絡する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出（自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出（自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度およびレポート提出</p>		

	(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達およびレポート提出(授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート)</p> <p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出(自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出(自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)</p> <p>[C] 授業内容の理解度およびレポート提出(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)</p>

平成31年度シラバス

番号	(B1)-08	履修コード	3802Z1
科目名	日本美術史Ⅱ	科目英語名	History of Japanese Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	後日揭示
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	○水野さや（非常勤）松原 茂・未定		
授業概要	<p>日本美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、歴史的作品の考察を通し、日本における造形美術の特徴を把握する。また、アジア地域の作品との造形的および思想的な共通性・普遍性も視野に入れ、アジア的視座に基づく日本美術の理解を目指す。各分野の代表的な作例を取り上げることにより、造形活動に認められた規則性と変容性の幅を知り、さらに、歴史・思想・外交・コミュニティなどの制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方を知らずして、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒としたい。</p>		
到達目標	<p>本授業の目標は、主に以下の3点である。 (1) 日本美術の歴史や表現の特質について総合的に把握することができること (2) アジアの視座にもとづく日本的造形の共通性と特異性を客観視できること (3) 上記(1)・(2)をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること</p>		
授業計画	<p>本授業は、日本美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、3名の講師により、全15回の講義を構成する。</p> <p>1～5. 仏教造像 担当：水野さや 集中講義（後日揭示） 飛鳥時代、朝鮮半島からの仏教伝播により、日本に新しい芸術のジャンルが創始された。それが仏教美術である。特に仏・菩薩の造像は、人間を象った立体造形の分野において、これまでの日本人の人体観を飛躍的に変容させたと言える。もちろん、仏像はその教理的背景を踏まえて造像される。しかし、そこには日本人特有の立体観・装飾観が常に活かされてきた。このような観点から、飛鳥から鎌倉時代にかけて造立された仏像を概観する。</p> <p>6～10. 絵画 担当：松原 茂 集中講義（後日揭示） 中世絵巻に見られる独自の画面構成、障壁画に見られる特有の画面空間認識など、日本の中世から近世絵画には、中国および朝鮮半島における絵画とは異なる顕著な特徴もある。このような国内の絵画作品を中心に、技法や表現およびその背景を概観することが本講義の目的である。中国の水墨画の受容と変容、和歌、立花、香、茶などの日本国内の様々な文化現象との関係などにも触れながら、中世から近世にいたる日本絵画のにおける諸問題を考察する。</p> <p>11～15. 建築 担当：非常勤講師（未定） 集中講義（後日揭示） 建築は、絵画や工芸作品以上に、それが造られる環境の影響を直接的に受ける。社殿建築に見られる原理と簡素な構造、仏教建築に見られる教理的制約と荘厳、住宅建築に見られる気候・風土に根ざした居住性と装飾など、そのいずれもが、日本人としての生き方そのものを反映しているとも言えよう。本講義では、古代から近世にいたる代表的な日本建築を概観することにより、こうした問題について目を向けていきたい。</p> <p>なお、各講義は、最新の学術情報や展覧会情報を織り込みながら、学生の関心に依じて多少の調整を行うつもりである。そのため、講義内容に若干の変更が生じる可能性がある。</p>		
予習・復習	各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	個別テーマ、時代ごとの参考文献は各講師が適宜指示する。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。 各講義日程の詳細は事務局前の掲示板にて連絡する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出（自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート）</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出（自らの意見が意欲的にまとめられているレポート）</p> <p>[C] 授業内容の理解度およびレポート提出</p>		

	(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達およびレポート提出 (授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート)</p> <p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出 (自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出 (自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)</p> <p>[C] 授業内容の理解度およびレポート提出 (参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)</p>

平成31年度シラバス

番号	(B1)-09	履修コード	3002Z1
科目名	美術解剖学	科目英語名	Artistic Anatomy
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科（芸術学専攻除く）1年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	2	定員	100名
担当教員	（非常勤）尾崎紀之		
授業概要	人体を生き生きと表現するために、表面から観察できる人体の外部構造や動きと、それらの基盤となる内部構造との関係（肉眼解剖学）や、人体の構造の由来（比較解剖学・発生学）を概説する。人体の構造を系統的に概説する講義と、構造を理解するための骨格標本のスケッチを行う。		
到達目標	人体についての洞察力と表現力を身につけるための基盤となる人体の構造を理解する。		
授業計画	<p>第1回 美術解剖学概論・ガイダンス 美術解剖学の目的、その歴史、人体の一般的特徴、講義の概要・予定について説明。</p> <p>第2回 骨学総論、脊柱</p> <p>第3回 筋学総論、頸部の構造</p> <p>第4回 胸郭・胸部の構造</p> <p>第5回 背部・腹部の構造</p> <p>第6回 腰部、臀部、骨盤の構造</p> <p>第7回 肩・上腕の構造</p> <p>第8回 肘・前腕・手の構造</p> <p>第9回 大腿・膝の構造</p> <p>第10回 下腿・足の構造</p> <p>第11回 頭蓋骨</p> <p>第12回 頭部の筋</p> <p>第13回 感覚器系：外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器の構造</p> <p>第14回 中枢神経系—脳と脊髄、末梢神経系—脳・脊髄神経と自律神経</p> <p>第15回 まとめ・復習</p> <p>・上記の講義内容は進行状況によって変更する場合がある。</p> <p>・講義のテーマに沿って人体骨格標本の観察とスケッチをする機会をもうける。</p>		
予習・復習	講義をした箇所に関しては、自分の身体で確認するなどして復習をすること。		
教科書	特になし。		
参考書	<p>『アーティストのための美術解剖学』（ヴァレリー・L・ウンスロー著、宮永美知代（訳）マール社、2013年、3240円）</p> <p>『入門美術解剖学』（高橋彬著、医歯薬出版、2003年、3800円）</p> <p>『やさしい美術解剖図』（J・シェパード著、マール社、1980年、1450円）</p> <p>『An Atlas of Anatomy for Artists』（Fritz Schider、Dover社、1957年、1367円）</p> <p>『からだの地図帳』（佐藤達夫監修・解説、講談社、4320円）</p> <p>（大手の書店あるいはAmazon（http://www.amazon.co.jp）等で購入は可能</p>		
教材	配付プリント		
履修上の注意	講義での配布資料をしっかりと読んで、スケッチに構造物の名称をしっかりと記入すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>受講態度、骨学のスケッチ、レポートと期末試験とを総合して単位認定を行う。</p> <p>[A]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や動きとその基盤となる内部構造との関係を高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や動きとその基盤となる内部構造との関係を理解することができた。</p> <p>[C]表現の対象としての人体に関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>受講態度、骨学のスケッチ、レポートと期末試験とを総合して単位認定を行う。</p> <p>[S]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や動きとその基盤となる内部構造との関係を特に秀でたレベルで理解することができた。</p> <p>[A]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や動きとその基盤となる内部構造との関係を高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B]表現の対象としての人体に関する視野を広げ、人体の外部構造や動きとその基盤となる内部構造との関係を理解することができた。</p> <p>[C]表現の対象としての人体に関する視野を広げることができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-10	履修コード	3057Z1
科目名	東洋美術史 I	科目英語名	History of Oriental Art I
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	水野さや		
授業概要	<p>中国の殷(商)から清代、韓国の三国から朝鮮時代までの代表的な美術作品を概観し、東アジアにおける造形美に求められてきた規範性とその変容について、包括的に把握することが本授業の第一の目的である。また、日本美術との造形的および思想的な共通性をも視野に入れた理解を目指す。これにより、東アジアの歴代の作品の考え方を知らずして、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒ともしたい。</p>		
到達目標	<p>本授業の目標は、以下の3点である。 (1) 東アジアの美術の歴史や表現の特質について包括的に把握することができること (2) アジア的視座にもとづく日本的造形への意識が形成できること (3) 上記(1)・(2)をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること</p>		
授業計画	<p>※本授業は、冬季調整期間(12月下旬)および春季調整期間(2月上旬)に集中で開講する。後期始めに事務局掲示板において日程を確認すること。</p> <p>中国・韓国における歴代の代表的な美術作品を取り上げ、各時代の様式的特徴および技術的な特徴を把握することはもとより、歴史および思想などの制作背景を知り、東アジアにおける美意識、造形の伝統を考察する。各回のテーマは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国 殷(商)・周 : 青銅器 文様と機能 2. 中国 秦・漢 : 東洋的生死観とその美術 3. 中国 魏晋南北朝 I : 陶磁器の展開① 4. 中国 魏晋南北朝 II : 仏教美術の展開① 5. 中国 唐 I : 仏教美術の展開② 6. 中国 唐 II : 墓室壁画の様相 7. 中国 唐 III : 陶磁器の展開② 8. 中国 宋 I : 陶磁器の展開③ 9. 中国 宋 II : 水墨山水図の発展① 10. 中国 宋 II : 水墨山水図の発展② 11. 中国 元・明・清 : 文人画風の形成と展開 12. 韓国 三国(高句麗・百済・新羅) : 古墳美術と仏教美術の展開 13. 韓国 統一新羅 : 仏教美術の展開 14. 韓国 高麗 : 仏画 青磁の展開 15. 韓国 朝鮮 : 絵画の諸相 白磁の展開 		
予習・復習	<p>参考書を活用し、様々な作品に広く目を向けようとする事。 学期末のレポートに向け、日頃から準備しておくこと。</p>		
教科書	特になし		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朴亨國監修『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年 ・ 前田耕作監修『カラー版 東洋美術史』美術出版社、2012年(増補新装版) ・ 『世界美術大全集』東洋編、小学館、1997~1999年 1 先史・殷・周、2 秦・漢、3 三国・南北朝、4 隋・唐、5 五代・北宋・遼・西夏、6 南宋・金、7 元、8 明、9 清、10 高句麗・百済・新羅・高麗、11 朝鮮王朝 		
教材	配付プリント		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出(自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出(自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)</p> <p>[C] 授業内容の理解度およびレポート提出(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>[S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達およびレポート提出(授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形</p>		

成30年度以
降入学者)

成されているレポート)

[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出
(自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)

[B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出
(自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)

[C] 授業内容の理解度およびレポート提出
(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)

平成31年度シラバス

番号	(B1)-11	履修コード	3058Z1
科目名	東洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Oriental Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週・集中
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	火曜7・8限・集中（後日揭示）
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	2	定員	70名
担当教員	○水野さや（非常勤）平岡三保子・山本 緑		
授業概要	<p>古代より様々な文化が開化したインドは、東南アジアの諸王朝に圧倒的な影響力を及ぼし、いわゆる「インド化」された文化圏を形成してきた。仏教、ヒンドゥー、イスラームなど、宗教美術においても複雑な様相を呈しているにもかかわらず、その全てが「インド的」とくられるほど、一貫した造形の美意識を持ち合わせている。本講義は、インドおよび東南アジアの諸国について、建築、彫刻、絵画の代表作を紹介取り上げ、造形作品の流れを概観する。</p>		
到達目標	<p>本授業の目標は、以下の3点である。 (1) インド・東南アジアにおける造形作品について、思想や風土を踏まえながら、その特徴を包括的に把握することができること (2) アジア的な造形的・美的価値についての意識が形成できること (3) 上記(1)・(2)をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること</p>		
授業計画	<p>本授業は、南アジア・東南アジア美術における彫刻・絵画・建築の3分野について、3名の講師により、全15回の講義を構成する。</p> <p>1～5. 東南アジアの彫刻と建築 担当：水野さや 毎週 火曜7・8限 計5回 クメールのアンコール王朝は、12世紀には東南アジア半島部における広大な版図を獲得し、その後のタイの諸王朝にも大きな影響を残した。アンコール朝は早くからインド文化を受け入れ、ヒンドゥーも仏教と並び信仰されており、アンコール・ワットやバイヨン寺院などに代表される様々な宗教建築が建造され続けてきた。アンコール王朝の歴史に沿って、歴代の建造物と彫刻を概観し、ヒンドゥーの神々および仏教にもとづく造形の特徴とその変容について確認する。</p> <p>6～10. インドの絵画 担当：山本 緑 集中講義（後日揭示） イスラーム王朝であるムガル朝においては、他宗教に寛容な政策をとったムガル皇帝により、王の肖像画をはじめとし、イスラームのみならず、ヒンドゥーの物語をも題材とする多様な細密画（ミニアチュール）が制作された。ペルシャ出身の画家とインドの画家との共同制作や、西洋画の技法も取り入れるなど、実に多彩な宮廷絵画を生み出している。このようなムガル朝のミニアチュールについて、構図・賦彩・配色などの技法的特徴とその主題を中心に、代表的な作例を取り上げながら考察する。</p> <p>11～15. インドの建築と彫刻 担当：平岡三保子 集中講義（後日揭示） アジャンターおよびエローラ石窟など、インドには数多くの石窟寺院が現存している。寺院建築そのものを岩盤から丸ごと彫り出したかのような空間形成のあり方、壁面一面に彫り出され建築の一部として機能する彫像、彫刻とともにその空間の意味を決定づける壁面など、見所は多い。このようなインドの石窟寺院の諸美術について、建築、彫刻、壁画の技法的特徴とその主題を中心に、代表的な作例を取り上げて考察する。</p> <p>なお、各講義は、最新の学術情報や展覧会情報を織り込みながら、学生の関心に応じて多少の調整を行うつもりである。そのため、講義内容に若干の変更が生じる可能性がある。</p>		
予習・復習	<p>参考書に目を通しておくこと。 各講義において求められるレポートに向け、日頃から準備しておくこと。</p>		
教科書	特になし		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朴亨國監修『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年 ・ 前田耕作監修『カラー版 東洋美術史』美術出版社、2012年（増補新装版） ・ 『世界美術大全集』東洋編、小学館、1997～1999年 12 東南アジア、13 インド（1）、14 インド（2） 		
教材	配付プリント		
履修上の注意	<p>毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。 各講義日程の詳細は事務局前の掲示板にて連絡する。</p>		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出（自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート） [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出（自らの意見が意欲的にまとめられているレポート） [C] 授業内容の理解度およびレポート提出</p>		

(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)

成績評価(平成30年度以降入学者)

- [S] 授業内容を理解しようとする高い意識と、より高度レベルでの目標の到達およびレポート提出(授業内容の理解・咀嚼の上に、自身の研究分野に引き寄せて深く探求し、高い学術的意識が形成されているレポート)
- [A] 授業内容を理解しようとする高い意識と、目標の十分な到達およびレポート提出(自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)
- [B] 授業内容を理解しようとする意識と、目標の到達およびレポート提出(自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)
- [C] 授業内容の理解度およびレポート提出(参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)

平成31年度シラバス

番号	(B1)-12	履修コード	3804Z2
科目名	西洋美術史 I	科目英語名	History of Western Art I
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	先史・古代から20世紀前半までの西洋美術の歴史を概観し、画像等による作品鑑賞をとおして、幅広い知識と表現の特質に対する理解を深め、美術理論の基礎についても学ぶ。なお本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	西洋美術の歴史における基準作例を理解するとともに、その特徴を客観的かつ適切に記述し解説できる力を身につける。		
授業計画	1、導入ー美術理論の基本（授業概要の説明を含む）／先史美術と古代オリエント 2、古代エジプト 3、古代ギリシャとヘレニズム 4、エトルリアと古代ローマ 5、初期キリスト教と初期中世 6、ロマネスクとゴシック 7、東方正教会の美術 8、初期ルネサンス 9、南北ヨーロッパの新しい美術（人間像を中心として） 10、盛期ルネサンスとマニエリスム 11、バロック 12、新古典主義とロマン主義 13、リアリズム、バルビゾン派 14、印象派とポスト印象派 15、20世紀美術概観		
予習・復習	予習および復習として、参考書や美術全集の図版と解説に目を通すこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社、1900円）		
教材	配布資料等。		
履修上の注意	毎回、講義で扱った内容や作品についてのリアクションペーパーを提出する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（毎回）および課題（随時）50% [A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。 [B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べるすることができる。 [C] 授業内容を理解できている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（毎回）および課題（随時）50% [S] 授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。 [A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。 [B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べるすることができる。 [C] 授業内容を理解できている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-13	履修コード	3805Z1
科目名	西洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Western Art II
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	90名
担当教員	○保井亜弓（非常勤）木下亮・鯖江秀樹		
授業概要	西洋美術史Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、さまざまなテーマを設定して作品を見ることによって西洋美術史をより深く学ぶ。		
到達目標	講義で扱った作品について、適切に解説・記述することができる。テーマに即して議論できる。		
授業計画	<p>テーマによる西洋美術史（保井担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、図像学的見方 2、肖像 3、風景画 4、静物画 5、鏡一映りこんだ世界と象徴 <p>テーマによる西洋美術史</p> <p>テーマによる西洋美術史 1（木下亮）（集中）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ハプスブルグ家と宮廷美術（ベラスケスを中心に） 2、ブルボン家の宮廷美術と独立戦争（ゴヤを中心に） 3、バルセロナのムダルニズム（初期ピカソを中心に） 4、内戦後のスペイン美術（アントニオ・ロペスを中心に） <p>2（鯖江秀樹）（集中）</p> <p>近代の美術について、その枠組みや制度から論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、美術館の誕生 2、修復の問題 3、芸術と身体 		
予習・復習	参考書や美術全集によって基本作品の表現の特徴と、作者、年代、主題、技法等のデータを確実に記憶すること。		
教科書	特になし。		
参考書	『カラー版西洋美術史』美術出版社 2003年、『西洋美術館』小学館 1999年		
教材	必要に応じて配布する。		
履修上の注意	集中講義を含むため掲示等に注意すること。関連する作品を図書・図録などで調べること。毎回リアクションペーパーを課す（保井担当分）。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末レポート50%、授業リアクションペーパー（保井担当毎回）30%、授業における積極性20%</p> <p>[A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。</p> <p>[B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。</p> <p>[C] 授業内容を理解できている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（保井担当分）30%、授業における積極性20%</p> <p>[S] 授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。</p> <p>[A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。</p> <p>[B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。</p> <p>[C] 授業内容を理解できている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-14	履修コード	3805Z1
科目名	西洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Western Art II
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	デザイン科・工芸科2年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	90名
担当教員	○保井亜弓（非常勤）木下亮・鯖江秀樹		
授業概要	西洋美術史Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、さまざまなテーマを設定して作品を見ることにより西洋美術史をより深く学ぶ。		
到達目標	講義で扱った作品について、適切に解説・記述することができる。テーマに即して議論できる。		
授業計画	<p>テーマによる西洋美術史（保井担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、図像学的見方 2、肖像 3、風景画 4、静物画 5、鏡一映りこんだ世界と象徴 <p>テーマによる西洋美術史</p> <p>テーマによる西洋美術史</p> <ol style="list-style-type: none"> 1（木下亮）（集中） 1、ハプスブルグ家と宮廷美術（ベラスケスを中心に） 2、ブルボン家の宮廷美術と独立戦争（ゴヤを中心に） 3、バルセロナのムダルニズム（初期ピカソを中心に） 4、内戦後のスペイン美術（アントニオ・ロペスを中心に） <ol style="list-style-type: none"> 2（鯖江秀樹）（集中） <p>近代の美術について、その枠組みや制度から論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、美術館の誕生 2、修復の問題 3、芸術と身体 		
予習・復習	参考書や美術全集によって基本作品の表現の特徴と、作者、年代、主題、技法等のデータを確実に記憶すること。		
教科書	特になし。		
参考書	『カラー版西洋美術史』美術出版社 2003年、『西洋美術館』小学館 1999年		
教材	必要に応じて配布する。		
履修上の注意	集中講義を含むため掲示等に注意すること。関連する作品を図書・図録などで調べること。毎回メモを課す（保井担当分）。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末レポート50%、授業リアクションペーパー（保井担当毎回）30%、授業における積極性20%</p> <p>[A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。</p> <p>[B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。</p> <p>[C] 授業内容を理解できている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（保井担当分）30%、授業における積極性20%</p> <p>[S] 授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。</p> <p>[A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。</p> <p>[B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べることができる。</p> <p>[C] 授業内容を理解できている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-15	履修コード	3805Z1
科目名	西洋美術史Ⅱ	科目英語名	History of Western Art Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	90名
担当教員	○保井亜弓（非常勤）木下亮・鯖江秀樹		
授業概要	西洋美術史Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、さまざまなテーマを設定して作品を見ることにより西洋美術史をより深く学ぶ。		
到達目標	講義で扱った作品について、適切に解説・記述することができる。テーマに即して議論できる。		
授業計画	<p>テーマによる西洋美術史（保井担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、図像学的見方 2、肖像 3、風景画 4、静物画 5、鏡一映りこんだ世界と象徴 <p>テーマによる西洋美術史</p> <p>テーマによる西洋美術史 1（木下亮）（集中）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、ハプスブルグ家と宮廷美術（ベラスケスを中心に） 2、ブルボン家の宮廷美術と独立戦争（ゴヤを中心に） 3、バルセロナのムダルニズム（初期ピカソを中心に） 4、内戦後のスペイン美術（アントニオ・ロペスを中心に） <p>2（鯖江秀樹）（集中）</p> <p>近代の美術について、その枠組みや制度から論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、美術館の誕生 2、修復の問題 3、芸術と身体 		
予習・復習	参考書や美術全集によって基本作品の表現の特徴と、作者、年代、主題、技法等のデータを確実に記憶すること。		
教科書	特になし。		
参考書	『カラー版西洋美術史』美術出版社 2003年、『西洋美術館』小学館 1999年		
教材	必要に応じて配布する。		
履修上の注意	集中講義を含むため掲示等に注意すること。関連する作品を図書・図録などで調べること。毎回メモを課す（保井担当分）。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末レポート50%、授業リアクションペーパー（保井担当毎回）30%、授業における積極性20%</p> <p>[A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、それを応用することができる。 [B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べている。 [C] 授業内容を理解できている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>学期末レポート50% 授業リアクションペーパー（保井担当分）30%、授業における積極性20%</p> <p>[S] 授業内容を高度に理解し、とくに優れた自己の意見を出すことができ、それを広く応用できる。 [A] 授業内容を高度に理解し、自分の意見を述べて、応用することができる。 [B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べている。 [C] 授業内容を理解できている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-16	履修コード	3880Z1
科目名	彫刻 I	科目英語名	Sculpture I
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	日本画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性について 造形の諸要素について クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 各自の表現テーマを探る。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 土付けによる質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 合評 <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。専攻により、3880以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-17	履修コード	3880Z2
科目名	彫刻 I	科目英語名	Sculpture I
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性について 造形の諸要素について クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 各自の表現テーマを探る。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 土付けによる質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 合評 <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。専攻により、3880以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-18	履修コード	3881Z1
科目名	彫刻Ⅱ	科目英語名	Sculpture II
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也（非常勤）林一平		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：各自の主題に基づく木彫制作</p> <p>1 概説および課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・ 表現の多様性について ・ 造形の諸要素について ・ 素材や技術、道具についての説明 ・ 各自の主題決定 <p>2 自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り</p> <p>3 イメージの造形化</p> <p>4 木彫による制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・ 材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・ 作品のイメージを大切に荒取りする。 ・ 量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・ 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・ 鑿あと等による質感の工夫をする。 ・ 全体の調子を整えながら仕上げる。 ・ 作品の効果を考え必要に応じて着色する。 <p>5 合評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・ 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。専攻により、3881以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-19	履修コード	3881Z2
科目名	彫刻Ⅱ	科目英語名	Sculpture Ⅱ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：各自の主題に基づく木彫制作</p> <p>1 概説および課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 <p>2 自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り</p> <p>3 イメージの造形化</p> <p>4 木彫による制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切に荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 <p>5 合評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。専攻により、3881以下の履修コードが異なる。日本画専攻はZ1、油画専攻はZ2。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-20	履修コード	3883Z1
科目名	絵画 I	科目英語名	Drawing I
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	事前連絡
単位	1	定員	15名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗		
授業概要	<p>着彩用具による野菜・剥製等の精密描写及び表現と、日本画素材の体験を通して、日本画の世界観と絵画造形の諸要素や原理を学ぶ。 また、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。 なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>観察と描写を通して、対象の本質を把握し描写の基礎を身につける。 日本画素材を扱い自身の写生を基に表現することで、日本画の世界観を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>1：着彩細密描写 第1日 ・授業概要および課題説明と制作準備 ・自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 第2~3日 ・参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら 鉛筆の硬度を使い分けて描写 第4~5日 ・下塗りー中塗りー仕上げといった行程を学びつつ着彩 2：付立 第6~7日 ・課題説明 ・日本画の素材を学びその世界観との関係を捉える ・膠や胡粉の組成と使用法を学び原料制作 ・付立技法と用具について学ぶ ・自身の着彩細密描写作品を基に付立技法 3：講評 ・上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ 各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映</p>		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スケッチブックまたは画用紙・鉛筆・練りゴム・水彩用具等の描画用具		
履修上の注意	絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題作品提出(精密写生、付立作品) 作品の造形性および完成度等を下記基準に照らし採点する。 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している。 [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている。 [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>課題作品提出(精密写生、付立作品) 作品の造形性および完成度等を下記基準に照らし採点する。 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [S]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達しており、特に秀でている。 [A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している。 [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている。 [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-21	履修コード	3884Z1
科目名	絵画Ⅱ	科目英語名	Mixed Media
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年油画実習室・絵画技法材料実習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○大森 啓		
授業概要	<p>—ミクストメディア作品鑑賞 ミクストメディア作品を鑑賞し、素材や技法の基本的な概念について解説する。</p> <p>—ミクストメディア作品制作 多数の異なる素材（メディア）を混合（ミックス）してミクストメディア作品を制作し、近代以降の新しい絵画表現について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>ミクストメディア作品の制作を通して、近・現代の絵画表現を理解する。 多数の異なる素材を併用し、複数の技法を混合して新たな表現を試みる。また今日の絵画造形の諸要素や原理について考察し、表現の多様性や美術文化について理解を深める。</p>		
授業計画	<p>一日目 ミクストメディアの歴史的背景についてレクチャー ミクストメディアの文献資料を読解し、参考作品を鑑賞して各作家や作品の特性と歴史的背景を学ぶ 制作に使用する素材や技法について詳しく解説する</p> <p>二日目 制作に使用するために選択した素材と技法及び制作行程についての説明</p> <p>三日目～ 制作テーマの決定から表現に適した素材や技法の選択まで、個別に助言と指導を行う 個々の進捗状況によって、適宜助言と指導を行う</p> <p>最終日 10：00 制作の終了 10：20 後片付け、掃除を終了 10：20 プレゼンテーション形式の合評会を行う 11：50 作品提出</p>		
予習・復習	美術史解説書や画集によって、キュビズム（1900年代）以降の絵画の流れと素材の広がりについて把握しておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>制作に取り組む姿勢を重視し、課題の習得度と作品の完成度を総合して評価する。 [A]ミクストメディアに関する知識と技法が高いレベルで習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [B]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [C]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが自己の作品に活かされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>制作に取り組む姿勢を重視し、課題の習得度と作品の完成度を総合して評価する。 [S]ミクストメディアに関する知識と技法が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [A]ミクストメディアに関する知識と技法が高いレベルで習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [B]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが積極的に取入れられ自己の作品に活かされている。 [C]ミクストメディアに関する知識と技法が習得され、それらが自己の作品に活かされている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-22	履修コード	3887Z1
科目名	図学	科目英語名	Graphic Science
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	20名
担当教員	未定		
授業概要	図面は現在ではそのほとんどがCAD等のアプリケーションソフトウェアを用いて作図されている。本授業ではコンピュータを積極的に利用し、平面及び三次元の図を描く手法を学ぶ。なお、本科目は図法及び製図分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	コンピュータを用いて平面図形や立体形状を作図する手法を学ぶ。3Dプリンター等の工作機械やデジタルファブ리케이션についての基礎知識を習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図形の作図、編集 (Adobe Illustrator) ・ベジェ曲線の作図 (Adobe Illustrator) ・コンピュータを用いた印刷技術 (DTP) ・画像データの編集 (Adobe Photoshop) ・投影法、設計と製図の関係 ・CAD、3DCG基礎 (Tinkercad、Sculptris等) ・デジタルファブ리케이션 ・3Dプリンターの活用 <p>1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなることもあるので継続して出席することが必要。</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshopは、Adobe Systems Incorporated (アドビ・システムズ社) の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	内容変更の可能性があるので、掲示に注意すること。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] コンピュータを活用して平面および立体の作図を効率的に行うことができ、造形表現のツールとして使いこなすことができる。</p> <p>[B] コンピュータを活用して平面および立体の作図を効率的に行うことができる。</p> <p>[C] コンピュータを活用して平面および立体の作図を行うことができる。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>課題提出。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] コンピュータを活用して平面および立体の作図を効率的に行うことができ、造形表現のツールとして高いレベルで使いこなすことができる。</p> <p>[A] コンピュータを活用して平面および立体の作図を効率的に行うことができ、造形表現のツールとして使いこなすことができる。</p> <p>[B] コンピュータを活用して平面および立体の作図を効率的に行うことができる。</p> <p>[C] コンピュータを活用して平面および立体の作図を行うことができる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-23	履修コード	3008Z1
科目名	美学	科目英語名	Aesthetics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	星野 太		
授業概要	美学とはいかなる学問か。本講義の前半では、18世紀のヨーロッパで成立した美学の基本概念を説明する。後半では、芸術の制作や研究において不可欠な生産をめぐる諸概念について、過去の哲学的な議論を参考に理解を深める。		
到達目標	美学の基本概念を学ぶことにより、美や芸術に対する認識を深めることが本講義の到達目標である。本講義で解説する概念についての哲学的理解を、今後の芸術制作および芸術研究に活かせることが望ましい。		
授業計画	<p>毎回、美学の基本概念をひとつずつ取り上げ、解説する。</p> <p>第1回：美学（1） 第2回：美学（2） 第3回：美（1） 第4回：美（2） 第5回：芸術（1） 第6回：芸術（2） 第7回：模倣 第8回：表現 第9回：即興 第10回：図式 第11回：想像力 第12回：天才 第13回：創造／創造性 第14回：予備日（最終総括） 第15回：予備日（最終総括）</p> <p>* 各回の内容は進度に応じて変更がありうる。</p>		
予習・復習	あらかじめ次回授業分のテキストを配るので、必ず目を通しておくこと。		
教科書	佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995年）		
参考書	参考書として、西村清和『現代アートの哲学』（産業図書、1995年）、佐々木健一『美学への招待』（中公新書、2004年）、カロール・タゴン＝ユゴン『美学への手引き』（上村博訳、白水社文庫クセジュ、2015年）などを薦める。なお、前半（1～6回）は教科書に加えて教員が作成した教材（プリント）を使用し、後半（7～13回）は教科書を中心に使用する。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	毎回配布するリアクションペーパーに、授業に関する質問や感想を書いて提出することを求める。なお、すぐれた質問やコメントは次回以降の授業で取り上げる可能性がある。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、50%以上の水準に達した。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-24	履修コード	3008Z1
科目名	美学	科目英語名	Aesthetics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	星野 太		
授業概要	美学とはいかなる学問か。本講義の前半では、18世紀のヨーロッパで成立した美学の基本概念を説明する。後半では、芸術の制作や研究において不可欠な生産をめぐる諸概念について、過去の哲学的な議論を参考に理解を深める。		
到達目標	美学の基本概念を学ぶことにより、美や芸術に対する認識を深めることが本講義の到達目標である。本講義で解説する概念についての哲学的理解を、今後の芸術制作および芸術研究に活かせることが望ましい。		
授業計画	<p>毎回、美学の基本概念をひとつずつ取り上げ、解説する。</p> <p>第1回：美学（1） 第2回：美学（2） 第3回：美（1） 第4回：美（2） 第5回：芸術（1） 第6回：芸術（2） 第7回：模倣 第8回：表現 第9回：即興 第10回：図式 第11回：想像力 第12回：天才 第13回：創造／創造性 第14回：予備日（最終総括） 第15回：予備日（最終総括）</p> <p>* 各回の内容は進度に応じて変更がありうる。</p>		
予習・復習	あらかじめ次回授業分のテキストを配るので、必ず目を通しておくこと。		
教科書	佐々木健一『美学辞典』（東京大学出版会、1995年）		
参考書	参考書として、西村清和『現代アートの哲学』（産業図書、1995年）、佐々木健一『美学への招待』（中公新書、2004年）、カロール・タゴン＝ユゴン『美学への手引き』（上村博訳、白水社文庫クセジュ、2015年）などを薦める。なお、前半（1～6回）は教科書に加えて教員が作成した教材（プリント）を使用し、後半（7～13回）は教科書を中心に使用する。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	毎回配布するリアクションペーパーに、授業に関する質問や感想を書いて提出することを求める。なお、すぐれた質問やコメントは次回以降の授業で取り上げる可能性がある。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、50%以上の水準に達した。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加度に30%を、学期末に課すレポートに70%を配分し、両者の合計点で評価する。授業への参加度については、上記「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>採点基準 [S] 以上の評価方法に照らし合わせ、90%以上の水準に達した。 [A] 以上の評価方法に照らし合わせ、80%以上の水準に達した。 [B] 以上の評価方法に照らし合わせ、70%以上の水準に達した。 [C] 以上の評価方法に照らし合わせ、60%以上の水準に達した。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-25	履修コード	3807Z1
科目名	工芸史 I	科目英語名	History of Craft I
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻・工芸科2年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	日本における工芸の歴史を概観し、東アジアや西洋の工芸との関連を含む日本工芸史の流れを包括的に把握するとともに、視覚教材による作品の鑑賞を通して、幅広い知識と素材・技法・表現の特質に対する理解を深める。なお、本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	日本における工芸の歴史とその特質について、包括的に把握し、客観的かつ適切に記述・解説できること。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 先史・古墳時代 3. 飛鳥・奈良時代 4. 平安時代 5. 鎌倉・南北朝・室町時代 6. 桃山時代 7. 江戸時代ー金工ー 8. 江戸時代ー漆工ー 9. 江戸時代ー陶磁ー 10. 江戸時代ー染織ー 11. 幕末・明治 12. 明治～昭和戦前期① 13. 明治～昭和戦前期② 14. 昭和戦後期～現在 15. 総括 <p>毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。</p>		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。		
履修上の注意	毎回パワーポイントで見せて説明した作品の中から各自が最も魅力的で重要だと思われる5点を選び、その回の講義と関連づけてどうしてそれを選んだかを簡単に書き授業の最後に提出する。これをリアクションペーパーとする。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	授業への参加度 40% リアクションペーパー 60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A] 課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B] 課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C] 課題を理解することができた。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	授業への参加度 40% 学期末レポート 60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S] 課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A] 課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B] 課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C] 課題を理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-26	履修コード	3807Z1
科目名	工芸史 I	科目英語名	History of Craft I
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	博物館選択科目	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科（芸術学専攻除く）・デザイン科2年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	菊池裕子		
授業概要	日本における工芸の歴史を概観し、東アジアや西洋の工芸との関連を含む日本工芸史の流れを包括的に把握するとともに、視覚教材による作品の鑑賞を通して、幅広い知識と素材・技法・表現の特質に対する理解を深める。なお、本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	日本における工芸の歴史とその特質について、包括的に把握し、客観的かつ適切に記述・解説できること。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 先史・古墳時代 3. 飛鳥・奈良時代 4. 平安時代 5. 鎌倉～室町時代 6. 桃山時代 7. 江戸時代ー金工ー 8. 江戸時代ー漆工ー 9. 江戸時代ー陶磁ー 10. 江戸時代ー染織ー 11. 幕末・明治 12. 明治～昭和戦前期① 13. 明治～昭和戦前期② 14. 昭和戦後期～現在 15. 総括 <p>毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。</p>		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。		
履修上の注意	毎回パワーポイントで見せて説明した作品の中から各自が最も魅力的で重要だと思われる5点を選び、その回の講義と関連づけてどうしてそれを選んだかを簡単に書き授業の最後に提出する。これをリアクションペーパーとする。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業への参加度 40% リアクションペーパー 60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A] 問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B] 問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C] 問題を理解することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業への参加度 40% 学期末レポート 60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S] 課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A] 課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B] 課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C] 課題を理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-27	履修コード	3808Z1
科目名	工芸史Ⅱ	科目英語名	History of Craft II
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻・工芸科2年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	必修	教室	事務局前に掲示
単位	2	定員	35名
担当教員	○菊池裕子（非常勤）桜庭美咲・五味良子・南有里子		
授業概要	西洋における工芸の歴史および日本との関係を包括的に把握するとともに、視覚教材による作品の鑑賞を通して、幅広い知識と素材・技法・表現の特質に対する理解を深める。なお、本科目は教員免許取得のために必要な一般的包括的科目である。		
到達目標	西洋を中心とする国際的な工芸史の流れとその特質について、包括的に把握し、客観的かつ適切に記述・解説できること。		
授業計画	<p>本授業は、計3回×1日（5コマ）の集中講義で構成される。 テーマは下記のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋における工芸の歴史①－17・18世紀のヨーロッパを中心として－（桜庭） 2. 西洋における工芸の歴史②－ジャポニスムとアールヌーボーの工芸－（五味） 3. 西洋の工芸・デザイン運動と日本－日本における近・現代工芸の展開－（南） <p>毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。</p>		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。 講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。		
履修上の注意	毎回配るコメント用紙に、各授業の内容に対する感想を積極的に述べることを求める。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加度 40% 集中講義のレポート(3回) 60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加度 40% 学期末レポート 60% 全体で60%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [S]課題を良く理解し、論理的に思考するとともにとりわけ有意な見解を提示することができた。 [A]課題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]課題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]課題を理解することができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-28	履修コード	3009Z2
科目名	近代美術史	科目英語名	History of Modern Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	美術科2年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	必修	教室	事務局前に掲示
単位	2	定員	
担当教員	○星野 太（非常勤）米田尚輝・甲斐義明・筒井宏樹		
授業概要	19世紀から今日までの近代美術史を、さまざまなテーマから解説する。		
到達目標	19世紀から今日までの西洋を中心とした近現代美術史の流れと、主要な作品の特徴についての理解を深め、それを芸術制作や芸術研究に活かすことを目標とする。		
授業計画	<p>計3日間の集中講義形式により行なう（各回9:00-17:30／休憩あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. おもにヨーロッパにおける近代美術の展開と様相を解説する（19世紀）。（1日、米田担当） 2. おもに欧米における近代美術の展開と様相を解説する（19世紀後半～20世紀前半）。（1日、甲斐担当） 3. 欧米と日本における近現代美術の展開と様相を解説する（20世紀前半～20世紀後半）。（1日、筒井担当） 4. 総括、およびその他の近現代美術について、補足的に解説する。（3時間、星野担当） <p>* 非常勤講師および講義内容は変更がありうる。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業の中で指示するが、各講義後のレポートは、講義の内容をよく復習して書くことが望ましい。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	集中講義日程はなるべく早く掲示するが、変更等もあるので、常に掲示に注意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>前期・後期についてそれぞれレポート提出を求める（計2回）。</p> <p>[A] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 [B] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 [C] 近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>前期・後期についてそれぞれレポート提出を求める（計2回）。</p> <p>[S] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を十分に理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 [A] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 [B] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 [C] 近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-29	履修コード	3009Z2
科目名	近代美術史	科目英語名	History of Modern Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術・高校工芸）	開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	選択	教室	事務局前に掲示
単位	2	定員	
担当教員	○星野 太（非常勤）米田尚輝・甲斐義明・筒井宏樹		
授業概要	19世紀から今日までの近代美術史を、さまざまなテーマから解説する。		
到達目標	19世紀から今日までの西洋を中心とした近現代美術史の流れと、主要な作品の特徴についての理解を深め、それを芸術制作や芸術研究に活かすことを目標とする。		
授業計画	<p>計3日間の集中講義形式により行なう（各回9:00-17:30／休憩あり）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. おもにヨーロッパにおける近代美術の展開と様相を解説する（19世紀）。（1日、米田担当） 2. おもに欧米における近代美術の展開と様相を解説する（19世紀後半～20世紀前半）。（1日、甲斐担当） 3. 欧米と日本における近現代美術の展開と様相を解説する（20世紀前半～20世紀後半）。（1日、筒井担当） 4. 総括、およびその他の近現代美術について、補足的に解説する。（3時間、星野担当） <p>* 非常勤講師および講義内容は変更がありうる。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業の中で指示するが、各講義後のレポートは、講義の内容をよく復習して書くことが望ましい。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜プリントを配布する。		
履修上の注意	集中講義日程はなるべく早く掲示するが、変更等もあるので、常に掲示に注意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>前期・後期についてそれぞれレポート提出を求める（計2回）。</p> <p>[A] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 [B] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 [C] 近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>前期・後期についてそれぞれレポート提出を求める（計2回）。</p> <p>[S] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を十分に理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 [A] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、すぐれたレポートを執筆・提出した。 [B] 近現代美術の歴史および主要な作品の特徴を理解し、レポートを執筆・提出した。 [C] 近現代美術をめぐるレポートを執筆・提出した。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-30	履修コード	3109Z2
科目名	美術工芸特論	科目英語名	Studies of Fine Art and Craft
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	前期：金曜7・8限 後期：木曜9・10限
履修区分	必修	教室	LAVC室
単位	4	定員	15名
担当教員	○五十嵐嘉晴・上田恒夫		
授業概要	美術工芸の意義ある興味深い視点から毎週の講義のテーマを定め、主に西洋や中東の美術工芸の歴史上の幾つかの時期を照明する。そしてその史的展開の美術的・社会的諸相と要因を解説する。また過去や伝統が現代と如何に関わるかも指摘する。		
到達目標	美術工芸の歴史についての視野を広め、知識を豊かにし、認識を深める。それによる広範でフレキシブルな理解力を持って、美術工芸の国内外の伝統と現代の問題点などを取り出し、それらについて学術的に記述・解説できること。		
授業計画	<p>前期・後期ともに毎週(計15回)の講義を下記の分担で行う。</p> <p>■前期(担当：五十嵐嘉晴 金曜7・8限)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術的形象の発生 2. その旧石器時代の展開 3. 中・新石器時代の美術工芸 4. 古代エジプト美術工芸(以後美術とは美術工芸を指す) 5. メソポタミアの美術 6. 古代エーゲ海の美術 7. 古代ギリシア美術-1(アルカイック) 8. 古代ギリシア美術-2(古典期、ヘレニズム) 9. イタリア半島の古代美術-1(エトルリア) 10. イタリア半島の古代美術-2(ローマ) 11. 初期キリスト教美術 12. ケルト・ゲルマン美術 13. ロマネスク美術-1 14. ロマネスク美術-2 15. ゴシック美術 <p>■後期(担当：上田恒夫 金曜5・6限)</p> <p>「美術工芸」の枠組み：古九谷と産地論争</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古九谷色絵飾り皿 2. 産地論争は終結していない 3. 発掘報告書と科学的分析 陶芸の「産地」 <p>イタリア・ルネサンスのタルシア(木象嵌)：絵画・彫刻・工芸の交点</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. フィレンツェ、ウルビーノ、モデナ、パドヴァ、ヴェローナほかのタルシア 5. タルシアの場所と主題 6. 同時代のタルシア批評 <p>ゲルハルト・リヒターとモダニズム</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. リヒターの「ヴェネツィア」 8. フォーマリズムに対するリヒター <p>ルーヴル美術館の250年：「普遍的価値」の到達点</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 宮殿から万人に開かれた美術館へ 10. グランド・ギャラリーの近代化 11. ルーヴル・ランスとルーヴル・アブダビ <p>ふさわしさ：表現の機会と場所</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ふさわしさのさまざまな意味 13. フラ・アンジェリコの祭壇画 14. 仏像(日本)の場所と造形 <p>要約</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 表現の時と場所、分類、気づき 		
予習・復習	各自の関心に基づいて美術工芸の歴史に関する文献を読むこと。授業後はその内容に関連する文献を読むこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
	配付プリント・スライド・ビデオ・DVD等		

教材	
履修上の注意	毎週の講義では毎回出欠確認を行う。
成績評価（平成29年度以前入学者）	レポートと期末試験とを総合的に判断して、単位認定を行う。 [A] 講義で述べられた観点をよく理解し、学術的に意義ある解釈を示すことができた。 [B] 講義で述べられた内容を理解し、それに応じた見解を示すことができた。 [C] 講義で述べられた内容を理解することができた。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B1)-31	履修コード	3015Z1
科目名	専門英語演習	科目英語名	Specific English Language Practice
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科4年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	必修	教室	前期：第3教室 後期：研修室
単位	2	定員	80名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	この授業では、デザインに関する専門的な知識を、英語の出版物から直接読み取り、自身の卒業制作や卒業後の活動に活かしていきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文で書かれた作品紹介を読み、そのコンセプトまできちんと理解する。 ・ 理解した内容を自身の卒業制作・デザイン活動に反映させる。 		
授業計画	<p>Marcus Fairs, 21st Century Design: New Design Icons from Mass Market to Avant-Gardeの中から、参加学生の関心、制作テーマに合わせて作品を選び、精読していきます。</p> <p>授業では前半に個人での英文精読、後半に内容についての考察というかたちで進めていきます。</p> <p>具体的に取り上げる内容は以下のとおりです。</p> <p>前期 Architecture Interiors Furniture Lighting Homeware</p> <p>後期 Products Clothing and Accessories Visual Communication Urban and Landscape</p>		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	配付プリント		
参考書	配付プリント		
教材	配付プリント		
履修上の注意	辞書を毎回必ず持参すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A]各作品をそのコンセプトまで十分理解し、その成果を自身の制作活動に反映させることができた。</p> <p>[B]各作品の説明をよく理解することができ、その知識を自身の制作活動に活かすことができた。</p> <p>[C]各作品の説明を正確に訳すことができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-32	履修コード	3015Z2
科目名	専門英語演習	科目英語名	Specific English Language Practice
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	2	定員	25名
担当教員	稲垣健志		
授業概要	前期：工芸の各施設・基本的な制作過程などを英語で説明するための資料を作成します。 後期：工芸に関連する現代作品を英語で読み、自身の制作活動に活かしていきます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢美術工芸大学の工芸を英語で説明する資料を完成させる。 ・英語で書かれた作品紹介を読み、そのコンセプトまで理解し、自身の制作活動に反映させる。 		
授業計画	<p>前期</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回～4回：各施設見学、説明事項の決定 第5、6回：日本語によるプレゼンテーション 第7回～9回：英語文章の草案を作成 第10回～12回：英語資料の作成 第13回～15回：各施設における英語プレゼンテーション</p> <p>後期</p> <p>Marcus Fairs, 21st Century Design: New Design Icons from Mass Market to Avan-Gardeの中から、参加学生の関心、制作テーマに合わせて作品を選び、精読していきます。 授業では、前半に英文精読、後半に内容についての考察というかたちで進めていきます。 以下、取り上げる作品の一部です。</p> <p>Repeat Fabrics Non-Temporary Ceramics Glasgow Toile Interactive Wallpaper Algae Do Break Vase Colour Rings</p>		
予習・復習	授業中に指示された課題に取り組むこと。		
教科書	配布プリント		
参考書	配布プリント		
教材	配布プリント		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	[A] 工芸の魅力が伝わる英語資料を作成し、かつ英文読解の成果を自身の制作活動に活かすことができた。 [B] わかりやすい英語資料を作成し、英文読解をすることで知識を広げることができた。 [C] 英語資料を作成し、英文の内容を理解できた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-33	履修コード	3049Z1
科目名	芸術と批評	科目英語名	Art and Criticism
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	自由	教室	古典演習室
単位	2	定員	30名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	<p>現代思想を読む 芸術理論を理解したり芸術作品の批評をしたりするための、最も基礎的な能力を鍛えるために役立つと思われる、20世紀の代表的思想書を読みます。 本年度は、H・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』を読み、概説します。時間や運動を不可分離な持続ととらえ（『時間と自由』）、現在の知覚と過去の記憶との対比によって心身二元論を更新し（『物質と記憶』）、生物多様性と自由な進化を肯定した（『創造的進化』）ベルクソンが書いた社会論です。毎時間、内容をまとめたプリントを配布して講義します。</p>		
到達目標	<p>①当該図書を理解する。 ②自己の芸術観をふりかえる。</p>		
授業計画	<p>『道徳と宗教の二源泉』は全4章からなります。週割りと対応するトピックは以下の通りです。</p> <p>1回 復習1：『時間と自由』 2回 復習2：『物質と記憶』 3回 復習3：『創造的進化』 4回 1章 道徳的責務 5回 閉じた社会と開かれた社会 6回 2章 静的宗教 7回 エラン・ヴィタールの意味 8回 呪術と科学、神々の存在 9回 3章 動的宗教 10回 二つの宗教について 11回 神秘主義と哲学 12回 4章 機械主義と神秘主義 13回 自然的社会と民主主義 14回 戦争と産業時代 15回 まとめ</p>		
予習・復習	プリントを参考に、当該図書を十分に読んでください。		
教科書	H・ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』（岩波文庫、平山高次訳）が、訳語もこなれており値段も手頃なので、これを教科書にします。各自で購入してください。		
参考書			
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>評価の方法：授業中の態度、レポート（年度末1回）。</p> <p>評価の基準： [A] 当該図書を理解し、自己の芸術観の形成に供することができた。 [B] 当該図書を一定程度理解している。 [C] 当該図書に対する理解が見られる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>評価の方法：授業中の態度、レポート（年度末1回）。</p> <p>評価の基準： [S] 当該図書を極めて高いレベルで理解し、自己の芸術観の形成に供することができた。 [A] 当該図書を理解し、自己の芸術観の形成に供することができた。 [B] 当該図書を一定程度理解している。 [C] 当該図書に対する理解が見られる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-34	履修コード	3882Z1
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	日本画専攻3年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	選択必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	30名
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	本演習では、ポートフォリオ制作演習を通してDTP制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 DTP基礎 第3回 Adobe Illustrator基礎 第4回 名刺制作 第5回 Adobe Photoshop基礎、 第6回 Illustratorの画像の取り扱い 第7～10回 ポートフォリオ制作 第11回 Blender 演習 (3Dモデリング基礎) 第12回 Blender 演習 (課題制作) 第13～15回 3Dモデルの応用</p> <p>コンピュータ演習は1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなることもあるので継続して出席することが必要。</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe PhotoshopはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標である。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 (設備の状況により内容を変更する場合がある)。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-35	履修コード	388272
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	30名
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	本演習では、ポートフォリオ制作演習を通してDTP制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方を身につける。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 DTP基礎 第3回 Adobe Illustrator基礎 第4回 名刺制作 第5回 Adobe Photoshop基礎、 第6回 Illustratorの画像の取り扱い 第7～10回 ポートフォリオ制作 第11回 Blender 演習 (3Dモデリング基礎) 第12回 Blender 演習 (課題制作) 第13～15回 3Dモデルの応用</p> <p>コンピュータ演習は1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなることもあるので継続して出席することが必要。</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe PhotoshopはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標である。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 (設備の状況により内容を変更する場合がある)。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方を習得している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-36	履修コード	3882Z3
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	30名
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	本演習では、ポートフォリオ制作演習を通してDTP制作を学ぶと共に、3DCGの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	DTP、3DCGを含むデジタルメディアの基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 DTP基礎 第3回 Adobe Illustrator基礎 第4回 名刺制作 第5回 Adobe Photoshop基礎、 第6回 Illustratorの画像の取り扱い 第7～10回 ポートフォリオ制作 第11回 Blender 演習 (3Dモデリング基礎) 第12回 Blender 演習 (課題制作) 第13～15回 3Dモデルの応用</p> <p>コンピュータ演習は1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなることもあるので継続して出席することが必要。</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe PhotoshopはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標である。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体 (4GB以上)		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 (設備の状況により内容を変更する場合がある)。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG、DTPの基礎知識と操作方法を習得している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-37	履修コード	388274
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	15名
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	コンピュータを実践的に利用した印刷物制作(ポスター制作)を行う。文字や写真を利用したデザインだけでなく、研究発表におけるポスターとは何かについて、ディスカッション方式で議論を深めていく。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	コンピュータを用いた画像編集を含む印刷物制作のための基礎技術を習得する。研究発表におけるポスターの役割を理解する。		
授業計画	<p>本授業は芸術学演習(三)「買物ゼミ」と連動したものであり、コンピュータを利用した図版や画像の扱い方を習得した上で、研究発表のためのポスター制作を行う。</p> <p>第1回 ガイダンス、DTP基礎、Adobe Illustrator基礎 第2回 名刺制作 第3回 Adobe Photoshop基礎 第4回 Adobe Illustratorにおける画像の取り扱い 第5回 ポスター制作 第6回 ポスター制作 第7回 ポスター制作 第8回 プレゼン、講評</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshopは、Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社)の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体(4GB以上)		
履修上の注意	自身の研究内容について5分程度で端的に説明できるようにまとめておくこと。ポスターに入る文字数は限られているため、短い時間で説明できることが良いポスターを作ることに繋がる。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題提出。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] コンピュータを使った画像編集の基礎的な知識と操作方法を習得している。視覚表現を活かしたポスター制作を行い、研究内容を簡潔に表現することができる。</p> <p>[B] コンピュータを使った画像編集の基礎的な知識と操作方法を習得している。視覚表現を活かしたポスター制作を行うことができる。</p> <p>[C] コンピュータを使った画像編集の基礎的な知識と操作方法を習得している。ポスター制作を行うことができる。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-38	履修コード	3882Z5
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	～H29	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	15名
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	これまで主に映像制作に利用されていた3DCG技術は、3Dプリンターが登場したことでデジタルファブリケーションに応用され、CAD技術とも融合しつつある。本演習では、デジタルファブリケーションの設計において必要となるCADの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	コンピュータグラフィックスやCADをはじめとしたデジタルファブリケーションを活用する上での基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	<p>CADソフトは、Autodesk Fusion 360を用いる。</p> <p>第1回 ガイダンス、Fusion 360基礎、スケッチ基礎 第2回 練習課題（マグカップ、ボーン、一輪挿し） 第3回 練習課題（鉛筆）、レンダリング、練習課題（鉄鍋） 第4回 拘束、完全拘束、スカルプト基礎 第5回 練習課題（スプーン、グラス） 第6回 自由制作課題 第7回 自由制作課題 第8回 自由制作課題</p> <p>コンピュータ演習は1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなることもあるので継続して出席することが必要。また、進捗によっては一部内容を変更する場合がある。</p> <p>Autodesk及びFusion 360はAutodesk, Incの商標である。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材			
履修上の注意	USBメモリ等の記憶媒体（4GB以上）		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出（設備の準備状況により内容を変更する）。課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。</p> <p>[B] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。</p> <p>[C] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-39	履修コード	3882Z6
科目名	コンピュータグラフィックス	科目英語名	Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度	H30～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	2	定員	15名
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	これまで主に映像制作に利用されていた3DCG技術は、3Dプリンターが登場したことでデジタルファブリケーションに応用され、CAD技術とも融合しつつある。本演習では、デジタルファブリケーションの設計において必要となるCADの基礎知識と操作方法を学ぶ。なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	コンピュータグラフィックスやCADをはじめとしたデジタルファブリケーションを活用する上での基礎知識とアプリケーションの操作方法を身につける。		
授業計画	<p>CADソフトは、Autodesk Fusion 360を用いる。</p> <p>第1回 ガイダンス、Fusion 360基礎、スケッチ基礎 第2回 練習課題（マグカップ、ボーン、一輪挿し） 第3回 練習課題（鉛筆）、レンダリング、練習課題（鉄鍋） 第4回 拘束、完全拘束、スカルプト基礎 第5回 練習課題（スプーン、グラス） 第6回 自由制作課題 第7回 自由制作課題 第8回 自由制作課題</p> <p>コンピュータ演習は1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなることもあるので継続して出席することが必要。また、進捗によっては一部内容を変更する場合がある。</p> <p>Autodesk及びFusion 360はAutodesk, Incの商標である。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材			
履修上の注意	USBメモリ等の記憶媒体（4GB以上）		
成績評価（平成29年度以前入学者）			
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出（設備の準備状況により内容を変更する）。 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、特に秀でた作品表現に応用することができる。 [A] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行い、作品表現に応用することができる。 [B] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得し、効率的な制作を行うことができる。 [C] 3DCG及びCADの基礎知識と操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-40	履修コード	3811Z1
科目名	メディアアート	科目英語名	New Media Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	未定
単位	2	定員	30名
担当教員	下浜臨太郎（非常勤）○クワクポリョウタ		
授業概要	<p>日本国内では文化芸術振興基本法により「メディア芸術」を「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」と定めています。本科目で扱う「メディアアート」とはこの内、映画、漫画、アニメーションを除いた「コンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」を指します。本科目では、メディアアーティストとして、国内外で活躍されるクワクポリョウタさんをお招きし、講義・演習を行います。クワクポリョウタさんは、デジタルとアナログ、人間と機械、情報の送り手と受け手など、さまざまな境界線上で生じる事象をクローズアップする作品により、「デバイス・アート」とも呼ばれる独自のスタイルを生み出したアーティストです。代表作に「ビットマン」「ニコダマ」「10番目の感傷(点・線・面)」などがあり、2018年には「デザインあ展」(2018年/富山県美術館、日本科学未来館)の展示構成なども手がけています。</p>		
到達目標	メディアアートに関するパースペクティブを養う。		
授業計画	<p>メディアアートは芸術領域に於ける従来のメディウム・スピニフィックな芸術形態(例えば油画など特定の技能に根ざすもの)とは異なり、アーティスト、クリエイター、エンジニアなど様々なバックグラウンドのプレイヤーが参画しています。そのために、メディアアートとは何かという問いに対してシンプルな回答をすることは極めて困難になっています。</p> <p>本科目では、メディアアートをアート、映像、テクノロジーの三つの系譜に分けてそれぞれの先行事例を概説し、各分野に関連した課題制作を行います。</p> <p>なお、本科目は12/21、25、26に開講予定です。</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	未定		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A]メディアアートというカテゴリを理解し、テーマにそって優れた制作物をつくることができた。 [B]メディアアートというカテゴリを理解し、テーマにそった制作物をつくることができた。 [C]メディアアートというカテゴリを理解できた。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[S]メディアアートというカテゴリを理解し、テーマにそって他に類をみない新しい制作物をつくることができた。 [A]メディアアートというカテゴリを理解し、テーマにそって優れた制作物をつくることができた。 [B]メディアアートというカテゴリを理解し、テーマにそった制作物をつくることができた。 [C]メディアアートというカテゴリを理解できた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-41	履修コード	3006Z1
科目名	色彩論	科目英語名	Chromatics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	美術科（芸術学専攻除く）・デザイン科2年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	○寺井剛敏（非常勤）坂本希和子・前川満良・今中博之		
授業概要	日々の表現活動や日常生活と密接な関わりを持つ色彩をさまざまな視点からとらえる。パリアフリーの立場から色彩を考える。（専門家による講義）		
到達目標	基礎理論のみならず、その背景にある歴史、社会や文化などとの関係からもその応用や可能性について考え、自分なりの色についての考え方をまとめる。		
授業計画	<p>(1) 全体オリエンテーション (2) アーティストの視点からの色彩（今中） (3) 色とは？（色彩論と色の分野） ・色を照らす①（光と色-光の物理的特性） (4) 色を照らす②（光と色-色の現象） ・色を見る（目の構造／色覚説／色知覚／色の生じる原理） (5) 色をつくる（混色と色再現／色材） (6) カラーユニバーサルデザイン①（石川県工業試験場：前川） (7) カラーユニバーサルデザイン②（石川県工業試験場：前川） (8) 色を表す（表色系／色名／カラーオーダーシステム／色見本） ・色を測る（測色） (9) 色を感じる（色のイメージ／感情効果／連想／嗜好性） (10) 色を組み立てる（配色／色彩調和） (11) 色を読む①（色彩の象徴と文化-西洋） (12) 色を読む②（色彩の象徴と文化-日本） (13) 色をいかす（色彩計画／カラーマーケティング／流行色） (14) 課題制作、レポート課題発表 (15) レポート提出</p> <p>※状況により講義スケジュールが変更になる事もあります。</p>		
予習・復習	オリエンテーションで案内する。		
教科書	オリエンテーションで案内する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プロジェクター		
履修上の注意	オリエンテーションにて案内		
成績評価（平成29年度以前入学者）	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを活用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを活用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを活用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [A]色彩に関する知識が習得され、それらを活用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを活用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-42	履修コード	3006Z1
科目名	色彩論	科目英語名	Chromatics
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（高校工芸）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	木曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	150名
担当教員	○寺井剛敏（非常勤）坂本希和子・前川満良・今中博之		
授業概要	日々の表現活動や日常生活と密接な関わりを持つ色彩をさまざまな視点からとらえる。パリアプリーの立場から色彩を考える。（専門家による講義）		
到達目標	基礎理論のみならず、その背景にある歴史、社会や文化などとの関係からもその応用や可能性について考え、自分なりの色についての考え方をまとめる。		
授業計画	<p>(1) 全体オリエンテーション (2) アーティストの視点からの色彩（今中） (3) 色とは？（色彩論と色の分野） ・色を照らす①（光と色-光の物理的特性） (4) 色を照らす②（光と色-色の現象） ・色を見る（目の構造／色覚説／色知覚／色の生じる原理） (5) 色をつくる（混色と色再現／色材） (6) カラーユニバーサルデザイン①（石川県工業試験場：前川） (7) カラーユニバーサルデザイン②（石川県工業試験場：前川） (8) 色を表す（表色系／色名／カラーオーダーシステム／色見本） ・色を測る（測色） (9) 色を感じる（色のイメージ／感情効果／連想／嗜好性） (10) 色を組み立てる（配色／色彩調和） (11) 色を読む①（色彩の象徴と文化-西洋） (12) 色を読む②（色彩の象徴と文化-日本） (13) 色をいかす（色彩計画／カラーマーケティング／流行色） (14) 課題制作、レポート課題発表 (15) レポート提出</p> <p>※状況により講義スケジュールが変更になる事もあります。</p>		
予習・復習	オリエンテーションで案内する。		
教科書	オリエンテーションで案内する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プロジェクター		
履修上の注意	オリエンテーションにて案内		
成績評価（平成29年度以前入学者）	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを活用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを活用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	レポート提出をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S]色彩に関する知識が高いレベルで習得され、それらを活用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [A]色彩に関する知識が習得され、それらを活用し、自分の視点でレポートが作成されている。 [B]色彩に関する知識が習得され、それらを活用したレポートが作成されている。 [C]色彩に関する知識が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-43	履修コード	3010Z1
科目名	造形心理学	科目英語名	Psychology of Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○荷方邦夫（非常勤）青山征彦		
授業概要	本講義では、美術・造形に深くかかわる心理学的事象、特に視覚情報処理、感情・感性などについての講義を行う。また、制作活動・創作活動の「プロ」としての自己を理解するため、スキルの熟達のプロセスなどについても講義を行う。		
到達目標	美術・造形に関する教養として、芸術に関する心理学的知見を身につけ、芸術活動に資するための基礎的な力を涵養する。講義で学習した内容を用いて、実際に美術・造形表現が可能となることもあわせて求める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 美術・造形における心の関わり 2 目で見ると脳で観る 視知覚の生理的基礎 3 視覚情報処理1 形・奥行 4 視覚情報処理2 錯視 5 視覚情報処理3 色彩の科学 6 注意のはたらき 7 感性・感情1 その生理学的基礎 8 感性・感情2 デザインへの応用 9 言語と芸術 10 創造性と思考 11 集中講義 メディアに学ぶ心理学（1）（青山） 12 集中講義 メディアに学ぶ心理学（2）（青山） 13 「プロ」を知る1 表現者の発達と学習 14 調整日 15 試験・レポート提出日 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	ソルソ著 鈴木ら訳「脳は絵をどのように理解するか」新曜社 仲谷ら編「美と造形の心理学」北大路書房		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%）、発言や積極的な参加（概ね10%） 授業における発言、小課題での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <p>[A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言、小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <p>[A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で70%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-44	履修コード	3010Z1
科目名	造形心理学	科目英語名	Psychology of Art
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分	教職必修科目（中高美術）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○荷方邦夫（非常勤） 青山征彦		
授業概要	本講義では、美術・造形に深くかかわる心理学的事象、特に視覚情報処理、感情・感性などについての講義を行う。また、制作活動・創作活動の「プロ」としての自己を理解するため、スキルの熟達のプロセスなどについても講義を行う。		
到達目標	美術・造形に関する教養として、芸術に関する認知心理学的知見を身につけ、芸術活動に資するための基礎的な力を涵養する。講義で学習した内容を用いて、実際に美術・造形表現が可能となることもあわせて求める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 美術・造形における心の関わり 2 目で見る・脳で観る 視知覚の生理的基礎 3 視覚情報処理1 形・奥行 4 視覚情報処理2 錯視 5 視覚情報処理3 色彩の科学 6 注意のはたらき 7 感性・感情1 その生理学的基礎 8 感性・感情2 デザインへの応用 9 言語と芸術 10 創造性と思考 11 集中講義 メディアに学ぶ心理学（1）（青山） 12 集中講義 メディアに学ぶ心理学（2）（青山） 13 「プロ」を知る1 表現者の発達と学習 14 調整日 15 試験・レポート提出日 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める		
教科書	資料を配付する。		
参考書	ソルソ著 鈴木ら訳「脳は絵をどのように理解するか」新曜社 仲谷ら編「美と造形の心理学」北大路書房		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%）、発言や積極的な参加（概ね10%） 授業における発言、小課題での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準 [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言、小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準 [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で70%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-45	履修コード	3011Z1
科目名	環境心理学	科目英語名	Environmental Psychology
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	製品デザイン専攻・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	月曜7・8限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	50名
担当教員	○荷方邦夫（非常勤）未定		
授業概要	本講義では、「心理学から見た『よいデザイン』」をテーマとして、最近の認知デザイン論について講義を行う。ここでは、いわゆる美術・造形に関わるデザインに限らず、文章・図表などの視覚的表現（representation）にわたる広い範囲で授業を行う。		
到達目標	デザインに関する教養として、認知心理学に関する知見を身につけ、制作活動および製品の評価を行うための基礎的な知識を身につける。また講義で学習した内容を参考に、現存する人工物について適切な評価と改善の指針の提示を行うことができる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 すべての人はデザイナーである 環境心理学のテーマと 3 デザイナーとユーザーのすれ違い D. A. Norman「誰のためのデザイン？」 4 心理学からのRe-design（1）理解と記憶のサポート 5 心理学からのRe-design（2）情報量のコントロール 6 心理学からのRe-design（3）人間にフィットさせる 7 ミスとエラーに立ち向かうデザイン ヒューマン・エラーとエラーセーフシステム 8 快適さと環境のデザイン 9 調査・技術研究部門とのコラボレーション 10 感性のデザイン 11 近年の新しい研究から 12 集中講義 デザインの現場から1（未定） 13 集中講義 デザインの現場から2（未定） 14 授業のまとめ 15 試験・レポート提出 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	荷方邦夫「心を動かすデザインの秘密」（実務教育出版） Norman, D., A「誰のためのデザイン」（新曜社） Norman, D., A「複雑さとともに暮らす デザインの挑戦」（新曜社） Norman, D., A「エモーショナル・デザイン」（新曜社）		
教材	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%）、発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言、小課題での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価（平成30年度以降入学者）	学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） レポート課題を提示する、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言、小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 評価の基準 [A]上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B]上記の基準の上1と2で70%以上のポイントを獲得している [C]上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-46	履修コード	3014Z4
科目名	建築論	科目英語名	Theory of Architecture
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	隔週
専攻・年次	製品デザイン専攻・環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	坂本英之		
授業概要	建築や都市・集落を歴史的環境、自然・風土的環境、社会的環境の視点から空間的に捉え、人の営みによる非視覚的事象と空間造形として包み込む器としての建築や都市・集落の視覚的造形との関係を論じます。		
到達目標	建築や都市・集落を通じて空間の形態や質とその裏に存在する空間を秩序づける人為との関係を見る目を養います。		
授業計画	<p>講義は下記の項目について進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 空間概念と建築(1)：空間の原型 2) 空間概念と建築(2)：空間の特性（西洋と東洋） 3) 建築の空間(1)：建築の源流I（歴史的空間） 4) 建築の空間(2)：建築の源流II（風土的空間） 5) 建築の空間(3)：建築の源流III（文化的空間） 6) 建築の空間(4)：建築の現在と近未来（モダニズムとそれに続くもの） 7) 集落・都市の空間(1)：集まって住む意味（形態と空間） 8) 集落・都市の空間(2)：都市史・集落史 9) 集落・都市の空間(3)：小宇宙（マイクロコスモス）の形成 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	第一回目の講義でその学期のスケジュールを発表		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>試験（場合によってはレポート若しくは講義ノートの提出をあわせて行う）及び小テスト（随時）により単位を認定する。</p> <p>[A] 建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を高いレベルで考察することができた。</p> <p>[B] 建築デザインに関する視野を広げ、自身の制作を考察することができた。</p> <p>[C] 建築デザインに関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-47	履修コード	3052Z2
科目名	工芸技法（紙）	科目英語名	Craft Technique（Japanese Paper Making）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（夏季休業期間）
専攻・年次	日本画専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択必修	教室	二俣和紙工房
単位	2	定員	10名程度（受講希望者多数の場合は抽選）
担当教員	○荒木恵信（非常勤）未定		
授業概要	興味のある学生は学年、専攻を問わず受講できる。金沢市二俣の和紙工房で和紙漉きの体験を通して和紙や原材料の特性を理解した後、これを活かした自己表現を探求する自由制作を行う。最終日に、各自の自由制作に関して意見交換を行う。また、和紙の歴史的概観を理解する講義を行う。		
到達目標	和紙とその原材料、製造工程の理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察する。また、伝統技術とその保存についての考察を深める。		
授業計画	<p>事前に説明会を行う。（説明会の詳細については事務局前の掲示板にて知らせる。説明会に不参加の者は受講できない場合がある。集中演習期間のお知らせ、希望者が多い場合の抽選もこの説明会で実施する。）</p> <p>集中演習期間 8月下旬から9月上旬の連続した4日間（一日中）</p> <p>場所 斉藤博和紙工房（金沢市二俣）</p> <p>定員 興味のある学生は学年、専攻を問わず受講できるが、工房の都合で10名程度とする。希望者が多い場合は抽選とする。</p> <p>準備 ペンチなど）各自制作に必要なと考えられる材料（竹ひご・針金・接着剤など）や道具（はさみ・筆記用具</p> <p>注意 水を多量に使用する作業が多いため服装に留意すること。</p> <p>授業内容 1 和紙の原材料と和紙漉きについての説明と実践 2 各自制作及び研究 3 まとめ、意見交換</p> <p>後学期に、非常勤講師による和紙の歴史に関する講義を行う。開校日は別途連絡する。</p>		
予習・復習	1日目終了後、各自制作の準備をすること。最終日には、和紙漉きや自由制作についての意見交換をしますので、自身のそれらについて意見をまとめておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	『紙の造形』（黒崎彰著 六耀社）、『手漉和紙』（竹尾洋紙店）、『日本の紙』、『紙の大百科』など本学付属図書館に和紙に関する多くの蔵書がある。これらの中から各自2冊以上選択して読んでおくこと。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	興味のある学生は学年、専攻を問わず受講できる。希望者が多い場合は抽選とする。抽選は事前の説明会で実施する。事前の説明会に必ず参加すること。不参加の者は受講できない場合がある。後学期に、非常勤講師による和紙の歴史に関する講義を行うので出席すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加意欲 50%</p> <p>作品または研究の発表 50%</p> <p>各評価で半分以上の成績を取得した学生に単位を認定する。</p> <p>[A]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての深化した活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察と実践ができた。</p> <p>[B]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。</p> <p>[C]和紙とその原材料、製造工程の理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。</p> <p>成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。</p>		
	授業への参加意欲 50%		

成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>作品または研究の発表 50%</p> <p>各評価で半分以上の成績を取得した学生に単位を認定する。</p> <p>[S]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての深化した活用法を考察して提示ができた。伝統技術とその保存についての考察と実践ができた。これらが特に秀でていた。</p> <p>[A]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての深化した活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察と実践ができた。</p> <p>[B]和紙とその原材料、製造工程の深い理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察して提示できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。</p> <p>[C]和紙とその原材料、製造工程の理解と共に、新たな自己表現の素材としての活用法を考察できた。伝統技術とその保存についての考察を深めた。</p> <p>成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。</p>
--------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(B1)-48	履修コード	3886Z1
科目名	版画	科目英語名	Printmaking (Intaglio)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	20名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	<p>ー版画四版種についてのレクチャー 版画・印刷の基本的な四版種(凸版、凹版、平版、孔版)について、パワーポイントを用いて解説する。</p> <p>ー銅版画制作 銅版画技法を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>版画の四版種の特性を理解する。 腐蝕銅版画の基本的な原理と技術を理解する。 腐蝕法と直刻法に大別される様々な凹版画技法について理解を深めるとともに、それらの表現の可能性を試みる。</p>		
授業計画	<p>初日 版画・印刷の歴史的背景についてのレクチャー 各版種の技術的な特性の違いと版画・印刷の歴史的背景について学ぶ。</p> <p>銅版画技法について解説 直刻法、腐蝕法、その他、様々な防蝕被膜の原料について解説する。</p> <p>二日目 銅版画技法と制作工程の説明 共同作品の制作を通して、エッチング、アクアチント、ドライポイント、メゾチントの各技法を説明 油性インクの特徴の説明と刷りの実演を行う。</p> <p>三日目～ 主題の決定から表現に適した銅版画技法の選択まで、個別に助言と指導を行う。 制作の進捗状況により、適宜技術的な助言をする。</p> <p>最終日 10:00 制作と印刷終了 10:20 後片付け、掃除を終了 10:20 プレゼンテーション 11:50 アンケート記入、銅版の保存作業、作品提出</p>		
予習・復習	18×24cm以下のサイズの下絵を予め準備しておく。 参考書欄の本やDVDを本学附属図書館で閲覧すると良い。		
教科書	なし。ただし製版工程の作業説明案内(A4)を配布する。また、参考文献を参照のこと。		
参考書	『中林忠良の銅版画』中林忠良 著、河出書房新社 『銅版画のテクニック』深澤幸雄 著、ダヴィッド社 『銅版画のマチエール』駒井哲郎 著、美術出版社 『つくる楽しさ・版画技法シリーズ』(VHS)		
教材	180×240mm厚さ1mmの銅板とハーネミューレを使用。 授業2日目までに売店で各自購入のこと。		
履修上の注意	2019年7月3、4、8、10、11、17、18、22日の8日間の授業を予定している。 初日の欠席は不認定となる。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	配点 作品評価90% プレゼンテーション10%(自作品のテーマや技法について、明快に説明すること) [A] 絵画の造形的諸要素(明暗の対比を含む画面構成)と共に、高い技術(刷りの美しさなど)に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画の技法の習得が認められる作品		
成績評価(平成30年度以降入学者)	配点 作品評価90% プレゼンテーション10%(自作品のテーマや技法について、明快に説明すること) [S] 優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A] 絵画の造形的諸要素(明暗の対比を含む画面構成)と共に、高い技術(刷りの美しさなど)に裏付けされた優れた発想の作品		

[B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品
[C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画の技法の習得が認められる作品

平成31年度シラバス

番号	(B1)-49	履修コード	3812Z1
科目名	保存修復概論	科目英語名	Theory of Conservation and Restoration
科目区分	基礎科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1・2・3・4年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	自由	教室	第4教室
単位	2	定員	10名程度
担当教員	○荒木恵信（非常勤）他未定		
授業概要	<p>興味のある学生は専攻、学年を問わず誰でも受講できます。美術に携わる作家や研究者が文化財保存にどのような貢献をできるかについて考察します。講義では文化財の保存と修復の基本となる理論と方法についての他、文化財修理の事例の紹介や芸術家や研究者による文化財保存の活動の報告をします。また、金沢市内の文化財保存修復施設の現地見学や実際に保存修復に携わっている非常勤講師による講義により文化財保存の『現在とこれから』を見つめます。</p>		
到達目標	<p>文化財の保存修復の基本的な理論を習得し、これまでの多岐にわたる文化財保存の実践を理解できる。また、自らも美術に関わる者として文化財保存に貢献する意識を高め、自己の制作や研究においてもその観点を加味した考察ができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ文化財をのこさなくてはいけないのか？ 映像資料や自己の体験などを通して文化財について考察する。 2 文化財と保存 文化財とは何かを再度検討し、その保存の意義を考察する。 3 文化財を守る（1） 文化財を取り巻く環境と管理について 4 文化財を守る（2） 文化財を取り巻く人々について 5 文化財をなおす 修復の基本について 6 文化財修理の事例 修理はどのように始まり、完了するのか。修理報告書を参考に修理の工程をみる 7 金沢市内の文化財保存修復施設または文化財指定物件の見学（1） 金沢市内にある修復工房などを見学して、文化財保存の現状を現場で学ぶ 8 金沢市内の文化財保存修復施設または文化財指定物件の見学（2） 9 文化財保護法 戦前の文化財保護行政について 10 文化財保護法 現行の保護行政について 11 文化財保存修復の「現在とこれから」について (12) 文化財保存修復の「現在とこれから」(1) 非常勤講師による講義 (13) 文化財保存修復の「現在とこれから」(2) 非常勤講師による講義 (14) 複合媒材の保存と修復について 15 試験（レポート提出） <p>講義の順番は、見学施設や非常勤講師の都合などで入れ替わる場合があります。毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。金沢市内の文化財保存修復施設または文化財指定物件の見学には大学のバスで移動しますので、集合場所と時間に注意して下さい。止むを得ず授業計画が変更される場合は、その都度お知らせします。</p>		
予習・復習	<p>随時配布する資料を読んでください。講義の前半に興味のある文化財について質問しますので、名称を調べておいてください。</p>		
教科書	特になし。		
参考書	文化財保護法など、随時配布します。		
教材	文化財保存修復に関する映像資料など。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末レポート 50% 授業メモ（随時）30% 授業への参加意欲 20% [A] 授業内容をよく理解し、経験等も踏まえて自らの考察を述べられる。 [B] 授業内容を理解し、自らの考察を交えて意見を述べられる。 [C] 授業内容を理解し、文章化できる。</p> <p>成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。</p>		
成績評価（平成30年度以後入学者）	<p>学期末レポート 50% 授業メモ（随時）30% 授業への参加意欲 20% [S] 授業内容をよく理解し、経験等も踏まえて自らの考察を述べられる。これらが特に秀でている。 [A] 授業内容をよく理解し、経験等も踏まえて自らの考察を述べられる。 [B] 授業内容を理解し、自らの考察を交えて意見を述べられる。</p>		

降入学者)

[C] 授業内容を理解し、文章化できる。

成績評価、授業内容に関する疑問や質問などは履修届を提出する前に担当教員に確認してください。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-50	履修コード	3888Z1
科目名	ファッションデザインベーシック A	科目英語名	Fashion Design Basic A
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	5名（希望者を面談の上、決定）
担当教員	○村山祐子（非常勤）平塚聖子		
授業概要	より専門的なファッションデザインの基礎（平面作図・立体的裁断・デザイン画・縫製等）について学ぶ。ファッション業界への進路を希望する学生向けのクラス。制作を通して基礎をしっかりと習得する。		
到達目標	基本的な服作りの一連の流れを理解し、基礎技術を習得する。 （デザイン画、パターン、縫製、生地の基本知識等）		
授業計画	<p>A. オリエンテーション デザイン画イントロダクション・採寸 ミシンや道具の扱い・原型</p> <p>B. 基本的作業の習得を、作品制作を通して実習する。 原型・平面作図・立体的裁断など</p> <p>C. 成果発表・講評</p> <p>※ 上記の授業計画に加え、デザイン画を行いません。授業中は前週に出されたデザイン画課題の添削を行いません。</p>		
予習・復習	デザイン画は主に宿題として出します。また、授業時間内で終了出来ない場合は次週までの宿題として自習で補って下さい。		
教科書	随時指示。		
参考書	随時指示。		
教材	初回のオリエンテーションで別途指示。基本的な制作に必要な道具は各自準備のこと。		
履修上の注意	希望者多数の場合は、上級生を優先とする。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題及びプレゼンテーション等、ここの課題の達成度・授業態度を総合して評価する。 [A]人体の構造と動きに伴う必要なゆとり・美しさ・デザインと生地との整合性・適材適所の縫製方法等を理解・習得し、それらを高いレベルで関連づけて形に落とし込む事が出来た。 [B]人体の構造と動きに伴う必要なゆとり・美しさ・デザインと生地との整合性・適材適所の縫製方法等を理解・習得し、それらを十分なレベルで関連づけて形に落とし込む事が出来た。 [C]人体の構造と動きに伴う必要なゆとり・美しさ・デザインと生地との整合性・適材適所の縫製方法等を理解・習得し、それらを一定以上のレベルで関連づけて形に落とし込む事が出来た。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-51	履修コード	3889Z1
科目名	ファッションデザインベーシック B	科目英語名	Fashion Design Basic B
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	5名（希望者は面談の上、決定）
担当教員	○村山祐子（非常勤）平塚聖子		
授業概要	より専門的なファッションデザインの応用（平面作図・立体裁断・デザイン画・縫製等）について学ぶ。ファッション業界への進路を希望する学生向けのクラス。制作を通して応用力をしっかりと習得する。		
到達目標	基本的な服作りの一連の流れを理解し、応用技術を習得する。 （デザイン画、パターン、縫製、生地の応用知識等）		
授業計画	<p>A. オリエンテーション デザイン画 テクニカル 原型 平面製図（応用）</p> <p>平塚非常勤 B. ベーシックAで習得したスキルを応用し制作を通して実習する。 モデリング（イメージの具現化）、 ドレーピング（平面と立体構造の関係把握） 立体トワル、パターン制作（工業パターン化）</p> <p>C. 成果発表・講評</p> <p>※ 上記の授業計画に加え、毎週デザイン画を行いません。授業中は前週に出されたデザイン画課題の添削を行いません。</p>		
予習・復習	デザイン画は主に宿題として出します。また、授業時間内で終了出来ない場合は次週までの宿題として自習で補って下さい。		
教科書	随時指示。		
参考書	随時指示。		
教材	初回のオリエンテーションで別途指示。基本的な制作に必要な道具は各自準備のこと。		
履修上の注意	ファッションデザインベーシックA, B, どちらからでも受講可。 希望者多数の場合は、上級生を優先とする。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題及びプレゼンテーション等、この課題の達成度・授業態度を総合して評価する。 [A]人体の構造と動きに伴う必要なゆとり・美しさ・デザインと生地との整合性・適材適所の縫製方法等を理解・習得し、それらを高いレベルで関連づけて形に落とし込む事が出来た。 [B]人体の構造と動きに伴う必要なゆとり・美しさ・デザインと生地との整合性・適材適所の縫製方法等を理解・習得し、それらを充分なレベルで関連づけて形に落とし込む事が出来た。 [C]人体の構造と動きに伴う必要なゆとり・美しさ・デザインと生地との整合性・適材適所の縫製方法等を理解・習得し、それらを一定以上のレベルで関連づけて形に落とし込む事が出来た。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-52	履修コード	3901Z1
科目名	絵画 I (素描・静物)	科目英語名	Drawing (Still Life)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(前半)
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗		
授業概要	着彩用具による剥製の精密描写を通して絵画造形の諸要素や原理を学ぶとともに、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。なお本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	モチーフの形・色・質感・量感等を的確に捉え表現することで基礎的描写力を養う		
授業計画	<p>1: 着彩細密描写</p> <p>第 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要および課題説明と制作準備 ・ 自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 <p>第 2~5 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・ 描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら 鉛筆の硬度を使い分けて描写 <p>第 6~7 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水彩絵具の透明性と下塗り-中塗り-仕上げといった行程を学びつつ着彩 <p>2: 講評</p> <p>第 8 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ 各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・ 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映 		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品、選択したモチーフに関する資料		
教材	鉛筆・練りゴム・水彩用具一式・画用紙		
履修上の注意	根気のいる地味な仕事だが、基礎的かつ重要であるため粘り強く観察し表現すること。絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	[A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-53	履修コード	3903Z1
科目名	絵画 I (素描・人体)	科目英語名	Drawing (After Nude Model)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(前半)
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。 さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術に於ける「デッサン」の概念について、また「人体デッサン」の目的と表現的な特徴について、歴史上の作例をもとに解説する。 2. クロッキーとデッサンの違いや、画材としての木炭の特性・表現技法等を説明し、制作の準備を整える。 3. 裸婦クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 4. 木炭デッサン(固定ポーズ) 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	特になし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-54	履修コード	3901Z1
科目名	絵画 I (素描・静物)	科目英語名	Drawing (Still Life)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(前半)
専攻・年次	デザイン科(製品デザイン専攻除く)1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗		
授業概要	着彩用具による剥製の精密描写を通して絵画造形の諸要素や原理を学ぶとともに、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。なお本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	モチーフの形・色・質感・量感等を的確に捉え表現することで基礎的描写力を養う		
授業計画	<p>1: 着彩細密描写</p> <p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要および課題説明と制作準備 ・自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 <p>第2~5日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら鉛筆の硬度を使い分けて描写 <p>第6~7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水彩絵具の透明性と下塗り-中塗り-仕上げといった行程を学びつつ着彩 <p>2: 講評</p> <p>第8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映 		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品、選択したモチーフに関する資料		
教材	鉛筆・練りゴム・水彩用具一式・画用紙		
履修上の注意	根気のいる地味な仕事だが、基礎的かつ重要であるため粘り強く観察し表現すること。絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	[A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		
成績評価(平成30年度以降入学者)	[S]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達しており、特に秀でている。 [A]対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B]対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C]対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-55	履修コード	3903Z1
科目名	絵画 I (素描・人体)	科目英語名	Drawing (After Nude Model)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	デザイン科 (製品デザイン専攻除く) 1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋美術に於ける「デッサン」の概念について、また「人体デッサン」の目的と表現的な特徴について、歴史上の作例をもとに解説する。 2. クロッキーとデッサンの違いや、画材としての木炭の特性・表現技法等を説明し、制作の準備を整える。 3. 裸婦クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。 4. 木炭デッサン (固定ポーズ) 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。 		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	なし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B] 人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C] 人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に秀でたレベルで表現されている。</p> <p>[A] 人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B] 人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C] 人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-56	履修コード	3901Z2
科目名	絵画 I (素描・静物)	科目英語名	Drawing (Still Life)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介		
授業概要	着彩用具による剥製の精密描写を通して絵画造形の諸要素や原理を学ぶとともに、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。なお本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	モチーフの形・色・質感・量感等を的確に捉え表現することで基礎的描写力を養う		
授業計画	<p>1: 着彩細密描写</p> <p>第 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要および課題説明と制作準備 ・ 自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 <p>第 2~5 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・ 描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら 鉛筆の硬度を使い分けて描写 <p>第 6~7 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水彩絵具の透明性と下塗りー中塗りー仕上げといった行程を学びつつ着彩 <p>2: 講評</p> <p>第 8 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ 各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・ 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映 		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品、選択したモチーフに関する資料		
教材	鉛筆・練りゴム・水彩用具一式・画用紙		
履修上の注意	根気のいる地味な仕事だが、基礎的かつ重要であるため粘り強く観察し表現すること。絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	[A] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C] 対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-57	履修コード	3903Z2
科目名	絵画 I (素描・人体)	科目英語名	Drawing (After Nude Model)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	<p>1. 西洋美術に於ける「デッサン」の概念について、また「人体デッサン」の目的と表現的な特徴について、歴史上の作例をもとに解説する。</p> <p>2. クロッキーとデッサンの違いや、画材としての木炭の特性・表現技法等を説明し、制作の準備を整える。</p> <p>3. 裸婦クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。</p> <p>4. 木炭デッサン(固定ポーズ) 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	なし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-58	履修コード	3901Z2
科目名	絵画 I (素描・静物)	科目英語名	Drawing (Still Life)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介		
授業概要	着彩用具による剥製の精密描写を通して絵画造形の諸要素や原理を学ぶとともに、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。なお本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	モチーフの形・色・質感・量感等を的確に捉え表現することで基礎的描写力を養う		
授業計画	<p>1: 着彩細密描写</p> <p>第 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要および課題説明と制作準備 ・ 自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 <p>第 2~5 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・ 描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら 鉛筆の硬度を使い分けて描写 <p>第 6~7 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水彩絵具の透明性と下塗りー中塗りー仕上げといった行程を学びつつ着彩 <p>2: 講評</p> <p>第 8 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ 各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・ 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映 		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品、選択したモチーフに関する資料		
教材	鉛筆・練りゴム・水彩用具一式・画用紙		
履修上の注意	根気のいる地味な仕事だが、基礎的かつ重要であるため粘り強く観察し表現すること。絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	[A] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C] 対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		
成績評価(平成30年度以降入学者)	[S] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達しており、特に秀でている。 [A] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C] 対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-59	履修コード	3903Z2
科目名	絵画 I (素描・人体)	科目英語名	Drawing (After Nude Model)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	<p>1. 西洋美術に於ける「デッサン」の概念について、また「人体デッサン」の目的と表現的な特徴について、歴史上の作例をもとに解説する。</p> <p>2. クロッキーとデッサンの違いや、画材としての木炭の特性・表現技法等を説明し、制作の準備を整える。</p> <p>3. 裸婦クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。</p> <p>4. 木炭デッサン(固定ポーズ) 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に高いレベルで表現されている。</p> <p>[A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-60	履修コード	3901Z2
科目名	絵画 I (素描・静物)	科目英語名	Drawing (Still Life)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介		
授業概要	着彩用具による剥製の精密描写を通して絵画造形の諸要素や原理を学ぶとともに、表現の多様性や美術分解について理解を深め、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。なお本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	モチーフの形・色・質感・量感等を的確に捉え表現することで基礎的描写力を養う		
授業計画	<p>1: 着彩細密描写</p> <p>第 1 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業概要および課題説明と制作準備 ・ 自身の描写対象である鳥類(剥製)の習性等を調査 <p>第 2~5 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考作品等を元に描写対象の構造と捉え方を学ぶ ・ 描写対象の基本的構造や表面の細部をよく観察しながら 鉛筆の硬度を使い分けて描写 <p>第 6~7 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水彩絵具の透明性と下塗りー中塗りー仕上げといった行程を学びつつ着彩 <p>2: 講評</p> <p>第 8 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記に於いて制作した2点の課題作品を照らし合わせつつ 各自の制作意図や反省点を述べ合いその深化を図る ・ 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し自身に反映 		
予習・復習	日頃から素描作品、絵画作品に関心を持ち、気軽に素描するように心がけること。		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品、選択したモチーフに関する資料		
教材	鉛筆・練りゴム・水彩用具一式・画用紙		
履修上の注意	根気のいる地味な仕事だが、基礎的かつ重要であるため粘り強く観察し表現すること。絵具等の廃棄については、指示通り行うこと。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	[A] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C] 対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		
成績評価(平成30年度以降入学者)	[s] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達しており、特に秀でている。 [A] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、鉛筆による描写と着彩表現の双方がバランスよく高い描写技術レベルに達している [B] 対象の性質や構造を深く理解・観察し、高い技術レベルで描写表現されている [C] 対象の性質や構造を理解・観察し、描写表現されている		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-61	履修コード	3903Z2
科目名	絵画 I (素描・人体)	科目英語名	Drawing (After Nude Model)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	20名程度
担当教員	(非常勤) 武田雄介		
授業概要	裸婦モデルの観察と描写を通して、正確な人体構造の把握に努める。人体素描を通して、形態、明暗の調子、画面構成(構図)など、絵画の造形的諸要素や原理を学ぶと共に、絵画表現全般について理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	観察と描写を通して、正確な人体構造を把握するとともに、平面表現の基礎、創作の基礎を身につける。さらに、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画表現の多様性や美術文化について理解を深める。		
授業計画	<p>1. 西洋美術に於ける「デッサン」の概念について、また「人体デッサン」の目的と表現的な特徴について、歴史上の作例をもとに解説する。</p> <p>2. クロッキーとデッサンの違いや、画材としての木炭の特性・表現技法等を説明し、制作の準備を整える。</p> <p>3. 裸婦クロッキー 限られた時間の中で人体のプロポーションおよび構造を把握し、線等によって描写する。また、様々な角度からのクロッキーを通して、人体の骨格と筋肉の関係についての理解を深める。</p> <p>4. 木炭デッサン(固定ポーズ) 人体を深く観察することで、プロポーションと構造を理解しつつ、デッサンの線、明暗、画面構成などの要素について実践的に学ぶ。また素描用具としての木炭の明暗等の美しさに触れることで、デッサンの美しさについての意識を高める。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	なし。		
参考書	なし。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[S]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が特に高いレベルで表現されている。</p> <p>[A]人体のプロポーションおよび構造を深く理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等に十分な取り組みがなされている。</p> <p>[C]人体のプロポーションおよび構造を理解した上で、線や明暗の美しさ、画面構成等が一定のレベルに達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-62	履修コード	3904Z1
科目名	絵画Ⅱ（版画）	科目英語名	Printmaking（Intaglio）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	20名程度
担当教員	（非常勤）竹内佳奈		
授業概要	銅版画制作を通して、銅版画技法の基本を習得し、絵画を鑑賞する感性や能力を養う。版画・印刷の四版種（凸版、凹版、平版、孔版）についてレクチャーをおこなう。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	版画の四版種の特性について理解する。銅版画技法の基本（製版、刷り等）を習得する。銅版画制作を通して銅版画表現の特徴（銅版の素材としての可能性やマチエールについて）、また昨今の版表現の多様性について理解を深め、銅版画制作を通して創作について考える機会とする。		
授業計画	<p>銅版画技法について解説 直刻法と腐蝕法について ドライポイント、エングレーヴィング（ビュラン）、メゾチント、エッチング、アクアチント、エンボッシングの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニードルによるドライポイントを含めたエッチングの共同作品の制作 ・ 銅版画の作業工程の説明 ・ 共同作品を用いて、エッチングの作業工程のデモンストレーション（腐蝕の仕方、インクの拭き取り方、アクアチントの作業の手順等を説明） <p>各自、下絵やアイデアスケッチ等をもとに制作を開始 個々の表現や進捗状況に応じて、個別にあるいは全員に助言をする。</p> <p>最終日 10：30 制作・刷りの終了 10：45 プレゼンテーション 作品の意図、使用した技法等の解説を含めた発表 12：00 全作品を提出</p> <p>その他 7日間の演習以外に別に定める日（日時及び場所は後日掲示）に、版画の四版種についてのレクチャーをおこなう。版画・印刷の歴史的文化的背景についても理解を深める。</p>		
予習・復習	18×24cm以下のサイズの下絵を予め準備しておくこと。参考書欄の本やDVDを、美大図書館で閲覧すると良い。		
教科書	なし。ただし製版の説明案内（A4）を配付する。		
参考書	『中林忠良の銅版画』アートテクニック・ナウ15（河出書房新社） 『銅版画のテクニック』深澤幸雄 著（ダヴィッド社） 『銅版画のマチエール』駒井哲郎（美術出版社） 『つくる楽しさ・版画技法シリーズ』（VHS）		
教材	180×240×1mmの銅板とハーネミューレ（5761）を使用する。売店で事前に購入のこと。		
履修上の注意	授業開始1週間前までに掲示案内する。初日と別に定めるレクチャーには必ず出席のこと。レクチャーの欠席は不認定となる。作業中インクなどで汚れる可能性があるため、作業服、ゴム手袋、エプロン等持参のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	配点 作品評価90% プレゼンテーション10%（自作品のテーマや技法について明快に説明すること） [A] 絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
成績評価（平成30年度以降入学者）	配点 作品評価90% プレゼンテーション10%（自作品のテーマや技法について明快に説明すること） [S] 優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A] 絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-63	履修コード	3904Z2
科目名	絵画Ⅱ（版画）	科目英語名	Printmaking（Intaglio）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	20名程度
担当教員	（非常勤）竹内佳奈		
授業概要	銅版画制作を通して、銅版画技法の基本を習得し、絵画を鑑賞する感性や能力を養う。版画・印刷の四版種（凸版、凹版、平版、孔版）についてレクチャーをおこなう。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	版画の四版種の特性について理解する。 銅版画技法の基本（製版、刷り等）を習得する。 銅版画制作を通して銅版画表現の特徴（銅版の素材としての可能性やマチエールについて）、また昨今の版表現の多様性について理解を深め、銅版画制作を通して創作について考える機会とする。		
授業計画	<p>銅版画技法について解説 直刻法と腐蝕法について ドライポイント、エングレーヴィング（ビュラン）、メゾチント、エッチング、アクアチント、エンボッシングの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニードルによるドライポイントを含めたエッチングの共同作品の制作 ・ 銅版画の作業工程の説明 ・ 共同作品を用いて、エッチングの作業工程のデモンストレーション（腐蝕の仕方、インクの拭き取り方、アクアチントの作業の手順等を説明） <p>各自、下絵やアイデアスケッチ等をもとに制作を開始 個々の表現や進捗状況に応じて、個別にあるいは全員に助言をする。</p> <p>最終日 10：30 制作・刷りの終了 10：45 プレゼンテーション 作品の意図、使用した技法等の解説を含めた発表 12：00 全作品を提出</p> <p>その他 7日間の演習以外に別に定める日（日時及び場所は後日掲示）に、版画の四版種についてのレクチャーをおこなう。版画・印刷の歴史的文化的背景についても理解を深める。</p>		
予習・復習	18×24cm以下のサイズの下絵を予め準備しておくこと。 参考書欄の本やDVDを、美大図書館で閲覧すると良い。		
教科書	なし。ただし製版の説明案内（A4）を配付する。		
参考書	『中林忠良の銅版画』アートテクニック・ナウ15（河出書房新社） 『銅版画のテクニック』深澤幸雄 著（ダヴィッド社） 『銅版画のマチエール』駒井哲郎（美術出版社） 『つくる楽しさ・版画技法シリーズ』（VHS）		
教材	180×240×1mmの銅板とハーネミューレ（5761）を使用する。売店で事前に購入のこと。		
履修上の注意	授業開始1週間前までに掲示案内する。初日と別に定めるレクチャーには必ず出席のこと。 レクチャーの欠席は不認定となる。 作業中インクなどで汚れる可能性があるため、作業服、ゴム手袋、エプロン等持参のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	配点 作品評価90% プレゼンテーション10%（自作品のテーマや技法について明快に説明すること） [A] 絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		
成績評価（平成30年度以降入学者）	配点 作品評価90% プレゼンテーション10%（自作品のテーマや技法について明快に説明すること） [S] 優れた発想力と共に、黄土な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A] 絵画の造形的諸要素（明暗の対比を含む画面構成）と共に、高い銅版画の技術（マチエール、刷りの美しさなど）に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-64	履修コード	3905Z1
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting（Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○荒木恵信・石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	<p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 <p>第3～7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りを 小下図を基に制作・仕上げる <p>第8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合評 <p>毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	水彩絵具一式・和紙・墨・箔・日本画材		
履修上の注意	絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[A] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B] 日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C] 日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-65	履修コード	3906Z1
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting（Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	（非常勤）横江昌人		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	<p>1. 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。</p> <p>2. 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング</p> <p>3. アンダードローイング</p> <p>4. 中厚塗り</p> <p>5. 中厚塗り</p> <p>6. 中厚塗り グラッシ</p> <p>7. 細部の描写</p> <p>8. 講評、提出</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-66	履修コード	3907Z1
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting（Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）三野哲二		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 ○ 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけて、水洗いする。 ○ 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 ○ パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 ○ 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 ○ 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ○ 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。 		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合わせてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度、出席状況および授業参加の態度を総合して評価する。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-67	履修コード	3905Z1
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting（Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○荒木恵信・石崎誠和		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作をすることにより絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養い、絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	<p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 <p>第3～8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる 合評 <p>毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	水彩絵具一式・和紙（美濃紙）・墨・箔		
履修上の注意	絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品 下図1点 本紙1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B]日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[S]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して特に秀でた自己表現がなされている</p> <p>[A]日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B]日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C]日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-68	履修コード	3906Z1
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting (Oil)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	（非常勤）横江昌人		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	<p>1. 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。</p> <p>2. 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。アンダードローイング</p> <p>3. アンダードローイング</p> <p>4. 中厚塗り</p> <p>5. 中厚塗り</p> <p>6. 中厚塗り グラッシ</p> <p>7. 細部の描写</p> <p>8. 講評、提出</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>[S] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、特に秀でた意識を伴う表現が試みられている。</p> <p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-69	履修コード	3907Z1
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting (Fresco)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（製品デザイン専攻除く）1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）三野哲二		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 ○ 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけて、水洗いする。 ○ 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 ○ パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 ○ 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 ○ 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ○ 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。 		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合わせてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p>		

[C] フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-70	履修コード	3905Z2
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting（Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○石崎誠和・荒木恵信		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	<p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 <p>第3～7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りを 小下図を基に制作・仕上げる <p>第8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合評 <p>毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	水彩絵具一式・和紙・墨・箔・日本画材		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[A] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B] 日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C] 日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-71	履修コード	3906Z2
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting（Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	岩崎 純		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 2. キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。 3. アンダードローイング 4. 中厚塗り 5. 中厚塗り 6. 中厚塗り グラッシ 7. 細部の描写 8. 細部の描写、講評、提出 		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-72	履修コード	3907Z2
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting（Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）三野哲二		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 ○ 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけて、水洗いする。 ○ 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 ○ パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 ○ 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 ○ 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ○ 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。 		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合わせてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-73	履修コード	3905Z2
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting（Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○石崎誠和・荒木恵信		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	<p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 <p>第3～7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りをする 小下図を基に制作・仕上げる <p>第8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合評 <p>毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	水彩絵具一式・和紙・墨・箔・日本画材		
履修上の注意	絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[A] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B] 日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C] 日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[S] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して特に秀でた自己表現がなされている</p> <p>[A] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B] 日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C] 日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-74	履修コード	3906Z2
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting（Oil）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	（非常勤）横江昌人		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 2. キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。 3. アンダードローイング 4. 中厚塗り 5. 中厚塗り 6. 中厚塗り グラッシ 7. 細部の描写 8. 細部の描写、講評、提出 		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>[S] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、特に秀でた意識を伴う表現が試みられている。</p> <p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-75	履修コード	3907Z2
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting（Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）三野哲二		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 ○ 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけて、水洗いする。 ○ 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 ○ パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 ○ 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 ○ 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ○ 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。 		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合わせてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p>		

[C] フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-76	履修コード	3905Z2
科目名	絵画Ⅲ（日本画）	科目英語名	Painting（Japanese）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○石崎誠和・荒木恵信		
授業概要	日本画材に関する基本的知識・技法を理解し、日本画材による制作により絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素や文化について理解を深める。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画材に関する基本的知識を得ると共に、日本画制作の工程である写生・小下図・大下図・本紙制作について理解し習得する。		
授業計画	<p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容説明 ・ 日本画の表現について、多視点でものを見るということについて講義 ・ 授業準備 <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画材の説明 膠・ドーサ・和紙・水干絵具・岩絵具の扱い方 箔技法 <p>第3～7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本画制作、テーマ自由 小下図の作成、アイデアスケッチを基に数枚の下図を作る 小下図を基に大下図（原寸大）を描く 本紙にドーサをして下塗り・地塗りを 小下図を基に制作・仕上げる <p>第8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 合評 <p>毎回講義の最後に簡単な授業メモを提出してもらいます。</p>		
予習・復習	制作準備		
教科書	特になし。		
参考書	参考作品		
教材	水彩絵具一式・和紙・墨・箔・日本画材		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[A] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B] 日本画材と技法について理解し、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C] 日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>提出作品 下図1点 本画1点の計2点と授業に取り組む姿勢により評価する</p> <p>[S] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して特に秀でた自己表現がなされている</p> <p>[A] 日本画材と技法についてより深く理解し、日本画制作を通して高いレベルで自己表現がなされている</p> <p>[B] 日本画材と技法により、日本画制作を通して自己表現がなされている</p> <p>[C] 日本画材と技法により、日本画的表現がなされている</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-77	履修コード	3906Z2
科目名	絵画Ⅲ（油絵）	科目英語名	Painting (Oil)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	(非常勤) 横江昌人		
授業概要	油彩画の材料への理解および段階的な工程をふまえた制作を通して、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する感性や能力を養う。絵画造形の諸要素を学ぶと共に、表現の多様性や美術文化についての理解を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	油彩画の基礎的知識と技法について人物の油彩描写を通して習得し、絵画表現について理解を深めていくなかで、自己の表現世界の可能性を探求する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 油彩画の構造と油彩画制作の工程について解説し、制作の準備を整える。 2. キャンバスに描画するための下準備として、15号キャンバスを木枠の組み立てからキャンバス布張りまでを実際に行う。 支持体、油絵具、画溶液の用具の特質、油彩画制作の基本的なプロセスについて説明する。油彩画制作のためのエスキース制作を行う。 エスキースをもとに制作のイメージを広げ描画にとりかかる。 3. アンダードローイング 4. 中厚塗り 5. 中厚塗り 6. 中厚塗り グラッシ 7. 細部の描写 8. 細部の描写、講評、提出 		
予習・復習	制作準備		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	適宜指示する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>[S] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、特に秀でた意識を伴う表現が試みられている。</p> <p>[A] 積極的な授業への参加と、基礎的な油彩画の材料と使用法について十分に理解した上で、高い意識をもった表現が試みられている。</p> <p>[B] 基礎的な油彩画の材料と使用法について理解をした上で、独自の表現が試みられている。</p> <p>[C] 基礎的な油彩画の材料と使用法について一定の理解をした上で、作品を完成させている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-78	履修コード	3907Z2
科目名	絵画Ⅲ（フレスコ）	科目英語名	Painting（Fresco）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）三野哲二		
授業概要	壁画の古典技法であるフレスコ画の歴史と作品例を学び、実習により壁作りから模写制作を通してフレスコ画の実際を体験する。絵画の原点とも言えるフレスコ画制作により、造形の基礎を学び、同時に古典作品例を鑑賞することで、知識と技法を深める。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	絵画の歴史と意味を考察する力を養う。フレスコ画の基本的技術を習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典作品解説と実際の作業工程の説明 画集等により、数々の古典作品を鑑賞し、実際に自分の行う模写作品を選ぶ。 ○ 壁作りのための砂洗い（共同作業） 石灰モルタル（石灰と川砂を水で練ったもの）で壁塗りを行うが、その時使用する川砂をふるいにかけて、水洗いする。 ○ 模写のための作品を各自選択 図書館等で、自分の行いたい作品を選び出す。条件としては人物が一人以上入った部分。フレスコ画は壁画であるため大きい作品であるため、その一部をトリミングして使用する。 ○ パネル作りと下塗り 簡易な壁としての下地となるパネルを作る。その上に前もって練っておいた石灰モルタルをコテで塗りつける。木工用具・左官用具の扱い方、注意点などの説明を行う。 ○ 下絵作り 選んだ原画を拡大し、描画時の画面サイズのものを作る。時間短縮のためコピー機使用。原画もカラーコピーし用いる。画集の汚れ防止と軽量化のため。 ○ 描画と仕上げ 下塗りと同様に壁塗りし、生乾きの内に描き上げる。フレスコの性質上気候条件に左右される為、その状況に応じて制作を行う。 ○ 作品講評 制作時の疑問点などの質疑応答も行う。 		
予習・復習	三野哲二『フレスコ画の技法』日貿出版社（図書館にあり）を、制作の進行に合わせてよく読むこと。		
教科書	三野哲二『フレスコ画の技法』（図書館に所蔵）		
参考書	宮下孝晴『フレスコ画のルネサンス』		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加して欲しい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>成績評価 課題作品提出。（模写、自由制作） 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。</p> <p>[A] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] フレスコ画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p>		

[C] フレスコ画についての基本的な知識が技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-79	履修コード	3908Z1
科目名	彫刻 I (塑造)	科目英語名	Sculpture I (Modeling)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	デザイン科 (環境デザイン専攻除く) 2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性について 造形の諸要素について クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 各自の表現テーマを探る。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 土付けによる質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 合評 <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>(1から5は授業の進行を示す)</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>製作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。</p> <p>[A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>製作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。</p> <p>[S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-80	履修コード	3909Z1
科目名	彫刻Ⅱ（彫造）	科目英語名	Sculpture II (Carving)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：各自の主題に基づく木彫制作</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性について 造形の諸要素について 素材や技術、道具についての説明 各自の主題決定 自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り イメージの造形化 木彫による制作 <ul style="list-style-type: none"> 木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 材料を有効に使えるように墨入れをする。 作品のイメージを大切に荒取りする。 量感と面を意識して粗彫りを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 鑿あと等による質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 作品の効果を考え必要に応じて着色する。 合評 <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-81	履修コード	3908Z2
科目名	彫刻 I (塑造)	科目英語名	Sculpture I (Modeling)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (後半)
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性について 造形の諸要素について クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 各自の表現テーマを探る。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 土付けによる質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 合評 <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>(1から5は授業の進行を示す)</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-82	履修コード	3909Z2
科目名	彫刻Ⅱ（彫造）	科目英語名	Sculpture II (Carving)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：各自の主題に基づく木彫制作</p> <p>1 概説および課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 <p>2 自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り</p> <p>3 イメージの造形化</p> <p>4 木彫による制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切に荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 <p>5 合評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-83	履修コード	3908Z2
科目名	彫刻 I (塑造)	科目英語名	Sculpture I (Modeling)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (後半)
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○土井宏二・浜田周		
授業概要	人物塑像の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	塑像の制作を通して、モデリング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性について 造形の諸要素について クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 各自の表現テーマを探る。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 土付けによる質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 合評 <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>(1から5は授業の進行を示す)</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費自己負担。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-84	履修コード	3909Z2
科目名	彫刻Ⅱ（彫造）	科目英語名	Sculpture Ⅱ (Carving)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	25名
担当教員	○石田陽介・芝山昌也		
授業概要	木彫の制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお本科目は、彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	木彫の制作を通して、カービング技法の基本を習得する。また彫刻が持つ独自の美しさを体感するとともに造形の原理について理解する。		
授業計画	<p>内容：各自の主題に基づく木彫制作</p> <p>1 概説および課題説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 ・表現の多様性について ・造形の諸要素について ・素材や技術、道具についての説明 ・各自の主題決定 <p>2 自然観察を基本に主題に基づくデッサンおよびイメージ作り</p> <p>3 イメージの造形化</p> <p>4 木彫による制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 ・材料を有効に使えるように墨入れをする。 ・作品のイメージを大切に荒取りする。 ・量感と面を意識して粗彫りを行う。 ・全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 ・鑿あと等による質感の工夫をする。 ・全体の調子を整えながら仕上げる。 ・作品の効果を考え必要に応じて着色する。 <p>5 合評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 ・作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 <p>（1から5は授業の進行を示す）</p>		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、身近な自然物のデッサン、クロッキーを行い、造形について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	実習費（材料および道具類）自己負担（1,000円程度）。作業が安全に行える服装着用のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-85	履修コード	3912Z1
科目名	デザイン I (写真)	科目英語名	Design I (Photograph)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	
担当教員	鈴木康雄		
授業概要	撮影からプリントおよびスタジオでのライティングについて、実習を通して学ぶ。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カメラの扱いかた、モノクロプリント現像で使用する薬品や温度と時間の管理を忠実にを行い、美しいプリントを仕上げる。 目標を立ててスタジオのライティングを行い、デジタルカメラの機能を理解して、プリントまでのプロセスを学ぶ。		
授業計画	<p>1日目：ガイダンス、デジタルカメラによる撮影開始 (カメラの構造とレンズの特性、露出について講義)</p> <p>2日目：フィルム出力</p> <p>3日目：フィルム出力</p> <p>4日目：プリント現像 (プリント現像のプロセスについて講義)</p> <p>5日目：プリント現像</p> <p>6日目：スタジオ実習 (デジタルカメラを使用) (モチーフとライティングについて講義)</p> <p>7日目：スタジオ実習 (デジタルカメラを使用)</p> <p>8日目：合評</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時資料を提示する。		
参考書	授業の中で随時資料を提示する。		
教材	授業の中で随時資料を提示する。		
履修上の注意	★デジタルカメラ (一眼レフまたはミラーレス一眼が望ましい) を用意できること。 ない場合は履修登録前に相談に来てください。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A] 写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C] 写真に関する知識と表現が習得されている。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S] 写真に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A] 写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B] 写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C] 写真に関する知識と表現が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-86	履修コード	3939Z1
科目名	デザイン I (インタラクティブ)	科目英語名	Design I (Interactive)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	下浜臨太郎		
授業概要	<p>「デザイン」と「アート」って、似てるようでぜんぜん違う。何が違うんだろう？つかみどころない問いかもしれないけれど、実はこれから芸術と向き合うみなさんにとって、とても大事な考え方の違いです。デッサンをする力、色彩を構成する力、立体をつくる力…それらの力を使う手前の段階に存在する「デザインとアートの考え方の違い」。その考え方の違いをなんとなくでも考えてみるきっかけとなる授業です。実際の考え、手を動かし、結果をみることにより、デザインを考える楽しさ、難しさ、発想方法の多様性、伝え方、可能性、などを学びます。デザインとアートの違いがわからない…表現はできるけどアイデアの出し方がわからない…といった方におすすめの授業です。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。</p>		
到達目標	<p>1. デザインとアートの制作過程の違いを体感する 2. 他人の受け取り方を考えた発想ができるようになる</p>		
授業計画	<p>◎第1部:「XX」をさせろ!ゲーム</p> <p>きみの仕掛けた罠に、クラスメイトがハマる!お互いに罠を仕掛け合うインタラクティブゲーム!ゲームが開始したら、相手に見えないように限られたブースの中に、なんらかの仕掛けをせよ。5分後に相手が入ってくるぞ。きみは自分が思った通りに相手を動かすことができるか!?'表現し鑑賞する人を感動させる'こと、とは違った難しさと向き合うことになるゲームです。</p> <p>◎第2部:「XX」をつかって「〇〇」をさせろ!ゲーム</p> <p>第1部の進化系となるゲーム。限定された素材をつかってレッツ工作。仕切られたブースに自分のつくった装置を設置し反応を見ます。何が素材になるのかは当日まで秘密!限られた素材、限られた時間の中で目的を達成するには…?表現の力より、考え方、アイデアの力が重要になってくる授業です。</p> <p>○まとめ:「インタラクティブ」ってなに?</p> <p>アフォーダンスをテーマにした教材 (http://ekrits.jp/2015/09/1808/) を配布します。身近な事例から、インタラクティブなデザインを発見し、これからの制作に役立てられればと思います。</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	筆記用具/スマートフォン		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用し、目的に合った制作物をつくること ができた。</p> <p>[B] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用することができた。</p> <p>[C] インタラクティブという概念を理解できた。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[S] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用し、他にはない制作物に昇華することが できた。</p> <p>[A] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用し、目的に合った制作物をつくること ができた。</p> <p>[B] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用することができた。</p> <p>[C] インタラクティブという概念を理解できた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-87	履修コード	3912Z1
科目名	デザイン I (写真)	科目英語名	Design I (Photograph)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(前半)
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	
担当教員	鈴木康雄		
授業概要	撮影からプリントおよびスタジオでのライティングについて、実習を通して学ぶ。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カメラの扱いかた、モノクロプリント現像で使用する薬品や温度と時間の管理を忠実にを行い、美しいプリントを仕上げる。 目標を立ててスタジオのライティングを行い、デジタルカメラの機能を理解して、プリントまでのプロセスを学ぶ。		
授業計画	<p>1日目：ガイダンス、デジタルカメラによる撮影開始 (カメラの構造とレンズの特性、露出について講義)</p> <p>2日目：フィルム出力</p> <p>3日目：フィルム出力</p> <p>4日目：プリント現像 (プリント現像のプロセスについて講義)</p> <p>5日目：プリント現像</p> <p>6日目：スタジオ実習(デジタルカメラを使用) (モチーフとライティングについて講義)</p> <p>7日目：スタジオ実習(デジタルカメラを使用)</p> <p>8日目：合評</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時資料を提示する。		
参考書	授業の中で随時資料を提示する。		
教材	授業の中で随時資料を提示する。		
履修上の注意	★デジタルカメラ(一眼レフまたはミラーレス一眼が望ましい)を用意できること。 ない場合は履修登録前に相談に来てください。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]写真に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-88	履修コード	3939Z1
科目名	デザイン I (インタラクティブ)	科目英語名	Design I (Interactive)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	下浜臨太郎		
授業概要	<p>「デザイン」と「アート」って、似てるようでぜんぜん違う。何が違うんだろう？つかみどころない問いかもしれないけれど、実はこれからモノをつくるみんなにはとても大事な考え方の違いです。デザインをする力、色彩を構成する力、立体をつくる力…それらの力を使う手前の段階に存在する「デザインとアートの考え方の違い」。その考え方の違いをなんとなくでも考えてみるきっかけとなる授業です。実際の考え、手を動かし、結果をみることにより、デザインを考える楽しさ、難しさ、発想方法の多様性、伝え方、可能性、などを学びます。デザインとアートの違いがわからない…表現はできるけどアイデアの出し方がわからない…といった方にピッタリの授業です。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. デザインとアートの制作過程の違いを体感する 2. 他人の受け取り方を考えた発想ができるようになる 		
授業計画	<p>○第1部：「XX」をさせろ！ゲーム</p> <p>きみの仕掛けた罠に、クラスメイトがハマる!?お互いに罠を仕掛け合うインタラクティブゲーム！ゲームが開始したら、相手に見えないように限られたブースの中に、なんらかの仕掛けをせよ。5分後に相手が入ってくるぞ。きみは自分が思った通りに相手を動かすことができるか!?「表現し鑑賞する人を感動させる」こと、とは違った難しさと向き合うことになるゲームです。</p> <p>○第2部：「XX」をつかって「OO」をさせろ！ゲーム</p> <p>第1部の進化系となるゲーム。限定された素材をつかってレッツ工作。仕切られたブースに自分のつくった装置を設置し反応を見ます。何が素材になるのかは当日まで秘密！限られた素材、限られた時間の中で目的を達成するには…？表現の力より、考え方、アイデアの力が重要になってくる授業です。</p> <p>○まとめ：「インタラクティブ」ってなに？</p> <p>アフォーダンスをテーマにした教材 (http://ekrits.jp/2015/09/1808/) を配布します。身近な事例から、インタラクティブなデザインを発見し、これからの制作に役立てられればと思います。</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	筆記用具		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用し、目的に合った制作物をつくることのできた。</p> <p>[B] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用することができた。</p> <p>[C] インタラクティブという概念を理解できた。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>制作物をとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[S] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用し、他にはない制作物に昇華することができた。</p> <p>[A] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用し、目的に合った制作物をつくることのできた。</p> <p>[B] インタラクティブという概念を理解し、それを制作に応用することができた。</p> <p>[C] インタラクティブという概念を理解できた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-89	履修コード	3914Z2
科目名	デザイン I (ペーパーストラクチュア)	科目英語名	Design I (Paper Structure)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	工藤俊之		
授業概要	紙の素材を理解し加工し、生物や動物などの立体物を制作する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	平面から、素材を切る、曲げる、折る、巻き込む、繋ぐ等の加工をして生物を制作する。一枚の紙から、形成する立体物の面白さを体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 生物や動物などのスケッチをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図鑑などの参考資料を利用する。 ・ 紙に加工する時にどうなるか考えてスケッチすること。 2) ケント紙にパーツを配置する。(A3ケント紙、数枚程度) <ul style="list-style-type: none"> ・ 精確に描くのではなく、ラフ程度で良い。 3) 素材を加工する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 切る、曲げる、折る、紡ぐなど。 4) 接着して完成する。 5) 写真撮影する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒バックで撮影する。 6) プレゼンテーションを行う。 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	動物図鑑、生物図鑑、写真集など		
教材	カッター・ハサミ・定規・カッターマット・ペーパーセメント・テープ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。</p> <p>[A]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[B]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。</p> <p>[C]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を理解することができた。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。</p> <p>[S]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[A]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[B]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。</p> <p>[C]ペーパーストラクチュアに関する基本的な知識と技術を理解することができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-90	履修コード	3912Z1
科目名	デザイン I (写真)	科目英語名	Design I (Photograph)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	
担当教員	鈴木康雄		
授業概要	撮影からプリントおよびスタジオでのライティングについて、実習を通して学ぶ。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カメラの扱いかた、モノクロプリント現像で使用する薬品や温度と時間の管理を忠実にを行い、美しいプリントを仕上げる。 目標を立ててスタジオのライティングを行い、デジタルカメラの機能を理解して、プリントまでのプロセスを学ぶ。		
授業計画	<p>1日目：ガイダンス、デジタルカメラによる撮影開始 (カメラの構造とレンズの特性、露出について講義)</p> <p>2日目：フィルム出力</p> <p>3日目：フィルム出力</p> <p>4日目：プリント現像 (プリント現像のプロセスについて講義)</p> <p>5日目：プリント現像</p> <p>6日目：スタジオ実習(デジタルカメラを使用) (モチーフとライティングについて講義)</p> <p>7日目：スタジオ実習(デジタルカメラを使用)</p> <p>8日目：合評</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	授業の中で随時資料を提示する。		
参考書	授業の中で随時資料を提示する。		
教材	授業の中で随時資料を提示する。		
履修上の注意	★デジタルカメラ(一眼レフまたはミラーレス一眼が望ましい)を用意できること。 ない場合は履修登録前に相談に来てください。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [S]写真に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A]写真に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に取り入れられている。 [B]写真に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。 [C]写真に関する知識と表現が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-91	履修コード	3915Z1
科目名	デザインⅡ（椅子）	科目英語名	Design II（Chair）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	9名
担当教員	根来貴成		
授業概要	段ボールを素材として自分の椅子をデザインする。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	段ボールという平面素材に、切る、折る、曲げを加え、それを組むことで椅子としての立体を完成させる。 座れる機能や構造を実現するだけでなく、座りたくなる形を追求し、デザイン（機能、構造、素材、形態の融合化）を理解する。 デザインの思考方法と作業プロセスの基本を理解する。		
授業計画	<p>1m×2mの段ボールを各人に5枚配布する。この5枚を使用して、試作検証、改良と飛躍を試み最終作品を完成させる。 制作はデザインの基本的なプロセスにのっとりおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、椅子ってなに？ 2、椅子素材として段ボールの理解 3、アイデア展開 4、スケールモデル 5、1/1試作 6、検証 7、デザインの改良 8、最終制作 9、プレゼンテーションボード作成 10、プレゼンテーション 		
予習・復習	段ボールの特性や椅子の構造について考察しておくこと。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	図書館にある椅子が載っているデザイン関連書籍。		
教材	段ボール・カッター・定規・カッティングマット		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] デザインに関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B] デザインに関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C] デザインに関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が特に高いレベルに到達している。 [A] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が高いレベルに到達している。 [B] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が一定のレベルに到達している。 [C] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が十分ではないが到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-92	履修コード	3916Z1
科目名	デザインⅡ（ステーションナリー）	科目英語名	Design Ⅱ (Daily Necessities)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	木材加工室
単位	1	定員	10名
担当教員	村中 稔		
授業概要	人との、使用環境の関係を考えることをとおして、プロダクトデザインの開発プロセスを体得する。 与えられた条件の中で時計をデザインし制作する。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	人を中心とした生活空間やライフスタイルを認識し、生活者の視点から道具を考えられる。 造形と色彩、素材の関係を把握できる。 作品に込めた自分の意思が伝えられる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、デザインとは何か デザインの本質について製品デザインを例に広く概説を行う。 2、アイデア展開：可能性を広げるためスケッチを描く。 3、ラフモデル：使い勝手や造形を把握するため、紙によるモデル検討をする。 4、デザイン決定と細部検討 5、最終モデル：用意された材料を有効に用い、実際に使用できる作品を制作する。 6、最終モデル：完成した素地に着色 7、最終モデル：ムーブメントの加工および取り付け、組み立て、仕上げ 8、パッケージ制作 9、プレゼンテーション 		
予習・復習	自身が経営する会社のイメージに合致する動物を検討する。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スケッチブック・ヤスリ・サンドペーパー・アクリル絵の具・筆 映像による資料紹介		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が特に高いレベルで表現されている。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-93	履修コード	3938Z1
科目名	デザインⅡ（ファッション）	科目英語名	Design II (Fashion)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	13名
担当教員	○村山祐子（非常勤）平塚聖子 他未定		
授業概要	ファッションクリエイティブの導入を体験し、基礎的なスキルを習得する。 主にデザイン画、パターン、ファッションテキスタイルデザイン等。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ファッションデザインにおけるデザインの目的、生地とデザインの整合性等 全体のプロセスを体系的に理解する。デザイン画における伝達能力や素材表現方法、パターンでの表現方法、テキスタイルデザインの可能性などを演習により習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 デザインイメージを実際に具現化する。 トルソーを使用し、ファッションアイテムを試作する。 ・講評 各自に簡単なプレゼンをさせ、講評をする。 		
予習・復習	事前に商業施設等を回り、リサーチしておく事。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	遅刻欠席厳禁。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-94	履修コード	3915Z1
科目名	デザインⅡ（椅子）	科目英語名	Design II（Chair）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	9名
担当教員	根来貴成		
授業概要	段ボールを素材として自分の椅子をデザインする。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	段ボールという平面素材に、切る、折る、曲げを加え、それを組むことで椅子としての立体を完成させる。 座れる機能や構造を実現するだけでなく、座りたくなる形を追求し、デザイン（機能、構造、素材、形態の融合化）を理解する。 デザインの思考方法と作業プロセスの基本を理解する。		
授業計画	<p>1m×2mの段ボールを各人に5枚配布する。この5枚を使用して、試作検証、改良と飛躍を試み最終作品を完成させる。 制作はデザインの基本的なプロセスにのっとりおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、椅子ってなに？ 2、椅子素材として段ボールの理解 3、アイデア展開 4、スケールモデル 5、1/1試作 6、検証 7、デザインの改良 8、最終制作 9、プレゼンテーションボード作成 10、プレゼンテーション 		
予習・復習	段ボールの特性や椅子の構造について考察しておくこと。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	図書館にある椅子が載っているデザイン関連書籍。		
教材	段ボール・カッター・定規・カッティングマット		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] デザインに関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B] デザインに関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C] デザインに関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が特に高いレベルに到達している。 [A] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が高いレベルに到達している。 [B] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が一定のレベルに到達している。 [C] デザインに関する視野を広げることができ、その特性を活かした表現が十分ではないが到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-95	履修コード	3916Z1
科目名	デザインⅡ（ステーションナリー）	科目英語名	Design Ⅱ (Daily Necessities)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	木材加工室
単位	1	定員	10名
担当教員	村中 稔		
授業概要	人との、使用環境の関係を考えることをとおして、プロダクトデザインの開発プロセスを体得する。 与えられた条件の中で時計をデザインし制作する。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	人を中心とした生活空間やライフスタイルを認識し、生活者の視点から道具を考えられる。 造形と色彩、素材の関係を把握できる。 作品に込めた自分の意思が伝えられる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、デザインとは何か デザインの本質について製品デザインを例に広く概説を行う。 2、アイデア展開：可能性を広げるためスケッチを描く。 3、ラフモデル：使い勝手や造形を把握するため、紙によるモデル検討をする。 4、デザイン決定と細部検討 5、最終モデル：用意された材料を有効に使い、実際に使用できる作品を制作する。 6、最終モデル：完成した素地に着色 7、最終モデル：ムーブメントの加工および取り付け、組み立て、仕上げ 8、パッケージ制作 9、プレゼンテーション 		
予習・復習	自身が経営する会社のイメージに合致する動物を検討する。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スケッチブック・ヤスリ・サンドペーパー・アクリル絵の具・筆 映像による資料紹介		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が特に高いレベルで表現されている。 [A]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C]デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-96	履修コード	3938Z1
科目名	デザインⅡ（ファッション）	科目英語名	Design Ⅱ (Fashion)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	13名
担当教員	○村山祐子（非常勤）平塚聖子 他未定		
授業概要	ファッションクリエイティブの導入を体験し、基礎的なスキルを習得する。 主にデザイン画、パターン、ファッションテキスタイルデザイン等。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ファッションデザインにおけるデザインの目的、生地とデザインの整合性等 全体のプロセスを体系的に理解する。デザイン画における伝達能力や素材表現方法、パターンでの表現方法、テキスタイルデザインの可能性などを演習により習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 デザインイメージを実際に具現化する。 トルソーを使用し、ファッションアイテムを試作する。 ・講評 各自に簡単なプレゼンをさせ、講評をする。 		
予習・復習	事前に商業施設等を回り、リサーチしておく事。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	遅刻欠席厳禁。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが十分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが十分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-97	履修コード	3916Z2
科目名	デザインⅡ (ステーショナリー)	科目英語名	Design II (Daily Necessities)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (後半)
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	コンピュータ室・石膏造形室
単位	1	定員	16名
担当教員	安島 諭		
授業概要	<p>行為の分析を通じて、持ちやすく使いやすいボールペンを、3Dプリンターを用いて製作する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。</p> <p>*教室の使用状況によっては内容が変更される場合がある。</p>		
到達目標	<p>プロダクトデザインにおけるデザインの目的、デザイナーの役割、製品開発全体のプロセスを包括的に理解する。 人間工学的視点の理解と実践。評価と洗練の方法を学び実践する。 3D技術を使用したデザインプロセスの長所短所を理解し、ラピッドプロトタイピングの過程を経験・理解する。</p>		
授業計画	<p>1：デザインの本質や、デザインの歴史について、製品デザインを例に広くデザイン一般の概説を行う。 2：3Dソフトウェア、3Dプリンターについての基礎的知識・技術の講義。 3：リサーチ、行為からくるニーズの発見、ブレインストーミング、プレゼンテーション。 4：スケッチと簡易モデルによるアイデア展開。 5：デザイン選択とブラッシュアップ、3Dデータの作成。 6：3Dプリンターによる制作。 7：軸の取り付け、組み立て、仕上げ。 8：プレゼンテーション・合評</p> <p>完成した作品について、各自制作意図やなぜそのような造形を選択したかなどについて発表し、使い勝手や美しさを追求して創造するかたちについて考察する。他人の人の発表を聞き、それに対して自分の考えを述べる。</p>		
予習・復習	<p>書の道具にまつわるもの、指先でつまむものの形についてリサーチをしてくること。 自分が所有するありったけのペンを持参すること。 モデル製作によるアイデア展開を宿題とする。</p>		
教科書	適宜資料を配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	芯として使用するボールペン、石粘土を配布。3Dプリンターを使用する。		
履修上の注意	授業においてはコンピューターの基本的な使い方については触れない。ある程度使い方に習熟している必要がある。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業参加を総合して評価する。 [A] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>課題提出およびプレゼンテーション 個々の課題の到達度、積極的な授業参加を総合して評価する。 [S] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が秀でたレベルで表現されている。 [A] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-98	履修コード	391722
科目名	デザインⅡ（日用品）	科目英語名	Design II (Daily Necessities)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	プラスチック加工室
単位	1	定員	12名
担当教員	浅野 隆		
授業概要	この授業のテーマは「真空成型機を使用した壁掛け時計のデザイン」です。ねらいは、時計のデザインを通してプロダクトデザインの概要と進め方を理解することです。具体的には、与えられた条件の中で、使いやすく美しい、実際に使える壁掛け時計をデザイン制作します。製作後にプレゼンテーションを行い、その後、工房前の廊下にて展示します。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	学生が、プロダクトデザインのプロセス全般を理解し、アイデア発想法、ブレインストーミング手法、調査方法、プレゼンテーションスキルの習得を目的とします。		
授業計画	<p>1日目：各自、他人に名前を覚えてもらえるようにアイデアを考て自己紹介をおこなう。授業に関するオリエンテーション。真空成型機を使ってデモンストレーションを行う。 宿題①インターネット等で色々な壁掛け時計を調査しプリントしてくる。②真空成型してみたいサンプルを探してくる。</p> <p>2日目より毎日、自由テーマによる5分間プレゼンテーションを一人ずつ（2名）行い、全員に良かった点をコメントしてもらう。（人に自分の想いを伝えることの難しさを知る。人の話をしっかりと聞くことの重要性を知る） 2日目：企業でのプロダクトデザインの進め方をスライドにて説明。持ち寄ったサンプルを真空成型してみる。 持ち寄った壁掛け時計を壁に貼り、壁掛け時計にとってデザインポイントとなるキーワードをブレインストーミングで全員で描き出す。描き出されたアイデアの中から関係のありそうなものをグループで分けて整理する。</p> <p>3日目：アイデアを考える。思いついたらすぐにモデルを作ったり、スケッチを描いたり、実際にサンプルを真空成型してみる。</p> <p>4日目：アイデアを考える。思いついたらすぐにモデルを作ったり、スケッチを描いたり、実際にサンプルを真空成型してみる。</p> <p>5日目：デザイン決定。型制作。</p> <p>6日目：真空成型。真空成型されたプラスチックの加工及時計のムーブメントの組み立て。塗装仕上げ等。</p> <p>7日目：真空成型。真空成型されたプラスチックの加工及時計のムーブメントの組み立て。塗装仕上げ等。</p> <p>8日目：展示およびプレゼンテーション。各自の壁掛け時計のコンセプトと授業全体の感想を発表する。</p>		
予習・復習	予習：時計の歴史について調べてくる。世界中の壁掛け時計を調べる。真空成型とは何かを調べる。 復習：真空成型機の取り扱いをメモして、復習し使い方をマスターする。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	見えるアイデア 秋草 孝 毎日新聞 / デザインの煎じ薬・全十三包 武正秀治 美術出版社		
教材	カピロンプレート1mm白（真空成形用）・ゴールドンボード（型紙用）・時計のムーブメント		
履修上の注意	汚れても良い服装。 全員5分間のmini TEDとしてプレゼンテーションを行います。内容は問いません用意しておいて下さい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	成績評価 合評対象作品（1回） 個々の課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで昇華されている。 [B] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに昇華されている。 [C] デザインの基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。		

成績評価（平成30年度以降入学者）

個々の課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。

[S] デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が特に秀でたレベルで昇華され、到達目標を十分に達成している。

[A] デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が高いレベルで昇華され、到達目標を十分に達成している。

[B] デザインの基本的な知識や技術、それを活かして作品が十分なレベルに昇華され、到達目標を達成している。

[C] デザインの基本的な知識や技術、それを活かした作品が十分ではないが到達目標を達成している。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-99	履修コード	3938Z2
科目名	デザインⅡ（ファッション）	科目英語名	Design Ⅱ (Fashion)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	10名
担当教員	村山祐子（非常勤）○平塚聖子 他未定		
授業概要	ファッションクリエイティブの導入を体験し、基礎的なスキルを習得する。 主にデザイン画、パターン、ファッションテキスタイルデザイン等。 なお、本科目はデザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ファッションデザインにおけるデザインの目的、生地とデザインの整合性等 全体のプロセスを体系的に理解する。デザイン画における伝達能力や素材表現方法、パターンでの表現方法、テキスタイルデザインの可能性などを演習により習得する。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 デザインイメージを実際に具現化する。 トルソーを使用し、ファッションアイテムを試作する。 ・講評 各自に簡単なプレゼンをさせ、講評をする。 		
予習・復習	事前に商業施設等を回り、リサーチしておく事。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	欠席遅刻厳禁。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-100	履修コード	3919Z1
科目名	デザインⅢ（ディスプレイ）	科目英語名	Design III (Display)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	「折り紙建築」を題材にデザインの魅力や具現化の方法を体験する。折り紙の手法を応用して1枚の紙から建築物やオブジェなど様々な立体的な造形物を表現する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カッターや定規などを使用し、デザインの基礎、構造と空間の感覚をやしなう。 デザインの目的や機能を幅広く学ぶと共に、各自の発想や考え方を第三者に伝えることが出来たか、小さな感動を与えられたか、その計画を実行することが出来たか等、デザインの基本的な作業を体験してデザインの魅力に迫る。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 デザインの基礎的手法、プロセス、機能や目的について、空間デザインを例に広くデザイン一般の概説を行う。 2 テーマを設定する。 各自のテーマを決定する。 3 企画、アイデア、表現テーマを発表する。 色彩、材料と加工方法を念頭におきながら発表する。 4 アイデア、表現テーマをもとに材料を準備し制作する。 5 完成された作品と展開図を発表する 		
予習・復習	事前に資料収集をしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	年鑑日本の空間デザイン他		
教材	素材サンプル他		
履修上の注意	デザインを段階的に進行させて学ぶためにスケジュールを重視する。各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現ができています。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-101	履修コード	3919Z1
科目名	デザインⅢ（ディスプレイ）	科目英語名	Design III (Display)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	「折り紙建築」を題材にデザインの魅力や具現化の方法を体験する。折り紙の手法を応用して1枚の紙から建築物やオブジェなど様々な立体的な造形物を表現する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カッターや定規などを使用し、デザインの基礎、構造と空間の感覚をやしなう。 デザインの目的や機能を幅広く学ぶと共に、各自の発想や考え方を第三者に伝えることが出来たか、小さな感動を与えられたか、その計画を実行することが出来たか等、デザインの基本的な作業を体験してデザインの魅力に迫る。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 デザインの基礎的手法、プロセス、機能や目的について、空間デザインを例に広くデザイン一般の概説を行う。 2 テーマを設定する。 各自のテーマを決定する。 3 企画、アイデア、表現テーマを発表する。 色彩、材料と加工方法を念頭におきながら発表する。 4 アイデア、表現テーマをもとに材料を準備し制作する。 5 完成された作品と展開図を発表する 		
予習・復習	事前に資料収集をしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	年鑑日本の空間デザイン他		
教材	素材サンプル他		
履修上の注意	デザインを段階的に進行させて学ぶためにスケジュールを重視する。各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現ができています。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-102	履修コード	3937Z1
科目名	デザインⅢ (オブザベーション)	科目英語名	Design Ⅲ (Observation)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	北村賢哉		
授業概要	視点を变えるだけで普段何気なく見ている景色の見え方が劇的に变化することをワークショップ形式で体験します。見えていなかったものを見つける力や想像する力を養います。与えられたテーマを見つけるために金沢の街で路上観察を行います。写真に記録して持ち帰り、分析・編集したものを作品として発表します。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	創造活動における基礎力である発見する力、想像する力、伝える力を拡張する。		
授業計画	<p>1、ガイダンス ワークショップの概要について事例を紹介しながら説明を行う。クリエイターにとってオブザベーションがどの様に必要か、役に立つかを解説する。また、過去の事例からその世界観を感じてもらおう。</p> <p>2、観察 与えられたテーマをもとに各自が金沢市内で路上観察を行う。まずは目と脳の間を新たに構築しなおし、視点を变える感覚をつかむことから始める。</p> <p>3、発見 目的に適ったものを見つけたら写真に記録する。記録容量を気にせずに沢山撮る方が良い。</p> <p>5、分析 見つけた写真の構図を決めて正方形にトリミングする。この作業によって作品の精度が大きく変化する。見せたい部分に焦点を当て、的確なレイアウトを見つける。</p> <p>6、編集 作品として表現するために写真をレイアウトする。ロールプリンターで大きく印刷する。</p> <p>7、評価 スライドショーによるプレゼンテーションを実施する。</p>		
予習・復習	金沢市に関する情報を収集しておくこと。		
教科書	なし		
参考書	なし		
教材	画像を記録し、記録媒体でパソコンへ転送できる機器 (デジカメやスマートフォン等) を用意すること。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通じた課題の到達度を総合的に評価する。 [A] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが十分なレベルに到達している。 [C] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通じた課題の到達度を総合的に評価する。 [S] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達し、成果に秀でた点が見られる。 [A] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが十分なレベルに到達している。 [C] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-103	履修コード	3937Z1
科目名	デザインⅢ (オブザベーション)	科目英語名	Design III (Observation)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	北村賢哉		
授業概要	視点を变えるだけで普段何気なく見ている景色の見え方が劇的に变化することをワークショップ形式で体験します。見えていなかったものを見つける力や想像する力を養います。与えられたテーマを見つけるために金沢の街で路上観察を行います。写真に記録して持ち帰り、分析・編集したものを作品として発表します。 なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目です。		
到達目標	創造活動における基礎力である発見する力、想像する力、伝える力を拡張する。		
授業計画	<p>1、ガイダンス ワークショップの概要について事例を紹介しながら説明を行う。クリエイターにとってオブザベーションがどの様に必要か、役に立つかを解説する。また、過去の事例からその世界観を感じてもらおう。</p> <p>2、観察 与えられたテーマをもとに各自が金沢市内で路上観察を行う。まずは目と脳の間を新たに構築しなおし、視点を变える感覚をつかむことから始める。</p> <p>3、発見 目的に適ったものを見つけたら写真に記録する。記録容量を気にせずに沢山撮る方が良い。</p> <p>5、分析 見つけた写真の構図を決めて正方形にトリミングする。この作業によって作品の精度が大きく変化する。見せたい部分に焦点を当て、的確なレイアウトを見つける。</p> <p>6、編集 作品として表現するために写真をレイアウトする。ロールプリンターで大きく印刷する。</p> <p>7、評価 スライドショーによるプレゼンテーションを実施する。</p>		
予習・復習	金沢市に関する情報を収集しておくこと。		
教科書	なし		
参考書	なし		
教材	画像を記録し、記録媒体でパソコンへ転送できる機器（デジカメやスマートフォン等）を用意すること。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通じた課題の到達度を総合的に評価する。 [A] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが十分なレベルに到達している。 [C] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	積極的な授業態度、作品およびプレゼンテーションを通じた課題の到達度を総合的に評価する。 [S] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達し、成果に秀でた点が見られる。 [A] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが高いレベルに到達している。 [B] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが十分なレベルに到達している。 [C] 行動力、発見力、分析力、編集力、デザインなどが一定のレベルに到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-104	履修コード	3919Z2
科目名	デザインⅢ（ディスプレイ）	科目英語名	Design III (Display)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	畝野裕司		
授業概要	「折り紙建築」を題材にデザインの魅力や具現化の方法を体験する。折り紙の手法を応用して1枚の紙から建築物やオブジェなど様々な立体的な造形物を表現する。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	カッターや定規などを使用し、デザインの基礎、構造と空間の感覚をやしなう。 デザインの目的や機能を幅広く学ぶと共に、各自の発想や考え方を第三者に伝えることが出来たか、小さな感動を与えられたか、その計画を実行することが出来たか等、デザインの基本的な作業を体験してデザインの魅力に迫る。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 デザインの基礎的手法、プロセス、機能や目的について、空間デザインを例に広くデザイン一般の概説を行う。 2 テーマを設定する。 各自のテーマを決定する。 3 企画、アイデア、表現テーマを発表する。 色彩、材料と加工方法を念頭におきながら発表する。 4 アイデア、表現テーマをもとに材料を準備し制作する。 5 完成された作品と展開図を発表する 		
予習・復習	事前に資料収集をしておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	年鑑日本の空間デザイン他		
教材	素材サンプル他		
履修上の注意	デザインを段階的に進行させて学ぶためにスケジュールを重視する。各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現ができています。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-105	履修コード	3920Z2
科目名	デザインⅢ（ランドスケープ）	科目英語名	Design III (Landscape)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	10名
担当教員	鏗 隆弘		
授業概要	指定された屋外空間で手に入る自然物と人為物を使って、場所の魅力を引き出す形を制作する。形を作ることを念頭においた自然物探しと、それに見合う人為形態の制作により、場所を構成する秩序を創り出す。また、大学周辺の自然空間や庭園などの事例見学を交え、演習を進める。観察、発想、アイデア展開、試作、修正、制作のデザインプロセスを学ぶ。なお本科目は、デザイン分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	ものの形とそれをとりまく環境との関係性が印象的な空間を創出していることを理解することと、制作する形の検討を通してランドスケープデザインの手法の一部を修得すること。		
授業計画	<p>第1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間デザインを題材にした、デザインの目的、機能、手法などについてのデザイン概論の講義を行う。 ・課題説明 ・想定する成果物、使用する自然材料の採取および採取場所、成果物の設置場所についての説明を行う。 <p>第2日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形物や自然材料の使い方の参考となる空間として、大学周辺および庭園見学を行う。（玉泉院丸庭園、兼六園、成巽閣、寺島蔵人邸、尾山神社などから二箇所ほどを訪れる。） <p>第3日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石や砂、植物などの制作材料の採取 ・アイデア展開 ・エスキース <p>第4～6日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作 ・自然材料と人為物の組み合わせによる場所の創造 ・設置場所の観察 <p>第7日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影 <p>第8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション ・清掃 		
予習・復習	通学や散歩の際に、自然物をよく見ておくこと		
教科書	無し。		
参考書	適宜指示する。		
教材	未定		
履修上の注意	特に無し。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。</p> <p>[A] デザインプロセスをしっかりと踏襲し、最終成果物に幾つかの注目すべき点を持つ形として反映されている</p> <p>[B] デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物にそれが形として反映されている</p> <p>[C] デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされているもの</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。</p> <p>[S] デザインプロセスをしっかりと踏襲し、最終成果物が優れた形として反映されている</p> <p>[A] デザインプロセスをしっかりと踏襲し、最終成果物に幾つかの注目すべき点を持つ形として反映されている</p> <p>[B] デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物にそれが形として反映されている</p> <p>[C] デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされているもの</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-106	履修コード	3921Z1
科目名	工芸 I (金工 I)	科目英語名	Craft I (Metal I)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間 (前半)
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	畠山耕治		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を制作などを通じ包括的に学習する。鑄金技法の修得を中心とした金属加工技術の基礎的知識の獲得を指導する。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理において安全性の確認、制作方法に応じた技術を理解する。金属の塑性加工技術を体感し、素材の特性を学ぶ。また、金属の特性を理解し、第三者に対して説明出来るだけの知識、並びに技術を身につける。		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。専門の授業としては、金属素材に対しての鑄造技術を青銅・錫などの金属を通して経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本技術の概要説明 金属の特質や鑄造法案、溶解の際の火器などの取り扱いについての説明など行う。 ○素材の鑄造・鑄型説明 金属を鑄造するにあたり、その鑄型の制作方法と、安全性を第一義とした目的を伝達する。 ○形態のデザイン 作業の特殊性を鑑みたデザインを発想する。 ○仕上げ(表面処理) 素材の魅力を様々な道具を使って引き出せることを体感する。 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。 各々が興味ある金属製品の制作方法と歴史を調べる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金工の伝統技術・金工の着色技法		
教材	演習にかかわる材料費は自己負担(2000円~3000円程度)。		
履修上の注意	各作業では汚れることも多いので、それに適した服装で参加すること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>提出作品、課題の到達度および実習態度を総合して評価する。</p> <p>[A]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、高いレベルでの造形表現に達している。</p> <p>[B]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、一定の造形表現に達している。</p> <p>[C]工芸に関して学び、制作における素材・技法を体験し、造形表現に取り組んだ。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>提出作品、課題の到達度および実習態度を総合して評価する。</p> <p>[S]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、特に秀でた高いレベルでの造形表現に達している。</p> <p>[A]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、高いレベルでの造形表現に達している。</p> <p>[B]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、一定の造形表現に達している。</p> <p>[C]工芸に関して学び、制作における素材・技法を体験し、造形表現に取り組んだ。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-107	履修コード	3925Z1
科目名	工芸Ⅱ（陶磁Ⅱ）	科目英語名	CraftⅡ（CeramicⅡ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	池田晶一		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解した上で土による基礎的成形方法を体験する。また、陶造形のワークショップ、課題制作を通して陶を用いた造形表現を行う。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 更には造形表現の基礎的考え方を陶を用いた表現を通して理解する。		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>(1) 工芸及び陶磁の概論、北出コレクション見学、土による成形方法の説明、土練り 工芸及び陶磁全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。また素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>(2) 成形の基礎実習 (3) 素焼き (4) 釉掛け (4) 本焼き (5) 加飾装飾の技法について (6) 考察：工芸領域におけるの表現の方法、陶を用いた造形表現の基礎的考え方、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	事前に日本の焼き物の歴史の概要を学習しておくこと。		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	教員が準備する。材料費を徴収する事がある。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を高度に理解し、造形表現と主体的な取り組みが非常に高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-108	履修コード	3927Z1
科目名	工芸Ⅱ（ガラス）	科目英語名	CraftⅡ（Glass）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）渡部匡人		
授業概要	<p>工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 ヒュージングとスランピングという二つの技法を用いてガラスの器を制作し、ガラスという素材への理解を深める。 ヒュージング技法とはガラスどうしを熱で熔着する技法であり、スランピング技法とは熱でガラスを曲げてゆく技法である。共に電気炉を使用する技法である。したがって、電気炉でガラスを焼成する際の温度管理が重要なポイントとなるので、その基本的な温度管理についての知識の習得も目指す。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 実制作と講義を通して、ガラスという素材の特性と魅力を発見し、各自の専門分野への応用、活用方法の可能性を考えてみるまで考察が及ぶことを目標とする。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガラス工芸概略講義 ・ 課題説明 ・ 各自のアイデアスケッチを元に器のデザインを決定 ・ ガラスと使用道具の取り扱い説明と実習 ・ 各自、決定したデザインに従って色板ガラスのパーツをガラス元板から切り出す ・ 切り出したパーツをセラミックペーパー上で構成する ・ 構成したものを電気炉に窯入れし、ヒュージング（熔着）する ・ ヒュージングしたガラスを電気炉から窯出し、加工する ・ スランピング用の型を制作する ・ ヒュージングしたガラスをスランピング用の型上に乗せ、電気炉に窯入れし、スランピング（型の形状に沿わせて熱で曲げる）する ・ スランピングして器状になったものを電気炉から窯出し、加工仕上げする ・ 講評会の展示方法を検討（各自の作品趣旨が、より効果的に人に伝わるよう工夫する） ・ 講評会とまとめ ・ レポートの提出 <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	演習にかかわる材料費として自己負担（5,000円程度）。		
履修上の注意			
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。 [A] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。 [C] ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。 [S] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を特に秀でた高いレベルで理解することができた。 [A] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。 [C] ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-109	履修コード	3928Z1
科目名	工芸Ⅲ（漆・木工Ⅰ）	科目英語名	Craft Ⅲ (Urushi and Woodwork Art Ⅰ)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	田中信行		
授業概要	<p>工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 漆工芸における乾漆技法と塗りを体験する。各自の制作を通して素材と表現を考察し、物づくりの文化を学ぶ。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 漆工芸における乾漆技法と塗りの基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、造形素材として漆への理解を深める。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>乾漆技法による作品制作 テーマ「生命」</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題説明、漆の制作工程及び材料説明 2. 課題制作の構想を練る。 3. 発泡スチロールにて原型制作 4. 布貼り（3～4枚） 5. 下地工程 6. 漆塗り、仕上げ 7. 講評 <p>講評</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。また風土と工芸の関わりや社会と生活における工芸の役割、可能性について考察する。</p>		
予習・復習	作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	漆、下地材料などを購入するための教材費が必要。（2000円程度の予定：自己負担） アイデアスケッチブック・筆記用具・作業着を持参すること。		
履修上の注意	<p>素材の性質上かぶれる恐れがあるので心配な学生は履修を避けるように。 1日毎の作業が重要となるので欠席は作品提出できない状況につながるので留意すること。</p>		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>素材や制作工程の基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、作品提出、制作への取り組みで総合的に評価する。 [A]素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が高いレベルに到達している。 [B]素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が十分なレベルに到達している。 [C]素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>素材や制作工程の基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、作品提出、制作への取り組みで総合的に評価する。 [s]素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が特に高いレベルに到達している。 [A]素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が高いレベルに到達している。 [B]素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が十分なレベルに到達している。</p>		

[C] 素材についての基本的な知識や技術が習得され、課題作品の表現力や完成度が一定のレベルに到達している。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-110	履修コード	3931Z1
科目名	工芸Ⅲ（木工）	科目英語名	Craft Ⅲ（Wood Craft）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	（非常勤）藤野征一郎		
授業概要	<p>工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 割り物（木塊を刃物等で加工成形すること）制作の基本的な技術を習得する。 木素材の特性を捉えながら造形と表面仕上げの技術を習得する。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 素材・制作工程・道具に関する木工の基礎的な知識を理解し、扱い方を習得する。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>制作テーマ；「スプーンとトレイ」 スプーンおよびトレイの立体的なかたちを理解し、各自主題を考える。</p> <p>材料について； A:スプーン(ケヤキ材)：約W20×D3×H3cm 1点 B:トレイ(タモ材)：約W22×D12×H1.8cm 1点 おおよそ上記サイズの木材をひとり各1個使用する。</p> <p>アイデアスケッチ又は図面を描き、木取りを行う。道具・機械の使い方を理解し、木材の荒取りを行う。 ノミ等の手工具を使用。成形し表面仕上げを行う。表面仕上げの技術と漆塗装との関係を理解する。</p> <p>[作業工程] 1. 制作方法の説明。制作内容を決める。図面などかたちを決める。 2. 糸鋸・バンドソーで荒取りを行う。 3. ノミなどの手工具を使用し、制作する。（※制作の段取りはAを優先に進める。） 4. ノミなどの手工具を使用し、制作する。 5. ノミなどの手工具を使用し、制作する。表面仕上げについて説明を行う。 6. 漆塗装(※塗装はAのみ行う。残りの時間でBを進める。) 7. 2回目の漆塗装を行う。残りの時間でBの仕上げを進める。 8. 3回目の漆塗装 残りの時間でBを仕上げる。 講評</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	木材・漆を購入するための教材費が必要。(2000～3000円程度の予定)		
履修上の注意	刃物を扱うため、長ズボン・靴下・作業靴を着用し、動きやすい格好で参加のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベル</p>		

に達している。

[B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。

[C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-111	履修コード	3934Z1
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅲ）	科目英語名	Craft IV (Textile III)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	加賀城 健		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 染色概論及び制作体験実習。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。繊維素材に触れ、素材、加工、表現の一連の作業を通じて、工芸的なモノづくりの基本理念を理解し、今後の自己の創作活動に生かす。		
授業計画	<p>導入 工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>展開 ・繊維染色概論／染める事とは？繊維とは？布とは？ ・日本を中心とした染織品を紹介しながら、歴史的染織の世界を展望する。 ・浸染法の基礎理論 ・絞り染めの諸技法の理解と体得 ・作品の制作。 ・仕上げ</p> <p>作品の企画・構想から仕上げまでは、個々の創意に応じ個別に対応する。</p> <p>まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。 自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	予習、復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な時点で指示、手配する。持参する用具等、適時指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [A]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [S]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を特に秀でた高いレベルで実践、作品化できている。 [A]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C]工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-112	履修コード	3940Z1
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅳ）	科目英語名	Craft Ⅳ (Textile Ⅳ)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	美術科・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）吉本大輔		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。「型染め」の体験を通じて、美術工芸、生活工芸についての見識を深め、繊維素材と造形の関係について考察する。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。「型染め」の基礎技法の体験から、自らの発想で現代的な作品制作への応用の可能性を探り、小品制作に挑戦する。		
授業計画	<p>導入 工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>展開 「型染め」の型紙の制作と顔料での彩色を通して、素材の基本的な扱い方を習得し、それらを生かしたオリジナルの小品制作に挑戦する。</p> <p>まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	「型染め」についてWEBや文献を活用して、基礎知識を学んでおくことが望ましい。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	和室で実習を行うので、座りやすい服装等に留意する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	基礎知識・技術の習得度から、また一般的工芸に関する理解度、出来上がった小作品により評価する。 [A] 期間相応の知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [B] 一定の習熟度に達している。 [C] 最低限の体験がなされた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	基礎知識・技術の習得度から、また一般的工芸に関する理解度、出来上がった小作品により評価する。 [S] 非常に高いレベルで知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [A] 期間相応の知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [B] 一定の習熟度に達している。 [C] 最低限の体験がなされた。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-113	履修コード	3923Z2
科目名	工芸 I (金工Ⅲ)	科目英語名	Craft I (Metal Ⅲ)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間(後半)
専攻・年次	美術科・デザイン科(環境デザイン専攻除く)2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	水代達史		
授業概要	目的、機能、用途、使用環境を視野に入れた制作を通じて、工芸の歴史、文化、社会的な視点を包括的に学習することにより、現代における「工芸」の可能性について考察する。鍛金・彫金の金属加工技法を理解し、機能・用途のある作品制作を行う。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理において安全性の確認、制作方法に応じた技術を理解する。金属の塑性加工技術を体感し、着色処理まで行うことで素材の特性を学ぶ。また、金属の特性を理解し、第三者に対して説明出来るだけの知識、並びに技術を身につける。		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。専門分野の授業としては、金属素材に対する加工技術(鍛金・彫金)に対し、実践を通して経験する。それに伴い道具類の重要性を体感する。</p> <p>○基本技術の概要説明 金属の特性、加工前の準備、道具の使用方法、火器の取り扱い等を実際に動作を見せながら説明をする。</p> <p>○金属板の切断加工方法 金属を切断するにあたり、金工での加工方法を例に説明を行う。 安全に取り扱う事を第一目的として確実に伝達する。</p> <p>○素材と加工道具の概要説明 其々の道具に対してより詳しい説明を行う。道具の名称、持ち方、使用した後の始末方法等を伝える。</p> <p>○形態のデザイン 作業の特殊性を鑑みたデザインを発想する。</p> <p>○表面加飾 鍛金・彫金技法を踏まえた加飾技法を伝える。</p> <p>○仕上げ(金属着色を含む) 金属を着色する事でより一層の魅力を引き出せる事を体感する。</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。 各々が興味ある金属製品の制作方法と歴史を調べる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金工の伝統技術・金工の着色技法		
教材	演習にかかわる材料費は自己負担(2000円~3000円程度)		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	提出作品、課題の到達度および実習態度を総合して評価する。 [A]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、高いレベルでの造形表現に達している。 [B]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、一定の造形表現に達している。 [C]工芸に関して学び、制作における素材・技法を体験し、造形表現に取り組んだ。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	提出作品、課題の到達度および実習態度を総合して評価する。 [S]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、特出して秀でたレベルでの造形表現に達している。 [A]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、高いレベルでの造形表現に達している。		

[B]工芸に関する視野を広げ、制作における素材・技法への習熟がなされ、一定の造形表現に達している。

[C]工芸に関して学び、制作における素材・技法を体験し、造形表現に取り組んだ。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-114	履修コード	3926Z2
科目名	工芸Ⅱ（陶磁Ⅲ）	科目英語名	CraftⅡ（CeramicⅢ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	宮永春香		
授業概要	陶芸に関する歴史・文化・社会的視点を学び、現代社会における陶磁が持つ意味と価値を確認する。生活環境における造形物の「機能」と「作用」を意識した造形作品を制作する。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制意図に応じた方法・技術を理解する。 更には造形表現の基礎的考え方を陶を用いた表現を通して理解する。		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>「tea pot」及び「カップ」の制作</p> <p>(1) 工芸及び陶磁の概論、土による成形方法の説明、課題説明、カップの制作 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>成形の基礎実習：紐づくり</p> <p>(2) 「tea pot」制作① 胎制作 (3) 「tea pot」制作② 部品制作 (4) 「tea pot」制作③ くりぬき、部品接着 (5) 窯つめ、「tea pot」制作④ 仕上げ (6) 絵付け (7) 施釉 (8) 講評</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、陶を用いた造形表現の基礎的考え方、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	事前に日本の焼き物の歴史の概要を学習しておくこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	研究室で準備するが、特に必要なものがあれば指示する。 材料費（粘土等）を徴収する。		
履修上の注意	作業着の着用。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>[S] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-115	履修コード	3927Z2
科目名	工芸Ⅱ（ガラス）	科目英語名	CraftⅡ（Glass）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）田 聡美		
授業概要	<p>工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。ヒュージングとスランピングという二つの技法を用いてガラスの器を制作し、ガラスという素材への理解を深める。</p> <p>ヒュージング技法とはガラスどうしを熱で熔着する技法であり、スランピング技法とは熱でガラスを曲げてゆく技法である。共に電気炉を使用する技法である。したがって、電気炉でガラスを焼成する際の温度管理が重要なポイントとなるので、その基本的な温度管理についての知識の習得も目指す。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。</p> <p>実制作と講義を通して、ガラスという素材の特性と魅力を発見し、各自の専門分野への応用、活用方法の可能性を考えてみるまで考察が及ぶことを目標とする。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。</p> <p>素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガラス工芸概略講義 ・ 課題説明 ・ 各自のアイデアスケッチを元に器のデザインを決定 ・ ガラスと使用道具の取り扱い説明と実習 ・ 各自、決定したデザインに従って色板ガラスのパーツをガラス元板から切り出す ・ 切り出したパーツをセラミックペーパー上で構成する ・ 構成したものを電気炉に窯入れし、ヒュージング（熔着）する ・ ヒュージングしたガラスを電気炉から窯出し、加工する ・ スランピング用の型を制作する ・ ヒュージングしたガラスをスランピング用の型上に乗せ、電気炉に窯入れし、スランピング（型の形状に沿わせて熱で曲げる）する ・ スランピングして器状になったものを電気炉から窯出し、加工仕上げする ・ 講評会の展示方法を検討（各自の作品趣旨が、より効果的に人に伝わるよう工夫する） ・ 講評会とまとめ ・ レポートの提出 <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	演習にかかわる材料費として自己負担（5,000円程度）。		
履修上の注意			
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。</p> <p>[C] ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>提出作品、課題の到達度、および授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を特に秀でた高いレベルで理解することができた。</p> <p>[A] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B] 工芸に関する視野を広げ、ガラスを用いた造形表現を理解することができた。</p> <p>[C] ガラスを用いた造形表現に関する視野を広げることができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-116	履修コード	3930Z2
科目名	工芸Ⅲ（漆・木工Ⅲ）	科目英語名	Craft Ⅲ (Urushi and Woodwork Art Ⅲ)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	12名
担当教員	青木千絵		
授業概要	<p>工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 漆工芸における乾漆技法と塗りを体験する。各自の制作を通して素材と表現を考察し、物づくりの文化を学ぶ。 なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 漆工芸における乾漆技法と塗りの基礎的知識の理解、道具の扱いの習得、造形素材として漆への理解を深める。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>乾漆技法によるオブジェ制作 テーマ：「身体」</p> <p>材料：硬質発泡スチロール（20cm×20cm×20cm）を一人一個原型に使用する。 漆・麻布</p> <p>〔授業計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題説明、漆の制作工程及び材料説明 2. 課題制作の構想を練る。制作内容を決め、カッターナイフで荒取りを行う。 3. 発泡スチロールにて原型制作 砥の粉ボンド塗布 4. 布貼り（目摺り）2回 5. 下地工程（研ぎ） 6. 下地工程（水研ぎ） 7. 漆塗り（水研ぎ） 8. 研磨艶上げ作業と講評 <p>講評</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。また風土と工芸の関わりや社会と生活における工芸の役割、可能性について考察する。</p>		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	漆、下地材料などを購入するための教材費が必要。（2000円～3000円程度の予定：自己負担） アイデアスケッチブック・筆記用具・作業着を持参すること。		
履修上の注意	素材の性質上かぶれる恐れがあるので心配な学生は履修を避けるように。 1日毎の作業が重要となるので欠席は作品提出できない状況につながるので留意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の基礎的理解および作品提出（1回1作品） 課題の到達度、積極的な制作への取り組みを判断して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、課題制作として一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、課題制作に取り組んでいる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の基礎的理解および作品提出（1回1作品） 課題の到達度、積極的な制作への取り組みを判断して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において非常に高いレ</p>		

ベルに達している

[A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、課題制作において高いレベルに達している。

[B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、課題制作として一定のレベルに達している。

[C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、課題制作に取り組んでいる。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-117	履修コード	3931Z2
科目名	工芸Ⅲ（木工）	科目英語名	Craft Ⅲ（Wood Craft）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	15名
担当教員	（非常勤）藤野征一郎		
授業概要	<p>工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。</p> <p>割り物（木塊を刃物等で加工成形すること）制作の基本的な技術を習得する。</p> <p>木素材の特性を捉えながら造形と表面仕上げの技術を習得する。</p> <p>なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。</p> <p>素材・制作工程・道具に関する木工の基礎的な知識を理解し、扱い方を習得する。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>制作テーマ；「スプーンとトレイ」 スプーンおよびトレイの立体的なかたちを理解し、各自主題を考える。</p> <p>材料について； A:スプーン(ケヤキ材)：約W20×D3×H3cm 1点 B:トレイ(タモ材)：約W22×D12×H1.8cm 1点 おおよそ上記サイズの木材をひとり各1個使用する。</p> <p>アイデアスケッチ又は図面を描き、木取りを行う。道具・機械の使い方を理解し、木材の荒取りを行う。 ノミ等の手工具を使用。成形し表面仕上げを行う。表面仕上げの技術と漆塗装との関係を理解する。</p> <p>[作業工程] 1. 制作方法の説明。制作内容を決める。図面などかたちを決める。 2. 糸鋸・バンドソーで荒取りを行う。 3. ノミなどの手工具を使用し、制作する。（※制作の段取りはAを優先に進める。） 4. ノミなどの手工具を使用し、制作する。 5. ノミなどの手工具を使用し、制作する。表面仕上げについて説明を行う。 6. 漆塗装(※塗装はAのみ行う。残りの時間でBを進める。) 7. 2回目の漆塗装を行う。残りの時間でBの仕上げを進める。 8. 3回目の漆塗装 残りの時間でBを仕上げる。 講評</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	木材・漆を購入するための教材費が必要。(2000～3000円程度の予定)		
履修上の注意	刃物を扱うため、長ズボン・靴下・作業靴を着用し、動きやすい格好で参加のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。</p> <p>[A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。</p> <p>[B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。</p> <p>[C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。</p> <p>[S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。</p> <p>[A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベル</p>		

に達している。

[B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。

[C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-118	履修コード	3933Z2
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅱ）	科目英語名	Craft Ⅳ（TextileⅡ）
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	足立真実		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。 染色概論及び制作体験実習。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。繊維素材に触れ、素材、加工、表現の一連の作業を通じて、工芸的なモノづくりの基本理念を理解し、今後の自己の創作活動に生かす。		
授業計画	<p>導入 工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>展開 ・繊維染色概論／染める事とは？繊維とは？布とは？ ・日本を中心として染織品を紹介しながら、歴史的染織の世界を展望する。 ・浸染法の基礎理論 ・絞り染めの諸技法の理解と体得 ・作品の制作 ・仕上げ</p> <p>作品の企画・構想から仕上げまでは、個々の創意に応じ個別に対応する。</p> <p>まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。 自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な時点で指示、手配する。持参する用具等、適時指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [A] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	提出作品およびレポート等から総合的に評価。 [S] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を特に秀でた高いレベルで実践、作品化できている [A] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を高いレベルで実践、作品化できている。 [B] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を実践、作品化できている。 [C] 工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解し、作品化できている。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-119	履修コード	3940Z2
科目名	工芸Ⅳ（染織Ⅳ）	科目英語名	Craft Ⅳ (Textile Ⅳ)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	美術科・デザイン科（環境デザイン専攻除く）2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	（非常勤）吉本大輔		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通し包括的に学習する。「型染め」の体験を通じて、美術工芸、生活工芸についての見識を深め、繊維素材と造形の関係について考察する。なお本科目は、工芸分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。「型染め」の基礎技法の体験から、自らの発想で現代的な作品制作への応用の可能性を探り、小品制作に挑戦する。		
授業計画	<p>導入 工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。 素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>展開 「型染め」の型紙の制作と顔料での彩色を通して、素材の基本的な扱い方を習得し、それらを生かしたオリジナルの小品制作に挑戦する。</p> <p>まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域における表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>		
予習・復習	「型染め」についてWEBや文献を活用して、基礎知識を学んでおくことが望ましい。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	和室で実習を行うので、座りやすい服装等に留意する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	基礎知識・技術の習得度から、また一般的工芸に関する理解度、出来上がった小作品により評価する。 [A] 期間相応の知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [B] 一定の習熟度に達している。 [C] 最低限の体験がなされた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	基礎知識・技術の習得度から、また一般的工芸に関する理解度、出来上がった小作品により評価する。 [S] 非常に高いレベルで知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [A] 期間相応の知識技術の習熟がなされ、自身の表現への効果的な活用が期待される。 [B] 一定の習熟度に達している。 [C] 最低限の体験がなされた。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-120	履修コード	3936Z1
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression&Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（前半）
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	20名
担当教員	(非常勤) 宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	<p>本授業では、以下の内容から1つ又は複数を選ぶ。設備の準備状況により変更される場合があるためここでは明示しない。 1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるので継続して出席することが必要。</p> <p><映像制作> ・デジタル一眼レフカメラ、デジタルビデオカメラを用いた撮影 ・Adobe Premiereを利用した映像編集、音声編集</p> <p><画像編集> ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを利用した画像編集</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PremiereはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（4GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-121	履修コード	3936Z2
科目名	映像メディア	科目英語名	Visual Expression&Computer Graphics
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中履修期間（後半）
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	映像メディア室
単位	1	定員	20名
担当教員	(非常勤) 宮原康展		
授業概要	デジタル一眼レフカメラやデジタルビデオカメラを用いた撮影、コンピュータを利用した映像編集や画像編集を学ぶ。また、コンピュータを活用するための基礎知識と操作方法を習得する。なお本科目は、絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	映像メディアの基礎知識を身につけ、コンピュータを利用して創作活動を行うための基本操作を習得する。		
授業計画	<p>本授業では、以下の内容から1つ又は複数を選ぶ。設備の準備状況により変更される場合があるためここでは明示しない。 1日でも欠席してしまうと授業内容が把握できなくなるので継続して出席することが必要。</p> <p><映像制作> ・デジタル一眼レフカメラ、デジタルビデオカメラを用いた撮影 ・Adobe Premiereを利用した映像編集、音声編集</p> <p><画像編集> ・Adobe Illustrator、Adobe Photoshopを利用した画像編集</p> <p>Adobe Illustrator、Adobe Photoshop、Adobe PremiereはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書			
参考書	適宜指示する。		
教材	USBメモリ等の記憶媒体（4GB以上）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出 課題の到達度、授業態度を総合して評価する。 [S] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで高いレベルの作品表現に昇華することができる。 [A] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、応用することで作品表現に昇華することができる。 [B] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得し、作品制作を行うことができる。 [C] 映像メディアの基礎知識とコンピュータの操作方法を習得している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-122	履修コード	4004Z1
科目名	造形表現工房Ⅱ（平面/ドローイング（人体））	科目英語名	Art & Design Practice Studio II (Drawing (After Nude Model))
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	15名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	人体をモチーフとしたドローイングを行う。裸婦モデルの観察と描写を通して、絵画表現における形体やトーン、空間に対する認識を深めていく。		
到達目標	ドローイングは造形の出発点であり、またそれ自体が独立した表現手段でもある。自然を集約した存在としての人体を集中的にドローイングすることで平面表現の基礎と高度な造形感覚を養う。		
授業計画	<p>本科目の受講希望者は専攻を問わず受講できる。 1回4時限の授業を8回に分けて集中的に行う。 夏季調整期間を利用した2018年8月6日(月)～9日(木)の午前・午後の集中授業を行う。</p> <p>—モデルをしっかり観察し、人体構造の把握に努める。とりわけ体のプロポーションや体の重心に注意しながらモデルを描く。</p> <p>—鉛筆・コンテ・木炭・毛筆など、自己の表現に適した描画材料を試み、それらの特性を活かしながら描く。</p> <p>—各回、予めテーマを設定し、各自の目的を明確にする。</p> <p>* 受講者の要望によってモデルのポーズやポーズ時間を変更する場合がある。</p>		
予習・復習	画集等を参考にしながら、人体デッサンの例を事前に研究しておくこと。授業時間以外にも積極的に自然観察を行い、スケッチに励むこと。		
教科書	なし		
参考書			
教材	鉛筆、コンテ等の描画材料。(各自準備すること)		
履修上の注意	毎回出席し、描くこと。 2018年8月6～9日の4日間の集中授業となる。(午前4時限、午後4時限)		
成績評価（平成29年度以前入学者）	[A] 人体の構造（プロポーション、重心など）の正確な把握が適切に表現されており、尚かつ画面構成や線の表現に魅力と躍動感を感じさせる作品。 [B] 人体の構造の正確な把握と、造形的画面構成で作品が制作されている作品。 [C] 観察を通して人体の構造把握に努めていることが読み取れる作品。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	[S] 4日間で制作した作品に、高度な造形力と技術力が見受けられる作品。 [A] 人体の構造（プロポーション、重心など）の正確な把握が適切に表現されており、尚かつ画面構成や線の表現に魅力と躍動感を感じさせる作品。 [B] 人体の構造の正確な把握と、造形的画面構成で作品が制作されている作品。 [C] 観察を通して人体の構造把握に努めていることが読み取れる作品。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-123	履修コード	4007Z1
科目名	造形表現工房Ⅱ（平面/銅版画技法）	科目英語名	Art & Design Practice Studio II (Etching Technique)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	開講せず
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	数名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	1758年に刊行されたとされるA. Bosse の銅版画技法書第4版 De la Maniere de Graver a l'Eau Forte et au Burin... を隔週で読み、後半の授業では腐蝕銅版画制作を行う。		
到達目標	18世紀のフランス語で書かれた銅版画技法書を読んで、おおよそ内容を理解する。		
授業計画	<p>4月17日17:30～19時頃 ガイダンス及びテキストの配布と解説 5月 1日17:30～19時頃 テキスト会読 5月15日17:30～19時頃 テキスト会読 5月29日17:30～19時頃 テキスト会読 6月12日17:30～19時頃 テキスト会読 6月26日17:30～19時頃 テキスト会読 7月10日17:30～19時頃 テキスト会読</p> <p>コシヤンのテキストを参考にしながら、腐蝕銅版画制作を行う。（日時未定）</p>		
予習・復習	毎回配布するテキストを自宅で日本語に翻訳してくる。		
教科書	なし		
参考書	— “Ars Pictoria: or an ACADEMY TREATING OF DRAWING, PAINTING, LIMNING, ETCHING” ” par Alexander BROWNE (The second Edition, LONDON, 1675.) — “De la manière de graver à l’eau-forte et au burin, et de la manière noire Par Abraham BOSSE, graveur du Roy” Nouvelle édition, Paris 1745 (COCHIN/BOSSE1745) — “Dictionnaire technique de l’estampe” André BÉGUIN, 1998		
教材	コシヤンの本をコピーして配布する。銅板、版画用紙		
履修上の注意	ある程度のフランス語の理解力が必要となる。 初日は、神谷研究室に集合のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	[A] 毎回自宅で予習し、テキストの翻訳からコシヤンのテキストがおおよそ理解できる。 [B] 毎回自宅で予習し、テキストの翻訳をおこなう。 [C] 毎回自宅で予習し、翻訳を試みる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	[S] コシヤンのテキストを理解し、その翻訳が正しく行われていること。 [A] 毎回自宅で予習し、テキストの翻訳からコシヤンのテキストがおおよそ理解できる。 [B] 毎回自宅で予習し、テキストの翻訳をおこなう。 [C] 毎回自宅で予習し、翻訳を試みる。		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-124	履修コード	4011Z1
科目名	造形表現工房Ⅲ（立体/彫刻表現）	科目英語名	Art & Design Practice Studio Ⅲ
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	自由	教室	共通造形センター実習室
単位	1	定員	7名
担当教員	石田陽介		
授業概要	<p>塑造による1/2等身程度の人体像（ヌード：2019年度は男性モデルの予定）の制作を行う。各自の表現主題を明確にし、制作を通して主体的に彫刻制作に取り組む。表現の工夫を行い、専門的な技術や知識を習得する。</p>		
到達目標	<p>自らの表現主題を明確にし、専門的な知識と技術を習得するとともに、素材を生かした制作を行う。</p>		
授業計画	<p>授業予定日：8月19日から30日の平日9：00～12：00（制作準備1日、モデル実習8日、片付け1日）</p> <p>各自の研究目的を明確にし、制作計画を具体的に立てる。担当教員とのディスカッションを通して作品の深化を図る。</p> <p>全身像の制作を通して、造形の原理や解剖学的知識、専門的な彫刻技法等の指導等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルを様々な角度から観察し人体の構造やフォルムの美しさを探る。 クロッキーを通して本制作のためのイメージを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 各自の表現テーマを探る。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り、中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行う。 全体のバランスを保ちながら細部の作り込みを行う。 土付けによる質感の工夫をする。 全体の調子を整えながら仕上げる。 石膏、FRP、テラコッタによる成型（授業内は粘土による原型制作のみ） <ul style="list-style-type: none"> 各自の希望に応じて成型技法の補充指導を行う。 		
予習・復習	<p>事前に表現主題や研究目的を設定しておくこと。指示されたガイダンスには必ず出席をし、担当教員の指示を受け、日程を調整し制作計画を立てておくこと。</p>		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業内で適宜指示する。		
履修上の注意	<p>夏季休業中に集中で開講する。事前に行う授業概要のガイダンスでの説明を受け授業内容を理解して受講すること。希望者多数の場合は高学年を優先する場合がある。</p> <p>材料および道具類（個人使用のもの）の実費は自己負担。（石膏成型で5,000円程度）</p> <p>作業が安全に行える服装着用のこと。</p>		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。</p> <p>[A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。</p> <p>[S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。</p> <p>[C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-125	履修コード	4012Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/素材技術研究）	科目英語名	Art & Design Practice Studio IV
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	田中信行・山村慎哉・山本健史・原 智・大高 亨・池田晶一・○宮永春香・青木千絵・水代達史		
授業概要	それぞれの素材に関わる歴史・文化・社会・科学的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を制作を通し発展、展開させた学習とする。各自の設定するテーマに即して素材や技術を選択し、制作を通して選択した素材における技術と表現を探究する。		
到達目標	それぞれの素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。 更には造形表現の考え方を素材を用いた表現を通して理解する。		
授業計画	<p>自身の創作研究テーマに即して、工芸の素材や技術を用いた造形表現を行うため、基礎的な技術及び知識を習得する。素材の特性を知り、それぞれの技術における発想法や表現の方法を理解する。なお、自身の研究テーマを重視し、技術・設備面から実行可能と思われる場合、開講する。</p> <p>素材、授業内容及び利用可能な設備等は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染織 ・漆、木工 ・金工 ・陶磁 <p>〈染織〉</p> <p>—技術—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染色（浸染・捺染全般） ・織物（各種手織全般） <p>—設備—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刷毛染設備 ・浸染設備 ・製版、プリント設備 ・蒸熱、水元等仕上設備 ・織物各種、整経具等 <p>〈漆・木工〉</p> <p>—技術—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒔絵技法 ・螺鈿技法 ・きゆう漆技法（素地 木地、乾漆、金胎、陶胎） ・変塗技法 <p>—設備—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木工機械全般 ・乾燥回転風呂 ・恒温乾燥機械 ・スプレーブース <p>〈金工〉</p> <p>—技術—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑄金（蠟型鑄造、込型鑄造、精密鑄造） ・彫金（銀線象嵌、透かし彫り、着色技法） ・鍛金（鍛造、溶接、ろう付け） <p>—設備—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・#50溶解炉 ・#100溶解炉 ・真空減圧鑄造機 ・電気溶接機（Tig） ・汎用旋盤 ・コンタマシーン <p>〈陶磁〉</p> <p>—技術—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・粘土成形（輪積み成形、ロクロ成形、タタラ成形、鑄込み成型〔鑄込み、圧力鑄込み〕、型起こし成形） ・釉薬調合、施釉 ・加飾（下絵付け、上絵付け、色土、化粧土等） 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・原型成形（石膏ロクロ） ・焼成（電気窯・ガス窯・灯油窯による還元焼成および酸化焼成等、楽焼） <p>—設備—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動ロクロ ・石膏ロクロ ・乾燥炉 ・土練機 ・セラローラー ・ポットミル回転台 ・施釉用コンプレッサー、ブース ・粘土粉碎機 ・釉薬播漬攪拌機 ・焼成窯（電気窯、ガス窯、灯油窯、楽焼窯）
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	履修登録期間に開講相談会を開催する。希望者は開催の掲示告知を確認の上、出席すること。開講相談会では各自の設定する研究テーマに即した授業内容について担当教員と相談し、開講可能かを確認するので、事前に研究テーマと内容を検討してくること。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B1)-126	履修コード	4013Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/現代美術 ミクストメディア）	科目英語名	Art & Design Practice Studio IV
科目区分	基礎科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1～4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	
担当教員	○よしだぎょうこ 浜田周 星野太 稲垣健志（非常勤）平塚聖子		
授業概要	各自の概念と素材が整合性を伴った形で表現として完成される事を志し、自己プロデュースのメソッド確立を試みる。体系的総合的に自己表現を俯瞰で捉える。表象と構造の成り立ちについて理解を深め、作家としての完成度をあげる。		
到達目標	自分自身の視点の固定概念を知り得る契機として、ひいては先入観の解体／更に再構築までの糸口を体験的に獲得できることが望ましい。		
授業計画	<p>素材およびテーマは学生の依頼に応じるが、技術・設備面から実行可能で、発展的製作の領域に達していると思われる場合のみ、開講する。</p> <p>1 平面・立体・映像など、形式を横断するような表現 2 髪の毛／廃棄物／葉、水、風／等、既存分野にあてはまらない異素材を使う表現 3 既存専門分野の石、金属、など各種の素材・技法の混合表現 以上をミクストメディアとする。</p> <p>・現代美術表現の、更なる発想・発展的な制作を支援する。 各分野の混合表現や分野に収まらない諸材料での制作を受け入れ、自由な発想の中にもベースとなる概念的な軸を強化する。 各人のオリジナリティを追究すると共に、概念と表現の整合性を探求する。 ベーシックな工法を選んだ混合素材の場合、素材に応じて専門分野に振り分けて技術を習得しつつ、作品の完成をフォローするケースもある。 宮崎、奥能登等のアーティストインレジデンスやインターン、展覧会企画等の現場実習をおこない、自己プロデュースができる総合力を包括的に体得することとする。</p>		
予習・復習	担当教員の指示に従うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	ある程度のコンテンポラリーアートの知識、作家性があることを前提とする。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>前提としてある程度の実力を要求する以上、基本的に作品の内容はジャッジしない。自己プロデュースの一環として、探求意欲と演習への姿勢を評価の対象とする。 成績指標としては以下を参照のこと。 [A]プロジェクトに積極的に参加し、自己プロデュース能力の向上と企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテキストが整合しつつ独創性を保有し、実践的である。 [B]プロジェクトに参加し、企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテキストが整合しつつ実践的である。 [C]プロジェクトに参加でき、自己の作品の制作に積極的である。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>前提としてある程度の実力を要求する以上、基本的に作品の内容はジャッジしない。自己プロデュースの一環として、探求意欲と演習への姿勢を評価の対象とする。 成績指標としては以下を参照のこと。 [S]プロジェクトに積極的に参加し、自己プロデュース能力の向上と企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテキストが整合しており、独創性をもった作家として総合力がある。 [A]プロジェクトに積極的に参加し、自己プロデュース能力の向上と企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテキストが整合しつつ独創性を保有し、実践的である。 [B]プロジェクトに参加し、企画全体に貢献できる。自己の作品とコンテキストが整合しつつ実践的である。 [C]プロジェクトに参加でき、自己の作品の制作に積極的である。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-127	履修コード	4014Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/芸術と科学）	科目英語名	Art & Design Practice Studio IV
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	大谷研究室
単位	1	定員	2名
担当教員	大谷正幸		
授業概要	科学と芸術の融合的テーマおよび素材加工などについて、自然科学的な側面から応用研究を支援する。文献講読、素材加工のための化学実験、サイエンス・メディエーション的作品制作などを行う。		
到達目標	課題探求能力及び問題解決能力の向上。		
授業計画	<p>この授業では次のいずれかの取り組みについて科学的な側面から応用研究を支援する。</p> <p>① 自然科学分野のコンセプトを表現するための作品制作支援として文献講読やディスカッション ② 美術工芸分野の未来を文明論的に展望するための文献講読やディスカッション</p> <p>この授業は自由科目であることの特長を活かすために、毎回の計画を立てずに、必ず生じる疑問を考え続けるチュートリアル形式で前に進めていく。</p>		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	英文読解を必須とする。受講希望者と時間割上の調整ができたときに開講する。受講登録前に必ず教員に相談に来ること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	45時間の学修時間に達したとき、単位修得の要件を満たす。授業への取り組みを総合して評価する。 [A] 課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解し、自らの見解を論理的に説明できる。 [B] 課題に対して主体的に取り組み、文献等の内容を十分に理解できている。 [C] 課題に取り組み、文献等の内容をおおむね理解できている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-128	履修コード	4022Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習Ⅰ）	科目英語名	Art & Design Practice Studio IV (Fashion design I)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	10名程度（希望者を面談の上、決定する）
担当教員	○村山祐子（非常勤）平塚聖子		
授業概要	ファッション基礎演習。基本的なデザイン画、立体的断等のノウハウを習得する。演習を通してファッションを構成する様々な事項を学びながら、最終的には自らがデザインした服のパターンをおこし、裁断～縫製をして一着完成させる。		
到達目標	素材、道具などの基本的理解とその使用方法や技術の理解。 ファッションデザインの導入部分、基礎を学ぶ事でファッションデザインの切り口から見た発想やデザインディベロップメントが出来るようになる等、各自の創作活動に幅を持たせる可能性を広げる。デザインと素材の成合性も理解する。		
授業計画	<p>デザイン系の学生だけではなく、全学的に開かれた授業である。各自の創作の幅を持たせるべく、ファッションという分野からの視点で制作を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 上記を実際に具現化する ・学内展示、プレゼンテーション、講評。 *その他、希望者はプロジェクト課題参加。 		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また、作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合には時間外の制作も必要となる。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	基礎的な内容であるが、一日でも欠席してしまうと授業内容が把握出来なくなる事もあるので継続して出席する事。連絡や指示を見落とさない事。時間厳守。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが充分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-129	履修コード	4023Z1
科目名	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習Ⅱ）	科目英語名	Art & Design Practice Studio IV (Fashion design II)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	ファッションデザイン演習室
単位	1	定員	10名程度（希望者を面談の上、決定する）
担当教員	○村山祐子（非常勤）平塚聖子		
授業概要	ファッション基礎演習。基本的なデザイン画、立体裁断等のノウハウを習得する。演習を通してファッションを構成する様々な事項を学びながら、最終的には自らがデザインした服のパターンをおこし、裁断～縫製をして一着完成させる。		
到達目標	素材、道具などの基本的理解とその使用方法や技術の理解。 ファッションデザインの導入部分、基礎を学ぶ事でファッションデザインの切り口から見た発想やデザインディベロップメントが出来るようになる等、各自の創作活動に幅を持たせる可能性を広げる。デザインと素材の成合性も理解する。		
授業計画	<p>デザイン系の学生だけではなく、全学的に関われた授業である。各自の創作の幅を持たせるべく、ファッションという分野からの視点で制作を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションデザインについての概論 ファッションデザインとは何か、様々な事例や、画像・作品を提示しながら説明。 洋服はどのような手順で作られているかを体系的に教授。 ・課題説明 デザイン画をおこし、そこからアイデア展開、具現化をさせる為、その手順を示す。 ・テーマを設け、リサーチ 各自、具体的にテーマを決め、それに基づいて市場調査などのリサーチを行う。 ・デザイン画演習 自分が作りたい服のイメージをどのように人に伝えるか、デザイン画の技法・コツなどを指導 ・アイデア展開 各自のテーマに基づきデザイン画で表現し、適した生地や、色も含め、発想を広げていく ・平面・立体表現 上記を実際に具現化する ・学内展示、プレゼンテーション、講評 *その他、希望者はプロジェクト課題参加。 		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また、作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合には時間外の制作も必要となる。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	造形表現工房Ⅳ（素材・技術/ファッションデザイン演習Ⅰ）の既修者のみ履修可能。 基礎的な内容であるが、一日でも欠席してしまうと授業内容が把握出来なくなる事もあるので継続して出席する事。連絡や指示を見落とさない事。時間厳守。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが十分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出及びプレゼンテーション 個々の課題の達成度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが極めて高いレベルで作品に活かされている。 [A] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが高いレベルで作品に活かされている。 [B] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが十分なレベルで作品に活かされている。 [C] 服作りの基本的な知識や技術を習得し、それらが一定以上のレベルで作品に活かされている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-130	履修コード	4015Z1
科目名	造形表現工房V (社会環境/アートプロジェクト)	科目英語名	Art & Design Practice Studio V (Art Project)
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1~4年次	曜日・時限	終日
履修区分	自由	教室	基礎実習棟・研究室・学外
単位	1	定員	30名
担当教員	○芝山昌也・真鍋淳朗・坂本英之・田中信行・池田晶一・畝野裕司・高橋治希・稲垣健志・青木千絵		
授業概要	本授業は複数の専攻の教員が指導する専攻横断型授業であり、金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム「スズプロ」として奥能登国際芸術祭への参加を念頭において授業を進める。複数の教員によるアートプロジェクトの理論(講義形式)を聴講し、基礎的な知識を習得した上で、グループ制作の導入から大規模作品の発表までを実践的に学ぶ。		
到達目標	国際的に通用する作品クオリティを追求し高いレベルで完成させる。そのプロセスにおいて作品コンセプトの立案や制作、グループワークへの理解、発表に不可欠なデザインワーク、作品の管理・運営能力の向上を図り、将来におけるアート・デザイン・工芸活動、及び企画等の素養を習得することを目標とする。また、珠洲において実際にフィールドワークやリサーチ活動、および制作を他専攻学生とのグループ活動で行う事で、芸術による課題解決の手法を自ら学び、表現者として幅広い視野を習得することを目的とする。		
授業計画	<p>(アートプロジェクトの理論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「20世紀とはどのような時代だったのかー北陸の近現代史ー」 (稲垣健志准教授) 2 「21世紀型アートの在り方」 (真鍋淳朗教授) 3 「環境芸術と表現」 (池田晶一教授) 4 「インスタレーションと東洋的空間思想」 (高橋治希准教授) 5 「地方から発信する美術」 (芝山昌也准教授) <p>(アートプロジェクトの実践)</p> <p>奥能登国際芸術祭への参加を目指す作品づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「アートプロジェクトのプランニングと実制作」 (科目担当全教員) 2 「フィールド・リサーチの方法と実践」 (科目担当全教員) 3 「アートプロジェクトにおける情報の蓄積と保存」 (科目担当全教員) <p>* すべての授業は日程調整を行って実施する。</p> <p>(指導教員の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝山昌也 全体の流れを総括、彫刻、フィールドワーク ・真鍋淳朗 絵画、ミクストメディア、フィールドワーク ・坂本英之 環境デザイン、建築 ・田中信行 工芸、漆造形 ・池田晶一 工芸、陶造形 ・畝野裕司 グラフィックデザイン、ディスプレイ ・高橋治希 絵画、インスタレーション、フィールドワーク ・稲垣健志 社会学、フィールドワーク ・青木千絵 工芸、漆造形 		
予習・復習	プロジェクトの状況に応じて配布された資料やデータを確認する。		
教科書	特に定めないが、必要に応じて使用する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	学外での授業も含まれるので、連絡や指示を見落とさないこと。時間厳守。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	リサーチ、フィールドワーク、作品制作、ドキュメント制作などアートプロジェクト全体の結果を総合的に評価する。 [A] アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。 [B] アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。 [C] アートプロジェクトの知識やスキルが習得された。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	リサーチ、フィールドワーク、作品制作、ドキュメント制作などアートプロジェクト全体の結果を総合的に評価する。 [S] アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達した。 [A] アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが高いレベルに到達した。		

[B] アートプロジェクトの知識やスキルが習得され、主体的な取り組みが行われた。

[C] アートプロジェクトの知識やスキルが習得された。

平成31年度シラバス

番号	(B1)-131	履修コード	4017Z1
科目名	造形表現工房V (社会環境/地域連携演習)	科目英語名	Art & Design Practice Studio V
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1~4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	坂本英之		
授業概要	地域の活性化をめざすプロジェクトに参加し、課題解決する実践教育プログラム。リサーチにより地域が求めているものを探り、住民や公共或いは産業界との連携により、課題解決に向けた提案を行い、実際に制作・発表し効果を評価する。		
到達目標	地域における活動とそれを支える空間をディレクションする能力を修得する。ワークショップ形式による共同作業を経ることにより、コミュニケーション、コラボレーション、コーディネーションの能力を育成する。		
授業計画	<p>デザイン系の学生だけではなく全学的に開かれた授業である。専攻も学年も多様な学生達でチームを組み参加型実践教育プログラムとして、金沢市や石川県の地域のまちや集落、自然環境をフィールドとして活動する。演習の取りかかりとして、学外からの専門家を招いて、地域に関わるディレクションの事例を通して、地域の課題を捉え、それを解決していくデザインやアートの可能性について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ガイダンス (プロジェクト説明) ・ 講義 ・ 現地調査・分析 ・ 企画 ・ アート・デザインワークショップ ・ 運営 ・ 評価 ・ 広報 <p>上記内容を適宜進める</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>課題提出およびプレゼンテーションを通じて、地域との関わりの中で調査、分析、制作、発表、発信などの活動全体を総合的に評価し単位を認定する。</p> <p>[A] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>課題提出およびプレゼンテーションを通じて、地域との関わりの中で調査、分析、制作、発表、発信などの活動全体を総合的に評価し単位を認定する。</p> <p>[S] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が極めて優れたレベルで表現されている。 [A] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。 [B] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。 [C] 基本的な知識や技術が習得され、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-132	履修コード	4021Z1
科目名	造形表現工房Ⅴ（社会環境/景観形成・造園演習）	科目英語名	Art & Design Practice Studio V
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2・3年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	6名
担当教員	鏑 隆弘		
授業概要	歴史的景観の残る地域において、景観向上を目的に、庭園など屋外環境を対象にした計画、設計、施工を行い、その効果を評価する。		
到達目標	地域住民やその地域に関わる行政機関、他の高等教育機関と連携しながら、現実の敷地環境に関わることで、表層には見えていない現場のコンテクストを読み込む力、協力者とのコミュニケーション力、共同して物事を進める力を育てる。		
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要およびプロジェクトの説明 <ul style="list-style-type: none"> ・重要伝統的建造物群保存地区である加賀市加賀橋立地区および東谷地区の景観特性 ・地区における景観向上のための計画及びこれまでの活動 2. 地域住民、地域の行政機関を含めた計画検討 2回 <ul style="list-style-type: none"> ・加賀橋立地区住民、東谷地区住民と加賀市役所担当者との年度活動計画についての意見交換 3. プロジェクトに関わる他の高等教育機関との共同デザインミーティング 6回 <ul style="list-style-type: none"> ・石川工業高等専門学校の研究室の教員及び学生を交えた活動に関する打合せ 4. 現地での屋外環境整備作業 6回 <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、現地で実際に調査活動、整備作業を行う。 5. 成果のまとめと検証 <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークとして、また個人ワークとして成果が見られるようなプレゼンテーションボードを作成する。 6. 発表 <ul style="list-style-type: none"> ・加賀市および地域住民に対して成果に関する発表を行う。 		
予習・復習	その都度、指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜案内する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	月に一度ほどの頻度で、土曜日、日曜日、祝日に現地へ出かけ、作業を行なう。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。</p> <p>[A] デザインプロセスをしっかりと踏襲し、最終成果物に優れた形でそれが反映されている</p> <p>[B] デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物に何らかの形でそれが反映されている</p> <p>[C] デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされているもの</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>デザインプロセスと最終成果物の完成度により評価を行う。</p> <p>[S] デザインプロセスをしっかりと踏襲し、最終成果物に優れた形でそれが反映されている</p> <p>[A] デザインプロセスを一通り踏襲し、最終成果物にその形が反映されている</p> <p>[B] デザインプロセスを踏襲し、最終成果物としてそれが活かされている</p> <p>[C] デザインプロセスを経験し、最終成果物の中にデザインの形が見て取れる</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-133	履修コード	4024Z1
科目名	造形表現工房V (社会環境/社会教育・美術教育)	科目英語名	Art & Design Practice Studio V
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻1~4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	15名
担当教員	○桑村佐和子・未定		
授業概要	自然環境や地域の歴史などを活かしながら地域づくりに取り組んでいる実態を体験的に学び、地域での美術教育の可能性を考える。		
到達目標	地域課題を理解し、その解決についてどのような工夫がなされているかを理解する。また、その解決策について社会教育としての美術教育の観点で分析し、その具体的な方策について考えることができるようになる。		
授業計画	<p>全専攻1~4年次に開かれた授業である。 地域の課題を自然環境や文化(衣・食・住)を活かしながら解決している現場を訪れ、その一部に参加しながら現場の人との交流を通して実践的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業ガイダンス <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査の方法、授業の課題を確認する。 ・ 地域についての講義 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の歴史、文化、自然環境の変化、人口構成の変化等について、事前学習を行う。 ・ 現地調査・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境の現状を、現場の方と一緒に作業することを通して学ぶ。 ・ 自然を活かした美術教育についての実践を学ぶ。 ・ それらを元に、今後の地域における美術教育の可能性を考える。 ・ 発表 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考えたことを地域づくりに取り組んでいる方にも発表し、検証する。 		
予習・復習	掲示により指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	プリント等を配付する。		
履修上の注意	実施日等の詳細については掲示により指示するので、掲示に注意してほしい。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>事前の講義と現地での授業への参加・貢献度に応じて、評価を行う。 [A] 地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から具体的な方策について考えることができる。 [B] 地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から考えることができる。 [C] 地域課題とその解決についての工夫について理解している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>事前の講義と現地での授業への参加・貢献度に応じて、評価を行う。 [S] 地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から具体的な方策について多面的に考えることができる。 [A] 地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から具体的な方策について考えることができる。 [B] 地域課題とその解決に向けての工夫について理解し、美術教育の観点から考えることができる。 [C] 地域課題とその解決についての工夫について理解している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B1)-134	履修コード	4019Z1
科目名	造形表現工房VI (語学・理論/美術教育ゼミナール)	科目英語名	Art & Design Practice Studio VI
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	
専攻・年次	全専攻3・4年次	曜日・時限	
履修区分	自由	教室	
単位	1	定員	
担当教員	○荷方邦夫 桑村佐和子		
授業概要	美術の学校教員を目指す学生を対象に、教育に必要な知識や技能をさらに習得し、教員として必要な態度を身につけるよう、自主的な学習や研究を行うゼミナール形式の活動を行う。		
到達目標	美術教員として教育実践に参加するために必要なレベルの知識や態度を身につける。学校教育の実際について理解を深め、自ら研究・実践できる基礎的な能力を学ぶ。また、教員採用試験突破にむけ、必要な課題を解決できる力を身につける。		
授業計画	週1回開かれるゼミナールでは、以下のようなテーマで研究と議論を行う (1) 教職教養 (2) 美術の専門教養 (3) 学校教育や教育問題に関する議論と論述。 教員はこれらについてのトピックを示し、学生が学習やレポートを行うように事前に提示を行う。そして毎回のゼミナールでは、学生が各自その発表や議論を行う。また、論述についても学生にテーマが与えられ、作成されたレポートについて添削を含めた指導が個別に実施される。		
予習・復習	毎回教員によってトピックと課題が示される。学生は各自予習の上授業に参加する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	必要な教材は適宜配付する。		
履修上の注意	美術教育、その他教育に関する関心・態度の高いものを対象に行う。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について評価する。学生は授業に出席し、規定の回数(30時間)に達したとき単位取得の要件を満たしたと認める。評価については、授業への参加状況に応じてそれぞれ評価を行う。評価のポイントは1%を1ポイントとして換算する。 評価の基準 [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B1)-135	履修コード	4020Z1
科目名	造形表現工房VI（語学・理論/芸術と言語表現）	科目英語名	Art & Design Practice Studio VI
科目区分	基礎科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻2～4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	自由	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	
担当教員	○高橋明彦・青柳りさ・水野さや・河崎圭吾・荷方邦夫・稲垣健志（非常勤）Mark Hammond		
授業概要	芸術活動におけるさまざまな場面で必要となる言語表現について、より効果的かつ実践的な力を獲得するよう、個々のケース（海外留学を含む）に対して指導を行う。		
到達目標	自己の芸術活動を通じたそれぞれの場面で、説得力ある日本語の表現力を獲得する。英語やフランス語をはじめとした外国語の特性を活かし、プレゼンテーションのための能力（文章表現や口頭表現を含む）を身につける。		
授業計画	<p>カリキュラムと指導教員は、主に2つの領域から構成される</p> <p>（1）日本語を主体とした表現活動の支援 （高橋、水野、河崎、荷方） 自己の制作についての論理的で明晰な文章、他者の芸術作品についての魅力的で説得力のある文章、制作プロセスを明解に記したテクニカル・レポート、効果的でインパクトのあるコピーライティング、コンセプトを明確かつ効果的に伝えることができるプレゼンテーション（口頭発表）など、それぞれの活動目的に応じた日本語による言語表現を指導する。</p> <p>（2）外国語による表現活動 （青柳、稲垣、ハモンド） それぞれの教員が専門とする言語を中心に、制作および発表の場で必要となる実践的な言語表現力を養う。 留学、コンペ、国内外の大学院進学など、明確な目標をもった学生への効果的な支援を行う。 イングリッシュヘルプセンター（稲垣、ハモンド）の活用も考える。</p> <p>本講座の受講希望学生は、自ら設定する目標に応じて、開講されているゼミのなかから適宜選択し、各教員から指導を受ける。受講回数が計15時間に達した時点で1単位を獲得できる。</p>		
予習・復習	各教員の指示する予習や復習の課題、求められたレポートなどを適切に行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	指導内容にしたがって随時紹介する。		
教材	必要な教材は担当の教員が適宜配付する。		
履修上の注意	関心・態度の高いものを対象に行う。事前に良く準備のこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	学生は、各教員の指導を受け、受講した時間が15時間を超えた時点で単位取得の資格を得る。指導を行った教員は、担当分の授業についてそれぞれ評価を行う。最終的な評価は、それぞれの評価を時間に比例してカウントしその合計とする。評価の基準は教員によって異なるので、学生は、授業中やオフィスアワーを利用して、自身の受講状況を教員に確認して下さい。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	学生は、各教員の指導を受け、受講した時間が15時間を超えた時点で単位取得の資格を得る。指導を行った教員は、担当分の授業についてそれぞれ評価を行う。最終的な評価は、それぞれの評価を時間に比例してカウントしその合計とする。評価の基準は教員によって異なるので、学生は、授業中やオフィスアワーを利用して、自身の受講状況を教員に確認して下さい。		

平成31年度シラバス

番号	(B2)-01	履修コード	3507Z1
科目名	日本絵画史特講	科目英語名	Studies on Japanese Painting History
科目区分	美術科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	日本画専攻・芸術学専攻3年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	必修	教室	研修室
単位	2	定員	30名
担当教員	○菊池裕子（非常勤）塩谷 純・岡 泰央・未定		
授業概要	古代から近代までの日本絵画の展開とその特質、および素材・技法について専門的なレベルで講義し、知識と理解を深める。		
到達目標	日本の絵画作品に対するより専門的な理解を通して、自らの制作・研究に活かすことができる能力の獲得を目指す。		
授業計画	<p>本授業は、計3回×1日（5コマ）の集中講義で構成される。 テーマは下記のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本絵画史①（未定） 古代から近世に至る「日本絵画」の流れと特質について講義する。 2. 日本絵画史②（塩谷） 近代における「日本画」の成立と展開について講義する 3. 絵画技法研究（岡） 文化財修理の立場から日本絵画の素材・技法について講義する。 <p>毎回、視覚教材を用いて主要作品を取り上げつつ講義を行う。</p>		
予習・復習	事前に関連文献に目を通し、講義に備えることが望ましい。 講義後は授業内容を踏まえた復習を行うこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配布プリント。		
履修上の注意	毎回配るコメント用紙に、各授業の内容に対する感想を積極的に述べることを求める。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加度 40% レポート(3回) 60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 授業への参加度については上記「履修上の注意」を参照すること。 レポートの採点基準は下記のとおり。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B2)-02	履修コード	3520Z1
科目名	西洋絵画史特講	科目英語名	Studies on Western Painting History
科目区分	美術科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	油画専攻・芸術学専攻3年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	40名
担当教員	○保井亜弓（非常勤）幸福 輝・坂本雅美		
授業概要	西洋美術における諸問題を具体的な事例に即した個別のテーマに絞って解説する。		
到達目標	西洋美術における基本的な知識を身につけるとともに、より専門的な問題の理解を深める。		
授業計画	<p>集中講義を含めた形式で行なう。 個別のテーマを設定し、概説とは異なるより専門的な講義を行なう。随時ヴィジュアルな資料や文献史料などを用いて解説する。</p> <p>1、ルネサンス美術の諸相（集中講義を除いた毎週） 保井担当 14-16世紀のイタリアおよび北方の美術を対象として、その様々な形式と受容のあり方を解説する。南北のルネサンス美術の多様性を基本作例を通して学んでいく。</p> <p>・ルネサンス芸術の諸相 （1）祭壇画の機能 （2）素描という芸術 （3）空間の広がり （4）彫刻のリアリティ （5）版画というニューメディア</p> <p>2、17世紀ヨーロッパの北方美術について個別のテーマを設定して、具体的な作品に即しながら解説する。幸福担当（集中）</p> <p>3、15世紀から19世紀ヨーロッパの美術についてとくに紙をテーマとして、具体的な作品に即しながら解説する。坂本担当（集中）</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配布プリント・パソコン・スライド		
履修上の注意	観察したことや考えたことを言語化することは重要である。授業メモはその鍛練である。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末レポート50%、授業メモ（保井担当毎回）30%、授業における積極性20%</p> <p>[A] 授業内容を高度に理解し、応用することができる。 [B] 授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。 [C] 授業内容を理解できている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B2)-03	履修コード	4127Z1
科目名	彫刻史特講	科目英語名	Studies on Sculpture
科目区分	美術科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻・芸術学専攻3年次	曜日・時限	集中（後日掲示）
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	30名
担当教員	(非常勤) 高橋幸次・明珍素也・未定		
授業概要	日本・東洋・西洋における彫刻作品のあり方について、歴史的作品の考察を通し、彫刻という造形美術のジャンルの特質を把握する。各テーマごとに、代表的な作品やそこに用いられる技法例を取り上げることにより、彫刻制作に認められた規則性と変容性の幅を知り、制作背景、受容背景にも目を向ける。これにより、歴代の作品の考え方をすることはもちろん、歴代の名品を通して、これから作品を制作する立場に立とうとする者が、制作に際し配慮すべき諸要素とは何か、考えるための端緒としたい。		
到達目標	本授業の目標は、以下の2点である。 (1) 彫刻作品の表現的・技法的特質について包括的に把握することができること (2) 上記(1)をもとに、それを自身の制作や研究に活かそうとする認識を形成できること		
授業計画	<p>本授業は、日本・東洋・西洋における彫刻作品の様々な諸相について、3名の講師により、全15回の講義を構成する。</p> <p>1～5. 担当：未定 集中講義（後日掲示） 「東洋における仏教造像の流れ」</p> <p>東洋美術における人体への意識とはどのようなものなのか、中国・韓国・日本の仏教造像を題材として、まず、仏に具わっているとされる「身体的特徴」を確認する。それらを踏まえて、「理想的身体としての仏像」、「仏像の荘厳」、「身体の内と外」などについて考察におよぶ。</p> <p>6～10. 担当：明珍素也 集中講義（後日掲示） 「日本における木彫技法研究、仏像の保存修復」</p> <p>日本における彫刻の歴史において、長い年月にわたり、積極的に制作されてきたのは仏教彫塑像である。木を主材料とする仏像の基本的構造、彫法、表面彩色構造に関わる技法など、基本的な技術の理解の把握を目指す。また、仏像の保存修復の現状を通して、彫刻家としての文化財との携わりについても取り上げる。</p> <p>11～15. 担当：高橋幸次 集中講義（後日掲示） 「西洋近代彫刻の流れ」</p> <p>ヨーロッパ近代彫刻の代表的な彫刻家と作品を取り上げて、その流れを概観する。近代彫刻の担い手達は古代ギリシャやローマ彫刻の何をどのように消化吸収したのか、「近代」という時代に彫刻に求められた社会的要素や造形的要素は何だったのか、彫刻の目的・機能や象徴性なども視野に入れながら考察する。</p> <p>なお、各講義は、最新の学術情報や展覧会情報を織り込みながら、学生の関心に応じて多少の調整を行うつもりである。そのため、講義内容に若干の変更が生じる可能性がある。</p>		
予習・復習	関連する分野の文献に目を通しておくこと。		
教科書	特になし		
参考書	各講義ごとに、担当講師が適宜指示する。		
教材	配布プリント		
履修上の注意	毎回の授業は、プロジェクターを用い、画像資料の提示を中心に行う。 各講義日程の詳細は事務局前の掲示板にて連絡する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 授業内容を理解しようとする高い意識と目標への十分な到達およびレポート提出 (自らの視点に立脚し問題点が明示され、意欲的に意見がまとめられているレポート)</p> <p>[B] 授業内容を理解しようとする意識と目標への到達およびレポート提出 (自らの意見が意欲的にまとめられているレポート)</p> <p>[C] 授業内容の理解度およびレポート提出 (参考文献をまとめたにとどまるレポート、提示された内容や書式は踏まえられているレポート)</p>		

成績評価（平成30年度以降入学者）

平成31年度シラバス

番号	(B3)-01	履修コード	4101Z1
科目名	日本画（一）I	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (1) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年日本画実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○石崎誠和 荒木恵信（非常勤）荒木 史		
授業概要	日本古典絵画の現状模写（紙本白描画、紙本着彩画）及び臨模を通して日本画的なもののみかたや、日本画の伝統的な描写方法、表現技法を学ぶ。また、日本画制作の基礎となる画材（和紙、膠、どうさ液、墨、絵の具など）や道具（筆、刷毛、仮張り、絵皿など）の特徴や、取り扱い方を学ぶ。これらから自己の内面を探究し、絵画を創作、鑑賞する感性や能力を養い、絵画造形の諸要素や美術文化についての理解を深める。本授業は一般的包括的科目である。		
到達目標	日本画の画材や道具、技法についての知識及び用法を習得する。これらを用いてモチーフの詳細な観察から得られる理解を的確に描写、表現できる基礎技術を習得する。日本絵画に慣れ親しみ、その表現を理解するために必要とされる基礎的な理論（絵画組成や材料学、美術史や風俗史など）を自らが探究し、これらを統括した多角的な視点で作品を考察できる姿勢を育む。		
授業計画	<p>○石崎誠和 日本画制作の基礎となる画材についての指導 ○荒木恵信 日本絵画の伝統的な材料と技法、模写についての指導 ガイダンス 日本画制作の基礎となる画材や道具などの解説。</p> <p>第1週 静物の精密描写 石崎誠和 ・特に道具・材料の基礎的技術を習得する。</p> <p>第2～3週 古典実習① 荒木恵信 ・紙本白描画（鳥獣人物戯画絵巻）の現状模写。 画面構成や描線の特質などの観察・発見から日本画制作の基礎的な技術を学ぶ。 伝統的な画材や文房四宝などの解説から、日本の古典絵画を材料や技術の側面からも理解する。</p> <p>第4週 古典実習② 荒木恵信 ・紙本白描画（鳥獣人物戯画絵巻）の臨模。 現状模写の経験を基に、墨彩による運筆から表現される躍動感や空間感の表現と制作に携わる精神性などについても学ぶ。</p> <p>第5～8週 古典実習③ 荒木恵信 ・紙本着彩画（伴大納言絵詞）の現状模写。 古典絵画にみられる描写方法や着彩技法、遠近法などの表現技法を学びながら、絵画制作の基礎的な技術を習得する。 伝統的な画材や文房四宝などの解説から、日本の古典絵画を復元的に考察できる視点を育む。</p> <p>その他 仮張製作 荒木恵信・荒木史 ・仮張りを作ることにより、和紙の扱い方や張り方を学ぶ。</p>		
予習・復習	モチーフの調達及び管理、制作準備、クロッキー、写生など。 古典実習では、原本に関する文献調査など。		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式のほか、適宜指示。		
履修上の注意	前提条件として、課題導入時、工程導入時に詳細な解説をするので、必ず出席すること。 絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題提出4回。各課題の到達度と積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について深く理解し、制作を高いレベルでできた。 [B] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について理解し、制作を図ることができた。 [C] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について学び、制作ができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	課題提出4回。各課題の到達度と積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について深く理解し、制作を高いレベルででき、特に秀でている。 [A] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について深く理解し、制作を高いレベルででき		

た。

[B] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について理解し、制作を図ることができた。

[C] 日本画材と古典絵画に関する基礎的な知識・技術について学び、制作ができた。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-02	履修コード	4102Z1
科目名	日本画（一）Ⅱ	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (1) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年日本画実習室
単位	8	定員	15名
担当教員	○石崎誠和・松崎十朗・佐藤俊介・よしだぎょうこ		
授業概要	<p>静物や植物、小動物や人体などの精密写生を通して画材や道具に対する経験を積むと同時に、日本画制作の基礎となるモチーフへの観察力を高度化し、モチーフに即した描写力と表現力を養う。これらを通して絵画造形の諸要素や美術文化について理解を深める。これらから自己の内面を探求し、絵画を創作、鑑賞する感性や能力を養い、絵画造形の諸要素や美術文化についての理解を深める。本授業は一般的包括的科目である。</p>		
到達目標	<p>日本画の基礎的な描写や表現に関する知識を獲得し、その重要性を自覚して今後の表現の基盤とする。人物や動物の骨格や肉付き、毛並みなどの特徴を詳細な観察から理解し、これを日本画材を用いて的確に描写、表現する力を習得。</p>		
授業計画	<p>○松崎十朗 日本画制作の基礎ならびに特に画材・技法についての指導 ○佐藤俊介 日本画制作の基礎ならびに特に描写、表現についての指導 ○よしだぎょうこ 日本画制作の基礎ならびに特にデッサン、方法論についての指導 ○石崎誠和 日本画制作の基礎ならびに特に写生についての指導</p> <p>ガイダンス ・日本画の表現の多様性に関する講義</p> <p>第1～2週 静物の精密写生 石崎誠和 ・水干絵具と岩絵具を使用した精密写生。日本画制作に必要なモチーフの捉え方や十分な観察の姿勢を育み、これを表現するための理論と技術を学ぶ。水干絵具及び岩絵具の特徴を膠水の濃度や筆致等と共に理解する。</p> <p>第3～5週 花の精密写生 よしだぎょうこ ・水干絵具と岩絵具を併用した精密写生。写生を用いてモチーフへの理解を深める。花の持つ繊細な構築性や生命力を日本画材の特性を生かして表現する方法を学ぶ。</p> <p>第6～8週 小動物の精密写生 松崎十朗 ・小動物を詳細に観察して的確に捉え描く。写生やクロッキーなどを繰り返し、動物の基本的骨格と動きを正確に捉える方法を学び、動物の存在感までも表現する。</p> <p>第9週 グループワーク よしだぎょうこ ・作品とコンセプトの関係、プレゼンテーションなどの現代的視野を養う。</p> <p>第10～11週 石の精密写生 佐藤俊介 ・水干絵具と岩絵具を併用した精密写生。モチーフへの理解を高めることの重要性を自覚し、各自が観察力を向上させる方法を探究する。岩絵具と水干絵具の性質を十分に理解し、重色や混色と盛り上げ表現等を各自の実践を通して習得する。</p> <p>第12～13週 魚類の精密写生 石崎誠和 ・泳ぐ魚を詳細に観察して的確に捉え描く。骨格や鱗、鰭などのあり方や動きに留意して描写する。金泥を用いるための技術を学ぶ。</p> <p>第14～16週 自画像 佐藤俊介 ・鏡を使用して自画像を描く。デッサン力を高めると同時に鏡に映し出される自己と向き合い、技術を表現として発展させる道筋を体得する。</p> <p>その他 郊外写生授業 松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 ・郊外写生（水彩）により風景の捉え方を学ぶ。</p>		
予習・復習	モチーフ調達及び管理、制作準備、クロッキー、写生など		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式のほか、適宜指示。 グループワークに必要な素材など、適宜指示		
履修上の注意	前提条件として、課題導入時、工程導入時に詳細な解説をするので必ず出席すること。 絵具のついた筆や絵皿の洗い方など、絵具の廃棄については必ず教員の指示に従うこと。		

	本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出7回。郊外写生授業並びに夏期休業中写生課題、積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。</p> <p>[A]モチーフに対して日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて高い表現性を保有する描写力がある。</p> <p>[B]モチーフを日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて表現できる描写力がある。</p> <p>[C]モチーフを日本画的視点に於いて観察し、これを日本画材ほかを用いて描写できる。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出7回。郊外写生授業並びに夏期休業中写生課題、積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。</p> <p>[S]モチーフに対して日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて高い表現性を保有する描写力があり、特に秀でている。</p> <p>[A]モチーフに対して日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて高い表現性を保有する描写力がある</p> <p>[B]モチーフを日本画的視点に於いて深く観察でき、これを日本画材ほかを用いて表現できる描写力がある。</p> <p>[C]モチーフを日本画的視点に於いて観察し、これを日本画材ほかを用いて描写できる。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B3)-03	履修コード	4103Z1
科目名	日本画(二) I	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (2) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	2年日本画実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和・荒木恵信 (非常勤) 仁志出龍司		
授業概要	日本画(一) I 及び II に引き続き、日本画材の基礎的習得と日本画的視点による表現を学び、それらをより高いレベルで深化させる。日本画の伝統的な技法である箔技法、運筆技法、絹本技法また、人体デッサン、東洋絵画及び西洋絵画に於ける各種遠近法を学ぶ。専門性に繋がる前段階での理論的学習として、より多角的な要素で美術の歴史性と現代性を考察し、その表現と方法論を学ぶ。		
到達目標	日本美術の中の日本画と世界の美術動向の中の日本画のあり方を広い視点から考察し、そこに見出せる独自性に関して理解する。日本画の歴史を把握したうえでその伝統性と発展性について視野を広げる。日本画の制作の基本となる技術や技法を習得し、制作の基盤を充実させ、これらを応用し、発展できる感性を育む。		
授業計画	<p>○松崎十朗 日本画の歴史性に関する解説とその技術・表現方法の指導 ○佐藤俊介 日本画制作の基礎ならびに画材・技法についての指導 ○荒木恵信 日本画の絵画組成や箔技法の指導 ○石崎誠和 日本画制作の基本的工程の指導</p> <p>第1週 裏打ち実習・パネル製作方法 佐藤俊介 ・大作の日本画制作に不可欠な裏打ち技術を学ぶ。裏打ち紙の選択や糊刷毛や水刷毛、撫で刷毛の扱い方などを実践によって学び、基底材への効果を確認する。また、基底材を張り込む木製パネルの製作を学ぶ。</p> <p>第2週 箔技法 荒木恵信 ・様々な金属箔と道具の解説。箔の取り扱い方(あかし方、押し方、保存方法など)や切箔の種類やその技法、特殊な表現方法について実験的な作品を通して学ぶ。 ・また、箔に関する施設を見学して、金沢の伝統工芸でもある箔を製造過程からより分かりやすく学ぶ。</p> <p>第3週 絹本技法 石崎誠和 ・絵絹に着彩画を描く技術について学ぶ。絹の種類や特性を理解し、絹の特徴や独特な風合いを活かした絵画を考察する。</p> <p>第4週 運筆技法・書 佐藤俊介 ・着彩写生したモチーフを墨と顔彩により日本画的感覚を通して表現する。 ・日本絵画には落款や賛など文字も大きく影響している。これら文字のルーツを探り、篆刻による自用印の作成を通して篆・隸・楷・行・草など各書体の特徴を学ぶ。</p> <p>第5~6週 構想と下図 松崎十朗 ・課題制作のため各テーマについて構想を練り、下図を作成する。</p> <p>第6~8週 人体デッサン 石崎誠和 ・鉛筆による裸婦デッサン。人体のバランスや特徴を的確に捉えて、写実できる力を身につける。</p>		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図。		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式他、適宜指示。		
履修上の注意	前提条件として、基礎的かつ重要な説明が多いため特に課題導入時には必ず出席すること。本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	課題提出6回。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]現代的視野において表現ができ、箔及び和紙・絹などの基底材についても深く理解し、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。 [B]現代的視野で考察ができ、箔及び和紙・絹など基底材について理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。 [C]現代的視野について学び、箔及び和紙・絹など基底材についても理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	課題提出6回。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S]現代的視野において表現ができ、箔及び和紙・絹などの基底材についても深く理解し、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。		

成30年度以
降入学者)

現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に特に秀でたレベルでの深化が確認できる。
[A] 現代的視野において表現ができ、箔及び和紙・絹などの基底材についても深く理解し、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。
[B] 現代的視野で考察ができ、箔及び和紙・絹など基底材について理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。
[C] 現代的視野について学び、箔及び和紙・絹など基底材についても理解すると共に、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-04	履修コード	4104Z1
科目名	日本画(二)Ⅱ	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (2) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	2年日本画実習室
単位	9	定員	15名
担当教員	○松崎十朗・佐藤俊介・よしだぎょうこ・石崎誠和 (非常勤) 仁志出龍司		
授業概要	展示発表を前提とした紙本及び絹本による日本画制作を實踐して基本的な制作工程を学ぶ。個別指導によって各自が求める表現に関して、主題やモチーフ、画面構成や配色、各種遠近法による空間表現、表現技法など様々な観点からより美的、効果的なあり方を考察、検討する方法を学ぶ。		
到達目標	日本画の絵画組成と技術技法をよく理解すると同時に、日本画の制作工程の利点や有意点を十分に理解し、習得。特に写生、小下図、大下図(草稿)、本画制作のプロセスの意味と重要性を理解する。		
授業計画	<p>○松崎十朗 日本画制作に於ける空間表現と技法の指導 ○佐藤俊介 日本画制作に於ける写生と本画との関係性の指導 ○よしだぎょうこ 日本画の表現領域での現代性の解説、指導 ○石崎誠和 日本画の伝統的技法の基本制作工程の指導</p> <p>第1~4週 日本画基礎課題① 佐藤俊介 ・植物を主題とする50号作品の制作。 パネル制作・裏打ち・写生・小下図・大下図(草稿)・本紙という日本画制作の基本的工程と作業を学ぶ。</p> <p>第5~7週 絹本着彩課題 石崎誠和 ・絵絹について学び、動植物をモチーフに写生から小下図、大下図(草稿)の段階を経て描くことにより、絹本日本画制作の基本作業を学ぶ。</p> <p>第7~10週 日本画基礎課題② よしだぎょうこ ・動物を主題とする50号作品の制作。 特に写生を基に展開、発展させる小下図の意義と重要性を学ぶ。</p> <p>第11~14週 日本画基礎課題③ 松崎十朗 ・風景主題とする50号作品の制作。 これまでに学んだ制作のあり方や表現を基盤として、日本画に於ける風景画について学ぶ。</p> <p>第15~18週 日本画基礎課題④ 石崎誠和 ・人物を主題とする50号作品の制作。 特に日本画の画材において発展、展開させる現代的表現を学ぶ。</p> <p>その他 郊外写生授業 松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 ・水彩による郊外写生により風景の捉え方及びその表現を学ぶ。</p>		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図		
教科書	なし。		
参考書	適宜指示。		
教材	日本画用具一式他、適宜指示。		
履修上の注意	基礎的かつ重要な説明が多いため特に課題導入時には必ず出席こと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	課題提出5回。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]現代的視野において表現ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。 [B]現代的視野で考察ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。 [C]現代的視野について学び、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	課題提出5回。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [S]現代的視野において表現ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に特に秀でたレベルでの深化が確認できる。 [A]現代的視野において表現ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施し、制作した作品に高いレベルでの深化が確認できる。		

[B] 現代的視野で考察ができ、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作した作品に深化が確認できる。

[C] 現代的視野について学び、対象を表現する上での準備を計画的に実施して制作できた。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-05	履修コード	4105Z1
科目名	日本画(三) I	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (3) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年日本画演習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○よしだぎょうこ・松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 (客員教授) 土屋禮一 (非常勤) 米谷清和・北田克己・さわひらき・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・能島浜江 その他		
授業概要	<p>授業の前半は、日本画の表現の多様性について実験的な制作を行いながら考察する。授業の後半からは、これまでの学習と自己の考察から各自の表現を追求するため、自らが基本3件の課題を立案して実施する。立案した課題毎に各教員が設定する専門(授業計画欄を参照)から2つを選択し、2名の教員から指導を受ける。特に、課題の計画性、主題、表現意図、プレゼンテーション方法など理論を形成するための多角的視点について学ぶ。</p> <p>本演習による成果は、日本画(三)Ⅱで実践的な制作に還元されるため、実現可能な内容とする。授業の前半及び後半の課題である人体デッサンは、描写力と表現力を育む重要な課題であるため必ず出席しなければならない。</p>		
到達目標	<p>具体的な研究目的、研究計画を立てられる。自己の求める表現を美術史や地域性・美学・哲学など様々な観点から考察検討する姿勢を養い、独自の作品とコンセプトを探求する。その表現の完成をプレゼンテーションできる。</p>		
授業計画	<p>■前半</p> <p>○松崎十朗 日本画制作の表現特に、日本画的空間表現についての指導 ○佐藤俊介 日本画制作の表現特に、表現に於ける素材効果についての指導 ○よしだぎょうこ 日本の美学概念に基づいた、発展的表現についての解説および指導 ○石崎誠和 日本画制作の表現特に、日本画的画面構成・創造性についての指導</p> <p>第1~2週 遠近法と構図法など ・スケッチや写生を基にして作品の構想を練り上げる際に、東洋絵画及び西洋絵画に於ける各種遠近法、構図法を効果的に活かし、日本画表現の豊かさを掴み、自らの考察を深化させる。</p> <p>第3~4週 人体デッサン(1) 佐藤俊介・石崎誠和 ・人体のバランスや特徴を的確に捉えて、色彩も踏まえた高い写実力を身につける。</p> <p>■後半</p> <p>第5~7週 3件の課題計画と、各自の課題に沿った主に理論的分野に関する指導 ・これまでの学習と自己の考察から各自の表現方針に沿った課題を自らが3件決める。 ・各課題に適すると考える専門を下記の①~④から2つ選択する。 ・各課題については選択した専門の教員が指導するが、本授業では特に、理論的な分野に焦点を絞って思索する。 ・これに基づいて「日本画(三)Ⅱ」では同教員の指導により実践的な制作を実施することとなる。 ・課題の設定、専門の選択などに関する疑問や相談などはすべての教員が随時受け付ける。</p> <p>① 箔素材を基にした現代日本画表現 ; 松崎十朗 箔素材を使った表現など様々な技法を学び制作することで、個性を生かした現代の日本画表現を探求する。</p> <p>② デジタルデバイス応用表現 ; 佐藤俊介 現代日本画表現。写生取材の徹底と、取材~構想~作図~制作の各段階に於けるデジタルデバイスを活用した絵画表現を含む発展的表現並びに、各種発表を主眼とした日本画制作の実践。</p> <p>③ 現代美術表現 ; よしだぎょうこ 東アジア、主に日本の絵画的構造の美学概念について再解釈と理解を深めつつ、従来の日本画制作の領域と形式を超えた、新たな表現を模索する。時にはアートインレジデンスやプロジェクトを通じ、現場での即戦力、共同作業の中での全体性を学ぶ。作品とコンセプトの整合性、プレゼンテーションなどの自己プロデューススキルを指導する。</p> <p>④ 動植物を含む発展的現代日本画表現 ; 石崎誠和 多様な日本画材により、発表を目的とした大作を個々の独自性に主眼を置いて制作をすることを前提とし、主題の設定から下図制作を行う</p> <p>注意事項 * 課題の基本的な規模は、制作期間を含めておよそ4~5週間で完成する程度とします。平面作品の場合、基本として一つの課題で60~100号の制作を目安とします。</p>		

	<p>* 課題に関して変則的な運用を望む場合などは、担当教員や選択した専門の教員が相談に応じます。</p> <p>* 始まった課題を途中で変更することはできません。しかし、始まっていない課題で先の課題の影響によって変更を希望する場合はこれを認めます。教員へ届け出てください。</p> <p>* 3件の課題でどの専門を選択するかは、課題に沿って自由です。</p> <p>* 始まった課題の途中で選択した専門を変更することは基本的にはできません。しかし、始まっていない課題で先の課題の影響によって専門の変更を希望する場合はこれを認めます。教員へ届け出てください。</p> <p>* 選択していない専門を担当する教員へも自由に質問できます。</p> <p>* 成績評価は、選択した専門の教員2名が主として採点し、全教員の合意を得て決定します。</p> <p>* 課題や専門、選択などについての相談はいつでも受けます。</p> <p>第8～9週 人体デッサン（2） 佐藤俊介・石崎誠和 ・人体のバランスや特徴を的確に捉えて、各自の表現を探求するデッサンを実践する。</p>
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図
教科書	特になし
参考書	適宜指示する
教材	リサーチするために必要な資料および制作用具一式
履修上の注意	授業後半からは、学生自らが自身で取り組む課題を掴み、専門性の深い領域に入るため、授業前半の課題はこのことを十分考慮して取り組むこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題提出について1～4週は下図指導をもってこれにあてる。5週目以降は課題によって選択した専門の教員2名が適宜指示する。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A] 課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かし、独自性を持って、それを説明できる。 [B] 課題に積極的に取り組み、主題を模索・追求し、画材・素材を適正に活かした。 [C] 課題に取り組む、主題を模索し、画材・素材を適正に活かす努力をした。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B3)-06	履修コード	4106Z1
科目名	日本画（三）Ⅱ	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (3) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年日本画演習室
単位	14	定員	15名
担当教員	○よしだぎょうこ・松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和（客員教授）土屋禮一（非常勤）米谷清和・北田克己・さわひらき・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・能島浜江 その他		
授業概要	授業の前半は大作制作を实践し、制作意図及び独自の表現について研究・模索する。授業の後半では日本画（三）Ⅰで計画立案した課題の理論を作品制作及び作品制作活動として実践する。		
到達目標	取材に則った制作意図に基づき、主題の昇華及び表現方法の探求ができる。各自の表現方針を深く考察し、その実現に向けて追求できる。		
授業計画	<p>■前半 第1～2週 課題制作Ⅰ 松崎十朗 ・50～60号の自由課題制作 第4～6週 課題制作Ⅱ 石崎誠和 ・1点または複数点による、合計100号の自由課題制作 第7～11週 課題制作Ⅲ 佐藤俊介 ・150号の自由課題制作</p> <p>■後半 第12～21週 「日本画（三）Ⅰ」で取り組んだ各自の考察を实践する。 *成績評価は、選択した専門の教員2名が主として採点し、全教員の合意を得て決定する。 *各課題で完成した作品は、学内展示に出品しなければいけません。（後述の学内展示を参照。）</p> <p>■その他 郊外写生授業 松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 学内展示 展示期間を別途指示するので各自計画的に作品制作すること。 展示期間中に講評・採点するので必ず出品すること。 出品作は完成していること。展示期間中に展示室からの持ち出しを禁止する。</p>		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図		
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する		
教材	日本画用具一式他、適宜指示する		
履修上の注意	授業後半からは、学生自らが自身で取り組む課題を掴み、専門性の深い領域に入るため、授業前半の課題はこのことを十分考慮して取り組むこと。本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題提出について。授業前半は3回。12週目以降は課題によって選択した専門の教員2名が適宜指示する。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]制作に於いて、独自の世界観を構築し、課題の取り組みに発展性がみられる。 [B]制作に於いて、独自の世界観を探求し、課題の取り組みに発展性がみられる。 [C]制作に於いて、独自の世界観を目指し、課題の取り組みに努力がみられる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-07	履修コード	4107Z1
科目名	日本画(四) I	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (4) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年日本画演習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗・よしだぎょうこ・石崎誠和 (客員教授) 土屋禮一 (非常勤) 米谷清和・北田克己・さわひらき・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・能島浜江 その他		
授業概要	<p>授業の前半は、自己の考察から各自の表現を深化するため、自らが基本3件の課題を立案して実施する。立案した課題毎に各教員が設定する専門(授業計画欄を参照)から2つを選択し、2名の教員から指導を受ける。卒業制作にむけて3年間の実習・演習を基に技法や表現の内容についてより深く考察し、自由な発想による個性的な表現の実現にむけて特に理論的な分野を学ぶ。本演習による成果は、日本画(四)Ⅱで実践的な制作に還元されるため、実現可能な内容とする。授業の後半は卒業制作を行う。構想や試作の経緯を各段階で担当教員と相談しながら個々の発想を向上させ、集大成となる作品を制作する。卒業制作は全教員が指導・評価する。授業の前半及び後半の課題である人体デッサンは、描写力と表現力、発想力を育む重要な課題であるため必ず出席しなければいけない。</p>		
到達目標	<p>具体的な研究目的、研究計画を明確に立てることができる。作品とそのコンセプトが独自性と整合性をもち、その表現を完成させ、十全にプレゼンテーションできる。 自己の求める表現を理論化し、様々な観点から考察する能力を高めることで、具体的な表現活動として高度に還元できる。</p>		
授業計画	<p>■前半 第1~3週 3件の課題を計画、各自の課題に沿った主に理論的分野に関する指導 ・これまでの学習と自己の考察から各自の表現方針に沿った課題を自らが3件決める。 ・各課題に適すると考える専門を下記の①~④から2つ選択する。 ・各課題については選択した専門の教員が指導するが、本授業では特に、理論的な分野に焦点を絞って思索する。 ・これに基づいて「日本画(四)Ⅱ」では同教員の指導により実践的な制作を実施することとなる。 ・課題の設定、専門の選択などに関する疑問や相談などはすべての教員が随時受け付ける。</p> <p>① 箔素材を基にした現代日本画表現 ; 松崎十朗 箔素材を使った表現など様々な技法を学び制作することで、個性を生かした現代の日本画表現を探索する。</p> <p>② デジタルデバイス応用表現 ; 佐藤俊介 現代日本画表現。写生取材の徹底と、取材~構想~作図~制作の各段階に於けるデジタルデバイスを活用した絵画表現を含む発展的表現並びに、各種発表を主眼とした日本画制作の実践。</p> <p>③ 現代美術表現 ; よしだぎょうこ 東アジア、主に日本の絵画的構造の美学概念について再解釈と理解を深めつつ、従来の日本画制作の領域と形式を超えた、新たな表現を模索する。時にはアートインレジデンスやプロジェクトを通じ、現場での即戦力、共同作業の中での全体性を学ぶ。作品とコンセプトの整合性、プレゼンテーションなどの自己プロデューススキルを指導する。</p> <p>④ 動植物を含む発展的日本画表現 ; 石崎誠和 多様な日本画材により、発表を目的とした大作を個々の独自性に主眼を置いて制作をすることを前提とし、主題の設定から下図制作を行う。</p> <p>注意事項 * 3件の課題は平面作品の場合、50~60号程度1点 120号程度1点 150号程度1点を制作の目安とします。 * 課題に関して変則的な運用を望む場合などは、担当教員や選択した専門の教員が相談に応じます。 * 始まった課題を途中で変更することはできません。しかし、始まっていない課題で先の課題の影響によって変更を希望する場合はこれを認めます。教員へ届け出てください。 * 3件の課題でどの専門を選択するかは、課題に沿って自由です。 * 始まった課題の途中で選択した専門を変更することは基本的にはできません。しかし、始まっていない課題で先の課題の影響によって専門の変更を希望する場合はこれを認めます。教員へ届け出てください。 * 選択していない専門を担当する教員へも自由に質問できます。 * 成績評価は、選択した専門の教員2名が主として採点し、全教員の合意を得て決定します。 * 課題や専門、選択などについての相談はいつでも受けます。</p>		

	<p>第4～5週 人体デッサン よしだぎょうこ・石崎誠和 ・各自が選択した画材を用いた裸婦デッサン。制作に反映できる独自性を開拓発見する機会とする。</p> <p>■後半 ○松崎十郎 日本画制作の表現並びに、日本画的空間表現に於ける独自性の指導 ○佐藤俊介 日本画制作の表現並びに、特に現代性・同時代性についての指導 ○よしだぎょうこ 日本の美学概念をベースにした発展的な表現と、そのプレゼンテーションについての指導 ○石崎誠和 日本画制作の表現並びに、主題と表現の整合性についての指導</p> <p>第6～7週 人体デッサン 松崎十朗・よしだぎょうこ・石崎誠和 ・各自が選択した画材を用いた裸婦デッサン。独自性を開拓発見する機会とする。</p> <p>第8～9週 卒業制作 全教員 ・各自が習作の成果と反省を踏まえ、卒業制作について教員と相談する。</p>
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図
教科書	特になし
参考書	適宜指示する
教材	リサーチするために必要な資料および制作用具一式
履修上の注意	3年次に引き続き、学生自らが自身で取り組む課題を掴み、専門性の深い領域の授業である。各自課題はこのことを十分考慮して取り組むこと。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出について。学生各自の課題によって教員から適宜指示する。積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。</p> <p>[A]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに積極性と独自性がみられる。</p> <p>[B]制作に於ける視野と考察が感じ取れ、主題意図に基づいて独創的な表現を図ったことが制作に見て取れる。課題への取り組みに積極性がみられる。</p> <p>[C]制作に於いて考察する努力をし、主題意図に基づいて独創的な表現を試みたことがわかる。課題への取り組みに努力がみられる。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B3)-08	履修コード	4108Z1
科目名	日本画（四）Ⅱ	科目英語名	Nihonga (Japanese Painting) (4) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	日本画専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年日本画演習室
単位	12	定員	15名
担当教員	○佐藤俊介・松崎十朗・よしだぎょうこ・石崎誠和（客員教授）土屋禮一（非常勤）米谷清和・北田克己・さわひらき・岩田壮平・中村賢次・岡村桂三郎・新恵美佐子・能島浜江 その他		
授業概要	授業の前半は日本画（四）Ⅰで計画立案した課題の理論を作品制作として実践する。授業の後半は卒業制作を行う。構想や実験研究の経緯を各段階で教員と相談しながら個々の発想を向上させ、集大成となる大作を制作する。		
到達目標	課題を実践した上で取材を基とした制作意図に基づき、主題の昇華及び個性的表現方法の探求・発展させることができる。独自の表現方針を深く考察し、その実現の深化を図ることができる。		
授業計画	<p>■前半 第1～10週 「日本画（四）Ⅰ」で取り組んだ各自の考察を実践する。 * 成績評価は、選択した専門の教員2名が主として採点し、全教員の合意を得て決定します。 * 各課題で完成した作品は、学内展示に出品しなければいけません。（後述の学内展示を参照。）</p> <p>■後半 第16～30週 卒業制作 全教員 ・各自が習作の成果と反省を踏まえ、卒業制作を担当教員と相談し制作する。 ・小下図もしくはコンセプトシートやマケットを基に、各自、制作意図を明示する。</p> <p>■その他 郊外写生授業 松崎十朗・佐藤俊介・石崎誠和 ・写生のあり方や特長の捉え方を重視し制作を前提とした写生をする。 学内展示 展示期間を別途指示するので各自計画的に作品制作すること。 展示期間中に講評・採点するので必ず出品すること。 出品作は完成していること。展示期間中に展示室からの持ち出しを禁止する。</p>		
予習・復習	制作準備、取材、構想、作図の実施		
教科書	説明もしくは資料を配付する 適宜指示する		
参考書	適宜指示する		
教材	リサーチのための資料、制作用具一式 適宜指示する		
履修上の注意	意欲的な創作態度と独自性を意識した表現を心掛けること。 本授業についてのわからない点や疑問、質問などは通年いつでも相談を受ける。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題提出について。前半は学生各自の課題によって教員から適宜指示する。後半の卒業制作作品。郊外写生授業や積極的な授業態度も含めて総合的に評価する。 [A]制作に於ける視野の広さと考察の深さがあり、主題意図に基づいた独創的な表現がされ、高いレベルでの深化を確認できる。課題への取り組みに独自性があり積極的である。 [B]制作に於ける視野と考察が感じ取れ、主題意図に基づいて独創的な表現を図ったことが制作に見て取れる。課題への取り組みが積極的である。 [C]制作に於いて考察する努力をし、主題意図に基づいて独創的な表現を試みたことがわかる。課題への取り組みに努力が見られる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-09	履修コード	4109Z1
科目名	油絵 (一) I	科目英語名	Oil Painting (1) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	1年油画実習室
単位	4	定員	25名
担当教員	○岩崎 純・真鍋淳朗・三浦賢治・大森 啓・鈴木浩之・高橋治希 (非常勤) 今村 文		
授業概要	基礎的デッサンや油彩画実習を通して絵画造形の諸要素を学ぶと共に、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する能力や感性を養い、表現の多様性や美術文化について理解する。なお本科目は絵画分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	素描用具、油彩画用具についての基本的な使用方法を習得すると共に、その歴史的背景等の知識について講義や文献、調査等から幅広く理解する。また、人体等の描写を通して研鑽を積み重ねる意味を理解すると共に、対象を深く見つめる観察眼を養い、油彩画及び絵画造形を学ぶ上で必要となる基礎的な素養と態度を身につける。		
授業計画	<p>第1週～3週 石膏デッサン 岩崎 純 油画全教員 学内に収蔵展示されている大型石膏像の観察描写を通じて、西洋における古典美の規範を学ぶと同時に、素描用具としての鉛筆の特性についての理解を深める。</p> <p>第5週～7週 静物油彩 大森 啓 油彩画の基本的な制作工程や用具の使い方、絵具の階層構造についての学習を通じて西洋絵画を理解することをねらいとし、F15号キャンバスに静物油彩画を完成させる。</p> <p>第11週 裸婦デッサン 真鍋淳朗 人体の観察描写を通じて西洋における人体のプロポーション、コントラストの美について学ぶとともに、木炭の特性についての理解を深めながら、形態や空間についての意識を高める。</p> <p>第15週 制作論 今村 文 現代の絵画における自然表現の課題について学ぶ。</p> <p>第25週～26週 グリザイユ I 三浦賢治 グリザイユの成り立ちを学ぶことで、油彩画技術の変遷について理解を深める。グレー階調の絵の具による描画をとおして、油彩画の重層構造やマチエールについての知識と技術を習得する。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>合評会(前期2回、後期2回) 岩崎 純 油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。</p>		
予習・復習	提示された主題について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の課題についての研究を深める。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>成績評価 課題提出4回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>成績評価 課題提出4回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。 [A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p>		

[B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。

[C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-10	履修コード	4110Z1
科目名	油絵（一）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (1) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年油画実習室
単位	8	定員	25名
担当教員	○岩崎 純・真鍋淳朗・三浦賢治・大森 啓・鈴木浩之・高橋治希（客員教授）佐藤一郎 （非常勤）原 崇浩・眞壁陸二・山室淳平		
授業概要	基礎的デッサンや油彩画実習を通して絵画造形の諸要素を学ぶと共に、自己の内面を深く探求し、絵画を創作・鑑賞する能力や感性を養い、表現の多様性や美術文化について理解する。		
到達目標	素描用具、油彩画用具についての基本的な使用方法を習得すると共に、その歴史的背景等の知識について講義や文献、調査等から幅広く理解する。また、人体等の描写を通して研鑽を積み重ねる意味を理解すると共に、対象を深く見つめる観察眼を養う。油彩画及び絵画造形全般、さらには現代の美術表現を学ぶ上で必要となる基礎的な素養を身につける。		
授業計画	<p>第16週～18週 インスタレーション基礎 高橋治希 グループワークによるインスタレーションの制作実習を通して、現代における表現の多様性について基礎的な知識と技術を学ぶ。</p> <p>第20週～21週 裸婦デッサンⅡ 大森 啓 西洋画におけるデッサンの様式的、技法的な歴史を知識として学び、さらに実習を通して理解するとともに基礎的な描写技術を習得する。知識の習得は講義のほか、書籍や情報機器により幅広く理解する。</p> <p>第18週 制作論 山室淳平 対象の変化に応じた積み重ねによる絵画表現の可能性を学ぶ。</p> <p>第22週～24週 裸婦デッサンⅡ 鈴木浩之 原 崇浩 西洋画の人体表現におけるデッサンの基礎的な描写技術を習得する。実習に於いては木炭や鉛筆を用いて裸婦を描写し、線や調子、空間表現について学ぶ。</p> <p>第27週～28週 人物着衣油彩画 高橋治希 日本の近代洋画史への理解を深めながら、観察によって対象を深く見つめ、人物着衣油彩における人物と背景の効果的な画面構成について学ぶ。</p> <p>第29週 グリザイユⅡ 三浦賢治 グリザイユⅠで制作した絵の具層の上に彩色を行う。アンダーペインティングから彩色に至る制作過程をとおして、油彩画技術の歴史を学ぶ。</p> <p>第30週～31週 テンペラ画 佐藤一郎 西洋絵画の伝統的な技法であるテンペラ画の制作を通して顔料・メディウムの取り扱いや絵画の重層構造を理解する。厳格に規定された制作プロセスが求められる油彩・テンペラによる混合技法を習得する。</p> <p>第34週～36週 現代アトリサーチ 真鍋淳朗 眞壁陸二 現代アートの流れを分析し、現代の視点から人体の多様な表現を考察し、各自のテーマを設定して制作を行う。金沢21世紀美術館の展示を見学し、学芸員より現代アートの概念を学ぶ。</p> <p>第37週～38週 アクリル画 大森 啓 アクリル絵具と各種メディウムについて、その構造的特性と基本的な使用方法を学ぶ。また実際の絵画制作を通して、アクリル絵具特有の幅広いテクスチャーを活かした表現技術を習得する。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>5月11日（土）～12日（日） 郊外写生授業 自然造形の観察描写を通して対象を見つめる姿勢を学ぶとともに、互いの作品や制作姿勢に理解し合う態度を学ぶ。</p> <p>合評会（前期2回、後期2回）、岩崎 純 油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。</p>		
予習・復習	提示された主題について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の課題についての研究を深める。		
	適宜指示する。		

教科書	
参考書	適宜指示する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 課題提出8回、合評会提出作品。個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>成績評価 課題提出8回、合評会提出作品。個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが特に秀でたレベルに到達している。</p> <p>[A]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を深く観察することに基づく表現や主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C]素描や油彩画についての基本的な知識や技術が習得され、対象を観察することに基づく表現や主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B3)-11	履修コード	4111Z1
科目名	油絵(二) I	科目英語名	Oil Painting (2) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	2年油画実習室
単位	4	定員	25名
担当教員	○鈴木浩之・真鍋淳朗・三浦賢治・大森 啓・高橋治希・岩崎 純(非常勤)木村克朗・三野哲二		
授業概要	デッサンや油彩画実習を通して西洋絵画における伝統技法を学ぶ。また、絵画表現におけるコンポジションについて、人体の配置、色彩、明暗、描線の強弱などの観点からより主体的な画面作りを探索する。油彩画における画面型の成り立ちと、構図法について解説を受け、絵画作品の図法的解決を試みる。		
到達目標	キャンバス制作、カマイユ、フレスコ画などの技法を経験することで、西洋絵画における伝統技法に関する知識と技術の幅を広げる。油彩を含む多様な素材で人体の観察描写を行い、色や線、マチエール等の特性を理解する。		
授業計画	<p>第1週~2週、及び、18週 キャンバス、パネル制作 三浦賢治 絵画制作において地塗りの基礎となる支持体について、画面比率の機能や構造、材料を学ぶとともに、実習を通してキャンバスやパネルの制作技術を習得する。</p> <p>第2週~3週 人体デッサン I 高橋治希 有色下地にチョークやコンテ等を用いて人体デッサンを行い、中間色の色幅についての理解を深める。</p> <p>第5週~6週 カマイユ I 三浦賢治 カマイユの実習を通して絵画の重層構造やマチエールについての理解を深める。</p> <p>第6週~7週 カマイユ II カマイユ I で制作した褐色の描画層に彩色を施す。アンダーペインティングから彩色に至る制作過程をとおして、油彩画の基本的な構造を学ぶ。</p> <p>第11週 フレスコ画研究 三野哲二 古代からルネサンスまで西洋画の主流であったフレスコ画の技法について説明を受け、共同作業を含む基本的な制作プロセスに従い実際に漆喰の壁作りを体験しながら、フレスコ画作品の模写を中心とした制作を行う。</p> <p>第23週 シルバーポイント 三浦賢治 西洋絵画の伝統的な描画用具であるメタルポイント(金属尖筆)のうち、シルバーポイント(銀筆)を用いたデッサンを行い、描画表現の多様性について理解を深める。</p> <p>第24週(3日間) 構図法 木村克朗 演習的な作画実習や個別的な作品講評の共有により西洋絵画における構図の概念とその重要性を学ぶ。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>5月11日(土)~12日(日) 郊外写生授業 鈴木浩之 自然造形の観察描写を通して対象を見つめる姿勢を学ぶとともに、屋外制作に必要な絵画技法についての理解を深める。</p> <p>合評会(前期2回、後期2回) 鈴木浩之、油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。</p>		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	プリントを配付する。		
教材	授業内容に関する資料・プリントを適宜提示、配布する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価(平	課題提出6回、合評会提出作品。		

成29年度以前入学者)	個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。
成績評価（平成30年度以降入学者)	個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 西洋絵画に関する知識と技術が特に秀でたレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-12	履修コード	4112Z1
科目名	油絵（二）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (2) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	2年油画実習室
単位	8	定員	25名
担当教員	○鈴木浩之・真鍋淳朗・三浦賢治・大森 啓・高橋治希・岩崎 純（非常勤）黒坂圭太・指江昌克・堀 至以		
授業概要	西洋絵画におけるデッサンと油彩画の基礎的な技術、及び知識に基づき、人体表現を完成させる。キュビズムや抽象表現等の絵画概念の変遷や、フレスコ画からミクストメディアにいたる絵画材料の拡張について学ぶとともに、現代に至る西洋絵画の歴史と表現の多様性を自身の制作に照らして考察する。		
到達目標	西洋絵画におけるデッサンと油彩画の基礎的な技術や知識の習得を実現し、完成した作品として統合する。近代から現代に至る西洋美術の歴史と表現を理解し、その知識を積極的に取り入れる姿勢を身につけ、自身の表現の問題と向き合う視点を獲得する。		
授業計画	<p>第12週～16週 裸婦油彩Ⅱ 大森 啓 裸婦油彩の制作を通して、絵画において重要な概念であるヴァールールに対する理解を確かなものにする。また、近代以降の重要な造形運動であるキュビズムの解釈についても触れる。</p> <p>第18週 制作論 堀 至以 現代の絵画における抽象表現の課題について学ぶ。</p> <p>第20週～22週 裸婦油彩Ⅱ 岩崎 純 裸婦を用いて、抽象表現についてその歴史的背景を踏まえた実習を行う。</p> <p>第25週～27週 アニメーション 黒坂圭太 鈴木浩之 国内外のアニメーションの歴史を学ぶと共に、映像制作におけるプロット、イメージボード、絵コンテ、動画、撮影、編集、出力について基礎的に学ぶ。</p> <p>第29週～31週 近代表現研究 真鍋淳朗 指江昌克 20世紀以降の近代絵画の思考を取り入れたデッサンをもとにエスキースを制作し、各自の表現に展開した人体油彩画を制作する。さらに制作上の思考の経過をアイデアスケッチとして記録し、段階的、計画的な制作の重要性を認識すると共に、ドキュメントとして整理したポートフォリオを制作し、その内容についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>第34週～36週 デッサンコンクール 鈴木浩之 素描に関する理論と描画技術の統合を目標とし、観察に基づく人体デッサンを行う。また、目標に達したデッサンの学内展示を行い、客観的な批評を受ける機会を得る。</p> <p>第36週～38週 ミクストメディア 高橋治希 現代における表現の諸課題について、多様な素材を組み合わせる発想力と創造性について学ぶ。主体的にコンセプトを設定し、適切な材料を探索することで、作品を構成する各要素の特性や関係性について考察する。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>海外研修旅行 西洋美術史における重要な作品群を収蔵する美術館や文化施設等を見学し、古典絵画技法やキリスト教文化を背景とした油彩画への理解を深める。</p> <p>合評会(前期2回、後期2回) 鈴木浩之、油画全教員 課題作品及び自主制作を提出し、講評を共有することで、多角的な視点から総合的に学ぶ意識を高める。</p>		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	授業内容に関する資料・プリントを適宜提示、配布する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業内容に関する資料・プリントを適宜提示、配布する。この科目の詳細については授業開始時に明示する。		

履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出7回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題提出7回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 西洋絵画に関する知識と技術が特に秀でたレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [A] 西洋絵画に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 西洋絵画に関する知識と技術が習得され、それらの知識が自己の制作に活かされている。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B3)-13	履修コード	4113Z1
科目名	版画 I	科目英語名	Printmaking I (Intaglio)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	25名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	<p>一 四版種の解説 版画・印刷の基本的な四版種(凸版、凹版、平版、孔版)についてレクチャーをおこなう</p> <p>一 銅版画制作 凹版画技法について学ぶと同時に、版画制作の可能性を探る。</p>		
到達目標	<p>版画の四版種の特性を理解する。 銅版画制作を通して、銅版画技法の基本的要素(製版、刷り等)を学び、昨今の版表現や絵画造形の諸要素について考察し、自己表現能力を高める。</p>		
授業計画	<p>初日 版画・印刷の歴史について、パワーポイントでレクチャーをおこなう 各版種の特性と歴史的背景を様々な作品を取り上げ解説する。 銅版画技法について詳しく解説 直刻法、腐蝕法、防蝕被膜の原料、その他。</p> <p>二日目 銅版画技法と製版工程の説明 共同作品を制作しながら、エッチング、ドライポイント、アクアチント、メゾチントの技法を説明 インクの特徴の解説、インクの拭き取り方と刷りの実演をおこなう。</p> <p>三日目～ 主題の決定から表現に適した銅版画技法の選択まで、個別に助言と指導をおこなう。 個々の進捗状況に応じて、適宜技術的助言をする。</p> <p>最終日 9:30頃まで 制作終了 9:50頃まで 後片付け 9:50頃から 作品のプレゼンテーション アンケートの回答 銅版の保存など</p>		
予習・復習	<p>版画用下絵(18×24cm以下のサイズ)を準備する。 本学付属図書館で参考書欄に挙げた本を予め閲覧することが望ましい。</p>		
教科書	なし。ただし製版工程の作業説明案内(A4)を配布する。		
参考書	<p>『中林忠良の銅版画』アートテクニック・ナウ15(河出書房新社) 『銅版画のテクニック』深澤幸雄 著(ダヴィッド社) 『銅版画のマチエール』駒井哲郎(美術出版社) 『つくる楽しさ・版画技法シリーズ』(VHS)</p>		
教材	180×240×1mmの銅板とハーネミュレ(5761)を使用する。(売店で事前に購入のこと)		
履修上の注意	<p>作業中インクなどで汚れる可能性があり、作業服、ゴム手袋、エプロン等持参のこと。 授業期間は、2019年7月24日～8月2日(土日を除く)を予定している。 なお初日の欠席は不認定となる。</p>		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>配点 作品評価90% プレゼンテーション10%(自作品のテーマや技法について、明快に説明すること) [A] 絵画の造形的諸要素(明暗の対比を含む画面構成)と共に、高い銅版画の技術(マチエール、刷りの美しさなど)に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>配点 作品評価90% プレゼンテーション10%(自作品のテーマや技法について明快に説明すること) [S] 優れた発想力と共に、高度な造形力、技術力に裏付けされた作品 [A] 絵画の造形的諸要素(明暗の対比を含む画面構成)と共に、高い銅版画の技術(マチエール、刷りの美しさなど)に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 銅版画技法のヴァリエーションがあり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、銅版画技法の習得が認められる作品</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B3)-14	履修コード	4114Z1
科目名	油絵 (三) I	科目英語名	Oil Painting (3) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年油画実習室
単位	6	定員	25名
担当教員	○高橋治希・真鍋淳朗・三浦賢治・大森 啓・鈴木浩之・岩崎 純 (非常勤) 喜井豊治、中田耕市、藤原 工		
授業概要	自身の制作テーマや表現について、油画のみならず多様な表現方法を検討する。各教員が設定する6つの課題に取り組み、自身の制作テーマを深く見つめると共にその表現方法を構想する。また、マンツーマンでの個人指導や、科目履修者全員が参加する講評を通して、自らの制作における多角的な視点を学ぶ。		
到達目標	自身の表現について、広い視野と独創的な発想、表現に結びつける技術を多角的に探求する能力を身に付ける。		
授業計画	<p>第1週～2週、第5週、第7週～9週 表現技法研究 I 高橋治希、真鍋淳朗、大森 啓、三浦賢治、鈴木浩之、岩崎 純</p> <p>下記の6つの課題をとおして、各自の制作テーマや表現技法について探求する。</p> <p>①真鍋教授 ・アーティストとして活動するための方法を学ぶ：アートマネジメント ・アートと社会を結ぶ方法を学ぶ：アートプロジェクト ・アートを発信する場を創る：オルタナティブスペースについて学ぶ。</p> <p>②三浦教授 裸婦モデルを用いた等身大デッサンを行う。モデルを等身大に描写する事により、人体の仕組みを正確に把握し、実像と平面空間との差異を認識する。また、等身大に描いた人体をもとにした作品化も試みる。</p> <p>③大森教授 レクチャーによって現代に於ける「絵画」の枠組みを改めて問い直し、演習をとおして各自の絵画表現の指向性や可能性を探る。</p> <p>④鈴木准教授 絵画作品と映像作品を比較し、それらの機能と制作工程の違いについて考察する。</p> <p>⑤高橋准教授 絵画と立体・空間の関係について、日本の伝統的な美意識から考察するとともに、自身の表現の在り方について深く探求する。</p> <p>⑥岩崎准教授 絵画制作における自らのテーマを表現するにあたり、素材と制作方法の可能性を探求する。</p> <p>第6週 壁画研究 真鍋淳朗、高橋治希、喜井豊治 モザイク、スタンドグラスの中から一つ選択し、実際にその制作プロセスを学ぶことで、西洋における建築に付随した絵画の在り方について理解を深める。</p> <p>第11週 展示照明演習 藤原 工 展示の照明について光の性質と知覚のあり方を理解すると共に、多様な照明機材の中から各自の展示プランに適した照明を選び、その使用法を学ぶ。</p> <p>第36週 作品展示 油画全教員 中田耕市 本科履修者が協力して進級制作を展示する計画を立て、必要となる準備を整えると共に展覧会を実施する。展覧会会場にて各自が作品についてのプレゼンテーションを行い、講評を受ける。</p> <p>第37週～38週 自主制作 学外発表活動 油画全教員 進級制作で得られた制作上の課題について考察し、理解が不足していた部分や技術的な問題点を検証する為に進級制作作品を分析する。また進級制作で得られた研究の成果を学外に向けて意欲的に発表(または、その準備を)する。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p>		

	<p>5月11日（土）～12日（日） 郊外写生授業 高橋治希 野外の風景から形状や色彩の調和を学ぶことをねらいとし、空や木々等の自然のモチーフを描写し風景画を完成させる。</p> <p>合評会及び審査会（前期1回、後期3回）高橋治希、油画全教員 自身の表現内容を説明するプレゼンテーションを行い、コミュニケーションスキルの向上を図るとともに、講評を共有し、個々の構想力や技術力の客観化を図る。</p>
予習・復習	各課題により別途指示する。
教科書	プリントを配付する。
参考書	適宜指示する。
教材	授業の際に適宜指示する。
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出9回、合評会提出作品。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが高いレベルで作品テーマの表現に活かされている。 [B]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解し、これらが作品テーマの表現に活かされている。 [C]造形的な調和について学び、制作プロセスの重要性を理解する。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B3)-15	履修コード	4115Z1
科目名	油絵（三）Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (3) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	3年油画実習室
単位	13	定員	25名
担当教員	○高橋治希・真鍋淳朗・三浦賢治・大森 啓・鈴木浩之・岩崎 純（非常勤）石田尚志・武田雄介・山本順子・山本 基		
授業概要	自身の制作テーマを明確化し、必要な取材や調査を行なったうえで、表現に適した技法や材料について検討し制作する過程を学ぶ。進級制作展で作品を発表し、プレゼンテーションと講評を通して発展的な表現を探求する。		
到達目標	自身の制作のテーマを明らかにし、その表現内容に結びつく材料と技法を習得すると共に、制作における過程の重要性を理解する。また自身の作品を客観的に捉える素養を身に付ける。		
授業計画	<p>第10週 インスタレーション 山本 基 教室外を含む開かれた空間の中で表現することを通して、事物と空間の多様な関わりを学ぶ。</p> <p>第11週～18週 表現技法研究Ⅱ 高橋治希、真鍋淳朗、三浦賢治、大森 啓、鈴木浩之、岩崎純、武田雄介、山本順子 表現内容と技法の関係について考察し、その整合性を図る為の試作や材料研究を進め、技法・材料に関する問題解決能力を向上させる。</p> <p>第20週～35週 進級制作（1点～2点）高橋治希、真鍋淳朗、三浦賢治、大森 啓、鈴木浩之、岩崎 純、石田尚志 創造的思考力と技法の一致した表現を学び、表現の客観性を目標とした制作技能の向上を図り、進級制作テーマ文作成、エスキース制作、作品制作の各プロセスを重視した作品を完成させる。</p> <p>第29週 撮影演習 鈴木浩之 スタジオ施設や写真機材を利用した撮影法について学ぶ。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>学外演習 個別の担当教員による少人数の学外演習授業を行う。</p> <p>合評会及び審査会（前期1回、後期3回）高橋治希、油画全教員 課題作品及び自主制作作品を提出し、合評審査を行う。</p>		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業の際に適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価（平成29年度以前入学学生）	<p>課題提出3回、合評会提出作品、研究発表1回。 個々の課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が高いレベルで表現に活かされている。</p> <p>[B] 絵画表現についての諸能力を基に、個々の作品テーマに適した技法や材料についての研究が表現に活かされている。</p> <p>[C] 絵画表現についての諸能力を基に、個々の表現に適した技法や材料について研究されている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学学生）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-16	履修コード	4116Z1
科目名	版画Ⅱ	科目英語名	Printmaking II (Lithograph)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	油画専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室
単位	1	定員	25名程度
担当教員	神谷佳男		
授業概要	アルミ板を用いてリトグラフ制作をおこない、平版画の特徴を知る。		
到達目標	版画の四版種の特徴を理解する。リトグラフ制作を通してリトグラフの特徴を理解するとともに、その技法の表現の可能性を追求する。		
授業計画	<p>初日 前半 版画と版種の説明 凸版、凹版、平版、孔版の説明</p> <p>後半 リトグラフの技法について説明 マーカー、ボールペン、リトクレヨン、ダーマトグラフ、解墨などの効果の説明</p> <p>共同作品を制作 製版しながら技法の概要を学ぶ</p> <p>2日目～8日目 各自、下絵・構想をもとに制作を進める。 個々のテーマ、進捗状況に応じ、適宜技術的な助言を与えるとともに、製版の作業をアシストする。</p> <p>* 製版作業に時間がかかり、待ち時間が発生する可能性がある。余裕を持って作業を進めること。</p> <p>最終日 10:30まで 制作終了 10:45まで 後片付け 10:50から 作品のプレゼンテーション 11:50 アンケートの回答</p>		
予習・復習	版画用下絵を準備する。 版のサイズは、事前に掲示する。		
教科書	なし。ただしリトグラフの製版工程の説明案内 (A4) を配布する。		
参考書	『石版画』阿部浩 著 (弘隆社)		
教材	アルミ板を使用する。売店で事前に購入のこと。		
履修上の注意	作業中インクなどで汚れる可能性がある。作業服、エプロン等持参のこと。 授業期間は、2019年4月17日～26日(土日を除く)の8日間を予定している。 なお初日と最終日のプレゼンテーションの欠席は不認定となる場合がある。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	[A] 絵画の造形的諸要素 (明暗の対比を含む画面構成) と共に、高い技術 (刷りの美しさなど) に裏付けされた優れた発想の作品 [B] 石版画の魅力があり、絵画の基礎的なレベルに到達している作品 [C] 時間をかけて制作に取り組み、技法の習得が認められる作品		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-17	履修コード	4117Z1
科目名	油絵(四) I	科目英語名	Oil Painting (4) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年油画実習室
単位	6	定員	25名
担当教員	○大森 啓・真鍋淳朗・三浦賢治・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純 (非常勤) 黒坂圭太・黒澤浩美		
授業概要	卒業制作に向け、自身の制作テーマや技法についての探求を深める。前期制作作品展示を通して卒業制作準備過程の報告や完成作品に対する客観的視野を得ると共に、プレゼンテーション能力の向上を図る。		
到達目標	自身の制作テーマや技法について明確に課題を見出し、表現として解決する。また、自らの制作を分かり易く紹介するプレゼンテーション能力を身に付ける。		
授業計画	<p>第1週~6週 第11週~18週 前期制作 大森 啓、真鍋淳朗、三浦賢治、鈴木浩之、高橋治希、岩崎 純、黒坂圭太、黒澤浩美 現代における造形表現を考察し、自身の制作の形態をさまざまな角度から検討する。学外での発表活動を行い、アーティストとしての能動的な社会参加能力を向上させる。自由な発想による卒業制作のテーマ(小論文)及び制作計画(絵画:エスキース/映像:シナリオ、絵コンテ、ビデオコンテ/立体・インスタレーション:イメージドローイング、企画書、マケット)を提出し、作品化に向けての予備制作を多数試みながら本作へと向かう。 [絵画、立体・インスタレーション] 卒業制作のテーマや技法を念頭に置いた作品1点の完成を前期制作課題とする。 [映像] 卒業制作で取り組む作品のシナリオ、絵コンテ、ビデオコンテの完成を前期制作課題とする。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>第14週 作品展示 油画全教員、黒澤浩美 前期制作課題の展示を行う。</p> <p>合評会及び審査会(前期3回、後期3回) 大森 啓 油画全教員 合評及び審査を行う。課題作品及び自主制作作品を提出し、工程管理スキル、及び、プレゼンテーションによるコミュニケーションスキルを学ぶ。</p>		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	合評会提出作品。研究発表1回(7月)。学外発表、受講態度を重視する。 [A]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、独創的な表現が高いレベルで成立している。 [B]4年間に学習すべき諸能力が習得され、独創的な表現が成立している。 [C]4年間に学習すべき表現の諸能力が習得されている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-18	履修コード	4118Z1
科目名	油絵(四)Ⅱ	科目英語名	Oil Painting (4) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	油画専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年油画実習室
単位	12	定員	25名
担当教員	○大森 啓・真鍋淳朗・三浦賢治・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純 (客員教授) 細田 守 (非常勤) 東村アキコ		
授業概要	絵画又は映像、もしくは立体・インスタレーション等の表現形態を用いた作品を卒業制作課題として完成し提出する。		
到達目標	1年次から習得した絵画、映像、立体・インスタレーションの制作技術及び作品構想の能力をさらに発展させる。現代の美術について4年間積み重ねた知識と技術を用いて自身の制作上の課題解決を目指す。自作についてプレゼンテーションを行い、コンセプトを小論文にまとめることで言語化能力を向上させ創造的思考力を高める。		
授業計画	<p>第7週~10週 前期制作・卒業制作 大森 啓・真鍋淳朗・三浦賢治・鈴木浩之・高橋治希・岩崎 純 前期制作及び卒業制作を行う。自作についてのプレゼンテーションを行ない、コンセプトを小論文にまとめる。</p> <p>第20週~38週 油画教員全員・東村アキコ・細田 守 1点の卒業制作を行う。自身の制作についてのプレゼンテーションを行ない、コンセプトを小論文にまとめる。3回の合評形式の卒業制作審査に参加し、卒業制作展に出品する。</p> <p>実習および演習において、適宜外国人モデルを用いた授業を行う。西洋人の骨格の研究をとおして、西洋美術の概念を具体的に理解することができる。</p> <p>合評会及び審査会(前期3回、後期3回) 大森 啓 油画全教員 合評及び審査を行う。課題作品及び自主制作を提出し、工程管理スキル、及び、プレゼンテーションによるコミュニケーションスキルを学習する。</p> <p>郊外写生授業 大森 啓 風景の油彩画制作を通じて、深い自然観察から生まれる自身の表現について考察する。</p>		
予習・復習	課題及び合評会提出作品について、提示された主題や自己の表現について研究し、制作を行う。提出、指導後も作品の問題点についてさらに研究を深める。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	この科目の詳細については授業開始時に明示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	課題提出4回、合評会提出作品。研究発表1回(7月)。学外発表、受講態度を重視する。 [A]4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、独創的な表現が高いレベルで成立している。 [B]4年間に学習すべき諸能力が習得され、独創的な表現が成立している。 [C]4年間に学習すべき表現の諸能力が習得されている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-19	履修コード	4119Z1
科目名	彫刻（一） I	科目英語名	Sculpture (1) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○浜田周・中瀬康志・石田陽介・土井宏二・芝山昌也（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	彫刻の基礎的な制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。自然観察を通して彫刻制作の最も基本となる美的要素について、様々な角度から探究する。制作実習を通じ、彫刻素材についてその特長の理解を図るとともに、各種道具の安全な取り扱い方や基本的な技術を習得する。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	各種実習を通して造形の原理や美的要素の理解に努める。 用具の安全な取り扱いや、各種素材に対する基礎的な技術を習得する。		
授業計画	<p>[課題1] 自然観察 ―様々な視点について考察する―（第1週から第7週）</p> <p>広いフィールドに出て、様々な対象を深く観察することで、物事の構造や現代社会の成り立ちを探る。その活動を通じて、物事を様々な視点で考察する力を養う。また、観察で得た成果をもとにした作品を制作する事により、自由で幅広い表現の可能性を知る。表現の形式は問わない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自然観察の課題、概要説明、グループディスカッション 2 フィールドワークや文献調査の実施 3 自己の考えをドローイング（2種類）に描く 4 ドローイングをもとにしたディスカッション 5 ドローイングを発展させた自由作品の制作 6 作品プレゼンテーションの準備 7 作品プレゼンテーション 8 合評 <p>上記の授業の中で、様々な実践を知るために専任教員による「表現論」を行う。 「具象彫刻概説・自己の表現を通して」（石田陽介）、「表現すること・私の場合」（土井宏二）、「素材の考察と制作活動」（浜田周）、「日本彫刻の近現代と自分の活動」（芝山昌也）、「表現活動としてのアートフィールド」（中瀬康志）</p>		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。個人購入の物品については授業内で指示。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B3)-20	履修コード	4120Z1
科目名	彫刻（一）Ⅱ	科目英語名	Sculpture (1) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	8	定員	15名
担当教員	○浜田周・中瀬康志・石田陽介・土井宏二・芝山昌也（非常勤）渡辺秀亮		
授業概要	各課題の制作テーマから自己の表現主題を設定し、各素材の特長を活かした表現を模索する。制作実習を通し、主な彫刻素材について体験を重ね、その特長の理解を図るとともに、各種道具の安全な取り扱い方や基本的な技術を習得する。		
到達目標	各課題を通して自己の表現主題を設定し、各素材の特長を表現に生かす。用具の安全な取り扱いや、各種素材に対する技術を習得する。		
授業計画	<p>〔課題1〕複合表現実習（第11週から第17週・担当：中瀬康志） 「自然観察」での成果を踏まえながら、今日的視点から「彫刻」の概念を広げ、作品発表まで想定した制作を行う。また、発表に至る過程のディスカッションを通して、作品と社会の関係を考える力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概説および課題説明 2 各種素材や媒体の可能性の研究 3 作品制作 4 作品発表、合評 <p>〔課題2〕木彫実習（第18週から第25週・担当：石田陽介） 「人間（もしくは自分）」をテーマに、徹底した観察と各自の造形観に基づく人物像の制作を木彫で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概説および課題説明・素材や技術、道具についての説明 2 与えられたテーマに基づくデッサンおよびイメージ作り・各自の主題決定 3 木彫による制作・仕上げ 4 合評 <p>〔課題3〕塑造および石膏成型実習（第27週から第36週・担当：土井宏二） 人体の制作を通して観察力を養い、基本的な美的要素の理解を図る。石膏による成型技法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概説および課題説明 2 クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 3 塑造による制作（美的要素の実践的理解） 4 石膏による成型 5 合評 <p>※学内展や学外展を適宜行い、展示発表を通して自己の制作について多角的に再考を図る。</p>		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。個人購入の物品については授業内で指示。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。		

- [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。
- [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。
- [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-21	履修コード	4121Z1
科目名	彫刻(二) I	科目英語名	Sculpture (2) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	4	定員	15名
担当教員	○芝山昌也・中瀬康志・石田陽介・土井宏二・浜田周 (非常勤) 渡辺秀亮・林一平		
授業概要	課題1および課題2を通して、彫刻の基礎的な制作の美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。自然に対する観察力を養いながら彫刻制作の最も基本となる美的要素について、様々な角度から探究する。この実習によって素材の特長を理解すると共に、各種道具の安全な取り扱いや基本的な操作方法を習得する。		
到達目標	各種実習を通して造形の原理や美的要素の理解に努める。 用具の安全な取り扱いや、各種素材に対する基礎的な技術を習得する。 材料計画から作品の仕上げまでを各自で行うことで、粘り強い制作態度が養われ造形能力の向上を目指す。		
授業計画	<p>[課題1] 木彫実習(第1から第7週・担当:石田陽介)</p> <p>「人間(自分)」をテーマに、徹底した観察と各自の造形感に基づく人物像の制作を木彫で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概説および課題説明・素材や技術、道具についての説明 2 与えられたテーマに基づくデッサンおよびイメージ作り・各自の主題決定 3 木彫による制作・仕上げ 4 合評 <p>[課題2] 金属彫刻実習(第11から第17週・担当:浜田周)</p> <p>ガス溶接、アーク溶接(手溶接)および金属加工技術の習得を通して、鉄素材の性質を理解し、造形の可能性を探る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 概説および素材や技術、道具についての説明 2 与えられたテーマに基づくデッサンおよびイメージ作り・各自の主題決定 3 金属による制作・仕上げ 4 合評 <p>※研修旅行の成果はレポートで提出する。隔年開講のため彫刻(二)もしくは彫刻(三)の単位に算入する。</p>		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題の冒頭で指示する。		
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。選択課題の材料費、個人購入の物品については授業内で指示。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		

平成31年度シラバス

番号	(B3)-22	履修コード	4122Z1
科目名	彫刻（二）Ⅱ	科目英語名	Sculpture (2) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	8	定員	15名
担当教員	○芝山昌也・中瀬康志・石田陽介・土井宏二・浜田周（非常勤）渡辺秀亮・林一平		
授業概要	本授業では、1年次から2年次前期に習得した彫刻に関する思考力や技術を基にして、より発展的な作品の制作を行う。各自で研究計画を立てて表現する内容や素材を主体的に設定し、様々な表現を実践研究していく。また、専門性に特化した作品制作を行う場合には、課題1と課題2を同じ内容で基礎から発展的な制作へと進めることもできる。		
到達目標	各自のテーマ設定のもと、粘り強く制作に取り組み完成度を高める。技法もより専門的になることで高度な技術の習得を目指す。		
授業計画	<p>事前に提出した制作計画をもとにして、下記のなかから課題を選択する。 本授業は、1期（第18から第24週）、2期（第27から第36週）の期間を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作計画で2期連続して同じ素材を選択する場合は下記のなかから一つの素材を選択する。（例えば、長時間かけて1作品を制作したい場合や、同種類の素材で連続して作品を制作する場合など） ・制作計画で1期と2期を別の素材を選択する場合は下記のなかから二つの素材を選択する。（例えば、別の素材で二つの作品を作る場合など） ・木彫（主担当：石田陽介）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に木の素材感を生かした表現の工夫を行う。 ・石彫（主担当：芝山昌也）各自の制作計画を基にして、花崗岩や大理石などの石材を適切に選び、高度な加工技術を用いて1年次の石彫実習をより発展させた石彫表現を行う。 ・金属彫刻（主担当：浜田周）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に金属素材を中心とした表現方法を探る。また、より専門的な溶接等の加工技法を習得し、鉄素材以外のステンレス・アルミニウム・銅・真鍮などの非鉄金属の素材・加工についても研究する。 ・複合表現（主担当：中瀬康志）彫刻の概念の拡大に対応し、多様な素材論から展開する表現、及びテーマやコンセプトを起点に領域横断的な表現媒体による制作と表現活動の手法などを学ぶ。 ・塑造（人体およびクレーワーク）（主担当：土井宏二）各自の表現主題を見つけ出し、1年次での経験を基に、テラコッタ、FRP、石膏、その他可塑性な表現技法や表現材料の研究を行う。 <p>※学内展や学外展を適宜行い、展示発表を通して自己の制作について多角的に再考を図る。 ※合評会においては全教員がそれぞれの専門性から視点を変えた多角的な指導、助言を行う。</p>		
予習・復習	授業の前に各課題に関する彫刻作品や彫刻家の資料を図書館等で調べ、表現の多様性について研究をすること。身近な人物や自然物のデッサン、クロッキーを継続的に行い、造形について理解を深めること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題の冒頭で指示する。		
履修上の注意	共通の材料および道具、各種安全講習受講費については入学時に納入する教材費で会計処理する。個人購入の物品については授業内で指示。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。</p>		

成30年度以
降入学者)

担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。

[S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。

[A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。

[B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。

[C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-23	履修コード	4123Z1
科目名	彫刻論 I	科目英語名	Theory of Sculpture I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室・実習室ほか
単位	1	定員	15名
担当教員	○芝山昌也・中瀬康志・石田陽介・土井宏二・浜田周		
授業概要	各担当教員がそれぞれの専門性や経験から現在活躍中の作家を講師として招聘し、各講師の自作論の講義と作品の個別指導を通して彫刻観を広げ論理の構築を図る。		
到達目標	講義を基に様々な観点から彫刻について考察し、自らの彫刻論を打ち立てる足掛かりを見つける。各自の制作を客体視し論理的考察を加えその深化を図る。		
授業計画	<p>美術界の動向を踏まえ外部講師を招聘する。</p> <p>○「自作論」講義 映像資料等を用い各作家の作品や制作歴等を紹介するとともに、制作コンセプトや作品成立の背景などを解説する。 講義終了後、質疑応答を重ね内容の深化を図る。</p> <p>○教室巡回による個別指導 各学生制作現場を巡回し、各々の視点や経験から指導・助言を行う。 ※発想や制作のプロセスがわかるようあらかじめ資料を整理し、ポートフォリオ等にまとめておくこと。</p> <p>○ワークショップ 制作に対する発想や視野を広げるために各作家の専門性に応じたワークショップを行う場合がある。</p> <p>○グループディスカッション 各学生の専門性に依りて深化を図るため少人数によるグループディスカッションを行う場合がある。</p> <p>平成30年度実績（敬称略） 小清水漸、大平實、長谷光城、宮永愛子、宇治野宗輝、竹川大介、宮本志野 平成29年度実績（敬称略） 小清水漸、大平實、山本和弘、藤原彩人、深井聡一郎、富井大裕、宮本志野 平成28年度実績（敬称略） 小清水漸、山本和弘、松本透、浅井真理子、北川フラム、藤原彩人、飯田竜太 平成27年度実績（敬称略） 小清水漸、横田茂、吉川陽一郎、波多野泉、山本和弘、棚田康司、光田由里、亀井岳 平成26年度実績（敬称略） 小清水漸、富永敦也、保田井智之、高嶺格、大巻伸嗣、宮永愛子、村上清、大山龍 平成25年度実績（敬称略） 河口龍夫、小清水漸、上條文穂、塩田千春、豊嶋秀樹、芝山昌也、飯田竜太 平成24年度実績（敬称略） 伊藤隆道、小清水漸、北郷悟、海崎三郎、岩田草平、北川太郎、</p>		
予習・復習	招聘講師の個別指導の際に使用するために、自作品に関する資料を整理し、ポートフォリオを作成する。その他、事前もしくは授業内で指示する。		
教科書	使用する場合は担当教員より事前連絡をする。		
参考書	各授業で適宜指示する。		
教材	必要に応じて事前連絡する。		
履修上の注意	招聘作家による講義は不定期となるため、掲示黒板の事前連絡に注意すること。彫刻論Ⅱと合同で講義を行う。講義内容、招聘作家は年度によって異なる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題レポート：各講義および各自の制作等を踏まえ論述する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[A]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p>		

[S]彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。
[A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。
[B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。
[C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-24	履修コード	4124Z1
科目名	彫刻(三) I	科目英語名	Sculpture (3) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○土井宏二・中瀬康志・石田陽介・浜田周・芝山昌也 (非常勤) 渡辺秀亮		
授業概要	1、2年次での実習を基に、塑造(人体)、塑造(クレーワーク)、木彫、石彫、金属彫刻、複合表現の中から、主に扱う素材別にコースを各自選択する。彫刻(三)Ⅱで取り組む課題制作を念頭にコンセプトを組み立て、素材や技法に関する基礎研究を行い制作計画について各素材担当を中心に検討を重ね発表を行う。また、彫刻分野の幅広い理解のために、研修旅行を実施する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、専門的な技術を研究するとともに、素材を生かした制作を行うための試行を重ねる。資料の作成および整理を行いプレゼンテーションの能力を付ける。		
授業計画	<p>1年間を見通した各自の研究テーマを基に、彫刻(三)Ⅱで取り組む前期・後期各1課題を設定する。各課題に関する制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、合評や各教員とのディスカッションを通して深化を図る。</p> <p>指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。 (中瀬教授) 複合表現を中心に指導する。 (石田教授) 人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (土井教授) 塑造、鑄造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑性を用いた複合的表現を中心に指導する。</p> <p>(浜田准教授) 金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (芝山准教授) 石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。</p> <p>[授業計画：前期/後期] 第1週/第18週：1次プレゼンテーション 各課題制作について当初のアイデアをスケッチ、マケット等をもとに作品制作のコンセプトを発表し各教員が様々な角度から助言を行う。 第2から6週/第19から23週：研究および試作 担当教員を中心にコンセプトの深化を図り、制作の構想計画を練る。制作に必要な素材や技術を研究し、実験的な制作を行う。必要に応じてエスキースを作り、コンセプトの修正を図り、表現効果の有効性を検証する。 第7週/第24週：2次プレゼンテーション、合評および採点 研究および試作を踏まえ、彫刻(三)Ⅱで取り組む課題制作のプランを発表する。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。 ※研修旅行の成果はレポートで提出する。隔年開講のため彫刻(二)もしくは彫刻(三)の単位に算入する。</p>		
予習・復習	授業内で指示する。 授業の前に各課題に関する資料を集め、表現の多様性について研究をすること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題の冒頭で指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。制作に関わる実費については自己負担。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 4回。制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 研究内容、資料の提示、試作の経緯等を、2次プレゼンテーションで採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-25	履修コード	4125Z1
科目名	彫刻(三)Ⅱ	科目英語名	Sculpture (3) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	13	定員	15名
担当教員	○土井宏二・中瀬康志・石田陽介・浜田周・芝山昌也 (非常勤) 渡辺秀亮		
授業概要	彫刻(三)Ⅰでの研究成果を踏まえ、各自選択したコース別(塑造(人体)、塑造(クレーワーク)、木彫、石彫、金属彫刻、複合表現)に、主体的に制作に取り組む。主題を明確にし、専門的な技術や素材に関する知識を習得する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、専門的な技術を習得するとともに、コースの特性を生かした制作を行う。展覧会の企画運営を中心的に行い、発表能力を高める。作品発表の方法を探り制作にフィードバックする。		
授業計画	<p>1年間を見通した各自の研究テーマを基に、前期・後期各1課題を設定する。彫刻(三)Ⅰでの研究成果を踏まえた制作プランをもとに、各自の課題制作に取り組む。指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。また、各教員との個別指導を通して作品の深化を図る。</p> <p>(中瀬教授) 複合表現を中心に指導する。 (石田教授) 人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (土井教授) 塑造、鑄造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑性を用いた複合的表現を中心に指導する。</p> <p>(浜田准教授) 金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (芝山准教授) 石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。</p> <p>[授業計画：前期/後期] 第8から15週/第25から35週：課題制作 彫刻(三)Ⅰでの研究成果をもとに計画に従って制作を進める。適宜進捗状況を確認し、担当教員を中心に指導助言を行う。また、担当以外の教員からも多角的な視点で助言を行う。制作プランに変更が生じた場合は随時全教員に報告し、助言を受ける。適宜中間合評を行う。 第16週/第36週：作品展示、合評および採点 課題作品を完成させ、展示を行う。作品を有効に鑑賞できる展示について研究する。</p> <p>※学内展もしくは学外展(金沢彫刻祭)の企画運営を中心的に行う。展示発表を通して自己の制作について客観的に再考を図る。 ※個展、グループ展、コンペなど、発表方法や形式を考え、積極的に社会と関わるよう援助する。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。</p> <p>[希望選択課題] 鑄造実習(主担当：土井宏二) 希望者を対象に、石膏鑄型ロストワックス技法のブロンズ鑄造による制作を行う。</p>		
予習・復習	授業内で指示する。授業の前に各課題に関する資料を集め、表現の多様性について研究をすること。課題終了後は資料や作品写真などの整理を行い、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題の冒頭で指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。制作に関わる実費については自己負担。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 2回。制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[A]彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-26	履修コード	4126Z1
科目名	彫刻論Ⅱ	科目英語名	Theory of Sculpture Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	彫刻専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室・実習室ほか
単位	1	定員	15名
担当教員	○土井宏二・中瀬康志・石田陽介・浜田周・芝山昌也		
授業概要	各担当教員がそれぞれの専門性や経験から現在活躍中の作家を講師として招聘し、各講師の自作論の講義と作品の個別指導を通して彫刻観を広げ論理の構築を図る。		
到達目標	講義を基に様々な観点から彫刻について考察し、自らの彫刻論を打ち立てる足掛かりを見つける。各自の制作を客体視し論理的考察を加えその深化を図る。		
授業計画	<p>美術界の動向を踏まえ外部講師を招聘する。</p> <p>○「自作論」講義 映像資料等を用い各作家の作品や制作歴等を紹介するとともに、制作コンセプトや作品成立の背景などを解説する。 講義終了後、質疑応答を重ね内容の深化を図る。</p> <p>○教室巡回による個別指導 各学生制作現場を巡回し、各々の視点や経験から指導・助言を行う。 ※発想や制作のプロセスがわかるようあらかじめ資料を整理し、ポートフォリオ等にまとめておくこと。</p> <p>○ワークショップ 制作に対する発想や視野を広げるために各作家の専門性に応じたワークショップを行う場合がある。</p> <p>○グループディスカッション 各学生の専門性に依りて深化を図るため少人数によるグループディスカッションを行う場合がある。</p> <p>平成30年度実績（敬称略） 小清水漸、大平實、長谷光城、宮永愛子、宇治野宗輝、竹川大介、宮本志野 平成29年度実績（敬称略） 小清水漸、大平實、山本和弘、藤原彩人、深井聡一郎、富井大裕、宮本志野 平成28年度実績（敬称略） 小清水漸、山本和弘、松本透、浅井真理子、北川フラム、藤原彩人、飯田竜太 平成27年度実績（敬称略） 小清水漸、横田茂、吉川陽一郎、波多野泉、山本和弘、棚田康司、光田由里、亀井岳 平成26年度実績（敬称略） 小清水漸、富永敦也、保田井智之、高嶺格、大巻伸嗣、宮永愛子、村上清、大山龍 平成25年度実績（敬称略） 河口龍夫、小清水漸、上條文穂、塩田千春、豊嶋秀樹、芝山昌也、飯田竜太 平成24年度実績（敬称略） 伊藤隆道、小清水漸、北郷悟、海崎三郎、岩田草平、北川太郎、</p>		
予習・復習	招聘講師の個別指導の際に使用するために、自作品に関する資料を整理し、ポートフォリオを作成する。その他、事前もしくは授業内で指示する。		
教科書	使用する場合は担当教員より事前連絡をする。		
参考書	各授業で適宜指示する。		
教材	必要に応じて事前連絡する。		
履修上の注意	招聘作家による講義は不定期となるため、掲示黒板の事前連絡に注意すること。 彫刻論Ⅰと合同で講義を行う。講義内容、招聘作家は年度によって異なる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題レポート：各講義および各自の制作等を踏まえ論述する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[A]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を高いレベルで図ることが出来た。 [B]各講義において彫刻に関する視野を広げ、自己の制作の深化を図ることが出来た。 [C]各講義において彫刻に関する視野を広げることが出来た。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-27	履修コード	4128Z1
科目名	彫刻(四) I	科目英語名	Sculpture (4) I
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	6	定員	15名
担当教員	○石田陽介・中瀬康志・土井宏二・浜田周・芝山昌也 (非常勤) 渡辺秀亮		
授業概要	<p>塑造(人体)、塑造(クレーワーク)、木彫、石彫、金属彫刻、複合表現の各コースにおいて、彫刻(三) I および II の成果を踏まえ、彫刻(四) II で取り組む課題制作を念頭にコンセプトを組み立て、素材や技法に関する研究を深め、制作計画について各素材担当を中心に検討を重ね発表を行う。</p>		
到達目標	<p>自らの表現主題を明確にし、専門的な技術を研究するとともに、素材を生かした制作を行うための試行を高い次元で重ねる。資料の作成および整理を行いプレゼンテーションの能力を高める。</p>		
授業計画	<p>1年間を見通した各自の研究テーマを基に、彫刻(四) II で取り組む前期・後期各1課題を設定する。各課題に関する制作計画を具体的に立てプレゼンテーションを行い、合評や各教員とのディスカッションを通して深化を図る。 指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する高度な指導を行う。</p> <p>(中瀬教授) 複合表現を中心に指導する。 (石田教授) 人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (土井教授) 塑造、鑄造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑性用いた複合的表現を中心に指導する。 (浜田准教授) 金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (芝山准教授) 石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。</p> <p>[授業計画：前期/後期] 第1週/第18週：1次プレゼンテーション 各課題制作について当初のアイデアをスケッチ、マケット等をもとに作品制作のコンセプトを発表し各教員が様々な角度から助言を行う。 第2から6週/第19から23週：研究および試作 担当教員を中心にコンセプトの深化を図り、制作の構想計画を練る。制作に必要な素材や技術を研究し、実験的な制作を行う。必要に応じてエスキースを作り、コンセプトの修正を図り、表現効果の有効性を検証する。 第7週/第24週：2次プレゼンテーション、合評および採点 研究および試作を踏まえ、彫刻(四) II で取り組む課題制作のプランを発表する。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。</p>		
予習・復習	<p>主体的な制作となるので、事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるように研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。</p>		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	<p>個人購入の物品、材料については授業内で指示。 制作に関わる実費については自己負担。 合評、講評、プレゼンテーション、審査、等の詳細な日程は順次指示する。</p>		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 4回。制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 研究内容、資料の提示、試作の経緯等を、2次プレゼンテーションで採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [A] 4年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に高いレベルで表現されている。 [B] 4年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に表現されている。 [C] 4年間に学修すべき諸能力が習得され、作品に表現されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-28	履修コード	4129Z1
科目名	彫刻(四)Ⅱ	科目英語名	Sculpture (4) Ⅱ
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	彫刻専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	各実習室
単位	12	定員	15名
担当教員	○石田陽介・中瀬康志・土井宏二・浜田周・芝山昌也 (非常勤) 渡辺秀亮		
授業概要	彫刻(四)Ⅰでの研究成果を踏まえ、より高い次元において作品制作を行う。各自選択したコース(塑造(人体)、塑造(クレーワーク)、木彫、石彫、金属彫刻、複合表現)において、その専門性を磨き、個々の研究課題と表現の主題を明確にして制作に取り組む。前後期各課題における提出作品は卒業制作として審査する。		
到達目標	自らの表現主題を明確にし、3年間で培われた専門的な技術を基に、高度な作品を完成させ、各自の造形観を確立する。		
授業計画	<p>1年間を見通した各自の研究テーマを基に、前期・後期各1課題を設定する。彫刻(四)Ⅰでの研究成果を踏まえた制作プランをもとに、各自の課題制作に取り組む。指導担当は下記の通り、各教員の専門性に従って分担し、専門的に技術や素材に関する指導を行う。また、各教員との個別指導を通して作品の深化を図る。</p> <p>(中瀬教授) 複合表現を中心に指導する。 (石田教授) 人体具象、木彫および木を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (土井教授) 塑造、鑄造およびテラコッタ、ブロンズ等の可塑性用いた複合的表現を中心に指導する。</p> <p>(浜田准教授) 金属彫刻および金属を主素材とした複合的表現を中心に指導する。 (芝山准教授) 石彫および石を主素材とした複合的表現を中心に指導する。</p> <p>[授業計画：前期/後期] 第8から15週/第25から28週：課題制作 彫刻(四)Ⅰでの研究成果をもとに計画に従って制作を進める。適宜進捗状況を確認し、担当教員を中心に指導助言を行う。また、担当以外の教員からも多角的な視点で助言を行う。制作プランに変更が生じた場合は随時全教員に報告し、助言を受ける。適宜中間合評を行う。</p> <p>第16週/第29週：作品展示、合評および採点 課題作品を完成させ、展示を行う。作品を有効に鑑賞できる展示について研究する。 ※学内展、学外展、卒業制作展等の展示発表を通して自己の制作について客観的に再考を図る。 ※制作の成果をもとに、個展、グループ展、コンペなど、方法や形式を考え、作品発表に取り組む。 ※合評会、講評会では全教員がそれぞれの視点から多角的な指導、助言を行う。</p> <p>[希望選択課題] 鑄造実習(主担当：土井宏二) 希望者を対象に、石膏鑄型ロストワックス技法のブロンズ鑄造による制作を行う。</p>		
予習・復習	主体的な制作となるので、事前に各自のテーマに関する資料を集め、自己の表現につながるよう研究を行う。制作の過程や変遷を記録するとともに、その言語化を行い、制作の深化を図る。課題終了後は資料や作品写真などを整理し、ポートフォリオとしてまとめること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	個人購入の物品、材料については授業内で指示。 制作に関わる実費については自己負担。 合評、講評、プレゼンテーション、審査、等の詳細な日程は順次指示する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題提出 前・後期各1回。 卒業制作の審査は上記2課題を総合して判定する。 制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の1次審査および最終審査で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。</p> <p>[A] 4年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に高いレベルで表現されている。 [B] 4年間に学修すべき諸能力が総合的に習得され、作品に表現されている。 [C] 4年間に学修すべき諸能力が習得され、作品に表現されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-29	履修コード	4130Z1
科目名	芸術学演習(一)	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics (1)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週(集中含む)
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	第2教室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○保井亜弓・菊池裕子・星野 太 (非常勤) 大島廣靖		
授業概要	芸術学における調査・研究に必要なスキルを身に付けるため、および、金沢という地域を知り、金沢と美術・芸術の関わりについて知るため、本演習は(1)導入・(2)専門語学・(3)地域美術の3分野の内容により構成される。それぞれの演習の内容は「授業計画」の通りである。		
到達目標	<p>本演習の到達目標は次の通りである。</p> <p>(1) 美術史・芸術学を学ぶ上で必要となる基礎的スキルの習得はもちろん、自らの関心に応じて身に付けたスキルを積極的に活用できるようになることを目標とする。</p> <p>(2) 2年次に行われる芸術学演習(二)の専門語学に向けて、英語文献の読解に必要な基礎的な語彙力身に付け、読みこなすことを目標とする。</p> <p>(3) 2年次に行われる芸術学演習(二)のフィールドワーク実践に向けて、金沢市内の文化施設等を対象とし、その基礎的な手法を身に付けることを目標とする。</p>		
授業計画	<p>本演習は下記の内容で構成される。</p> <p>(1) 導入〔前期：星野〕 自ら主体的に学び、問題を自ら探求し、その成果を効果的に発表するために必要な基礎的スキルを身に付けることが目標である。資料検索、レポート作成、プレゼンテーション、フィールドワークなどを実践し、2年次以降に必要な調査・研究方法の下地とする。</p> <p>(2) 専門語学〔前期：保井・菊池／後期：星野〕</p> <p>①精読 美学・美術史に関する英語のテキストの講読を行う。英語の文章を正しく理解するとともに、それを日本語に適切に翻訳することを学ぶ。さらに、各自が関連する事項について調べることにより、美学・美術史の知識を深める。</p> <p>②多読 芸術学分野の研究では外国語の文献を読解する能力は不可欠である。外国語の中でも特に英語は必須の言語である。この授業では、専門的な文献に触れる前に、今まで習得した英語力を確認し、各自が自分のレベルに合っていると感じる、言い換えれば辞書なしでも読める程度の易しいテキストを多読することによって英語力を向上させ、一人で勉強していく力を身につけることを目的とする。</p> <p>(3) 地域美術〔通年(集中含む)：菊池・大島〕</p> <p>①金沢を中心とする伝統的・現代的な芸術や文化産業のフィールドワークをし、それらが英語で紹介されているものを中心に読みながら金沢が現在外に向けて発信している文化、歴史・芸術の調査をし、討論する。</p> <p>②金沢の伝統文化である茶道の歴史を学ぶとともに、実際の茶会を通してその作法や茶道具の鑑賞を体験する。</p> <p>※授業日程は年次の初めに掲示する。 ※レポート等については各授業で指示する。</p>		
予習・復習	各授業の予習・復習をして授業にのぞむこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>(1)・(2)・(3)の各授業への参加姿勢および課題・レポートの提出状況について、担当教員の協議の上、総合的に判断し成績を判定する。</p> <p>[A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの関心に応じて展開・応用できる能力を身につけている。</p> <p>[B] 到達目標について十分なレベルに達している。</p> <p>[C] 到達目標について一定のレベルに達している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	(1)・(2)・(3)の各授業への参加姿勢および課題・レポートの提出状況について、担当教員の協議		

成30年度以
降入学者)

の上、総合的に判断し成績を判定する。

[S] 到達目標についてきわめて優れたレベルに達し、かつ、自らの関心に応じて展開・応用できる能力を高度に身につけている。

[A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの関心に応じて展開・応用できる能力を身につけている。

[B] 到達目標について十分なレベルに達している。

[C] 到達目標について一定のレベルに達している。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-30	履修コード	4131Z1
科目名	芸術学概論	科目英語名	Introduction to Art History and Aesthetics
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	古典演習室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・星野 太		
授業概要	芸術学における調査・研究の概要について、美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史、版画技法等の講義を通して学ぶ。		
到達目標	芸術学における調査・研究の概要を幅広く理解することを目標とする。		
授業計画	<p>本授業は下記の内容で構成される。</p> <p>■芸術学概論A（星野） 芸術作品を言語によって記述するとはどういうことか。それについて考えるための足がかりとして「展評」という形式を取り上げ、受講者の実践を交えた講義を行なう。</p> <p>■芸術学概論B（神谷） 以下のテーマを通して、調査・研究のアプローチの在り方を考える機会としたい。 ・版画の四版種の特徴と変遷の背景 ・ルーブル美術館カルコグラフィーの活動</p> <p>■芸術学概論C（保井） 西洋美術史を学ぶ基礎として、キリスト教美術の知識を得ることを目的とする。具体的には幼児キリスト伝、奇跡伝を講義するとともに、受難伝については各自発表を行ない、美術史研究の方法論とともにキリスト教美術の図像を学ぶ。</p> <p>■芸術学概論D（菊池） 「21世紀は工芸がおもしろい」（福本繁樹）と感じている人は多い。なぜ工芸が今おもしろいのか、「工芸」という領域で近代に発し現代の視覚文化に投げかけている問題（素材、技術、伝統、アイデンティティ、装飾、機能等）への興味を広げる。</p> <p>■芸術学概論E（水野） 東洋および日本における代表的な作例を作品のジャンルごとに取り上げ、作品の考えかた、調査方法など、日本・東洋美術史における基礎的な知識と方法論について紹介する。</p> <p>※授業日程は年次の初めに掲示する。 ※レポート等については各授業で指示する。</p>		
予習・復習	特になし。		
教科書	担当教員ごとに適宜指示する。		
参考書	担当教員ごとに適宜指示する。		
教材	担当教員ごとに適宜配布する。		
履修上の注意	授業内容により、教室や日程が変更される場合がある。掲示される案内を確認しておくこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	各授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出状況について全担当教員の協議の上、総合的に判断し、成績を判定する。 [A] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。 [B] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広く理解している。 [C] 授業に参加し、芸術学における調査・研究の概要を理解している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	各授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出状況について全担当教員の協議の上、総合的に判断し、成績を判定する。		

成30年度以降入学者)	[S] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。さらに、獲得した知識を咀嚼・活用し、発展的かつ積極的に調査・研究に取り組もうとする姿勢も十分身につけている。 [A] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。 [B] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広く理解している。 [C] 授業に参加し、芸術学における調査・研究の概要を理解している。
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(B3)-31	履修コード	4132Z1
科目名	工芸演習	科目英語名	Seminar of Craft
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	1年芸術学演習室他
単位	2	定員	15名
担当教員	○山村慎哉（非常勤）名雪園代		
授業概要	日本の工芸技法（漆・木工、金工、染織、陶磁等）に関する基本的な知識や技法等を制作を通して修得する。		
到達目標	制作を通して工芸技法の修得に努めるとともに、工芸分野の研究や教育に必要な基礎的な能力を身に付ける。		
授業計画	<p>日本の工芸技法に関する基本的な知識や技法等を制作を通して修得する。 本授業の内容は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 漆・木工技法 木材や漆についての基礎知識、および漆工の技法や工程について学ぶ。 金工技法 金属についての基礎知識、および金工の技法や工程について学ぶ。 染織技法 繊維についての基礎知識、および染織の技法や工程について学ぶ。 陶磁技法 土や釉薬についての基礎知識、および陶磁の技法や工程について学ぶ。 <p>* 上記の技法のうち「漆・木工」に関しては、木材の基礎的な加工技術や工具の扱い方、漆工技法の様々な加飾、意匠の構成などを総合的に修得する。</p> <p>* また「金工」「染織」「陶磁」に関しては、体験的な演習を実施して、各工芸分野に対する幅広い理解力を身に付ける。</p> <p>* この演習を通して修得した内容をもとに、中学校や高校、あるいは博物館施設等での「工芸体験授業」を念頭においた計画書の作成し、レポートとして提出することを課す。</p> <p>※授業日程は年次の初めに掲示する。</p>		
予習・復習	授業時間外での準備を怠らないこと。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	授業日程および教室に注意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>制作に取り組む姿勢を重視する。 各工芸分野の素材や制作工程への理解、レポートの内容を判断して評価する。 [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、造形表現において高いレベルの作品に達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品として一定のレベルに達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んでいる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>制作に取り組む姿勢を重視する。 各工芸分野の素材や制作工程への理解、レポートの内容を判断して評価する。 [S] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、その上で自身の制作に応用しようとする高い意欲も有しており、造形表現においてきわめて高いレベルの作品に達している。 [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、造形表現において高いレベルの作品に達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品として一定のレベルに達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んでいる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B3)-32	履修コード	4133Z1
科目名	彫刻演習	科目英語名	Seminar of Sculpture
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	彫刻専攻1年実習室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○石田陽介・土井宏二（非常勤）渡辺秀亮・林一平		
授業概要	彫刻制作を通して美的体験を豊かにし、立体を見る目や造る感性を養う。素材に対する基礎的な理解を深め、用具等の安全な取り扱い方を習得する。素材を生かした各自の表現方法を探り、その魅力を発見するとともに、彫刻に内在する量塊、量感、空間、質感、均衡、比例など造形の諸要素や、表現の多様性について理解を図る。なお、本科目は彫刻分野における一般的包括的科目である。		
到達目標	制作を通して、彫刻技法の基本を習得する。また、つくる感性を養うとともに、立体を見る目、彫刻作品に対する理解を向上させる。		
授業計画	<p>課題1素描（16時限）内容：立体および空間の把握を念頭に石膏像を木炭でデッサンする。</p> <p>課題2塑造（72時限：モデル制作40時限、石膏成型32時限） 内容：モデルに対する徹底した観察を基に、人物像（首像）を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の種類（彫造、塑造、その他）およびその特性 表現の多様性、造形の諸要素について クロッキーおよびデッサンによるモデルの把握 <ul style="list-style-type: none"> モデルの様々なポーズから人体の構造やフォルムの美しさを探る。 立体感や量感を意識して彫刻としてのデッサンを追求する。 芯棒作り <ul style="list-style-type: none"> 人体に内在する構築性や動勢を読み取り中心軸を意識した芯棒を制作する。 塑造による制作 <ul style="list-style-type: none"> 粘土の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 量感と面を意識して荒付けを行い、全体のバランスを観察する。 土付けによる質感の工夫し、全体の調子を整えながら仕上げる。 石膏成型 <ul style="list-style-type: none"> 粘土原型を石膏像として完成させ、石膏による成形技法を習得する。 <p>課題3木彫（28時限）内容：人体もしくは人体の部分をモチーフに木彫の制作を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 概説および課題説明 <ul style="list-style-type: none"> 木の性質および用具の安全な使用方法を理解する。 制作 <ul style="list-style-type: none"> 墨入れ 荒取り 量感と面を意識した粗彫り 全体のバランスを保ちながら細部の作り込み 質感の工夫 <p>合評（4時限）</p> <ul style="list-style-type: none"> 完成作品について各自の制作意図や反省点を述べあい制作の深化を図る。 作品の鑑賞を通して、その良さを発見し味わう。 		
予習・復習	授業の前に美大図書館等で彫刻作品や彫刻家の資料によって表現の多様性について研究をすること。また、自分や身近な人物のデッサン、クロッキーを行い、人体について理解を深めること。その他授業内で指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	塑造用具（制作台、粘土、へら、等）石膏成型用具（ボール、等）木彫用具（ノミ、木槌、等）は大学で準備。その他、授業内で指示する。		
履修上の注意	※授業日程は年次の初めに指示する。 実習費（石膏、木材、等）自己負担（4,000円~5,000円程度）。汚れてもよい服装を着用すること。モデル使用中の入退室は禁止。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作に取り組む姿勢を重視し、計画的な制作過程、作品の造形性および完成度を総合して評価する。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [B] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に取り入れられ自己の制作に活かされている。 [C] 彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	制作に取り組む姿勢、計画的な制作過程等を重視する。 作品の造形性および完成度等を各課題の中間合評および最終合評で採点する。 担当教員で協議のうえ総合的に判断して評価を行う。 [S] 彫刻に関する知識と技術が特に高いレベルで習得され、それらが幅広く積極的に自己の制作に活かされている。 [A] 彫刻に関する知識と技術が高いレベルで習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。		

[B]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが積極的に自己の制作に活かされている。

[C]彫刻に関する知識と技術が習得され、それらが自己の制作に活かされている。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-33	履修コード	4134Z1
科目名	芸術学演習(二)	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics (2)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週(集中含む)
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	古典演習室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○保井亜弓・菊池・星野 太		
授業概要	<p>2年次に行う本演習は、1年次の芸術学演習(一)において修得した基礎的スキルと文献読解力のさらなる向上を目指し、(1)作品調査の実践、(2)専門語学の2分野の内容により構成される。</p> <p>(1)においては、国内の歴史的美術作品を主な対象とした調査(文献調査・実地調査)を実践する。</p> <p>(2)においては、美術・芸術分野に関する英文講読(多読・精読)を行う。</p>		
到達目標	<p>本演習の到達目標は次の通りである。</p> <p>(1)美術作品の調査・研究において必要不可欠な基本的能力の習得はもちろん、自らの問題意識に応じて身に付けた能力を応用させ、様々な対象に積極的に展開させられることを目標とする。</p> <p>(2)3年次に行われる専門語学および芸術学演習(三)の専門領域の演習に向けて、美術史・芸術学研究に必要な英語の語彙を身に付けるとともに、基本的な英語文献を読みこなすことを目標とする。</p>		
授業計画	<p>本演習は下記の内容で構成される。</p> <p>■作品調査の実践〔通年：菊池〕</p> <p>本演習においては、国内の歴史的美術作品を主な研究対象として設定し、作品の事前調査およびそれにもとづく実地調査(9日間前後の研修旅行)を行う。</p> <p>本演習の内容および目的は、主に以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 国内の歴史的建造物、美術作品などを研究対象として、資料収集の方法を身につける 事前調査により得られた知識をもとに、フィールドワーク(実地調査)の実施に必要な準備を行う フィールドワークの実施(2月中旬) フィールドワークにより得られた知識をフィードバックさせ、総合的な研究にまとめ上げる まとめ上げた研究成果を、プレゼンテーション(口頭発表)により、広く還元させる <p>■専門語学〔前期：星野／後期：保井・菊池〕</p> <p>①精読 美学・美術史に関する英語のテキストの講読を行う。英語の文章を正しく理解するとともに、それを日本語に適切に翻訳することを学ぶ。さらに、各自が関連する事項について調べることにより、美学・美術史の知識を深める。</p> <p>②多読 芸術学分野の研究では外国語の文献を読解する能力は不可欠である。外国語の中でも特に英語は必須の言語である。この授業では、専門的な文献に触れる前に、今まで習得した英語力を確認し、各自が自分のレベルに合っていると感じる、言い換えれば辞書なしでも読める程度の易しいテキストを多読することによって英語力を向上させ、一人で勉強していく力を身につけることを目的とする。</p> <p>※授業日程は年次の初めに掲示する。 ※レポート等については各授業で指示する。</p>		
予習・復習	必ず予習・復習を行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	授業中に配布する。		
履修上の注意	授業日程や教室に注意すること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>[A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用できる能力を身につけている。</p> <p>[B] 到達目標について十分なレベルに達し、自身の問題点を理解している。</p> <p>[C] 到達目標について一定のレベルに達している。</p>		
成績評価(平成30年度以後)	<p>[S] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用できる能力を高度に身につけている。</p> <p>[A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用でき</p>		

降入学者)

る能力を身につけている。

[B] 到達目標について十分なレベルに達し、自身の問題点を理解している。

[C] 到達目標について一定のレベルに達している。

平成31年度シラバス

番号	(B3)-34	履修コード	4135Z1
科目名	芸術学特講	科目英語名	Studies of Art History and Aesthetics
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	古典演習室・第2教室他
単位	4	定員	15名
担当教員	○保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・星野 太		
授業概要	芸術学における専門的な調査・研究の在り方について、美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史、版画技法等の講義を通して学ぶ。		
到達目標	芸術学における専門的な調査・研究の在り方を幅広く理解することを目標とする。		
授業計画	<p>本授業は下記の内容で構成される。</p> <p>■芸術学特論A（星野） 芸術作品を言語によって記述するとはどういうことか。美学の萌芽をなすこの問題について考えるための足がかりとして「書評」という形式を取り上げ、受講者の実践を交えた講義を行なう。</p> <p>■芸術学特論B（神谷） 以下の二つの事柄から、美術史的・文化史的調査・研究の在り方を考える材料としたい。 ・MMGリトグラフ版画工房 ・アブラアム・ボスの「腐蝕銅版画技法」</p> <p>■芸術学特論C（保井） 西洋美術史を学ぶ基礎として、キリスト教美術と同じく重要となる古典古代の知識を得ることを目的とする。具体的にはギリシア・ローマ神話を概説するとともに、とくに重要な神々を各自担当して発表することで、美術史研究の方法論と古典古代神話についての理解を深める。</p> <p>■芸術学特論D（菊池） 工芸の政治性について（1）竹のナショナリズム；（2）冷戦期のアジアにおける工芸とデザインをテーマに専門的な工芸史研究への理解を深める。</p> <p>■芸術学特講E（水野） 東洋および日本における作品のなかから特定のトピックに沿って作例を取り上げ、最新の研究成果を紹介する。一つの研究がまとめられるまでにはどのようなことが必要なのか、何をみて、何を考え、どのように組み立てるのか、日本・東洋美術史におけるその一例に接し、3年次における専門演習および4年次の卒業論文作成への足がかりとなるようにしたい。</p> <p>※授業日程は年次の初めに掲示する。 ※レポート等については各授業で指示する。</p>		
予習・復習	特になし。		
教科書	担当教員ごとに適宜指示する。		
参考書	担当教員ごとに適宜指示する。		
教材	担当教員ごとに適宜配布する。		
履修上の注意	授業内容により、教室や日程が変更される場合がある。掲示される案内を確認しておくこと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>各授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出状況について全担当教員の協議の上、総合的に判断し、成績を判定する。</p> <p>[A] 授業に積極的に参加し、芸術学における専門的な調査・研究の在り方を幅広くかつ十分に理解した。</p> <p>[B] 授業に積極的に参加し、芸術学における専門的な調査・研究の在り方を幅広く理解した。</p> <p>[C] 授業に参加し、芸術学における専門的な調査・研究の在り方を理解した。</p>		
成績評価（平成30年度以後）	<p>各授業への参加の姿勢および課題・レポートの提出状況について全担当教員の協議の上、総合的に判断し、成績を判定する。</p> <p>[S] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。さ</p>		

降入学者)	らに、獲得した知識を咀嚼・活用し、発展的かつ積極的に調査・研究に取り組もうとする姿勢も十分身につけている。 [A] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広くかつ十分に理解している。 [B] 授業に意欲的に参加し、芸術学における調査・研究の概要を幅広く理解している。 [C] 授業に参加し、芸術学における調査・研究の概要を理解している。
--------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(B3)-35	履修コード	4136Z1
科目名	美術表現演習	科目英語名	Art Concept Seminar
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	
単位	2	定員	15名
担当教員	(非常勤) Evelyn Teploff-Mugii (イヴリン テポッフ 麦井)		
授業概要	Developing and expanding creative concepts while using English.		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. Making use of your intuition to develop artistic concepts. 2. Developing research & analytical skills. 3. Sketching in volume to expand ideas. 4. Practicing presentation skills in English. 5. Discussing & critiquing ideas as a group in English. 		
授業計画	<p>Studying Art in English / Introductions – Understanding the seminar’s goals.</p> <p>Introduction of the instructor and students. Reviewing basic vocabulary needed.</p> <p>Projects will last from 1 week to several weeks and will be given from the list below. These projects encourage students to work freely, spontaneously and conceptually.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “Salute to André Breton” A drawing exercise inspired by this French surrealist poet’s study of the unconscious. 2. “Our Future” Project In this project students will start a dialog about “our” future and their understanding of public art. Thoughts about “future” and “expression” will start by discussing things that are important to us. Students will reflect on both themselves (their views), and also on society’s views (Japan/the world). From reflection and discussion we will work together and individually to come to some conclusions as well as a base of ideas for creating artwork which expresses what we find. <p>Final Presentation Students will present both their final artwork as well as their development process. Students will also be asked to define what sets them apart from others in their approach when developing ideas.</p> <p>Note: Syllabus changes may be made depending on events taking place during the seminar.</p>		
予習・復習	To have a clear understanding of the seminar outline and vocabulary lists given.		
教科書	Textbooks: English/Japanese dictionary		
参考書	None. Reference materials may be provided by the instructor during the seminar.		
教材	None.		
履修上の注意	Requirements: Sketchbook and weekly updated list of keywords in English.		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	Research & analysis (20%), Concept development ability (40%), Execution techniques (15%), Presentation & participation skills (25%)		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	Research & analysis (20%), Concept development ability (40%), Execution techniques (15%), Presentation & participation skills (25%)		

平成31年度シラバス

番号	(B3)-36	履修コード	4137Z1
科目名	絵画演習	科目英語名	Seminar of Paintings, Drawing and Stamps
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	版画印刷室、湯涌創作の森（版画工房）、2年油画実習室、他
単位	4	定員	15名
担当教員	○神谷佳男、岩崎純		
授業概要	西洋絵画表現で主に用いられる様々な描画材を用いて作品制作をする。平面作品制作を通して、観察力、造形的感覚等を養う。 なお、本科目は、絵画分野に於ける一般的包括的科目である。		
到達目標	様々な描画材の特徴とその表現の可能性を試み、把握する。モチーフを観察し、その構造を理解し、観察力を養う。 制作を通して、造形感覚を養う。（色彩のハーモニー、コンポジション等）		
授業計画	<p>前期(5月8日~7月2日のうち15回)は神谷が担当し、後期(11月6日~26日の内の15回)は岩崎が担当する。</p> <p>前期</p> <p>1 ガイダンス及び動物の剥製を描く 2~3 動物の剥製を描く(黒鉛筆、色鉛筆、ダーマトグラフ、その他の描画材料) 4~5 湯涌創作の森にてスクリーン版画制作(5月15日、16日を予定) 6~7 建築物を描く(黒鉛筆、色鉛筆、ダーマトグラフ、その他の描画材料) 8~10 色面構成(色紙その他の材料を使って色面構成などを行う) 11 デッサン(ものを観察する) 12~14 アルミ板リトグラフの制作 15 未完の課題を仕上げる。その後プレゼンテーション</p> <p>後期</p> <p>1~4 鉛筆、木炭を用いたデッサン 5~15 油彩による静物画制作</p>		
予習・復習	適宜指示する		
教科書	なし		
参考書	適宜指示する		
教材	鉛筆、色鉛筆、水彩絵具、色紙、糊、はさみなど スケッチブックと描画材一式、油彩画道具一式		
履修上の注意	様々な描画材を用いた課題に積極的に挑戦すること		
成績評価(平成29年度以前入学者)	[A]モチーフを注意深く観察し、描画材の特徴をうまく活かし、基本的な造形表現を踏まえ高度な表現に達している。 [B]モチーフを観察し、描画材の特徴を活かし、絵画表現の基本的な造形要素がしっかりと表現できている。 [C]モチーフや描画材と真摯に取り組み制作している。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	[S]モチーフを注意深く観察し、描画材の特徴を活かした高度な造形表現と発想力がみられる作品。 [A]モチーフを注意深く観察し、描画材の特徴を活かし、基本的な造形表現と優れた発想が見受けられる作品。 [B]モチーフを観察し、描画材の特徴を活かし、絵画表現の基本的な造形要素がしっかりと表現できている。 [C]モチーフや描画材と真摯に取り組み制作している。		

平成31年度シラバス

番号	(B3)-37	履修コード	4138Z1
科目名	芸術学演習（三）	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics (3)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	4	定員	15名
担当教員	○保井亜弓・神谷佳男・菊池裕子・水野さや・星野 太（非常勤）五十嵐嘉晴・高橋律子		
授業概要	<p>本演習は、①美術・芸術の諸領域におけるより専門的な知識の獲得と研究への展開を目指す演習（選択による各専門領域演習）、②「作品の購入・調査研究・展示」までの流れを総括的に実践する演習（通称「買い物ゼミ」）の2分野の内容により構成される。それぞれの演習を通し、1・2年次までに獲得した基礎的知識と研究手法を活用し、次年度における卒業研究への足がかりとすることを旨とする。</p> <p>なお、上記①に関連し、希望者は西洋古典語を受講することができる。調査・研究内容によっては、その遂行にあたり西洋および東洋の古文書（ギリシャ語・ラテン語・漢文）を読解することが求められるであろう。そのようなニーズに対応し、適宜、開講するものである。</p>		
到達目標	<p>芸術作品の社会的な意義を明らかにすることにより、社会の支持を獲得して、その活動を継続、発展させていくというアートマネジメントの実践を身につける。</p>		
授業計画	<p>本演習は下記の内容で構成される。</p> <p>〔共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 作品の調査研究（通年：神谷・保井・菊池・星野） 通称「買い物ゼミ」と称するこの演習は、自らが購入した作品との関わりを実感し、調査研究を進め、論文執筆や展示公開を行うことで、学生自身がその作品の意義を社会に明示する実践的な演習である。以下のスケジュールに従って進めていく。 また、作品調査の進め方、口頭発表および論文の作成にあたっては、教員が個別に担当し、進捗状況に応じて適宜指導を行う。 <ol style="list-style-type: none"> ① 研究対象（購入希望作品）の設定（4月） ② 作品購入（4月～5月上旬） ③ 調査・研究（5月～7月上旬） ④ 口頭発表（7月上旬） ⑤ 各自のテーマに基づく論文の執筆（7月中旬～9月下旬） ⑥ 展示企画・構成（10月） ⑦ 展示の実施・開催（11月上旬） <p>〔選択〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 専門演習A（通年：星野 美学領域） 美学や芸術学に関する文献をテキストとして取り上げ、それについて議論することで、美学研究の基礎を学ぶ。なおかつそれを、現代におけるさまざまな文化現象と結びつけながら、それらを精緻に分析する方法を発見する。授業は各回の担当者による発表と議論を中心に進める。 ■ 専門演習B（通年：神谷 絵画表現領域） 本学所蔵の版画作品や近隣の美術館で開催中の展覧会を鑑賞し、美術作品、絵画技法、歴史的時代背景などをテーマとして絞り込み調査研究をおこなう。レポートにまとめた後、定期的に研究発表を行う。 ■ 専門演習C（通年：保井 西洋美術史領域） 西洋美術史における主要な研究をテキストとして取りあげ、それを精読することで美術史研究の方法論を学ぶとともに、基本作例や関連文献などの資料収集を適切に行い、テーマについての活発なディスカッションを通して各自の意見をレポートにまとめる。後期にはロンドン、ナショナル・ギャラリーの作品から任意の作品を選び、作品研究の方法論を実践的に学ぶ。 ■ 専門演習D（通年：菊池 工芸史領域） 工芸史・工芸論の研究に関する演習である。前期は未定。後期は、工芸品を対象とする調査・研究を行う。発表と討論を中心に授業を進め、研究レポート等を課す。 ■ 専門演習E（前期：高橋律子／後期：水野 日本・東洋美術史領域） 日本・東洋美術における諸問題を扱う演習である。後期は、次の①②について、自ら設定したテーマに基づき作品を取り上げ、調査・研究および発表を行い、ディスカッションを通してより理解を深め、発表内容に適したプレゼンテーション能力をさらに高めることが目標である。 <ol style="list-style-type: none"> ① 日本・東洋において展開した美術のジャンルを任意で一つ選択し、地域や時代による展開を具体的に明らかにしたうえで、その背景を歴史・地理・民族・思想などに探る。 ② 任意の一作品を①を踏まえて選択し、作品そのものについて考察を行う。併せて、その作品が影響を受けた作品ないし影響を与えた作品について、周辺地域にまで視野を広げて探求する。 		

	※ なお、希望者は西洋古典語（ギリシャ語・ラテン語、担当：五十嵐嘉晴）を受講することができる。授業の形態・開講日時については、希望者との協議の上、後日決定する。
予習・復習	各授業の予習・復習をして授業にのぞむこと。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	授業中に適宜資料を配布する。
履修上の注意	授業日程等は年次の初めに掲示する。日程と教室に注意すること。
成績評価（平成29年度以前入学者）	各演習への参加の姿勢および課題・レポートの提出状況、プレゼンテーションの内容等について、全担当教員で協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 [A]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実・発展させることができた。 [B]発表とレポートの準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実させることができた。 [C]発表とレポートの準備を行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を専門研究に取り入れることができた。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B3)-38	履修コード	4139Z1
科目名	芸術論研究	科目英語名	Theory of Art
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	火曜7・8限
履修区分	必修	教室	前期：美学・芸術学演習室 後期：古典演習室
単位	4	定員	15名
担当教員	(非常勤) 森 仁史・〇川上明孝		
授業概要	芸術論研究の基礎としての理論的考察を通じて、研究の基本を訓練する。		
到達目標	芸術論研究の成果を蓄積し社会に還元するための理論と実践を学び、深く理解することを目標とする。		
授業計画	<p>■前期(担当：森 仁史) 日本における美術館による鑑賞形態の成り立ちを検証するために、近代以前の芸術鑑賞の在り方について知見を広める。これらは日本における美術の成り立ちの根幹がどんなものであったかを理解することを目指している。最初に近代の美術館の成り立ちを概説し、その後以下のような課題を課し、発表形式で授業を進める。</p> <p>唐物、寝殿造り、屏風、会所、書院、君台左右帳記、軸装、茶の湯、茶室、調度、書画会、見世物、蘭学、開国</p> <p>■後期(担当：川上明孝) 西洋音楽の歴史的展開と西洋音楽の特質を学ぶ。芸術についての視野を広げ、芸術を研究するための基礎力を涵養する。</p> <p>第1・2回 : 中世 第3・4回 : ルネサンス 第5・6回 : バロック 第7・8回 : ウィーン古典派 第9・10回 : ロマン派 第11・12回 : 世紀転換期 第13・14回 : 20世紀 第15回 : 予備日</p> <p>テキスト：岡田暁生『西洋音楽史 「クラシック」の黄昏』（中公新書）他</p>		
予習・復習	各授業で指示される準備を怠らないこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜資料コピー等を配布する。		
履修上の注意	授業の日程や教室等に注意すること。 各テーマにおいて受講生は積極的に意見を述べ討論することが求められる。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>授業への参加度 40% レポート等 60% 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A] 授業に意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広くかつ十分に理解している。 [B] 授業に意欲的に参加し、芸術論研究の手法を幅広く理解している。 [C] 授業に参加し、芸術論研究の手法を理解している。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-39	履修コード	4140Z1~Z2
科目名	専門語学(英語)	科目英語名	Art Terminology (English)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	講座Ⅰ：月曜7・8限(前期)/金曜7・8限(後期) 講座Ⅱ：水曜7・8限
履修区分	選択必修	教室	講座Ⅰ：第2教室 講座Ⅱ：学科演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	稲垣健志・(非常勤)○渡邊明敏		
授業概要	<p>本授業は、主に3年次生に対応する講座Ⅰ(担当：渡邊)と、継続的に英語学習を希望する4年次生に対応する講座Ⅱ(担当：稲垣)の2講座により構成される。</p> <p>講座Ⅰ(3年次)においては、美術史に関して書かれた英文の講読を行い、基礎的な美術用語の習得を目指す。講座Ⅱ(4年次)においては、「美術史」に関する英文を精読することで、内容の理解だけでなく、アートを研究するための基本的な視点を学習する。</p>		
到達目標	<p>講座Ⅰ(3年次) 英語で書かれた専門書を読むかなり高度な能力を養う。併せて専門分野に関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>講座Ⅱ(4年次) 内容の正確な把握だけでなく、アートを研究するために必要な視点を習得する。</p>		
授業計画	<p>講座Ⅰ(担当：渡邊明敏 前期：月曜7・8限/後期：金曜7・8限 第2教室)</p> <p>学生の多様な関心に応えるため、前期と後期とで異なるテキストを精読する。授業は訳読形式で行う。美術史、芸術学の分野で用いられる専門用語の知識を習得するとともに、基礎的な語彙、重要な文法事項についても学ぶ。英語では日常的・一般的語彙が専門用語として用いられることが多いため、注意すること。</p> <p>[前期使用テキスト] A History of the World in 100 Objects 以下の章を講読する：Egyptian Clay Model of Cattle, Jomon Pot, Basse-Yutz Flagons, Icon of the Triumph of Orthodoxy, Ship's Chronometer from HMS Beagle.</p> <p>[後期使用テキスト] The Story of Painting 以下の章を講読する：Fauvism, Matisse, Picasso and Cubism, Pure Abstraction, Art of the Fantastic</p> <p>講座Ⅱ(担当：稲垣健志 水曜7・8限 学科演習室) Dana Arnold, Art History(2004)を精読していきます。 授業は前半に英文の精読、後半に内容についてのディスカッションというかたちで進めていきます。章立ては以下のとおりです。</p> <p>What is art history? Writing art history Presenting art history Thinking about art history Reading art Looking at art</p> <p>その他、参加学生の関心、卒論テーマに合わせたトピックも取り入れていく予定です。</p>		
予習・復習	講座Ⅰ・Ⅱともに、毎回必ず詳しく下調べしたうえで出席すること。テキストは必ず一度は音読し、辞書は電子辞書と紙の辞書の併用が望ましい。		
教科書	講座Ⅰ テキストは授業中に配布する。 講座Ⅱ テキストは授業中に配布する。		
参考書	必要に応じ、授業中に指示する。		
教材	特になし		
履修上の注意	この科目は、講座により履修コードが異なる(4140は共通)。 講座Ⅰ(担当：渡邊)：Z1、講座Ⅱ(担当：稲垣)：Z2		
成績評価(平成29年度以前入学者)	講座Ⅰ・Ⅱともに、3分の2以上の出席とともに、以下の基準により成績を判断する。 [A] 到達目標について十分なレベルに達し、かつ、自らの研究分野における諸問題に展開・応用できる能力を身につけている。		

[B] 到達目標について十分なレベルに達している。
[C] 到達目標について一定のレベルに達している。

成績評価（平成30年度以降入学者）

平成31年度シラバス

番号	(B3)-40	履修コード	4141Z1~Z2
科目名	専門語学（フランス語）	科目英語名	Art Terminology (French)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	講座Ⅰ：火曜9・10限 講座Ⅱ：前期：火曜9・10限 後期：火曜7・8限
履修区分	選択必修	教室	講座Ⅰ：前期：LAVC室 後期：芸術学文献演習室 講座Ⅱ：学科演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	青柳りさ・（非常勤）○木村恵一		
授業概要	本授業は、主に3年次生に対応する講座Ⅰ（担当：木村）と、継続的にフランス語学習を希望する4年次生に対応する講座Ⅱ（担当：青柳）の2講座により構成される。講座Ⅰではフランス語の初級・中級文法を学ぶとともに、短く平易な文章を読む。スムーズな音読にも力を入れる。講座Ⅱでは音読と読解に力を入れる。		
到達目標	辞書を手にも、自力でフランス語の文章を読み進められるようにする。		
授業計画	<p>講座Ⅰ（3年次）前期</p> <p>第1～2回 ガイダンス、名詞の性・数、冠詞、形容詞、動詞etre, avoir</p> <p>第3～4回 -er動詞、-ir動詞、前置詞と定冠詞の縮約、冠詞の用法、疑問文</p> <p>第5～6回 指示形容詞、所有形容詞、数詞、名詞の複数形、形容詞の女性形</p> <p>第7～8回 動詞aller, venir、人称代名詞(1)、疑問代名詞、疑問形容詞</p> <p>第9～10回 数量の表現、形容詞・副詞の比較、人称代名詞(2)</p> <p>第11～12回 関係代名詞(1)、過去分詞、複合過去</p> <p>第13～14回 命令形、受動態、関係代名詞(2)、序数詞</p> <p>第15回 前期まとめ、期末試験</p> <p>後期</p> <p>第16～17回 中性代名詞、指示代名詞、半過去、大過去</p> <p>第18～19回 所有代名詞、代名動詞</p> <p>第20～21回 過去分詞の一致、非人称構文、単純未来、前未来</p> <p>第22～24回 現在分詞、知覚動詞、間接疑問、関係代名詞(3)</p> <p>第25～26回 条件法現在・過去</p> <p>第27～28回 接続法現在・過去</p> <p>第29回 単純過去、前過去、接続法半過去・大過去</p> <p>第30回 後期まとめ、期末試験</p> <p>講座Ⅱ（4年次）</p> <p>前期 Charles Perrault, Le petit chaperon rouge の精読と音読</p> <p>後期 学生の希望するテキストの精読と音読</p>		
予習・復習	付属のCDを活用しつつ、本文・練習問題の十分な理解をはかること。詳細は教室で指示する。		
教科書	講座Ⅰ 春木仁孝ほか『新・フランス語文法 三訂版』（朝日出版社） 講座Ⅱ Charles Perrault, Le petit chaperon rouge, Circonflexe. 他		
参考書	特になし。		
教材	特になし		
履修上の注意	この科目は、講座により履修コードが異なる（4141は共通）。 講座Ⅰ（担当：木村）：Z1、講座Ⅱ（担当：青柳）：Z2		
成績評価（平成29年度以前入学者）	平常の受講態度と2回の期末試験とを総合して単位認定を行う。 [A] 文法知識を確実に習得し、それを高いレベルで文章読解に応用することができる。 [B] 到達目標について十分なレベルに達している。 [C] 到達目標について一定のレベルに達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-41	履修コード	4142Z1
科目名	専門語学（ドイツ語）	科目英語名	Art Terminology (German)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	選択必修	教室	LAVC室
単位	2	定員	15名
担当教員	保井亜弓		
授業概要	比較的平易なテキストによりドイツ語の理解力と表現力を学ぶ。		
到達目標	ドイツ語基礎を履修した者あるいはそれと同等のドイツ語の基礎的知識を有した者が、平易なテキストでドイツ語の文法を復習するとともに、さらにドイツ語の理解力と表現力を高めて専門的なテキストを講読する力を養う。		
授業計画	<p>[前期]</p> <p>ドイツ語の理解には基礎文法の十全な習得が不可欠となる。そのため前期においては教科書を用い基礎文法の復習を行ない、接続法まで終了することを課題とし、独検4級レベルの力をつける。期末試験を行なう</p> <p>第1－7週 基礎文法の復習1 独検4級問題テスト</p> <p>第8－15週 テキストの復習2 独検4級問題テスト</p> <p>[後期]</p> <p>後期は比較的平易なテキストを用いた講読とする。テキストは受講者の希望により決定する。平成30年度は、August Winnig, Der Schneider von Osterwyk, 1972を用いた。英語とドイツ語の表現を比較して語彙をふやすことを心掛け、基本用語の小テストなども行う。必要に応じて独検3級レベルの練習問題を行なう。期末試験を行う。</p> <p>第16－20週 テキストの講読 聞き取り（必要に応じて独検3級問題テスト）</p> <p>第21－25週 テキストの講読 聞き取り（必要に応じて独検3級問題テスト）</p> <p>第26－30週 テキストの講読 期末テスト</p>		
予習・復習	語学学習には予習、復習が不可欠である。		
教科書	Strasse Neu 朝日出版社 2017（予定）		
参考書	辞書『独和大辞典』コンパクト版、小学館		
教材	授業中に配布する。		
履修上の注意	わからない点があるときは、積極的に質問して疑問を早く解決することを心がけること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末テスト（2回）50%、小テスト（随時）20% 授業における積極性30%</p> <p>[A] ドイツ語文法を理解し、正確に音読できるとともに、ドイツ語の文章を読みこなせる。</p> <p>[B] ドイツ語文法を理解し、正確に音読できる。</p> <p>[C] ドイツ語文法を理解できている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-42	履修コード	4143Z1
科目名	専門語学（イタリア語）	科目英語名	Art Terminology (Italian)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	木曜5・6限
履修区分	選択必修	教室	LAVC室
単位	2	定員	15名
担当教員	上田恒夫		
授業概要	初級文法事項を復習した上で、美術文献の講読をおこなう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. イタリア美術の重要な用語をマスターする。 2. 基礎的美術文献を読みこなす。 3. イタリア語検定4級合格をめざす。 		
授業計画	<p>イタリア語基礎を履修した者あるいはそれと同等のイタリア語の基礎的知識を有した者が、イタリア語の文法を復習するとともに、さらにイタリア語の理解力と表現力を高めて専門的な文章を精読する力を養う。</p> <p>■前期 指定教科書『ゼロから始めるイタリア語』によってイタリア語文法を徹底的に復習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的語代名詞 2. 近過去と代名詞の組み合わせ ciとne 3. 使役動詞と放任動詞 4. 半過去と大過去 5. 未来 6. 命令法 7. 条件法 8. 関係代名詞 9. 接続法（1） 10. 接続法（2） 11. 仮定文 12. 受動態 13. ジェルンディオ 14. 遠過去 15. イタリア語検定問題（5級） <p>■後期 Castellan, Gento fiori di Yamatoを読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 序文：東北アジアのなかの日本 17. 序文：日本文化の基底 18. 本文：俳句の精神 19. 本文：イタリア語訳された俳句 20. 本文：俳人 21. イタリア語検定問題（5級） <p>Il Quattrocento (Electa)を読む</p> <ol style="list-style-type: none"> 22. Rinascimento 23. Prospettiva 24. Bottega 25. Affresco 26. Polittici e pala d' altare 27. Pittura a olio 28. Miniatura 29. Tarsia 30. イタリア語検定問題（4級） 		
予習・復習	毎回の演習に関連する美術作品について、画像（図版）と関連文献によって検討すること。		
教科書	前期教科書：浦一章『ゼロから始めるイタリア語』、三修社（1,723円）各自で購入すること。		
参考書	辞書：『フリーモ伊和辞典』（白水社、5,076円）を推薦する。電子辞書の使用は随意。		
教材	美術文献テキストはプリントで配布する。		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> ①初級文法をマスターしておくことが前提となる。 ②イタリア文の筆写と音読を習慣づけ、文章構造の理解と文章の流れに留意して予習復習すること。 		

<p>成績評価（平成29年度以前入学者）</p>	<p>と。 積極的受講態度50% 学期末試験50% 以上を総合して単位を認定する。評価基準は下記の通りである。 [A]到達目標について、十分なレベルに達している。 [B]到達目標について、一定のレベルに達しているが応用力の涵養には至っていない。 [C]規定数の出席を充たし、必要最低限の基礎は修得している。</p>
<p>成績評価（平成30年度以降入学者）</p>	

平成31年度シラバス

番号	(B3)-43	履修コード	4144Z1
科目名	専門語学（中国語）	科目英語名	Art Terminology (Chinese)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	木曜5・6限
履修区分	選択必修	教室	芸術学文献演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	(非常勤) 蘇 哲		
授業概要	美術系の学生を対象とした初級レベルの授業。ピンイン（中国語の表音ローマ字）の読み方と綴り方、簡体字の書き方ならびに動詞・形容詞・助動詞・助数詞の用法を学び、読む、聞く、話す、書く能力を向上させる。中国美術についての知識にも触れながら、授業を進める。		
到達目標	まず、ピンイン表記と発音のしかたを習得する。さらに文構造を正しく捉えて、基本的な語順パターンを身につけ、平易な短文の読解と翻訳ができることを目標にする。		
授業計画	<p>前期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国語とは（中国語の歴史 簡体字と繁体字 発音の特徴 中国語と日本語） 2. 中国語の発音のローマ字表記—ピン音 音節の構造 子音と母音 四声 3. ピン音の綴りの規則 子音、母音、複合母音と子音の組み合わせ 4. あいさつの基本 5. 名前の尋ね方と言い方 6. 動詞「是」の使い方 7. 指示代名詞と疑問代名詞 8. 数の数え方 9. 主な助数詞 10~11. 動詞「有」の表現 12. 場所の指示代名詞/疑問詞「多少」と「几」 13. 月日・曜日・年号、電話番号の表現 14. 時刻・年齢の言い方および名詞述語文 15. まとめ <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1~2. 形容詞述語文 3. 動詞の文の表現 4. 能願動詞「想」・「打算」・「会」・「能」の使い方 5. 動詞の過去形：完了を表す「了」と経験を表す「過」 6~7. 動詞の進行形/選択疑問文 8. 動詞「喜欢」/動詞・前置詞「在」 9. 移動・方向を表す動詞「来」・「去」/「把」構文 10. 前置詞「从」「到」/動作の順序および同時進行 11. 自己紹介文を書く 12. 中国語の短文を解読 13. 受身文/使役文 14. 映像教材の視聴 15. まとめ 		
予習・復習	予習：毎回授業前に新出単語を音読して記憶すること。 復習：毎回授業後に教科書に載せる「学習のポイント」を整理して、練習問題を解くこと。		
教科書	王丹『新ゼロからスタート中国語』文法編 Jリサーチ出版 2015年 中国美術マメ知識についての配布資料		
参考書	守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店 1995年		
教材	適宜、中国美術マメ知識についての資料を配布する。		
履修上の注意	中国語を学ぶ自主的な学習を始めていることが望ましい。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	学習に取り組む態度、基礎的な文法・語彙の習得度、期末試験の成績から総合的に評価する。 評価基準は下記のとおり。 [A]教科書中心の語彙、文法、構文のいずれも把握し、平易な文章を読み解くスキルを身につけた。 [B]文法や構文を理解し、平易な文章を読み解くスキルを身につけた。 [C]語彙、文法、構文上の誤りもあるが、平易な文章を概ね理解できる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-44	履修コード	4145Z1
科目名	専門語学 (ハングル)	科目英語名	Art Terminology (Hangul)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	金曜5・6限
履修区分	選択必修	教室	芸術学文献演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	(非常勤) 金正逸		
授業概要	芸術学研究のための基礎的なハングルの授業。表音文字であるハングルの特徴に基づく読み書きや簡単な日常会話を学ぶ。また、韓国美術史における重要な流れをハングル文字の観点から講義する。		
到達目標	韓国美術に関する書物を読むために必要なハングルの能力を身に付ける。		
授業計画	<p>第1回 韓国語の系統と特徴 (ハングルの仕組み、文字の構成) 韓国美術史の概要 準備学習 テキストの全体の流れを確認しておくこと。</p> <p>第2回 基本子音字・基本母音字 (1) 準備学習 「百済の美術」について理解する。</p> <p>第3回 基本子音字・基本母音字 (2) 準備学習 「新羅の美術」について理解する。</p> <p>第4回 合成子音字・合成母音字 準備学習 慶州の「仏国寺」について理解する。</p> <p>第5回 パッチム・連音化 準備学習 慶州の「石窟庵」について理解する。</p> <p>第6回 一人称代名詞・指示代名詞 準備学習 「高麗青磁の美」について理解する。</p> <p>第7回 家族の名称・位置関係の言葉 準備学習 朝鮮の雑器「オンギ」について理解する。</p> <p>第8回 敬語の使い方・否定形・曜日 準備学習 「粉青沙器」について理解する。</p> <p>第9回 形容詞の活用形・天気表現 準備学習 朝鮮の白磁について理解する。</p> <p>第10回 年月日を言える・数詞 準備学習 朝鮮時代の「山水画」</p> <p>第11回 時間を表現する・尊敬形の作り方 準備学習 朝鮮時代の「風俗画」について理解する。</p> <p>第12回 丁寧形の作り方・アンの非定形 準備学習 朝鮮時代の「民画」について理解する。</p> <p>第13回 過去形の作り方 準備学習 朝鮮時代の「人物画」について理解する。</p> <p>第14回 誘いの表現・全体の復習 準備学習 韓国の近代・現代の美術について理解する。</p> <p>第15回 レポート提出</p>		
予習・復習	語学学習には予習、復習が不可欠である。		
教科書	『韓国語をはじめよう／初級』 朝日出版社 李昌圭著 2009年		
参考書	『韓国美術史101場面』 カラム企画出版 イムデュビン著 1998年		
教材	韓国の文化関連の映像、必要に応じる印刷物		
履修上の注意	ハングルの学ばず自主的な学習を始めていることが望ましい。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>学習に取り組む態度、基礎的な文法・語彙の習得度、レポートの評価から総合的に評価する。評価基準は下記のとおり。</p> <p>[A] 到達目標について、十分なレベルに達している。</p> <p>[B] 到達目標について、一定のレベルに達しているが応用力の涵養には至っていない。</p> <p>[C] 規定数の出席を充たし、必要最低限の基礎を学習した。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-45	履修コード	4146Z1
科目名	専門語学（古文）	科目英語名	Art Terminology (Japanese Classics)
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻3年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択必修	教室	古典演習室
単位	2	定員	15名
担当教員	高橋明彦		
授業概要	演習形式による、変体仮名と草体の読解と語彙・図像の注釈		
到達目標	<p>日本美術の研究に応用でき、かつ必須でもあると思われる、次の学力を涵養します。</p> <p>①変体仮名・くずし字に習熟し、翻刻できること。 ②レファレンス資料を知り、それを扱う力を養うこと。 ③語彙・図像を解釈・記述し注釈する力を養うこと。</p>		
授業計画	<p>演習形式で、レポートは、翻字・語釈・通釈を担当し、報告します。担当範囲や順番は、受講者の人数に応じて、相談して決めます。やり方は、じっくり丁寧に教えます。</p> <p>テキストは絵入りで親しみやすく興味を持てるものにしてあります。習熟段階を三段階に分けて、(A)浮世絵版画、(B)近世絵入り版本、(C)古代中世の絵巻物、この順に題材を選びます。近年使用したものを列記します。</p> <p>(A) 『いろはがるた』（江戸後期刊） 『太平記英勇伝』（歌川国芳画・柳下亭種員文・嘉永元年刊）</p> <p>(B) 『絵事比肩』（鳥山石燕画・安永七年刊） 『本朝茶経』（竹村一弦作画・文化四年刊） 『今様職人尽百人一首』（近藤清春画・享保ころ刊） 『団扇絵づくし』（菱川師宣画・天和4年刊）</p> <p>(C) 『俵藤太物語絵巻』（江戸前期筆・CBL蔵） 『竹取物語絵巻』（江戸前期筆・九曜文庫蔵本） 『伴大納言絵巻』（平安末期筆・出光美術館）</p> <p>(A) (B) (C)をおよそ各10回行いますが（合計30回）、受講者数、達成度により、週割は変更される場合があります。十分な準備が必要ですので、授業予定は事前に通告します。</p>		
予習・復習	<p>レポートは十分な準備をしておく必要があります。じっくり時間をかけてください。分からない文字・語句があれば、オフィス・アワーなどを利用して、高橋に質問してください。報告用のレジュメを人数分コピーしてください（コピーは事務室でできます。または当日12時前に助手さんに依頼して下さい）。レポート以外も各自で翻刻本文を作成し、語句を調べておくとよいでしょう。</p>		
教科書	こちらで用意します。		
参考書	『日本国語大辞典』『角川古語辞典』等の基本的な古語辞典のほか、『日葡辞書』『訓蒙図彙』『和漢三才図会』など同時代のレファレンス類を参考にしてください。また、古語辞典に記載された用例も、可能なかぎり原本に当たり直してみてください。その他、古辞書や節用集などの基本的な古典レファレンス類の利用法についても随時言及するので、逐一それに当たってみると良いでしょう。また、ジャパンナレッジなどのオンライン検索システムも上手に利用して下さい（学内のどのパソコンからでも無料で使えます）。		
教材	教科書、プリント		
履修上の注意	なし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>評価の方法：レポートとしての報告。平常点（出席数など）</p> <p>評価の基準： [A] 到達目標について、十分なレベルに達している。 [B] 到達目標について、一応のレベルには達しているが、応用力の涵養には至っていない。 [C] 規定数の出席を充たし、レポートとしても発表をした。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-46	履修コード	4147Z1
科目名	芸術学演習（四）	科目英語名	Seminar of Art History and Aesthetics IV
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	芸術学専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	4	定員	15名
担当教員	神谷佳男・〇保井亜弓・菊池裕子・水野さや・星野 太（客員教授）小林康夫		
授業概要	研究発表を中心課題とする演習である。受講生各自の卒業論文に関する研究内容を、発表という機会を通して、相互に討議しつつ指導を行う。		
到達目標	研究発表や公開を前提とするレクチャーを通して、講演のスタイルを学ぶとともに、発表を通して得られる様々な指摘を活かし、個々の専門研究を充実させる。		
授業計画	<p>1. 研究発表 卒業論文の中間報告として研究発表を各自3回（5月、7月、10月）行い、そのうえで質疑応答を中心に討議し、研究方法やその問題点について認識を高める。この発表は他学年も聴講するもので、教員からの指摘は勿論、学生相互の意見交換・議論によって討議の内容が充実することを期待する。 また、芸術学系の学会等における研究発表のシミュレーションとして、発表にいたる準備や講演のスタイルについてもあわせて指導する。</p> <p>2. 公開レクチャー 上記の研究発表をふまえて、金沢21世紀美術館レクチャールームにおける一般公開レクチャーを行う。このレクチャーは同美術館で開催される「卒業制作展」にあわせて実施するものである。</p>		
予習・復習	発表に用いる画像データ等の準備。 発表後は、指摘された事項をふまえて研究を充実させること。		
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>日頃の取り組みの姿勢およびプレゼンテーションの内容について、全担当教員で協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。</p> <p>[A] 発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を良く学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実・発展させることができた。</p> <p>[B] 発表の準備を積極的に行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を取り入れて専門研究を充実させることができた。</p> <p>[C] 発表の準備を行うとともに、プレゼンテーションの方法を学び、質問や指摘を専門研究に取り入れることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B3)-47	履修コード	4148Z1
科目名	卒業研究	科目英語名	Seminar for Graduation Thesis
科目区分	美術科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	芸術学専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	研究室
単位	10	定員	15名
担当教員	神谷佳男・〇保井亜弓・菊池裕子・水野さや・星野 太		
授業概要	卒業論文の執筆、あるいは卒業論文の執筆とそれに伴う作品制作を、各自のテーマに応じて指導し、完成に導く。		
到達目標	各自が卒業論文や作品等を高い次元において完成させることを目標とする。		
授業計画	<p>[前期]</p> <p>各自の研究テーマに関する問題意識を明確にし、調査・研究における基礎的な作業を徹底的に行い、文献資料等の基礎資料を収集する。また、対象となる作品の情報を収集するとともに、実地調査も可能な限り試みる。5月に行われる第1回中間発表、7月に行われる第2回中間発表での発表と質疑応答を通して、指導教員はもとより他の教員や聴講した学生からの指導や意見を求め、調査・研究をさらに進めて行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画の作成 研究目的・方向性の具体化 2. 関連資料（作品および文献）の検索と所在の確認 3. 関連資料（作品および文献）実地調査に向けての計画作成 4. テーマの明確化 第1回中間発表に向けての準備 5. 第1回中間発表 6. 第1回中間発表における質疑・応答を踏まえ、テーマと研究の方向性の再調整 7~9. 資料収集・調査 10. 資料収集および作品調査 章立（案）と結論（見通し）の作成 11. 資料収集および作品調査 第2回中間発表に向けての準備 12. 第2回中間発表 13. 第2回中間発表における質疑・応答を踏まえ、章立と結論（見通し）の再検討 14~15. 資料収集・調査 <p>[後期]</p> <p>卒業論文として設定した研究テーマと内容について常に検討を加えつつ、必要な資料を随時加えながら論文構成を確定し、より充実させて行く。10月に行われる第3回中間報告会での発表と質疑応答を通して、進捗状況を確認するとともに、考察内容をさらに深め、12月下旬の論文提出に向けて執筆を進める。卒業論文に関する口頭試問は1月上旬に行い、その後卒業論文報告会のための指導も行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 前期および夏期休業中の研究成果の報告 第3回中間発表に向けての準備 17. 第3回中間発表 18. 第3回中間発表における質疑・応答を踏まえ、章立と結論の再調整 19. 資料調査および調査データの分析および執筆作業 20. 資料調査および調査データの分析および執筆作業 21~22. 執筆作業 新たに必要が生じた関連資料の再収集と調査 23~24. 執筆作業 図版・表など添付資料の作成 25. 執筆作業 誤字・脱字などの訂正 26. 執筆作業 提出前の最終調整 装幀など 27. 論文提出（12月第3週） 論文に関する口頭試問に向けての準備 28. 口頭試問 29. 21世紀美術館における卒業制作展に向けて、展示用パネルなどの作成 30. 21世紀美術館における卒業論文報告会に向けての準備 		
予習・復習	指導を受けるために必要な研究成果のまとめを常に心掛けること。指導や発表後に、指摘された事項をふまえて研究を充実させること。		
教科書	特になし		
参考書	適宜指示する		
教材	特になし		
履修上の注意	毎回、指導を受けるべき内容を準備すること。指導後は指摘された事項をふまえて研究を充実させること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	日頃の調査・研究の取り組み方、作成された論文、口頭試問における質疑応答について、全担当教員の協議のうえ総合的に判断し、成績を判定する。 [A] 研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、明快な論理構成と的確な文章表現で卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において適切に回答することができる [B] 研究テーマを明確に設定し、調査・研究を十分に行い、卒業論文をまとめるとともに、口頭試問		

	において適切に回答することができる [C] 研究テーマを設定し、調査・研究を行い、卒業論文をまとめるとともに、口頭試問において回答することができる
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B4)-01	履修コード	3607Z1
科目名	立体図法	科目英語名	Three Dimensional Drawing
科目区分	デザイン科・工芸科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科・工芸科1年次	曜日・時限	火曜7・8限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	80名
担当教員	○鏑 隆弘（非常勤）山田憲子		
授業概要	技法についての講義と透視図の作成による透視図法の実践		
到達目標	平面図や断面図などの投影図を読みとり、立体図の作成を行なう透視図法について、数種類の図法の修得を目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、準備する用具 透視図法の基本（歴史、定理、種類、用語、基本立体の変化、視野）についての講義 2. 足線法による立体表現 立方体を足線法を使って描く。練習問題を解くことで反射した図も消失点を共有することを確認する。 3. 足線法による実技 足線法を使って建物形態を描く。凹凸のある立体がどのように見えてくるかを確認する。 4. M点法による立体表現（外観） M点法の考え方についての講義／M点法を使って立方体を描く。M点および測線の使い方を学ぶ。 5. M点法による立体表現2（外観） M点法を使って建物形態を描く。凹凸のある立体への寸法の反映方法を学ぶ。 6. D点法による立体表現（内観） D点法の考え方についての講義／D点法を使って屋内空間を描く。D点の設定の仕方と奥行寸法の取り方を学ぶ。 7. D点法による立体表現2（内観） D点法を使って屋内に置かれたものと空間を描く。／事例紹介 8. 分割による簡略図法、平面幾何学の応用（分割、追加） 透視図の中での等距離による分割、追加手法を使って屋内空間を描く。 9. 陰の形の練習 モノの陰を描く。陰の消失点および光線の消失点の取り方を学ぶ。 10. アイソメ、アクソメによる立体表現 消失点を持たない図法を使って、建物形態を描く。 11. 図法のまとめ 物の描画を通して、感覚から消失点とM点を設定することを学ぶ。 12. M点法を含めた実技および演習課題の説明 M点法を使って、複雑な形態を描く。 13. D点法による実技 D点法を使って、複雑な形態を描く。 14. 演習課題 物が配置された個室空間を、D点法を使って描く。 15. 演習課題 つづき／提出 		
予習・復習	復習：毎回紹介される図法を使って、課題以外の立体を描いてみること。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
	配付プリント		

教材	
履修上の注意	直定規（30センチ以上）、三角定規（二枚組）、色ボールペン3色、5mmマスのセクションペーパーパッド（A3サイズ）を用意し、毎回持参すること。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>毎回の課題提出、演習課題の到達度により評価する。</p> <p>[A] 毎回の課題が完成し、その成果が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 毎回の課題の提出があり、その成果が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 毎回の課題の提出があり、演習課題ができている。</p> <p>14～15回に行う演習課題は必ず提出すること。これが未提出の場合は、単位を認めない。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>毎回の課題提出、演習課題の到達度により評価する。</p> <p>[S] 毎回の課題が完成し、その成果が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 毎回の課題が完成し、その成果が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 毎回の課題の提出があり、その成果が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 毎回の課題の提出があり、演習課題ができている。</p> <p>14～15回に行う演習課題は必ず提出すること。これが未提出の場合は、単位を認めない。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B4)-02	履修コード	3626Z1
科目名	意匠法規	科目英語名	Regulations of Design
科目区分	デザイン科・工芸科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	(非常勤) 日高一樹		
授業概要	デザインに関する知的財産権およびデザイン契約		
到達目標	デザインに関する知的財産権と実践的活用法の知識習得		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業に置ける有形財産と無形財産について <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドとデザインの関係概念図の紹介 ・デザイン業務と知的財産権 ・産業財産権の基礎知識（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法） 2. 知財の侵害に対する権利 <ul style="list-style-type: none"> ・差し止め請求権 ・損害賠償請求権 ・意匠法第3の2の規定の活用（変更内容） ・知的財産権がなぜ必要？ ・知的財産を軽視した場合のリスク ・知的財産・知的財産権とは？ ・知的財産権の種類 ・産業財産権とは？ 3. 特許制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・「発明」と「特許」 ・特許制度の目的 ・特許法上の「発明」とは ・特許になる発明とは？ ・秘密保持誓約書の事例紹介 ・新規性喪失の例外 ・特許になる発明とは？ ・発明の種類と実施 4. 特許制度の概要（職務発明） <ul style="list-style-type: none"> ・特許を受けることが出来る者 ・職務発明制度のポイント ・改正後の「相当の対価」 5. 特許制度の概要（出願から特許までの手続き） 6. 実用新案制度の概要 7. 意匠制度の概要 8. 商標制度の概要 9. 産業財産権情報（特許情報）の活用 10. 権利の活用・侵害 11. 知的財産関連支援策等 12. 著作権法 		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	産業財産権標準テキスト（特許、意匠、商標、流通）4冊特許庁刊および講師作成テキスト70ページ		
参考書	特になし。		
教材	PC・ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>レポート、筆記試験および受講態度を総合して評価する。</p> <p>[A] テーマに対する理解と分析などが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] テーマに対する理解と分析などが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] テーマに対する理解と分析などが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B4)-03	履修コード	3626Z1
科目名	意匠法規	科目英語名	Regulations of Design
科目区分	デザイン科・工芸科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	(非常勤) 日高一樹		
授業概要	デザインに関する知的財産権およびデザイン契約		
到達目標	デザインに関する知的財産権と実践的活用法の知識習得		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業に置ける有形財産と無形財産について <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドとデザインの関係概念図の紹介 ・デザイン業務と知的財産権 ・産業財産権の基礎知識（特許法、実用新案法、意匠法、商標法、著作権法） 2. 知財の侵害に対する権利 <ul style="list-style-type: none"> ・差し止め請求権 ・損害賠償請求権 ・意匠法第3の2の規定の活用（変更内容） ・知的財産権がなぜ必要？ ・知的財産を軽視した場合のリスク ・知的財産・知的財産権とは？ ・知的財産権の種類 ・産業財産権とは？ 3. 特許制度の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・「発明」と「特許」 ・特許制度の目的 ・特許法上の「発明」とは ・特許になる発明とは？ ・秘密保持誓約書の事例紹介 ・新規性喪失の例外 ・特許になる発明とは？ ・発明の種類と実施 4. 特許制度の概要（職務発明） <ul style="list-style-type: none"> ・特許を受けることが出来る者 ・職務発明制度のポイント ・改正後の「相当の対価」 5. 特許制度の概要（出願から特許までの手続き） 6. 実用新案制度の概要 7. 意匠制度の概要 8. 商標制度の概要 9. 産業財産権情報（特許情報）の活用 10. 権利の活用・侵害 11. 知的財産関連支援策等 12. 著作権法 		
予習・復習	適宜指示する。		
教科書	産業財産権標準テキスト（特許、意匠、商標、流通）4冊特許庁刊および講師作成テキスト70ページ		
参考書	特になし。		
教材	PC・ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	レポート、筆記試験および受講態度を総合して評価する。 [A] テーマに対する理解と分析などが高いレベルに到達している。 [B] テーマに対する理解と分析などが十分なレベルに到達している。 [C] テーマに対する理解と分析などが一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B5)-01	履修コード	3602Z1
科目名	形態演習	科目英語名	Practice of Modeling
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○村中稔・工藤俊之・坂本英之・（非常勤）館田千里		
授業概要	デザイン基礎として、形と空間について基礎的な把握を演習によって行う。		
到達目標	立体を制作することや、立体に光を当てて影の効果を認識することにより、複雑な立体要素を把握する能力が身に付く。		
授業計画	<p>A、透過する造形（工藤・村中） 線材を使用して造形表現を行い、デザインの基礎となる形を学ぶ。 プロセス：立体制作に入る前段階として精密描写を行い特徴を把握したうえで基本構成を考え、設計図を作成し、それに従って線材による立体を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、昆虫の精密描写および立体制作用設計図作成。 2、針金をハンダで接着して立体を制作する。 3、完成した立体を並べて全体で合評する。 4、制作した平面や立体の写真を撮りパネルにレイアウトする。 <p>B、構造と機能（坂本） 構造と機能について、与えられた条件の下、身近にある素材を使い、課題を発見し解決を図る。独創的で自由な発想により、創造性のあるアイデアを展開し、造形する。制作・検証・修正のサイクルを通して生まれる、合理的で美しい形態を探るデザインの基礎を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、構造と機能について、身近な事例から学ぶ 2、与えられた条件の下、課題を発見し、解決策を探る 3、アイデア展開と制作 4、成果物を検証・修正 5、プレゼンテーション <p>C、アイデア・デベロップメント（非常勤）館田千里 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。仮説や条件の設定に従って段階的に展開することを学ぶ。結果的にアイデアの独自性や新規性も獲得できることを体感する。 ・「コラージュ」や「人工物」などの仮説に条件を設定し展開を導く。 ・許される時間を限界として意思決定をする。</p>		
予習・復習	課題終了後に平面や立体の写真を撮りレイアウトしたパネルを提出する。（村中）		
教科書			
参考書			
教材	コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。（工藤・村中）		
履修上の注意	短期間での緻密な制作を求められるので、計画性をもって臨むこと。（工藤・村中）		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が特に高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-02	履修コード	3602Z2
科目名	形態演習	科目英語名	Practice of Modeling
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○村中稔・工藤俊之・坂本英之・（非常勤）館田千里		
授業概要	デザイン基礎として、形と空間について基礎的な把握を演習によって行う。		
到達目標	立体を制作することや、立体に光を当てて影の効果を認識することにより、複雑な立体要素を把握する能力が身に付く。		
授業計画	<p>A、透過する造形（工藤・村中） 線材を使用して造形表現を行い、デザインの基礎となる形を学ぶ。 プロセス：立体制作に入る前段階として精密描写を行い特徴を把握したうえで基本構成を考え、設計図を作成し、それに従って線材による立体を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 昆虫の精密描写および立体制作用設計図作成。 2. 針金をハンダで接着して立体を制作する。 3. 完成した立体を並べて全体で合評する。 4. 制作した平面や立体の写真を撮りパネルにレイアウトする。 <p>B、構造と機能（坂本） 構造と機能について、与えられた条件の下、身近にある素材を使い、課題を発見し解決を図る。独創的で自由な発想により、創造性のあるアイデアを展開し、造形する。制作・検証・修正のサイクルを通して生まれる、合理的で美しい形態を探るデザインの基礎を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造と機能について、身近な事例から学ぶ 2. 与えられた条件の下、課題を発見し、解決策を探る 3. アイデア展開と制作 4. 成果物を検証・修正 5. プレゼンテーション <p>C、アイデア・デベロップメント（非常勤）館田千里 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。仮説や条件の設定に従って段階的に展開することを学ぶ。結果的にアイデアの独自性や新規性も獲得できることを体感する。 ・「コラージュ」や「人工物」などの仮説に条件を設定し展開を導く。 ・許される時間を限界として意思決定をする。</p>		
予習・復習	課題終了後に平面や立体の写真を撮り、レイアウトしたパネルを提出する。（村中）		
教科書	なし		
参考書	なし		
教材	コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。（工藤・村中）		
履修上の注意	短期間での緻密な制作を求められるので、計画性をもって臨むこと。（工藤・村中）		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が特に高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-03	履修コード	3602Z3
科目名	形態演習	科目英語名	Practice of Modeling
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○村中稔・工藤俊之・坂本英之・（非常勤）館田千里		
授業概要	デザイン基礎として、形と空間について基礎的な把握を演習によって行う。		
到達目標	立体を制作することや、立体に光を当てて影の効果を認識することにより、複雑な立体要素を把握する能力が身に付く。		
授業計画	<p>A、透過する造形（工藤・村中） 線材を使用して造形表現を行い、デザインの基礎となる形を学ぶ。 プロセス：立体制作に入る前段階として精密描写を行い特徴を把握したうえで基本構成を考え、設計図を作成し、それに従って線材による立体を制作する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、昆虫の精密描写および立体制作用設計図作成。 2、針金をハンダで接着して立体を制作する。 3、完成した立体を並べて全体で合評する。 4、制作した平面や立体の写真を撮りパネルにレイアウトする。 <p>B、構造と機能（坂本） 構造と機能について、与えられた条件の下、身近にある素材を使い、課題を発見し解決を図る。独創的で自由な発想により、創造性のあるアイデアを展開し、造形する。制作・検証・修正のサイクルを通して生まれる、合理的で美しい形態を探るデザインの基礎を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、構造と機能について、身近な事例から学ぶ 2、与えられた条件の下、課題を発見し、解決策を探る 3、アイデア展開と制作 4、成果物を検証・修正 5、プレゼンテーション <p>C、アイデア・デベロップメント（非常勤）館田千里 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。仮説や条件の設定に従って段階的に展開することを学ぶ。結果的にアイデアの独自性や新規性も獲得できることを体感する。 ・「コラージュ」や「人工物」などの仮説に条件を設定し展開を導く。 ・許される時間を限界として意思決定をする。</p>		
予習・復習	課題終了後に平面や立体の写真を撮りレイアウトしたパネルを提出する。（村中）		
教科書			
参考書			
教材	コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。（工藤・村中）		
履修上の注意	短期間での緻密な制作が求められるので、計画性をもって臨むこと。（工藤・村中）		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 形と空間に関する知識と表現が特に高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [A] 形と空間に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] 形と空間に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-04	履修コード	3603Z1
科目名	描出演習	科目英語名	Practice of Representation
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚室・1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	坂野 徹・○畝野裕司・(非常勤) 舘田千里		
授業概要	創造することにおいて基礎的な知覚・観察力を実技課題を通して養う。		
到達目標	作品制作のための基礎描出力と集中力が身につく、自己表現が的確にできるようになる。		
授業計画	<p>A、レタリング (畝野) デザイン全般の主要な基礎学習として代表的な書体を書くことによって文字造形の原理を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとオリエンテーション 2. フリーハンドで線を描く。(デザインストローク) 3. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体で書く。 <p>B、知覚 (坂野) 情報をかたちに置き替え、構造から造形を探る。 本授業は、目的、方向性、整合性を重視する。 《目的》明確な目的がある。 《方向性》目標があるため、進むべき方向、道順がある。 《整合性》ルールがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ランダムな点をつないで関係性を構築する。 2. 時間軸を描く。 3. 違いを探す。 4. 情報としての造形の扱い方。 5. 情報を分析して図案化する。 <p>C、アイデアデベロップメント (舘田) 視覚における既成概念の不確かさを、徹底的な認識と把握により打破する。 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、オリエンテーション 2. モチーフをスケッチ (50～100アングル) 3. 「シルエット」や「デフォルメーション」などの仮説に条件を設定することで展開を導く。 4. 許される時間を限界として意思決定をする。 		
予習・復習			
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC・ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>成績評価</p> <p>[A] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が高いレベルで行われている。</p> <p>[B] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が十分なレベルで行われている。</p> <p>[C] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が一定のレベルで行われている。</p>		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>演習課題の到達度により評価する。</p> <p>[S] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が優れた形で演習課題に取り入れられている。</p> <p>[A] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が積極的に演習課題に取り入れられている。</p> <p>[B] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が基本的に演習課題に取り入れられる。</p>		

ている。
[C]描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写できている。

平成31年度シラバス

番号	(B5)-05	履修コード	3603Z2
科目名	描出演習	科目英語名	Practice of Representation
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚室・1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	坂野 徹・○畝野裕司・(非常勤) 館田千里		
授業概要	創造することにおいて基礎的な知覚・観察力を実技課題を通して養う。		
到達目標	作品制作のための基礎描出力と集中力が身につく、自己表現が的確にできるようになる。		
授業計画	<p>A、レタリング（畝野） デザイン全般の主要な基礎学習として代表的な書体を書くことによって文字造形の原理を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとオリエンテーション 2. フリーハンドで線を描く。（デザインストローク） 3. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体で書く。 <p>B、知覚（坂野） 情報をかたちに置き替え、構造から造形を探る。 本授業は、目的、方向性、整合性を重視する。 《目的》明確な目的がある。 《方向性》目標があるため、進むべき方向、道順がある。 《整合性》ルールがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ランダムな点をつないで関係性を構築する。 2. 時間軸を描く。 3. 違いを探す。 4. 情報としての造形の扱い方。 5. 情報を分析して図案化する。 <p>C、アイデアデベロップメント（館田） 視覚における既成概念の不確かさを、徹底的な認識と把握により打破する。 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、オリエンテーション 2. モチーフをスケッチ（50～100アングル） 3. 「シルエット」や「デフォルメーション」などの仮説に条件を設定することで展開を導く。 4. 許される時間を限界として意思決定をする。 		
予習・復習			
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC・ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>[A] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が高いレベルで行われている。 [B] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が十分なレベルで行われている。 [C] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が一定のレベルで行われている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>演習課題の到達度により評価する。</p> <p>[S] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写できている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-06	履修コード	3603Z3
科目名	描出演習	科目英語名	Practice of Representation
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚室・1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	坂野 徹・○畝野裕司・(非常勤) 館田千里		
授業概要	創造することにおいて基礎的な知覚・観察力を実技課題を通して養う。		
到達目標	作品制作のための基礎描出力と集中力が身につく、自己表現が的確にできるようになる。		
授業計画	<p>A、レタリング (畝野) デザイン全般の主要な基礎学習として代表的な書体を書くことによって文字造形の原理を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとオリエンテーション 2. フリーハンドで線を描く。(デザインストローク) 3. 自分の姓名を欧文の基本的印刷書体で書く。 <p>B、知覚 (坂野) 情報をかたちに置き替え、構造から造形を探る。 本授業は、目的、方向性、整合性を重視する。 《目的》明確な目的がある。 《方向性》目標があるため、進むべき方向、道順がある。 《整合性》ルールがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ランダムな点をつないで関係性を構築する。 2. 時間軸を描く。 3. 違いを探す。 4. 情報としての造形の扱い方。 5. 情報を分析して図案化する。 <p>C、アイデアデベロップメント (館田) 視覚における既成概念の不確かさを、徹底的な認識と把握により打破する。 「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、オリエンテーション 2. モチーフをスケッチ (50～100アングル) 3. 「シルエット」や「デフォルメーション」などの仮説に条件を設定することで展開を導く。 4. 許される時間を限界として意思決定をする。 		
予習・復習			
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC・ビデオ		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	[A] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が高いレベルで行われている。 [B] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が十分なレベルで行われている。 [C] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が一定のレベルで行われている。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	演習課題の到達度により評価する。 [S] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が優れた形で演習課題に取り入れられている。 [A] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が積極的に演習課題に取り入れられている。 [B] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写が基本的に演習課題に取り入れられている。 [C] 描写に相応しい観察と、細やかで正確な描写できている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-07	履修コード	3604Z1
科目名	色彩演習	科目英語名	Practice of Coloring
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	第1教室・1年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○寺井剛敏・鈴木康雄・角谷修（非常勤） 舘田千里		
授業概要	色彩の基礎的実習		
到達目標	基礎的な色彩理論と演習を行い、色相、明度の変化を体験させ色彩感覚を養う。減法混色、加法混色の違いとそれぞれのコントロールについて実習を通して学ぶ。		
授業計画	<p>A 商品と色彩（寺井）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加算混合、減算混合、印刷の色分解、点描等の基礎的な知識及び世の中で使用されているパッケージ、工業製品、建築の色について、実際の事例を引用し色の効果について実感させる。 ・「Hue Circle 100/100色環」 ・アクリル絵の具を使用して混色を行い、色相の変化、色相の種類を体感し色彩の基礎的な感覚を養う。 <p>B 空間、デジタルと色彩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加法混色の基礎的な知識を照明や空間とデジタルの世界における様々な事例を通して知る。空間と照明の関係や、デジタルデータにおける色彩のコントロールを知る。 ・「色光」 ・紙立体を制作しカラーフィルターを通した複数の光が織りなす立体の変化や照明効果を確認しつつデジタルカメラで撮影し、最終的に結果を発表する。 <p>C. アイデア・デベロップメント（非常勤）舘田千里</p> <p>「感性」によって生まれたアイデアを「理性」によってコントロールする。仮説や条件の設定に従って段階的に展開することを学ぶ。結果的にアイデアの独自性や新規性も獲得できることを体感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「セグメント」や「テクスチュア」などの仮説に条件を設定し展開を導く。 ・許される時間を限界として意思決定をする。 		
予習・復習	事前に告知する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	演習1：指定したアクリル絵の具を用意する。（詳細は事前に告知） 演習2：ケント紙を加工するための道具（カッターナイフ、接着剤、はさみなど）を用意する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 色彩に関する知識と表現が高いレベルで習得され、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 色彩に関する知識と表現が習得され、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 色彩に関する知識と表現が習得することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 色彩に関する知識と表現がきわめて高いレベルで習得され、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A] 色彩に関する知識と表現が高いレベルで習得され、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 色彩に関する知識と表現が習得され、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 色彩に関する知識と表現が習得することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-08	履修コード	3605Z1
科目名	材料学演習（石膏）	科目英語名	Practice of Material Processing (Plaster)
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	石膏造形室
単位	1	定員	60名
担当教員	安島 諭		
授業概要	石膏材料を使用した造形物の制作		
到達目標	石膏材料の知識と使用方法を修得し、立体造形の感覚を養う。		
授業計画	<p>A、石膏材料について概要（講義） デザインのプロセスにおける役割、材料についての基礎的知識の修得</p> <p>B、石膏材料についての基本的作業法の修得を、作品制作を通して実習する。 与えられたテーマに対し、まず油土で造形表現する。 切金を使い分割して石膏で雌型を取る。（抜け勾配に注意する） 油土を型からはずし、型を水研ぎしてからカリ石鹸を塗布し、再び型を合わせて、中に石膏を流し込む。 型を割って中から原型を取りだし、水研ぎして仕上げる。</p> <p>C、コンセプトと共にプレゼンテーションする。</p>		
予習・復習	予めアナウンスしたテーマに基づいて、造形物のスケッチを10枚A4サイズ縦の紙に描いてくる。		
教科書	特になし。		
参考書	資料を配付する。		
教材	スケッチブック・油粘土・石膏・切り金・紙ヤスリ		
履修上の注意	作業服着用。粘土ヘラ、金属スプーン（大）持参。		
成績評価（平成29年度以前入学者）			
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の加工技術、仕上げ、デザインを総合して評価する。</p> <p>[S] 石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が秀でたレベルに到達している。</p> <p>[A] 石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 石膏材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-09	履修コード	3606Z1
科目名	材料学演習（プラスチック）	科目英語名	Practice of Material Processing (Plastic)
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室・1年デザイン科演習室・工房
単位	1	定員	60名
担当教員	河崎圭吾		
授業概要	この授業のテーマは「真空成型機を使用した壁掛け時計のデザイン」です。ねらいは、時計のデザインを通してプラスチックの材料特性や成型方法を理解して頂くことです。具体的には、与えられた条件の中で、使いやすく美しい、実際に使える壁掛け時計をデザイン制作して頂きます。制作後にプレゼンテーションを行って頂き、その後、工房前の廊下にて展示を行います。なお本科目は材料学演習（プラスチック）です。		
到達目標	学生が、プラスチックの材料とその成型方法全般を理解しその応用として、真空成型機と塩ビ板1mmを使った壁掛け時計のデザイン制作を目標とします。		
授業計画	<p>1日目：映像にてプラスチック材料及び成型方法についてスライドを使って講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック材料の種類と特徴 ・プラスチック材料の製品への使用事例 ・プラスチック材料の加工方法 ・昨年の事例紹介 ・実際に真空成型機を使ってデモンストレーションを行い、真空成型機の技術的特徴を理解して頂く。 <p>2日目：アイデアチェックとデザイン決定。</p> <p>3日目：ゴールデンボードを積層して型制作。</p> <p>4日目：ゴールデンボードを積層して型制作。</p> <p>5日目：型を使って真空成型しトリミングを行い時計のムーブメントを取り付ける。色づけ等行う。（プラスチック造形室）</p> <p>6日目：プラスチック造形室の掃除。石膏造形室にて3つのテーブルに各専攻の型と作品を1セットとし出席番号順に並べる。一人ずつコンセプトと授業の感想を1分間でプレゼンテーションを行う。投票にて優秀作品を表彰する。</p>		
予習・復習	予習：身近にあるプラスチック製品の材料と成型方法を調査し、その特徴を理解する。復習：真空成型機の使い方をしっかりとメモを取り、復習しておく。		
教科書	映像で資料を紹介する。		
参考書	『プラスチックデザインノート』中村次雄 著 日刊工業新聞社 「素材とデザインの教科書」日経デザイン編 日経BP社		
教材	ゴールデンボード・塩化ビニール板1mm白色・時計ムーブメント		
履修上の注意	工房に入るときは作業服を着用すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が特に高いレベルで習得され、作品に積極的の高いレベルで取り入れられている。 [A] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [B] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C] プラスチックの真空成形に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-10	履修コード	3608Z1
科目名	形態論	科目英語名	Morphology for Design
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	隔週
専攻・年次	デザイン科1年次	曜日・時限	火曜7・8限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	60名
担当教員	浅野 隆		
授業概要	かたちに関するテーマの講義と、自らそのテーマに対して取材することによる実験、レポート 他の人の取材を客観的に見ることによって理解の幅を広げる。		
到達目標	かたちに興味を持ち、注意深く観察し分析することによって客観的に形態の理解を深める。 毎回の取材実験レポートにより理解の幅と深さを共有し、応用できる感覚を養う。		
授業計画	1 形態論概要 : 授業の進め方 2 日本のかたち : 素材、加工法、風土から生まれたかたち 3 スケール : ミクロからマクロまで Power of Ten 4 記憶のかたち 「東京タワー」 5 隠すかたち 「カモフラージュ立方体」 6 ゲシュタルト心理学 : 様々な要因から感じるかたち 7 錯視 : 従来の知覚判断と、現実の間にある矛盾の視覚経験 8 人工の形 「石の自動車」 9 自然の形 10 図形の基本要素と黄金比 「黄金比」 11 顔と表情 「人の顔に見えるものを探そう」 12 形態の基礎教育 「バウハウスの優れたかたち」 13 技術と機能のかたち 「すぐれたかたち」 14 精神的なかたち 「かたちに感じる精神的な力」 15 まとめ		
予習・復習	「 」は取材(宿題7回)を含む。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	スライド・DVD・ビデオ等		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	レポート(課題)提出7回、講義の理解度、テーマごとの課題の到達度を総合して評価する。 [A] テーマの内容を十分理解し、レポートに的確に表現されている。 [B] テーマの内容を十分理解し、レポートに表現されている。 [C] テーマの内容を理解し、レポートに表現されている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	レポート(課題)提出7回、講義の理解度、テーマごとの課題の到達度を総合して評価する。 [S] テーマの内容を十分理解し、レポートに的確に表現され到達目標を十分に達成し、特に秀でている。 [A] テーマの内容を十分理解し、レポートに的確に表現され到達目標を十分に達成している。 [B] テーマの内容を理解し、レポートに表現され到達目標を達成している。 [C] テーマの内容を十分ではないが理解し、レポートに表現されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-11	履修コード	4149Z1
科目名	デザインプロセス演習	科目英語名	Practice of Design Process and Techniques
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室・2年デザイン科演習室
単位	2	定員	60名
担当教員	○河崎圭吾・寺井剛敏・北村賢哉（非常勤）三澤直加		
授業概要	サービスデザインを学ぶ。テーマは「金沢の和菓子店における和菓子の買い方、売り方、食べ方の新しい体験」をデザイン。		
到達目標	フィールドワークから着想を得て、人と情報、空間、プロセスの関係を組み立てながら、上質な体験をデザインする基本的な方法を習得。		
授業計画	<p>1回目：価値の発見：非日常の体験である茶会に参加してその体験をカスタマージャーニーマップを作成し体験価値を抽出。日常のよく行くお店のカスタマージャーニーマップを作り体験価値の抽出を行う。出てきた体験価値からコンセプトを作る。</p> <p>2回目：和菓子屋の訪問観察により、サービス体験からアイデア検討を行い全体のサービスの流れと関係性を設計する。</p> <p>3回目：作られたサービスの検証を行う。最終的にサービスに必要なものから主要なモノ、設備、メディアのラフモデルを作成し顧客を主人公とした動画を撮影しサービスの流れと関係性をまとめる。</p>		
予習・復習	テーマに対する素材収集		
教科書	特になし。		
参考書	サービスデザインの教科書 THIS IS SERVICE DESIGN THINKING. サービスデザインの教科書		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>積極的な課題に対する取り組み方、課題提出における作品の到達度、合評数回のプレゼンテーション能力、最終的なまとめとしてのポートフォリオ提出を総合して評価する。</p> <p>[A] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。</p> <p>[C] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>積極的な課題に対する取り組み方、課題提出における作品の到達度、合評数回のプレゼンテーション能力、最終的なまとめとしてのポートフォリオ提出を総合して評価する。</p> <p>[S] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が特に高いレベルで表現されている。</p> <p>[A] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が高いレベルで表現されている。</p> <p>[B] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が十分なレベルに表現されている。</p> <p>[C] サービスデザインの基本的な知識や技術を理解し、それを活かして作品が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-12	履修コード	3614Z1
科目名	照明論	科目英語名	Theory of Lighting
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中（調整期間）
専攻・年次	デザイン科2年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	60名
担当教員	北村賢哉（非常勤）○吉川 豪		
授業概要	照明の違いにより物の見え方は大きく異なってくる。本授業科目においては、人間の視覚特性とも関連づけながら照明論の一般的且つ基礎的な内容について解説する。		
到達目標	照明の歴史と文化を学習し、照明デザインの実体を認識することで照明の新たな役割を探る。多くの参考資料を授業内で紹介することにより建築照明から都市環境照明の視点と方法論を学ぶ。		
授業計画	<p>照明論の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、概論 2、あかりと生活 3、光と色 4、目の働き 5、ランプ・照明器具 6、あかりの設定 7、暮らしのあかり 8、交通のあかり 9、街のあかり 10、楽しむあかり 11、光と生物 <p>照明の歴史と文化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 照明の文化（日本人と光の文化、紀元前から21世紀までの灯火史、東西の照明文化、戦後日本の照明文化） 2 人間の知覚と光（視覚特性と照明、色温度と演色性、光源の高さと安らぎ感、不快グレアと心地良い輝き） 3 照明の計画（照明計画の役割と照明デザイナーの職能、自然光のイメージをデザインする、照明計画のプロセス、光のシミュレーションとプレゼンテーション） 		
予習・復習	初日の授業後半に課題が課せられるので、その内容について翌日までに調査を行う。		
教科書	特になし。		
参考書	『あかりの百科』松下電器研究所（編） 『照明デザイン入門』彰国社（面出薫共著）		
教材	DVD・PC、照明課題用の回答用紙、照明器具のサンプル品		
履修上の注意	短期間の集中講義のため出席に注意する。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	成果物（照明デザイン課題）、出席状況および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [A] 照明に関する知識と表現が高いレベルで習得され、成果物に積極的に取り入れられている。 [B] 照明に関する知識と表現が習得され、成果物に積極的に取り入れられている。 [C] 照明に関する知識と表現が習得され、成果物に取り入れられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	成果物（照明デザイン課題）、出席状況および積極的な授業態度を総合的に評価する。 [S] 照明に関する知識と表現が高いレベルで習得され、成果物の内容に秀でた点が見られる。 [A] 照明に関する知識と表現が高いレベルで習得され、成果物に積極的に取り入れられている。 [B] 照明に関する知識と表現が習得され、成果物に積極的に取り入れられている。 [C] 照明に関する知識と表現が習得され、成果物に取り入れられている。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-13	履修コード	3618Z1
科目名	近代デザイン論	科目英語名	Lecture of Modern Design
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	デザイン科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	1	定員	60名
担当教員	(非常勤) 佐藤和子		
授業概要	近代デザイン史を追いながら、特に、イタリア・デザインの発生と発展に光りを当てて合理的な考えを持つ<モダンデザイン>と、反合理的な考えを持つ<ポストモダンデザイン>を比較して、20世紀のデザインの流れを把握する。この二つの大きな流れのきっかけとなった、イタリアのアヴァンギャルド・デザイン運動の背景をさぐり、その発想、展開と運動の終了がその後デザインに影響を及ぼした経過を学び、今までとはまったく異なる新しい視点を持った、逆転の発想法で、デザインを創造していくことを目指す。また、バウハウスに影響を受け、イタリア・デザインに浸透したデザイナー、柳宗理のモダンデザインとアノニマス・デザインについては、普遍的な機能美と工芸の心を、常に授業の中で学生に提示していく。		
到達目標	学生はこの授業を受けることにより、デザインを人間生活全般の広い範囲の空間で考えることができ、社会においてそれまで自分が予見できなかった、いかなる状況におかれた場合でも、自ら新しいデザイン手法を生み出し、困難を乗り越え、自分の持つ能力を発揮できるようになることが到達目標である。この<近代デザイン論>の授業では、デザイン史をたどり、デザインの実践(アイデアをどう表現してオブジェに仕上げるかの過程)と、その理論構成を平行して実施できることを今年度授業の実施目標としている。		
授業計画	<p>前期</p> <p>a) アーツ・アンド・クラフトからバウハウス、アール・ヌーヴォー、未来派運動、イタリア合理主義建築までの歩みをCD-ROMと講義で把握する。</p> <p>b) イタリアデザインの特徴(アルキテクトデザイナー、工芸とハイテクの融合など)と、各著名デザイナーの作品と背景で検討する。CD-ROMと講義。</p> <p>c) イタリアのモダン・デザイン(-1965)とポストモダン・デザインの比較。アヴァンギャルド・デザイン運動とその作品を検討しながら、その発想法を学ぶ。CD-ROMとスライド。</p> <p>d) 後期のデザイン課題について、グループ編成(2~5人位)をする。パソコンの台数などを見て人数を決める。</p> <p>提出：小レポート：モダンデザインとポストモダンデザインについて(仮題) 宿題：後期授業の課題についてのリサーチ(課題例：防災グッズ)</p> <p>後期</p> <p>a) 合理的な思考と反合理的な思考で、ひとつのデザインを比較検討する。比較するデザインは、その時点で学生に提示する。各課題についてリサーチしてきたことを報告し、皆で検討をする。A4の画用紙と鉛筆、ボールペン、色鉛筆か色彩ボールペンを使用。デザインの条件を其の時提示するので、もう一度その条件で課題のデザインを再考する。</p> <p>b) イタリアデザインの傑作を検討しながら、多目的な機能(楽しさも含めて)を加えていく。</p> <p>c) パソコンを使い、形態、色彩を加えデザインを表現する(A4・2枚迄)このデザインの使用目的などを書いた概論を書く。概論は想定内での素材指定や加工法などを入れてもよい(A4・1枚迄)。</p> <p>提出：最初のアイデア・スケッチ(a)と、最終のパソコン画とその課題のデザイン概論(c)を提出する。</p>		
予習・復習	アヴァンギャルド・デザインの授業はその時の状況で条件が異なるため、しっかり復習しておく。		
教科書	特になし。		
参考書	「うまれるかたち柳宗理」能登印刷出版 2003年 *「時を生きるイタリア・デザイン」佐藤和子著 TBSブリタニカ出版 2001年 *「メンフィス」バルバラ・ラディーチェ著 商業空間社 1984年 *「アルキミア：終わりなきイタリア・デザイン」佐藤和子編著 1985年「メンフィス」「アルキミア」は絶版のため、図書館にて閲覧のこと。		
教材	特になし。		
履修上の注意	パソコンを使用する場合は、グループを組み2人で1台を使用するものとする。もしパソコンを使用できない場合は、A4画用紙を使う事とする。(後期授業)		
成績評価(平成29年度以)	レポート・作品の提出2回、および受講態度を総合して評価する。 [A] デザイン思考を高いレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。 [B] デザイン思考を充分なレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。 [C] デザイン思考を一定のレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。		

前入学者)

成績評価 (平成30年度以降入学者)

レポート・作品の提出2回、および受講態度を総合して評価する。
[S] デザイン思考を特に高いレベルで理解し自己のデザイン活動に積極的に取り入れている。
[A] デザイン思考を高いレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。
[B] デザイン思考を十分なレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。
[C] デザイン思考を一定のレベルで自己のデザイン活動に取り入れている。

平成31年度シラバス

番号	(B5)-14	履修コード	3639Z1
科目名	家具意匠論	科目英語名	Theory of Furniture Design
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻・環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	1	定員	40名
担当教員	根来貴成		
授業概要	家具の代表名詞でもある椅子を中心とした意匠についての講義。		
到達目標	人間の日常の生活を豊かにする為に家具がある。その中でも、最も人間との関わりが大きい椅子の意匠についての理解を深める。 (形、機能、構造、素材、色、空間性など)		
授業計画	<p>1. 家具の意匠、特に椅子の意匠についての概要説明 海外の家具展示会の動向を紹介。(ミラノサローネなど)</p> <p>2. 家具の様式と意匠についての歴史的考察 2-1. ゴシック～産業革命・・・エジプト時代に始まりゴシックから産業革命時代までの西洋家具史を中心に、椅子の意匠の変遷について考察する。 2-2. 産業革命～現代・・・産業革命以降の椅子の意匠のについて、使用目的や形の特徴と機能、構法や素材の進化に伴う椅子の意匠の変遷について考察する。</p> <p>3. 人間と椅子の関係についての体感調査 世界の著名な椅子に実際に座って体感する。(本学椅子コレクション) 椅子の形、機能、構造、素材、人間工学的視点から体感チェックシートに記入しながら椅子を考察する。</p> <p>4. 有名家具デザイナーの紹介 歴史的な名作を残した有名家具デザイナーを紹介(チャールズ・レイ・イームズ、アルバーアールト他)</p> <p>5. 「私のお気に入りの名作椅子」についてのプレゼンテーション 自分が気に入っている名作椅子についてのレポートをもとに、受講生にスライドを使っの短いプレゼンテーションを行ってもらう。 (椅子の写真や図面、構法や素材などの情報、デザイナーの情報や制作由来、本人の所感など)</p>		
予習・復習	世界の著名な椅子の資料収集		
教科書	ゴシック様式からモダンデザインまでの世界の著名な椅子のスライド		
参考書	チャールズ・レイ・イームズのDVD「パワー・オブ・テンなど」 アルヴァ・アアルトのDVD「技術と自然」 ルイス・カーンのDVD「私の建築家」		
教材	世界の著名な椅子の現物(本学椅子のコレクション)		
履修上の注意	授業終了時に授業内容メモを出席票として提出、後日返却する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	積極的な授業態度、体感テストのレポート(中間)と世界の著名な椅子のレポート(学期末)の到達度を総合して評価する。 [A]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを高いレベルで理解することができた。 [B]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを理解することができた。 [C]家具意匠に関する視野を広げることができた。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	[S]家具意匠に関する視野を広げ、椅子のデザインを特に高いレベルで理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B5)-15	履修コード	3620Z1
科目名	人間工学	科目英語名	Human Engineering
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	デザイン科3年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	2	定員	60名
担当教員	安島 諭		
授業概要	人と物や空間の関係について観察し体感しながら、その具体的な在り方について探求し考察する工学のプロセスや視点などを学び、自らのデザインの思考の幅を広げる		
到達目標	それぞれの課題に内包されている人と物や空間の関係について学び、企画計画設計の場で地に足のついた発想や、簡易な実験をおこなう人間工学的デザイン力 (Ergo Design) ・人間中心設計の素養を獲得する		
授業計画	<p>講義とワークショップ型の授業を取り混ぜておこなう。6~7人で1チームをつくる。人体、空間、製品、コミュニケーションまで、人と物や空間の関係について各人が体感（物理的、心理的、生理的、文化的）したものを計測、記述し考察する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス デザインには理由がある 人間工学とは何か、どう役に立つのか 2. 人体寸法とデザイン 「ヒューマン・ディメンション」 3. 運動機能と身体負担 「ジョイント・モーション・力学」 4. 身体と空間 「椅子・机・作業域・動線」 5. 生理と心理 「空間の把握と身体機能」 6. ワークスペース 「気付きと行為」 7. まとめと中間テスト 8. デザインプロセスと発想 「デザインシンキング」 9. 事実とビジュアルライゼーション 「ハンス・ロスリング」 10. 認知とアフォーダンス 「ドナルド・A・ノーマン」 11. 人はエラーを犯す動物である 「失敗のしくみ」 12. 技術とインターフェース 13. HCD (ヒューマンセンタード・デザイン) 14. まとめと期末テスト 15. リフレクション デザインには理由がある 人間工学とは何か、どう役に立つのか 		
予習・復習	調査レポートを適宜課すが、その考察をしっかりとおこなうこと		
教科書	資料を配付する。		
参考書	Human Dimension & Interior Space / Julius Panero, Martin Zelnik, 清家清訳 失敗のしくみ 芳賀繁 日本能率協会マネジメントセンター 誰のためのデザイン D.A. ノーマン 野島久雄訳 新曜社 万人のためのデザイン-people design エレン・ラプトン 武舎広幸監訳 ビー・エヌ・エヌ新社		
教材	備品を活用する		
履修上の注意	各人、2mのメジャーを持参する テストには資料・レポートの持ち込みを許可する		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	レポート提出、テスト、受講態度を総合して評価する。 [A] テーマに対する理解と分析が高いレベルに到達している。 [B] テーマに対する理解と分析が十分なレベルに到達している。 [C] テーマに対する理解と分析が一定のレベルに到達している。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B5)-16	履修コード	3621Z1
科目名	展示計画論	科目英語名	Theory of Display Planning
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	視覚デザイン専攻・環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	40名
担当教員	○角谷 修 (非常勤) 平野隼太郎		
授業概要	展示の成り立ちを歴史よりひも解いて、その実績と可能性を知ると同時に、実際の計画を進める為の方法論を知る。		
到達目標	我国の展示変遷を知ると共に、その領域の特性を理解する。さらに実際のプランニングを体験しながら今後の空間デザインの可能性を考える。		
授業計画	<p>具体的な事例を画像や映像等で紹介しながら講義を進める。各分野の専門家(非常勤)を招聘して、幅広い見識に触れながら、実際の展示現場の調査やプランニングを体験する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、万国博覧会の歴史と展示の変遷 2、 3、 4、百貨店の成り立ちと商業空間の展示 5、博物館の成り立ちとその展示環境の特性 6、展示の分類とその役割 7、 8、グラフィックデザインと空間デザインの関係について 9、 10、 11、 12、展示計画の流れと基本的な考え方 13、 14、 15、今後の課題と展望 <p>非常勤講師の授業として平面デザイン領域から空間デザイン領域への展開を中心に解説する。このことを参考として授業への理解を深める。</p>		
予習・復習	実際の展示現場の調査を実施するため事前に個人で調べることが必要。その他、毎年開催されている専門のイベント(作品観覧とシンポジウム)への参加を促し、より理解を深める。		
教科書	授業用のスライドと最新情報を含めた取材成果スライドを活用する。		
参考書	『博覧会の政治学』吉見俊哉著/中公新書 『ディスプレイデザイン』魚成祥一郎監修/鹿島出版 『百貨店の誕生』初田亨/ちくま学芸文庫		
教材	配付プリント・PC・ビデオ		
履修上の注意	展示現場調査を期間限定にて課すので注意すること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>展示現場調査報告書および平面計画図2回の提出物等を総合して評価する。</p> <p>[A] 講義内容とその応用、考察について高いレベルで理解できている。 [B] 講義内容とその応用、考察について十分なレベルで理解できている。 [C] 講義内容とその応用、考察について理解できている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B5)-17	履修コード	362722
科目名	デザインマーケティング	科目英語名	Design Marketing
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	40名
担当教員	○工藤俊之・浅野 隆 (非常勤) 岡田佳英・日原広一		
授業概要	企業における「顧客コミュニケーション活動」の実態を体験する。		
到達目標	SP (セールスプロモーション) 実習を通して、「仕事の流れ」を体感し、仕事の現場の全体像をつかむ。		
授業計画	<p>A、SP (岡田)</p> <ol style="list-style-type: none"> 時代を読む「マーケティングの変換と顧客コミュニケーション」 <ul style="list-style-type: none"> 生活者の成長と共に変化するマーケティング動向 IT技術を活用したクロスメディアの動向 企業における顧客開発プログラム事例紹介 企画を作る「SP実習(1) 売れるメッセージ開発と仕組み作り」 <ul style="list-style-type: none"> 講義時期に、話題性のあるテーマを設定する ワークショップ形式、6チーム (1チームは6~7名) 与件の整理、調査・分析、企画立案 人へ魅せる「SP実習(2) プレゼンテーション」 <ul style="list-style-type: none"> グループ単位で、発表側と受ける側を疑似体験 講評 <p>B、『製品デザインとマーケティング』 (日原)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1日目 マーケティングとは何か? (マーケティングの構造) <ol style="list-style-type: none"> 01. マーケティングの意義=「顧客志向」 02. ターゲット・マーケティング 03. マーケティング・ミックス 04. ポジショニング <p>※ ショート・プラクティス『属性列挙法&SWOT分析』</p> <ol style="list-style-type: none"> 2日目 マーケティング・リサーチ <ol style="list-style-type: none"> 05. 市場調査とマーケティング・リサーチとの違い 06. 1次データと2次データ/定量調査と定性調査 07. 細分化と標的化 (パラメータの立て方、ターゲットの決め方) 08. SD法について <p>※ ショート・プラクティス『SD法を用いた嗜好調査』</p> <ol style="list-style-type: none"> 3日目 ポジショニング (ブランディング) <ol style="list-style-type: none"> 09. 製品と商品とブランド 10. 消費者の「心」を揺り動かす=ブランディング 11. 「心」知覚→感情→欲求→認知/「MK」市場→製品→嗜好→意匠 12. 芸術とマーケティング <p>※ ショート・プラクティス『セレンディピティの制作』</p>		
予習・復習	<p>自分の興味のある商品が、どのようにプロモーションされているかを事前に調査しておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、どこで告知されているか (ex. 店頭、街角、WEB、携帯、イベント等) 2、メッセージは自分に届いたか、それによって買おうと思ったか 3、どうすればもっと伝わったか、自分ならどうしたか 4、他の業界のアイデアをヒントにもっと効果的な方法を吟味しておく 		
教科書	世の中に出ているプロモーションツールやその仕組み (IT活用など)		
参考書	同上		
教材	同上		
履修上の注意	自分が生活者であることをしっかりと認識する。そして狙うターゲットが何を望んでいるのかを、さまざまな角度から想定するように心がける。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>作品提出およびグループワークとプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A] セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p>		

	[B] セールスポモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] セールスポモーションに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B5)-18	履修コード	362722
科目名	デザインマーケティング	科目英語名	Design Marketing
科目区分	デザイン科共通専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	1	定員	40名
担当教員	○工藤俊之・浅野 隆 (非常勤) 岡田佳英・日原広一		
授業概要	企業における「顧客コミュニケーション活動」の実態を体験する。		
到達目標	SP (セールスプロモーション) 実習を通して、「仕事の流れ」を体感し、仕事の現場の全体像をつかむ。		
授業計画	<p>A、SP (岡田)</p> <ol style="list-style-type: none"> 時代を読む「マーケティングの変換と顧客コミュニケーション」 <ul style="list-style-type: none"> 生活者の成長と共に変化するマーケティング動向 IT技術を活用したクロスメディアの動向 企業における顧客開発プログラム事例紹介 企画を作る「SP実習(1) 売れるメッセージ開発と仕組み作り」 <ul style="list-style-type: none"> 講義時期に、話題性のあるテーマを設定する ワークショップ形式、6チーム (1チームは6~7名) 与件の整理、調査・分析、企画立案 人へ魅せる「SP実習(2) プレゼンテーション」 <ul style="list-style-type: none"> グループ単位で、発表側と受ける側を疑似体験 講評 <p>B、『製品デザインとマーケティング』 (日原)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1日目 マーケティングとは何か? (マーケティングの構造) <ol style="list-style-type: none"> 01. マーケティングの意義=「顧客志向」 02. ターゲット・マーケティング 03. マーケティング・ミックス 04. ポジショニング <p>※ ショート・プラクティス『属性列挙法&SWOT分析』</p> <ol style="list-style-type: none"> 2日目 マーケティング・リサーチ <ol style="list-style-type: none"> 05. 市場調査とマーケティング・リサーチとの違い 06. 1次データと2次データ/定量調査と定性調査 07. 細分化と標的化 (パラメータの立て方、ターゲットの決め方) 08. SD法について <p>※ ショート・プラクティス『SD法を用いた嗜好調査』</p> <ol style="list-style-type: none"> 3日目 ポジショニング (ブランディング) <ol style="list-style-type: none"> 09. 製品と商品とブランド 10. 消費者の「心」を揺り動かす=ブランディング 11. 「心」知覚→感情→欲求→認知/「MK」市場→製品→嗜好→意匠 12. 芸術とマーケティング <p>※ ショート・プラクティス『セレンディピティの制作』</p>		
予習・復習	<p>自分の興味のある商品が、どのようにプロモーションされているかを事前に調査しておく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、どこで告知されているか (ex. 店頭、街角、WEB、携帯、イベント等) 2、メッセージは自分に届いたか、それによって買おうと思ったか 3、どうすればもっと伝わったか、自分ならどうしたか 4、他の業界のアイデアをヒントにもっと効果的な方法を吟味しておく 		
教科書	世の中に出ているプロモーションツールやその仕組み (IT活用など)		
参考書	同上		
教材	同上		
履修上の注意	自分が生活者であることをしっかりと認識する。そして狙うターゲットが何を望んでいるのかを、さまざまな角度から想定するように心がける。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>作品提出およびグループワークとプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A] セールスプロモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p>		

	[B] セールスポモーションに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] セールスポモーションに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B6)-01	履修コード	4150Z1
科目名	視覚デザイン演習（一）	科目英語名	Practice of Visual Design (1)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室・コンピュータ室・スタジオ
単位	6	定員	20名
担当教員	○坂野 徹・工藤俊之・寺井剛敏・鈴木康雄・下浜臨太郎（非常勤）国枝千晶・佐々木隼・岡野邦彦・神子澤知弓		
授業概要	一年を通して実習を中心としたオムニバス形式の集中講義をおこなう。各々の授業で作品制作と発表をおこなうことで、デザインの目的や機能を幅広く学ぶ。		
到達目標	各課題を通して、造形の基礎となる技術や知識、各種素材に対する理解を深め、一定期間内で作品制作する力や、総合的なデザインの基礎力を身につける。		
授業計画	<p>★詳細な予定については、各授業の開始時に告知する。</p> <p>A. スタートデザイン 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 1年生と4年生の人数ずつが同じチームとなり、三専攻合同のテーマに対して制作をおこなう。1年生は、課題発見からアイデア展開、実制作、仕上げまでの一連の流れを4年生と共同作業することで、専攻内の決まりごとを学び、デザインの面白さ、可能性を体感する。最終日に視覚デザイン専攻全学年の前で発表をおこない、最優秀チームはデザイン科全体への発表もおこなう。</p> <p>B. ダンボールアート 工藤 使用済みのダンボールを使いメッセージ性のある立体作品を制作する。一つの素材から、切る、曲げる、剥がすなどの加工作業を通じて、多くの表現方法を体験する。「アートベース石引」「かなざわエコフェスタ」などの学外での展覧会への出品を予定している。</p> <p>C. ロゴマーク・シルクスクリン 工藤、国枝 ネーミングの歴史とつけ方を学び、ロゴマークの発想法を体験し、半永久的に使用できるレベルで自分のロゴマークを創造制作する。シルクスクリン印刷の仕組みを理解し、紗張り、乳剤塗布、乾燥、製版、印刷を学ぶ。その際、自分のロゴマークをTシャツやグッズに印刷して一通りのシルクスクリン印刷技術を習得する。</p> <p>D. クロッキー 鈴木 既存の画材の枠組みを超えた素材によるドローイングを通じて、表現の可能性を探求する。受験のためのデッサンで刷り込まれた「正解」を疑い、「上手に描くこととは何か」、「魅力的な平面作品とは何か」を体験を通して実感する。最終的にいろいろな素材を駆使して、これまで経験したことのない大型作品を制作し、プレゼンテーションをおこなう。</p> <p>E. ゲーム 佐々木、坂野 世界中の多様なボードゲームを体験し、実際にオリジナルゲームを制作する。ルールブックを作成する過程で、面白さのポイントを見極め、ゲーム進行に関する不具合を発見し修正することで、思考の流れを客観視する能力を養う。</p> <p>F. マテリアル 鈴木 マテリアルに対する感受性。自ら素材感を作り出す工夫とそこから生まれる新しい質感表現を模索する。マテリアルに対するリサーチとワークショップをおこなう。それらのプロセスをレポートのかたちで提出する。</p> <p>G. 欧文書体 岡野、坂野 実演を交えながら、ラテンアルファベットの歴史を学ぶ。後半は平筆を使ったワークショップをおこなう。</p> <p>H. コンピュータ基礎 神子澤、下浜 Adobe製品を使用したワークショップをおこなうことで、コンピュータ操作の基礎技能を習得する。それぞれのワークショップごとに小作品を制作する。</p> <p>I. ビッグプリンタトライアル 工藤 1年生と4年生がペアを組み、上級生がアドバイスをおこないながら、架空の展覧会のポスターを制作する。制作したデータは大型プリンターで出力する。1年生は、一連の作業の中で、illustrator®とphotoshop®の基礎スキルを学び、制作の進行、データの作成方法と大型出力機器の使い方を習得する。</p> <p>J. オムニバス（一） 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 新入生に対し、教員5名が自身の専門領域を交えながら自己紹介をおこなう。</p> <p>K. 専攻全体のプレゼンテーション、ミーティング</p>		

	卒業制作最終審査、絵本最終プレゼンテーション、学期末のVDミーティング、以上3つの全学生を対象としたイベントについて、コメントシート、レポートを作成し、提出する。 ★Adobe Photoshop、Adobe Illustratorは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステム社）の商標です。
予習・復習	担当教員より別途指示する。
教科書	プリントを配付する。
参考書	資料を配付する。
教材	スライド・PC
履修上の注意	大幅な欠席、課題の未提出、初日の課題説明、最終日のプレゼンテーション及び中間チェックを欠席すると単位習得できない。
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価（平成30年度以降入学者）	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。

平成31年度シラバス

番号	(B6)-02	履修コード	4151Z1
科目名	視覚デザイン演習 (二)	科目英語名	Practice of Visual Design (2)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	2年視覚デザイン演習室
単位	7	定員	20名
担当教員	○下浜臨太郎・工藤俊之・寺井剛敏・鈴木康雄・坂野 徹 (非常勤) 池田洋一郎・小林慎一・大西英史・鳥海 修・作本慎介・中川暁文・とりごえまり・福井崇人・藤岡将史		
授業概要	一年を通して実習を中心としたオムニバス形式の集中講義をおこなう。各々の授業で作品制作と発表をおこなうことで、デザインの目的や機能を幅広く学ぶ。		
到達目標	各課題を通して、ビジュアルコミュニケーションに関わる専門的な技術を習得し、多様な表現を使ったデザインの構築力を身につける。		
授業計画	<p>★詳細な予定については、各授業の開始時に告知する。</p> <p>A. 絵本 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜、(とりごえ) 2年次の最後の課題として、アイデア力、企画力、構成力、描画力、制作力など2年間で学んだデザイン技術を集約した「絵本」を制作する。実質的な進級課題として、一定のボリュームとクオリティを期待する。課題の評価は専攻教員5名全員でおこなう。</p> <p>B. ソーシャルデザイン 寺井、福井 チーム単位で、設定されたクライアントから与えられる課題を解決する。テーマ、スローガン、コアアイデア、展開、提案までのプロセスを通じて、課題を見つける力、アイデア展開力を修得し、最終的にチームごとに発表をおこなう。外部講師による講義、アイデア中間チェック、プレゼンテーションアドバイス、講評がおこなわれる。</p> <p>C. 新聞広告 工藤、小林 新聞社が主催するコンペ課題に沿って新聞広告を制作し、実際にコンペに出品する。「デザイン概論」で学んだアイデア発想法を使って、新聞というメディアの特性を活かした表現を追求する。実習の中で、広告の役割や歴史、表現方法、キャッチコピーの作成手順を学ぶ。商品のwhatとhowを考え、広告コピーの書き方を学ぶ本授業は「広告演習」とリンクしながら進める。</p> <p>D. 映像テクニク 下浜、(藤岡) 動画を制作する上で必要とされる基礎技術を習得する。いろいろな映像表現(ストップモーション、手描きアニメーション、ハイスピード、タイムラップス、マルチウインドウなど)を見る。その中から数種類の手法を選び、10秒程度のショートムービーを制作する。</p> <p>E. 視覚デザイン概論 工藤、下浜 一週間ごとに、出題するテーマに沿ってアイデアを考え、出題の翌週に発表及び作品投票をおこない順位を公表する。他の学生とのアイデアの伝わり方や見え方の違いを知ること、表現の幅を広げ、多角的にアイデア生み出せる発想の基礎力を修得する。最終授業で、課題全体の総得票数を公表する。参考作品として過去の秀作を紹介する。 ★本授業は午後で開催する。</p> <p>F. 映像論 鈴木 音と映像を含むコミュニケーションメディアの歴史と現状を知り、今後の作品制作につながる基礎知識とソフトウェアの基礎を学ぶ。座学として、映像史、メディア史、アイデアの作り方を学ぶ。実技課題として、「ストップモーションの技術をアレンジした視覚実験作品」及び「『歩く』をテーマとしたショートムービー」を制作する。 ★本授業は午後で開催する。</p> <p>G. 物語 大西、坂野 プロットの構造分析、キャンベルの神話論、三幕構成、キャラクターの作り方など、物語の構造と論理的な構成を学ぶ。課題として、1本の物語を制作する。</p> <p>H. HTML & CSS 作本 HTMLとCSSの基礎知識とスタイルシート概念を学ぶ。課題として、個人ページを制作し、サーバにアップロードしてインターネット上で見ることが出来る状態にする。</p> <p>I. 写真 中川、鈴木 表現方法の一つとしての写真技術を通して、写真表現の基礎技術を習得する。実習として「自然光、人工光およびミックス光による撮影」「スタジオにおける静物撮影の基礎的なライティング」「白黒プリントの現像」「特殊技術の実践」をおこなう。最終課題として写真集を制作し、写真を使った独自の表現を追求する。</p> <p>J. サウンド 池田</p>		

	<p>映像表現におけるサウンドの役割や表現の奥行きを知り、実制作に活用できる技術を身につける。実習として、「サウンドアプリケーションの習得」「サンプリング音源を使ったデジタル編集」「ムービーを活かしたサウンド編集」をおこなう。最終課題として、テーマとなる映像に合わせたサウンドをデータ制作する。</p> <p>K. 和文書体 鳥海、(坂野) 和文書体設計の第一人者である鳥海修先生による講演とワークショップをおこなう。和文制作の技法を通じて造形の基礎を学ぶ。</p> <p>L. 専攻全体のプレゼンテーション、ミーティング 卒業制作最終審査、絵本最終プレゼンテーション、学期末のVDミーティング、以上3つの全学生を対象としたイベントについて、コメントシート、レポートを作成し、提出する。</p>
予習・復習	担当教員より別途指示する。
教科書	プリントを配付する。
参考書	資料を配付する。
教材	スタジオ、ビデオ、書画カメラ、DVD, スクリーン
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに遅刻、欠席すると単位習得できない。
成績評価 (平成29年度以前入学者)	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。</p>
成績評価 (平成30年度以降入学者)	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [S] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [A] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B6)-03	履修コード	4152Z1
科目名	コンピュータ演習	科目英語名	Computer Practice
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	24名
担当教員	坂野 徹		
授業概要	コンピュータを使ってデザインするための基本的な知識や技術を習得し、デザイン制作やDTPデータ制作の導入とする。		
到達目標	DTPの作業で主となるソフトAdobe Illustrator, Adobe Photoshop, Adobe InDesignを使って、デザインするための基本的なポイントを学ぶ。		
授業計画	<p>Adobe CSにおける統合ソフトであるInDesignの基本操作とその概念を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語組版の理解と実践 文字サイズ、行間、マージンなど基本的な知識を習得する。 日本語の文法と句読点や括弧類、約物の用法を理解する。 2. スタイルシート InDesignの根幹であるスタイルシートの内容を理解する。 3. レイアウト テキスト情報や画像のレイアウトを情報編集の観点から考える。 4. 書体 実践的に書体を使うための知識を修得する、 <p>*Adobe Photoshop, Adobe Illustrator, Adobe InDesignは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。</p>		
予習・復習	各自がレベルを考慮しておこなうこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	印刷物、PC		
履修上の注意	コンピュータ台数の24人まで。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。</p> <p>[A]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[B]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用した課題制作ができた。</p> <p>[C]組版とDTPに関する基本的な概念を理解することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。</p> <p>[S]組版とDTPに関する概念を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[A]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[B]組版とDTPに関する基本的な概念を理解し、それらを応用した課題制作ができた。</p> <p>[C]組版とDTPに関する基本的な概念を理解することができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-04	履修コード	3613Z1
科目名	印刷演習	科目英語名	Practice of Printing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	24名
担当教員	坂野 徹		
授業概要	印刷の基本的な理解とDTPを学ぶ。 コンピュータを使ってデザインする為の基本的な知識や技術を学び、実際にオフセット印刷物を制作する。 印刷所を見学する。		
到達目標	印刷の仕組みを理解し、その特徴を把握する。 CMYK、網点、線数、解像度、製版、紙、校正などを理解する。 DTP入稿に必要なデータ作成技術を習得する。		
授業計画	<p>1. 印刷の概念 オフセット印刷、CMYK、網点、線数、解像度、製版</p> <p>2. DTPの作業で主となるソフト、Adobe Illustrator*、Adobe Photoshop*を使って実際に印刷物をデザインする。</p> <p>3. 印刷会社にデジタル入稿するデータ作成も行い、実際のデザインの現場での必要な知識を修得する。</p> <p>4. 印刷見学 実際にデザインしてデータ入稿したものをオフセット印刷し、その現場を見学する。 色校正の方法を修得する。</p> <p>*Adobe Photoshop, Adobe Illustratorは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。</p>		
予習・復習	データ入稿の手順を必ず復習すること。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	PC		
履修上の注意	コンピュータ台数の24人まで。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。</p> <p>[A] 基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[B] 基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用した課題制作ができた。</p> <p>[C] 基本的な印刷の知識を理解することができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。</p> <p>[S] 基本的な印刷の知識を高いレベルで理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[A] 基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。</p> <p>[B] 基本的な印刷の知識を理解し、それらを応用した課題制作ができた。</p> <p>[C] 基本的な印刷の知識を理解することができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-05	履修コード	4153Z1
科目名	映像演習	科目英語名	Practice of Visual Image Processing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン演習2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	24名
担当教員	下浜臨太郎		
授業概要	別名「映像テクニック」。映像ってどうやってつくるの!?まだ映像を本格的にさわったことないあなたへ。この授業では様々な撮影、編集方法を学びます。スローモーション、逆再生、コマ撮り…など映像にまつわるいろいろなテクニックを紹介かつ実制作をする授業です。まずはスマートフォンを使った手軽な制作方法で、初めてでもサクサク制作!さまざまな映像のテクニックを学びます。		
到達目標	映像というメディアに慣れ親しみ、短い作品を制作する。		
授業計画	<p>演習パートと講義パートを交互に繰り返すことで、映像の制作に慣れ親しもう!</p> <p>◎スローモーション スマートフォンのスローモーション撮影機能を使って、簡単な映像をつくろう!自分で選んだ素材をスローモーション撮影して、逆再生の編集をするだけ!すると、超常現象のような不思議な映像のできあがり!</p> <p>○ミュージックビデオシャワー 毎日、授業ではいろいろな手法のミュージックビデオをシャワーのように見まくるぞ。手法別にまとめてあるので、制作者目線で鑑賞しよう!</p> <p>◎コマ撮り スマートフォンを使えば、コマ撮りも簡単!誰もいないそのときに…家の中ではどんなことが起こるだろう?身近なものを素材に、想像をふくらませて撮影してみよう!</p> <p>○CMシャワー 特別講師に、広告業界きってのエースプロデューサーをお呼びしてし、最新のCM事例を手法別に紹介。制作プロデューサーしか知らない制作の裏舞台をご紹介します。</p> <p>◎時報 この授業で最終的に制作するのは「時報」。時刻になると流れる映像だ。手法は、実写、コマ撮り、アニメーション、なんでもあり。金沢市の公共スペースにて上映されることを目標に制作します。</p>		
予習・復習	好きな(映像作品という視点で見て)ミュージックビデオをブックマークする。		
教科書	授業内で随時指示		
参考書	授業内で随時指示		
教材	スマートフォン/PC		
履修上の注意	履修可能人数はコンピュータ室のPC台数上限(24台)まで。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。</p> <p>[A]映像に関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に高いレベルで取り入れられている。</p> <p>[B]映像に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。</p> <p>[C]映像に関する知識と表現が習得されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。</p> <p>[S]映像に関する知識と表現が高いレベルで習得し、他にはない制作物に昇華することができた。</p> <p>[A]映像に関する知識と表現が高いレベルで習得し、作品に高いレベルで取り入れられている。</p> <p>[B]映像に関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。</p> <p>[C]映像に関する知識と表現が習得されている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-06	履修コード	4154Z1
科目名	視覚デザイン演習 (三)	科目英語名	Practice of Visual Design (3)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年視覚デザイン演習室
単位	14	定員	20名
担当教員	〇工藤俊之・寺井剛敏・鈴木康雄・坂野 徹・下浜臨太郎 (非常勤) 早川和良・澁谷克彦・米村浩・高村達・外山貴彦・上岡大介・熊崎信也・尾上永晃・吉川義盛・鈴木克彦		
授業概要	一年を通して実習を中心としたオムニバス形式の集中講義をおこなう。各々の授業で作品制作と発表をおこなうことで、デザインの目的や機能を幅広く学ぶ。		
到達目標	各課題を通して、社会との関わりを視野に入れた俯瞰的な判断力を養い、より実践的なデザインの応用力を身につける。		
授業計画	<p>★詳細な予定については、各授業の開始時に告知する。</p> <p>A. メディアと体験 下浜、(尾上) 本課題は、双方向性を出すことと、期限以外の規制はなく、表現手法については自由とする。3年次の軸となる課題として、一定のボリュームとクオリティを期待する。実制作に入る前に、メディアが果たす役割や効果を調査分析し、客観的な視点で検証する。</p> <p>B. 企画課題 (三) 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 これまでに修得した技術や経験を統合し、各自がテーマやメディアを自由に設定した作品を制作する。目的の設定、作業工程についても各自がセルフマネジメントする。学生をランダムな5つの班に分け、それぞれの班で、専攻教員を担当としたミーティングをおこなう。班のミーティングだけでなく、自分の制作に合った教員に、班を超えて積極的に相談することを推奨する。各教員の専門領域は以下の通り。 工藤=広告、ネーミング、ロゴマーク、グラフィック、アートディレクション 寺井=ブランディング、プロモーション、企画制作、ディレクション 鈴木=映像、写真、その他素材全般 坂野=印刷、エディトリアル、インフォグラフィックス、物語、ビジネススキーム 下浜=広告、メディアコントロール、インタフェイス、映像</p> <p>C. 映像 鈴木 企画力、調整能力、協調性、スケジュール管理能力など。グループワークによる映像作品制作を通じて、制作と編集の流れを修得する。制作の手順として、内容、手法などテーマを提案した学生を中心にグループを立ち上げる。各自が役割分担を考えながら、自発的にどこかのグループに参加する。グループごとに、ストーリー、手法、各自の役割分担などを設定し制作する。作品上映とプレゼンテーションをおこなう。</p> <p>D. インフォグラフィックス 坂野 各々が興味のあるテーマを選び、インフォグラフィックスを制作することで、情報を構造的に扱う力、情報を視覚化する力を修得する。授業を通じて、「図案を使った思考の組み立て方」、「LATCH」、「認知バイアス」、「論理的思考」、「PDCAサイクル」、「データの扱い方」、「データベース」、「アイデア展開法」、「キャプション作文」などを学ぶ。</p> <p>E. アイデンティティボックス 寺井 自分のこれまでの経験を見つめ直し、自分自身をテーマにしたオリジナル作品を制作する過程で、自己のアイデンティティと自分ならではの表現方法を探る。素材、形態は自由とする。自分の好きなモノを探し集め、その中からキーワード探る。個別にヒアリングをおこない、自分の中にある表現や素材など、今の自分に繋がるヒントを探る。</p> <p>F. データビジュアライゼーション 吉川 初心者学習用のプログラム言語を使って、データを使った表現方法を学ぶ。</p> <p>G. ポートフォリオ 坂野 就職活動に向けて、プレポートフォリオを制作する。編集の基礎、台割作成などを通じて、構成力、編集力、レイアウト力を学ぶ。</p> <p>H. ソーシャル・ストラクチャー 坂野 就職活動に向けて、企業の仕組みや経済の流れについて、時事問題を踏まえながら俯瞰的に学ぶ。エントリーシート作文の基礎、文章を魅せるための技術など、テクニカルなノウハウに絡めながら、社会に出るための知識全般について実践的な指導をおこなう。</p> <p>I. オムニバス (三) 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 常勤教員5名が、一足先に社会に出た先輩としての立場で、これから就職活動へ向かう学生たちにアドバイスをおこなう。</p>		

	<p>J. CMディレクション 早川 日本を代表するCMディレクターである早川和良先生を講師に迎え、CM制作におけるさまざまな役割やコミュニケーション方法、映像制作に対する考え方を具体例を交えながら学ぶ。最終課題として、シンプルなテーマに対して1分のショートムービーを制作する。</p> <p>K. 工藤フェス 工藤、下浜 工藤先生の現物作品や秘蔵図書、人生の転機となった作品書物などを鑑賞し、その時代背景での表現スタイルの解説をする。 制作ストーリーの秘話裏話を笑いとユーモアと涙で講義する。</p> <p>L. キャリアプランニング 寺井 4年生が就職活動等で得たノウハウを、就職活動を控えた3年生に自らの経験をふまえて伝える。各企業等のスケジュールや課題など、個別指導もおこなう。</p> <p>M. 広告コミュニケーション 米村浩 広告コミュニケーションを企画立案から、実際の表現まで、一貫した流れを修得する。ものづくりのこだわりや、広告発想、コミュニケーションが商品ブランドにつながる仕組みをプロの現場を知ることから学ぶ。社会に出るために必要な質問なども進行に合わせ対応する。</p> <p>N. 専攻全体のプレゼンテーション、ミーティング 卒業制作最終審査、絵本最終プレゼンテーション、学期末のVDミーティング、以上3つの全学生を対象としたイベントについて、コメントシート、レポートを作成し、提出する。</p>
予習・復習	担当教員より別途指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	資料を配付する。
教材	ビデオ、DVD、PC、プリント配布など
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに欠席すると単位習得できない。 ミーティングには必ず参加すること。
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B6)-07	履修コード	4155Z1
科目名	広告演習	科目英語名	Practice of Advertising and Copywriting
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	○下浜臨太郎（非常勤）尾上永晃		
授業概要	実際に実行したキャンペーン事例から、裏にある企画の意図、仕組み、メディアの構造を学ぶ。演習では、キャンペーンの作る上でのアイデアの出し方について講義中の時間をつかって企画をする。		
到達目標	デザインを単なる表現としてとらえるところから、メディア、文脈、機能、といった事柄を含む立体的な計画を立てる。体験をデザインする。世の中にあるメディアをうまく使い、文脈をつくり、体験をさせるといった一連の流れを設計できる力をつける。		
授業計画	<p>視覚デザイン演習(三)の「メディアと体験」の授業と連動させる。</p> <p>課題) 世の中の事例の中で、メディアをうまく使ったキャンペーンやコミュニケーション戦略の事例を探し、自分の興味のあるものを選び、その事例のメディア設計の簡単な図解をする。企画者の意図、商品やサービスとの関連性などを深く考えることにより、自分が企画立案する際の手がかりをつくる。</p> <p>講評) 自分の選んだ事例から、どういったことを発見できたか? 企画者の意図、事例の本質的なアイデアに近づけたかどうかを見て、その深さを評価する。自分の調査した事例をまとめたものを初めてその事例を見る人にもわかりやすく、プレゼンテーションする。</p> <p>講義) キャンペーン、プロモーションなどのコミュニケーションの最新事例と、実際の現場での仕事の設計のしかたを学ぶ。講師が実勢に手掛けた仕事の事例をもとに、最新のメディア環境、現在の時代の流れを考察する。実際に使われた企画書などを見ることで、企画立案の方法論を学ぶ。授業内で企画する簡単な演習も。</p>		
予習・復習	実際に実行したキャンペーン事例を1つ選び、分析しておく。結果は授業内で発表する。		
教科書	とくにな		
参考書	とくになし		
教材	筆記用具		
履修上の注意	とくになし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A] メディアに関する視野を広げ、高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B] メディアに関する視野を広げ、理解することができた。</p> <p>[C] メディアに関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-08	履修コード	4156Z1
科目名	画像処理演習	科目英語名	Practice of Digital Image Processing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	20名
担当教員	○鈴木康雄（非常勤）高村 達		
授業概要	デジタルをベースにした写真技術、画像編集技術に関して、演習を通して学習する。		
到達目標	アナログ技術を基本にデジタル写真との違いや特性を知り、ソフトを活用した高度な画像処理のノウハウを学ぶ。 高画質の画像データをコントロールし、思い通りのプリント仕上げる。 高画質の画像データとレイアウトを駆使し、作品制作とポートフォリオ制作に活かす。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、スタジオワークを中心に、撮影に必要な知識と技術の実践を学ぶ。 商品、静物、人物撮影等のライティングやデジタルカメラの設定を学ぶ。 2、RAWデータを基本として高水準のデジタルデータを作成する。 RAWデータの扱いやカラーキャリブレーションの基礎を学ぶ。 3、高品質のデジタルカメラを使用し、撮影から撮影後の画像処理を実習する。 中型デジタルカメラの扱いと撮影後の処理を学ぶ。 4、古典技法（プラチナプリント）などを体験し、写真表現に対する総合的な理解を深める。 		
予習・復習	予習：高品質のデジタル画像に対するリサーチ及び作品ファイルの参考例をリサーチしておく。 復習：完成したファイルに作品を追加し、更なるレベルアップをはかる。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	市場におけるパンフレットやカタログ等。その他必要に応じて配付する。		
教材	高画質のデジタルカメラ、PC、スキャナ、ビデオ、DVD、プリント配布など		
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに欠席すると単位習得できない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	作品提出およびプレゼンテーションをとおして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]課題提出がなされた上で、実習の内容を十分に理解し、それらが高いレベルで作品に取り入れられている。 [B]課題提出がなされた上で、実習の内容を十分に理解し、作品に取り入れられている。 [C]課題提出がなされた上で、実習の内容が理解できてる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-09	履修コード	3841Z1
科目名	パッケージ演習	科目英語名	Practice of Package Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	視覚デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年視覚デザイン演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○寺井剛敏、畝野祐司（非常勤）鈴木克彦		
授業概要	<p>レクチャーと制作を通して実社会におけるパッケージデザインの流れやノウハウを理解するとともに、オリジナリティある作品を提案する。クライアントを設定して現状をリサーチした上で、問題解決となるデザイン提案を目指す。</p>		
到達目標	<p>問題解決を具体化するとともに、マーケットの動向やリサーチ結果に根ざした提案を試みる。 同時にオリジナリティを重視した作品を制作する。</p>		
授業計画	<p>パッケージデザイン開発の実習フロー</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、パッケージデザインにおける現状を事例をもとに解説する。 パッケージデザインに求められる機能を理解する。 マーケットにおける役割と成功例を知り、またリサーチを通して独自の視点を見つける。 2、与件の整理手法（ブランド・ポジショニング）を決定する。 3、具体的な開発フローを提案する。 4、デザイン上の留意点について論ずる。 5、個々にパッケージデザインの制作を行う。 設定テーマのアイデア・開発 決定アイデアのビジュアル化、プロダクトダミー制作 最終モデルの制作と、プレゼンテーションに必要なツールを制作 6、作品のコンセプトをボードにまとめる 外部講師からの講義、アドバイスを予定 7、作品をプレゼンテーションする。 <p>その他、 必要に応じて、工場見学等をおこなう。</p>		
予習・復習	<p>予習：市場に関する事前調査を行う。 復習：課題終了後に再度市場調査して、事前との違いを実感し、踏み込んだ視点を見いだす。</p>		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>作品提出およびプレゼンテーションをととして、課題の到達度を総合的に評価する。 [A]パッケージに関する知識と表現が高いレベルで習得され、作品に積極的かつ効果的に取り入れられている。 [B]パッケージに関する知識と表現が習得され、作品に積極的に取り入れられている。 [C]パッケージに関する知識と表現が習得され、作品に取り入れられている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-10	履修コード	4157Z1
科目名	視覚デザイン演習 (四)	科目英語名	Practice of Visual Design (4)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年視覚デザイン演習室
単位	9	定員	20名
担当教員	○寺井剛敏・工藤俊之・鈴木康雄・坂野 徹・下浜臨太郎 (非常勤) 未定		
授業概要	数人の班に分かれ、専攻教員を担当としたミーティングを重ね、各自が作品制作を進める。制作や発表を通じて、卒業制作につながるテーマを探求する。		
到達目標	これまでに修得した技術や経験を統合し、自身のアイデンティティや独自の表現を取り入れた作品を制作する。		
授業計画	<p>A. スタートデザイン 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 1年生は、課題発見からアイデア展開、実制作、仕上げまでの一連の流れを4年生と共同作業することで、専攻内の決まりごとを学び、デザインの面白さ、可能性を体感する。4年生は、1年生への指導を通じて、俯瞰的なものの見方、コーチング能力やマネジメント能力を身につける。最終日に視覚デザイン専攻全学年の前で発表をおこない、最優秀チームはデザイン科全体への発表もおこなう。</p> <p>B. 企画課題 (四) A 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 これまでに修得した技術や経験を統合し、各自がテーマやメディアを自由に設定した作品を制作する。目的の設定、作業工程についても各自がセルフマネジメントする。学生をランダムな5つの班に分け、それぞれの班で、専攻教員を担当としたミーティングをおこなう。班のミーティングだけでなく、自分の制作に合った教員に、班を超えて積極的に相談することを推奨する。各教員の専門領域は以下の通り。 工藤=広告、ネーミング、ロゴマーク、グラフィック 寺井=ブランディング、プロモーション、企画制作、ディレクション 鈴木=映像、写真、その他素材全般 坂野=印刷、エディトリアル、インフォグラフィックス、物語、ビジネススキーム 下浜=広告、メディアコントロール、インタフェイス、映像</p> <p>C. 企画課題 (四) B 工藤、寺井、鈴木、坂野、下浜 ★「企画課題 (四) A」に同じ。</p> <p>D. ビッグプリンタトライアル 工藤 1年生と4年生がペアを組み、上級生がアドバイスをおこないながら、架空の展示会のポスターを制作する。制作したデータは大型プリンターで出力する。1年生は、一連の作業の中で、illustrator®とphotoshop®の基礎スキルを学び、制作の進行、データの作成方法と出力機器の使い方を習得する。</p> <p>E. キャリアプランニング 寺井 4年生が就職活動等で得たノウハウを、就職活動を控えた3年生に自らの経験をふまえて伝える。各企業等のスケジュールや課題など、個別指導も行う。</p> <p>★Adobe Photoshop、Adobe Illustratorは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステム社) の商標です。</p>		
予習・復習	チームミーティングに必要な資料を準備しておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	ビデオ・DVD・PC等		
履修上の注意	課題説明や中間発表、プレゼンテーションに遅刻、欠席すると単位習得できない。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	作品提出、課題の到達度、プレゼンテーション、積極的な授業態度などを総合的に評価する。 [A] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用し、表現として課題制作に昇華ができた。 [B] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解し、それらを応用した課題制作ができた。 [C] 視覚デザインに関する基本的な知識と技術を理解することができた。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-11	履修コード	4158Z1
科目名	卒業制作	科目英語名	Graduation Work
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	視覚デザイン専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年視覚デザイン演習室
単位	10	定員	20名
担当教員	○寺井剛敏・工藤俊之・鈴木康雄・坂野 徹・下浜臨太郎		
授業概要	数人の班に分かれ、専攻教員を担当としたミーティングを重ね、各自が卒業制作を進める。また、班を超えて積極的に各教員に相談することで、自身のコンセプトに横断的な理解を深めていく。		
到達目標	学びの集大成として、各自が自由にテーマを設定し、卒業制作をおこなう。		
授業計画	<p>学びの集大成として、各自が自由にテーマを設定し、卒業制作をおこなう。5つの班に分かれて、週一回程度、専攻教員を担当としたミーティングをおこない段階的に制作を進める。班を超えて多くの教員に積極的に相談することを推奨する。各教員の専門領域は以下の通り。</p> <p>工藤＝広告、ネーミング、ロゴマーク、グラフィック 寺井＝ブランディング、プロモーション、企画制作、ディレクション 鈴木＝映像、写真、その他素材全般 坂野＝印刷、エディトリアル、インフォグラフィックス、物語、ビジネススキーム 下浜＝広告、メディアコントロール、インタフェイス、映像</p>		
予習・復習	チームミーティングに必要な資料を準備しておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	ビデオ・DVD・PC等		
履修上の注意	1次審査、2次審査、最終ラインナップ、最終審査に欠席すると単位習得できない。 チームミーティングには必ず参加すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>作品提出およびプレゼンテーションをとおして、積極的な制作姿勢を総合的に評価する。</p> <p>[A] 視覚デザインとコミュニケーションに関する知識を理解し、それらを活用し、表現として作品制作に昇華ができた。</p> <p>[B] 視覚デザインとコミュニケーションに関する知識を理解し、それらを活用し作品制作ができた。</p> <p>[C] 視覚デザインとコミュニケーションに関する知識を理解し、作品制作ができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-12	履修コード	415921
科目名	製品デザイン演習（一）	科目英語名	Practice of Industrial Design (1)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	5	定員	20名
担当教員	○村中 稔・浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・根来貴成		
授業概要	デザインの役割や目的を幅広く学ぶとともに、与えられたテーマやプロセスから製品デザインの基本的な要素を修得する。		
到達目標	製品デザインの基礎的表現力、モデル制作、コンピュータスキル等を身につけ、自身の発想や考え方を美しく魅力的な造形に落とし込み、第三者が共感する製品としてプレゼンテーションできる。		
授業計画	<p>A、スタートデザイン 前期最初（村中・浅野・河崎・安島・根来） 4年生との合同によるグループ制作。自然や社会性のあるテーマをうけて、短期間にデザイン展開し作品を完成させて全学年の前でプレゼンテーションを行う。グループは4年生、1年生半々の数名で構成する。4年生のリードのもとに、共同のテーマを軸にデザイン効果を考えて構想する。学年を超えた交流を図ると共に、この授業はデザインの一般的包括的な基礎的内容をすべて含んでおり、デザインの目的や考え方の概要を理解させると共に創造的で感動的な、生活や社会を豊かにする目的の製品をデザイン提案することを学ぶ。</p> <p>B、マーカースケッチ 後期（河崎、浅野、根来） 1、スケッチの種類と現場での使われ方をスライドにより紹介。 2、パースの基本（2消点基本図法、簡略図法、円、球体、分割、増殖、角R、明暗・陰影、立方体デッサン） 3、ハイライトレンダリング（電話器） 4、マーカー・パステルスケッチの基礎（時計、家電製品、カメラ、車） 5、ラフスケッチ（カメラ）スケッチフォーマット、構図、大きさ、パース、配色、光と影、線の種類、マーカーの塗り方、背景、引き出し線、文字、リフレクション、素材表現、魅力あるグラフィック表現の解説。 6、パソコンによる3面レンダリング</p> <p>C、「基礎造形」後期（村中） 手と眼ともとの関係をデジタルカメラのデザインから学ぶ。握りやすい形や操作しやすい形を追求することで機能と造形に対する感性を磨く。 1、アイテムと関連商品調査 2、構成部品の配列図 3、ペーパーモデル 4、アイデア展開：アイデアスケッチ、レンダリング 5、ラフモデル制作 6、モデル制作 7、パネル制作 8、プレゼンテーション</p> <p>D、レイアウトプレゼンテーション 前期・後期（村中） 製品デザイン演習で制作したスタディモデルの写真やコンセプト、英語のキーワードなどをコンピュータ上でレイアウトし、プリントアウトしたものを提示しながらプレゼンテーションする。文章構築力やレイアウト、コンピュータスキル、発表方法などの習得を図る。</p>		
予習・復習	レイアウトの授業で使用する写真資料は予め撮影しておく。（村中）		
教科書	図書館資料		
参考書	アイデア・ドローイング 中村純生・千徳英一 共立出版 新マーカーテクニック—かたちの発想から表現へ 清水吉治 グラフィック社 自動車とプロダクトデザインの基本と応用 平野幸夫 三樹書房		
教材	PC・ビデオ		
履修上の注意			
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が高いレベルに到達している。 [B] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が十分なレベルに到達している。		

	[C] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が一定のレベルに到達している。
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。</p> <p>[S] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が特に高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 製品デザインについての基本的な知識や技術レベルが修得され、材料に関する知識と加工技術、デザインの表現力が一定のレベルに到達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B6)-13	履修コード	4160Z1
科目名	材料学演習（塗料）	科目英語名	Practice of Material Processing (Paint)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	塗装室
単位	1	定員	20名
担当教員	根来貴成		
授業概要	塗装は防腐、防錆、美化などの役割を果たし、仕上げには必要不可欠である。本演習では、そこで使用する塗料の特性や用途に応じて様々な機能性を持った塗料などを解説する。また、実際に異なる素材の塗装を行い、塗装工程と塗装技術を習得する。		
到達目標	塗料の特性を理解し、実際に異なる素材の塗装を行い、塗装工程と塗装技術を習得する。		
授業計画	<p>1. 安全教育 <作業環境の使用ルールの説明> ・ 挨拶、使用許可、作業姿勢、整理整頓、危険予知、作業着や髪型など ・ 塗装ブース、塗装用ガン、塗料の調合方法など</p> <p>2. 塗料の講義 <塗料と塗装についての説明> a. 塗料の概論 ・ 塗料の歴史 ・ 塗料の消費 ・ 塗料の種類と機能</p> <p>b. 塗料の組成 ・ 顔料の解説 ・ 樹脂の解説 ・ 添加剤の解説</p> <p>c. 塗装の概論 ・ 素材の種類と素地調整 ・ 塗装方法と設備、乾燥方法 ・ 産業と塗装（工業製品と構造物）</p> <p>3. 塗装の実習 <異なる素材の塗装工程と塗装技術の指導> 木材、金属、プラスチック、石膏等の手板の塗装材に応じた塗装工程と塗装技術を習得する。 （下地調整、目止め、サーフェイサー、下塗り、上塗りなど。それぞれの行程の間には乾燥や研磨作業が入る。）</p>		
予習・復習	実習は乾燥時間に配慮して行程を進めるため、遅れはその日内で完了させておくこと。		
教科書	『ペイントビジュアルVol.1・2 塗料概論編』 日本ペイント（株）		
参考書	素材別の塗装工程プリント		
教材	塗装用具一式		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学物質アレルギーの者は事前に申告すること。 ・ 安全性に配慮した服装の着用義務（作業服等）。防塵・防毒マスク着用（まとめて注文）。 		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 塗料に関する視野を広げ、塗装技術と仕上げについて高いレベルで理解することができた。 [B] 塗料に関する視野を広げ、塗装技術と仕上げについて理解することができた。 [C] 塗料に関する視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の技術、仕上げを総合して評価する。 [S] 塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達し、特に秀でている。 [A] 塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達している。 [B] 塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が一定のレベルに到達している。 [C] 塗料についての基本的な知識や塗装技術が習得され、その特性を活かした技能が十分ではないが到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-14	履修コード	3633Z1
科目名	材料学演習（木材）	科目英語名	Practice of Material Processing (Wood)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	木工加工室
単位	1	定員	20名
担当教員	根来貴成		
授業概要	木材製品を設計加工するには、木材の特性と加工方法について知る必要がある。本演習では、そこで必要な基礎知識と加工技術を身につける。		
到達目標	木工道具の仕立てからその道具を使う作業工程を通して、木の特性や加工技術を習得する。		
授業計画	<p>1. 安全教育 <作業環境の使用ルールの説明> 挨拶、使用許可、作業姿勢、整理整頓、危険予知、作業着や髪型など。</p> <p>2. 木工道具の基礎知識 <道具の仕立ての説明> ・鑿（ノミ）のメンテナンスと使い方の指導。 ・鉋（カンナ）のメンテナンスと使い方の指導。 ・鋸（ノコギリ）のメンテナンスと使い方の指導。</p> <p>3. 木材の加工 <道具の使い方の説明> 指示図面に従い、木片を各自がメンテナンスした道具を使って実際に加工し提出。</p> <p>4. 木工機械の基礎知識 <木工機械の種類と操作方法、安全管理の説明> ・パネルソー、ボール盤、ベルトサンダーなどの説明。 ・挨拶、使用許可、作業姿勢、整理整頓、危険予知、作業着や髪型など。 ※回転する機械では、巻き込み事故の危険性があるので軍手の使用は禁止。</p>		
予習・復習	実習は木工道具の仕立てからその道具を使う作業工程に進むため、遅れはその日以内に完了させておくこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	Understanding Wood / A Fine Woodworking Book 木工材料／雇用促進事業団職業訓練部会		
教材	入学時に木工道具一式を購入する。（一式 約¥28,000） 木材加工機械室の加工機械一式。		
履修上の注意	安全性に配慮した服装着用義務。（作業服等）		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 木材に関する視野を広げ、道具と加工技術を高いレベルで理解することができた。 [B] 木材に関する視野を広げ、道具と加工技術を理解することができた。 [C] 木材に関する視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の技術、仕上げを総合して評価する。 [S] 木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達し、特に秀でている。 [A] 木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が高いレベルに到達している。 [B] 木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が一定のレベルに到達している。 [C] 木材加工についての基本的な知識や技術が習得され、その特性を活かした技能が十分ではないが到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-15	履修コード	3634Z1
科目名	材料学演習（金属）	科目英語名	Practice of Material Processing (Metal)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	金属加工室
単位	1	定員	20名
担当教員	浅野 隆		
授業概要	金属材料の知識と加工技術によるモデル制作		
到達目標	金属材料の知識と加工法を修得し、実際の金属材料を用いて正確なモデルを安全に制作するために必要な工具、工作機械などの使い方を修得する。		
授業計画	<p>1日目・2日目 (講義) 金属材料についての基礎的知識の習得 (実習) けがき針の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・φ6のドリルロッドの先端をヤスリで削り出す。 ・持ち手の部分にデザインを施し、手作業工具で加工する。 ・紙ヤスリで表面を磨き、最終的には研磨剤で仕上げる。 ・先端を焼き入れ熱処理し、使える道具とする。 <p>3日目・4日目 (講義) 機械、工具の安全な使用方法（ノギス、ヤスリ、ボール盤、コンタマシン等） (実習) タップダイスの締結法によるペーパーウエイトの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた材料にボール盤を使用して穴を開け、ハンドタップを使ってネジを切る。 ・持ち手となるφ6の金属棒にダイスを使ってネジを切る。 ・本体を手工具を使って切断切削、研磨して美しい造形を作る。 <p>5日目・6日目 (実習) フックエンドの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた材料の大きさからデザインする。 ・ペーパーモデルを作成する。 ・1ミリ厚の鉄板材料を使用し、コンタマシン、糸のこ等で切断し、手工具で仕上げる。 ・さび止めプライマーを塗装して仕上げる。 ・作品とデザインコンセプトをプレゼンテーションする。 		
予習・復習	機械の安全な使い方は各自メモをとって理解しておぼえること。実習課題はその日の内に与えられた行程まで進めておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	入学時に金工道具一式を購入する。		
履修上の注意	作業服着用		
成績評価（平成29年度以前入学者）	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の加工技術、仕上げ、デザインを総合して評価する。 [A] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達している。 [B] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が十分なレベルに到達している。 [C] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	講義の理解度、積極的な実習の取り組み姿勢と提出物の加工技術、仕上げ、デザインを総合して評価する。 [S] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達し、特に秀でている。 [A] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が高いレベルに到達している。 [B] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が一定のレベルに到達している。 [C] 金属材料についての基本的な知識や加工技術が習得され、その特性を活かしたデザイン表現が十分ではないが到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-16	履修コード	4161Z1
科目名	写真演習	科目英語名	Practice of Photograph
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	スタジオ
単位	1	定員	20名
担当教員	○村中 稔 (非常勤) 品野與四寛		
授業概要	写真撮影をとおしてデジタルカメラやライティング、デジタルデータなどの基本を学ぶ。		
到達目標	スタジオ撮影でのライティングや構図とデジタルデータを取扱うことができる。		
授業計画	<p>1回目 写真撮影の基礎知識としての道具の種類や使用方法、デジタルカメラの基本操作を学ぶ。 1、プロカメラマンが作品紹介と解説をする。 2、スタジオでの撮影：用意した被写体に対して構図や照明効果を考慮して撮影する。 3、コンピュータ室で写真の光量や色調などを調整する。</p> <p>2回目 自分で表現したいイメージに合った構図やライティングを学ぶ。素材や色彩、造形との関連も意識させる。 1、学生のモデルと撮影計画を確認し、撮影方法を指導する。 2、スタジオ撮影：それぞれの学生がセットを組む。他の学生は補助をする。 3、コンピュータ室で写真の光量や色調などを調整する。</p> <p>留意点 ・撮影用のセットやライティングは複数の学生が協力して行う。 ・演習で組み上げたセットを個人のカメラで撮影しまとめておく。</p>		
予習・復習	被写体を定めて撮影した写真を提出する。 個々の撮影に必要な素材を準備しておく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	講師が撮影した空間やプロダクトのポートレイト。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが特に高いレベルに到達している。 [A] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが充分なレベルに到達している。 [C] 写真撮影に対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-17	履修コード	4162Z1
科目名	製品デザイン演習 (二)	科目英語名	Practice of Industrial Design (2)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	2年製品デザイン演習室・工房
単位	10	定員	20名
担当教員	○河崎圭吾・村中 稔・浅野 隆・安島 諭・根来貴成 (非常勤) 小倉ひろみ		
授業概要	製品デザインを、機能、構造、素材(加工法)、ジョイント(接合法)、コンセプト、行為・動作の要素に分けて、それぞれの視点からテーマにアプローチする。		
到達目標	基礎デザインと実際のデザインの橋渡しとして、製品デザインプロセスをマスターする。各課題を通して、製品デザインの基礎的知識や社会背景を理解するとともに、モデル制作技術やコンピュータスキル、プレゼンテーション能力などを身につける。		
授業計画	<p>A、「機能」前期(村中) テーマとなるアイテムの企画をとおして、ソフト面の機能であるインターフェイス(GUI)を学ぶ。 1、アイテムや使用環境調査 2、企画案検討: GUIコンセプトシート(ユーザー、ニーズ、機能、イメージテスト9 3、タスクフロー検討: フローチャート作成 4、画面フロー及びワイヤーフレーム検討 5、ペーパープロトタイプ作成 6、GUI完成 7、プレゼンテーション</p> <p>B、「コンセプトとカタチ」前期(河崎) 「コンセプトとカタチ」の関係を「日用品」のデザインで学ぶ。言葉をカタチにする力/カタチを言葉にする力を磨く。 1、「コンセプトとカタチ」の事例紹介(宿題: テーマの日用品について調べてくる) 2、日用品の使用実態調査を行う。その場でブレインストーミングを行いアイデアを共有する。 3、アイデア展開(アイデアスケッチ作成/ラピッドプロトタイプ作成) 4、コンセプト立案(5W1Hによる予測シナリオ作成/キーワード作成) 5、キーワードによるラフモデル作成/ラフモデルによるキーワードのブラッシュアップ/コンセプト決定 6、最終モデル図面作成/モデル作成 7、プレゼンテーションパネル作成(イメージカットとコンセプト/使い方説明/アイデアスケッチのまめ) 8、プレゼンテーション。A3縦の1枚のビジュアル(文字無し)と作品を使って1分間でコンセプトとカタチの関係を説明する。 9、作品展示</p> <p>C、「UCD」後期(安島) 人が置かれた状況や使う道具によって人々の行為や動作が変わる。フィジカルな体験とプロトタイプングを通してユーザー・センタード・デザインのプロセスを身につける。 1、ユーザー・センタード・デザインについて 2、グループに分かれ、シミュレーターを用いた疑似体験を行う 3、疑似体験から得られた情報と、観察から得られた情報をまとめ、プレゼンテーションを行う 4、テーマに基づき、行動観察、ディスカッション、ブレインストーミングを行う 5、アイデア展開、プレゼンテーション 6、簡易モデルを制作し、自らの実証検証により改良を施す 7、グループによる検証とディスカッション 8、最終モデル制作とプレゼンテーションパネル、報告書の作成 9、プレゼンテーションと作品展示</p> <p>D、「素材と構造と接合法」後期(根来) 「日常生活を豊かにする卓上照明器具」をテーマに、素材の扱いとそれらを構成する構造と接合方法を考察する。 1、接合法の調査(身の回りにある工業製品を観察・分解し、様々な接合法(ファスナー)を100発見し、テクニカルイラストレーションに書き起こす。) 2、卓上ライトの調査(国内、海外メーカー調査、製品事例の紹介。) 3、アイデア展開/コンセプト立案(アイデアスケッチ作成、5W1Hによる製品イメージの展開。) 4、ラフモデル作成(素材の選定、接合方法を考慮した構造を考察しデザインをまとめる。) 5、最終モデル図面作成/最終モデル作成 6、プレゼンテーション(A3縦のパネル2枚と作品を使って合評形式で行う。) 7、作品展示 8、プレゼンテーションパネルを整理して提出(作品説明パネル、スケッチやラフモデルなどのプロセス、ファスナー100のイラスト。)</p>		

	<p>E. プロダクトカラーリング（小倉） プロダクトにおける配色の基礎知識と素材や製造を意識した応用を、サンプルを用いて解説する。</p> <p>F. 卒業制作インターンシップ（根来） 4年生の卒業制作の現場に入り、モデル制作を手伝うことによって、材料の加工技術や手法、デザインの考え方などを学ぶ。体験を通して自分がその立場になった時のことをイメージする。</p> <p>G. 研修旅行 主に実際の製品デザイン事例を見学する。デザインの歴史、制作現場、ショールーム、工場などモノづくり全般についての理解を深める。</p>
予習・復習	それぞれの授業に於いて十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	特になし。
参考書	それぞれの授業に於いて指示する。
教材	必要に応じて、その都度指示する。 コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。
履修上の注意	特に無し。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。</p> <p>[A]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が高いレベルに到達している。</p> <p>[B]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が十分なレベルに到達している。</p> <p>[C]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が一定のレベルに到達している。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>個々の課題の到達度、および積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。</p> <p>[S]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が高いレベルで修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が特に高いレベルに到達している。</p> <p>[A]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が高いレベルに到達している。</p> <p>[B]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が十分なレベルに到達している。</p> <p>[C]モノの本質を捉える洞察力を持ち、問題発見力、問題解決力、アイデアの展開力が修得され、素材の特性を理解し加工技術およびデジタルツールを駆使してデザインの表現力が一定のレベルに到達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B6)-18	履修コード	4163Z1
科目名	コンピュータ演習 I	科目英語名	Computer Practice I
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	20名
担当教員	○村中 稔 (非常勤) 上町達也・高橋英行		
授業概要	製品デザインに活用するための編集や3DCG、アニメーションなどを学ぶ。		
到達目標	製品デザインの造形や色彩、素材などを検討することや、プレゼンテーションに利用できる道具として使いこなせるようになる。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1、3DCGソフトウェアのインターフェイスについて 基本図形制作：コップ、棚、ポット 2、自由曲面について 数値入力によるイスのモデリング 3、簡易的な色彩検討 背景、光源、カメラの設定 4、ブーリアンモデリング 自由曲面でのモデリング 5、撮影フースの作成 ジョイント：回転、直線、ボール イラストのトレース 6、イラストのインポート パートでの仕分け 7、文字入力 8、モデリング 光源について：無限遠光源、スポットライト カメラワーク：メタカメラ、クリエイティブカメラ 9、レンダリング 表面材質：テクスチャマッピング、バンプマッピング レイトレーシング、パストレーシング 10、写真加工ソフトとの併用 		
予習・復習	授業における講師の説明のメモを取り、操作手順を正しく理解し、十分に復習しておく。		
教科書	講師が制作したサンプル集及びフォーマットを使用する。		
参考書	図書館や講師が所有するものを適宜指示する。		
教材	コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A] テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B] テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。 [C] テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S] テーマに対する理解と分析、技術などが特に高いレベルに到達している。 [A] テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B] テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。 [C] テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-19	履修コード	4164Z1
科目名	インターフェイスデザイン	科目英語名	Interface Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（7日間）
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室・研修室（最終日のみ）
単位	1	定員	20名
担当教員	安島 諭		
授業概要	現代の生活のインフラとなっているIoTの基礎技術であるセンサーやアクチュエーターの特性を理解し、人間の行為やニーズを読み解きながら、その使用方法や可能性を見出し、デザインの成果物として制作する。		
到達目標	人間の行為に対し、デバイスの特性を理解し組み合わせを考慮することで、デザインに対するより幅広い展開力や応用力を修得する。効果と結果を確かめるラピッドプロトタイピングの過程を経験・理解する。		
授業計画	<p>テーマとなるデザイン要素を表現するため照明やセンサー、電池、画面、ボタンなど様々なデバイスを組み合わせてアイテムを制作する。テーマによってはグループで取り組む場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、デバイスの基本とプログラミング デバイスの基本的な知識とプログラミングを体験する。 2、デザインパターンカードによるワークショップとアイデア展開 デザインパターンの組み合わせから革新的な行為とリアクションの関係を発見・構築する。 3、プロトタイピング・ストーリーウィービング 簡単な動作モデルを制作し使用実験を行い機能性を検証し改良するプロセスを繰り返し、魅力的なストーリーを導く。 4、アイテム制作 造形や色彩などの要素を取り入れて最終モデルを制作する。 5、プレゼンテーション 説明用データをまとめてコンピュータによるプレゼンテーションを行う。 6、報告書パネルまとめ・ビデオによる展示を行う。 		
予習・復習	各回の課題の復習を行う。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	Prototyping Lab 小林茂著 オライリー・ジャパン 及び、インターネット上のリソースを活用する。		
教材	MESHもしくはArduinoを使用		
履修上の注意	デバイスやプログラミングに関する様々な情報をネット上から自ら見つけ出し、制作物に応用するプロセスが必須となる。自ら情報を集め、自ら学ぶ姿勢を身につけること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業参加、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A] テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B] テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。 [C] テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業参加、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [S] テーマに対する理解と分析、技術などが秀でたレベルに到達している。 [A] テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。 [B] テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。 [C] テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-20	履修コード	3638Z1
科目名	機械製図法	科目英語名	Theory of Drafting
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻2年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	必修	教室	第4教室
単位	1	定員	20名
担当教員	河崎圭吾		
授業概要	図法・製図の基礎的な理解を、実習を通して行う。 JISに基づく製図規格の知識や技術を修得する。		
到達目標	自分の発想、構想（デザイン）を第三者に的確に伝えることの出来る製品デザイナーを目指し、その手段として機械製図を理解修得し、作図能力を高める。また、表示された製図から具体的な形や仕組みを読み取る読図の能力も合わせて身につける。		
授業計画	<p>1日目：プロダクトデザイナーにとっての製図の必要性、図面の種類を実例をスライドで説明。 宿題：25cm×25cm×30cmの直方体をプラスチックシートで作成してくる。</p> <p>2日目：一人の頭に透明直方体を被せて6方向から平行線で正確に顔や頭を描写。展開すると図面の基本となる三角法による6面図が出来上がる</p> <p>3日目：図面の本質を理解させる為、二人一組で設計者と業者に分かれて担当し、家の設計をシミュレーションする。①土地と家とオブジェの配置を決めて文章で記載。②①にイラストを加えて簡潔に表現。如何に図面的に正確で正確に情報を第三者に伝えるツールであるか理解する。</p> <p>4日目：上記の土地と家とオブジェを、ラフスケッチで3面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。表題欄、線種、文字の説明を行う。</p> <p>5日目：表題欄、線種、文字、断面図、寸法記入の説明を行う。</p> <p>6日目：機械製図用パーツサンプル①の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで3面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。</p> <p>7日目：機械製図用パーツサンプル②の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで3面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。</p> <p>8日目：機械製図用パーツサンプル③の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで3面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。</p> <p>9日目：機械製図用パーツサンプル④の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで3面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。</p> <p>10日目：機械製図用パーツサンプル⑤の寸法入りイラストを配布してラフスケッチで3面図を描く。確認→修正。方眼紙に定規を使って図面を描く。</p> <p>11日目：製品のデザイン図面①を読み取り、立体イラストに起こす。</p> <p>12日目：製品のデザイン図面②を読み取り、立体イラストに起こす。</p> <p>13日目：製品のデザイン図面③を読み取り、立体イラストに起こす。</p> <p>14日目／15日目：製図試験を行う。</p>		
予習・復習	どんな立体でも三面図に起こせるよう、また製図から立体を正確に想像表示できるまで繰り返ししっかり復習する。		
教科書	「プロダクトデザインのための製図」清水吉治・川崎晃義 日本出版サービス		
参考書	JISにもとづく機械製作図集 大西 清 理工学社		
教材	製図用具 方眼紙		
履修上の注意	特に無し。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>成績評価 製図提出作品と製図試験により評価。 製図の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が高いレベルで昇華されている。</p> <p>[B] 製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が十分なレベルに昇華されている。</p> <p>[C] 製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>成績評価 製図提出作品と製図試験により評価。 製図の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 製図の基本的な知識や技術が高いレベルで習得され、それを活かして図面が特に高いレベルで昇華されている。</p> <p>[A] 製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が高いレベルで昇華されている。</p> <p>[B] 製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が十分なレベルに昇華されている。</p> <p>[C] 製図の基本的な知識や技術が習得され、それを活かして図面が一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-21	履修コード	4165Z1
科目名	製品デザイン演習 (三)	科目英語名	Practice of Industrial Design (3)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年製品デザイン演習室
単位	13	定員	20名
担当教員	○根来貴成・村中 稔・浅野 隆・河崎 圭吾・安島 諭		
授業概要	製品デザインを家電製品（ドライヤー）、家具製品（椅子）、情報機器（エクスペリエンス）、トランスポートデザインデザインの4つのカテゴリーを実際にデザインすることで学ぶ。全ての授業のデザインステップは「理解」→「調査」→「視覚化」→「洗練」の手順によって行われる。		
到達目標	「理解」（モノの歴史やモノに関わることへの理解）→「調査」（実際に使われている現場の理解と予測からモノがあるべき姿を見出す）→「視覚化」（アイデアスケッチ、ラピッドプロトタイプング、レンダリング、図面制作、3Dデータ制作、3Dレンダリング作成→「洗練」（検証と洗練を繰り返し行う）。モノの本質を探り出し、素材、カタチ、色を吟味して的確にデザインに落とし込む能力とそのデザインを的確に第三者に伝える能力を身につける事が目標。		
授業計画	<p>A、椅子のデザイン（根来・客員教授 小熊 誠次） 原寸の椅子の設計・制作を通して、設置される空間や使用方法を考察し、人体のスケール感、素材とのつき合い方、工法やCMF（カラー、マテリアル、フィニッシュ）の選定方法などを現物を用いて検証し、実際に着座できる椅子の1/1プロトタイプを制作する。 留意点：工房を使用する時は、作業服を着用すること。</p> <p>B、情報機器のデザイン（村中・客員教授 坂井 晃・非常勤 入谷真一） UX（ユーザーエクスペリエンス）の観点からIoTやAIなどを取り入れた新たなサービスやビジネスモデル、プロダクトデザインを考える。調査や試作、アイデア展開、現場での検証やシミュレーションなどのプロセスを通して、新しい価値を創出する手法を学ぶ。</p> <p>C、トランスポートデザイン（浅野・客員教授 伊藤 邦久） 社会性のあるテーマを基に、近未来の自動車をデザインする。自動車の基本構造、機能及びパッケージング、スタイリングの関係を学ぶ。アイデアの平面表現からクレイモデル制作を通して立体造形における「三次曲面」の成り立ちを理解させる。合わせて、コンピュータスケッチテクニック及び、CMFカラーデザインの手法を学ぶ。</p> <p>D、家電のデザイン（河崎・客員教授 鈴木 啓太・David Tonge 非常勤 上町達也・詫摩 智朗） 人の心を掴んで離さないという意味のエンターテイメントを掘り下げることでこれからのデザインの方向性を探る産学連携プロジェクトとしてスカパーJSAT株式会社さんと「これからのエンターテイメント」というテーマでデザインとサービスの開発を行う。プロのデザイナーをメンターとして迎え、学生は各メンターのもとにデザイン開発を行う。</p> <p>E、ファイリング（村中・浅野・河崎・根来・安島） 1年次から3年次までに制作した課題作品や自主制作作品などを、自身のポートフォリオとしてファイリングする。</p> <p>F、製品デザイン企画課題（村中・浅野・河崎・根来・安島） 自分の希望するデザイン分野への進路に向けたテーマで、短期間でデザインをまとめ、プレゼンテーションする。企業実習の準備として行う。</p> <p>G、研修旅行 主に実際の製品デザイン事例を見学する。デザインの歴史、制作現場、ショールーム、工場などモノづくり全般についての理解を深める。</p>		
予習・復習	課題によってその都度担当教員が指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	「プラスチックデザインノート」中村次雄著、デザイン書全般 図書館資料参照		
教材	必要に応じて、その都度指示する。 コンピュータとビデオを使用して授業概要やポイントなどを説明する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	プロセスごとの課題提出（数回）、最終作品（モデル含む）およびプレゼンテーション。 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 授業への積極的な参加度（20%） 課題への取り組み方と作品の水準（60%） プレゼンテーション（20%）		

	<p>全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。</p> <p>[A] 製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを一定のレベルに到達している。</p>
<p>成績評価（平成30年度以降入学者）</p>	

平成31年度シラバス

番号	(B6)-22	履修コード	4166Z1
科目名	コンピュータ演習Ⅱ	科目英語名	Computer Practice Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（7日間）
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	1	定員	20名
担当教員	○村中 稔（非常勤）熊崎 純一		
授業概要	GUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）の基本要素を学ぶ。		
到達目標	情報機器や家電品、自動車などに装備されている情報画面をユーザーに理解しやすく、使いやすく表現できる。		
授業計画	<p>情報機器や家電品、自動車などに装備されている情報画面からテーマを選定し、機能や視覚的要素などを分析したうえでインターフェイスを考える。コンピュータ上でモックアップを制作して検証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、全体の構造を構築 設計コンセプトを検討する。 2、変遷画面デザイン 画面の移行、画面効果等を検討する。 3、ボタンアクション マウスオーバー、プレス、アクションなどを検討する。 4、ボタンデザイン アイコンや色彩、質感等を検討する。 5、アニメーション 動きの効果について検証する。 6、音楽再生検討 7、ムービー書き出し 形式、サイズの検討 8、プレゼンテーション 設計コンセプトから画面全体と個々のパーツ、機能性等を説明する。 		
予習・復習	画面遷移やアクション等のブラッシュアップ		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。</p> <p>[A] テーマに対する理解と分析、技術などが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] テーマに対する理解と分析、技術などが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] テーマに対する理解と分析、技術などが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-23	履修コード	3641Z1
科目名	デザイン工学	科目英語名	Machine Engineering
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	20名
担当教員	○浅野 隆 (非常勤) 秋田純一・永原 隆・長田 典子・渡邊恵太		
授業概要	製品開発においてデザイナーとエンジニアは密接な関係にあり、エンジニアの役割や考え方を知ることにより、デザイナーの職務を理解させる。それぞれ違った分野の講師により、幅広くオムニバス形式で行う。		
到達目標	工学的教養と視点を養う。エンジニアが考える設計理論を理解し、エンジニアと協力して社会性や安全性も含め、技術に裏付けされかつデザイン性の高い優れた商品開発が出来るデザイナーになるための意識を養う。		
授業計画	<p>A. デザイナーが考えるアイデアは、エンジニアの技術によって具現化される。そのため、エンジニアとの「やりたいこと」と「できること」を詰める対話が重要となるが、そのためには、デザイナーも「技術で実現可能であること」、すなわち技術の限界を知ることは重要である。またアイデアを、スケッチや模型ではなく、例え完成度は低くても「実際に動くもの」として示すことが非常に有効であることは、IDEOなどでのデザイン思考でもよく知られている。本講義では、このような、デザイン思考におけるエンジニアとの対話の意義と実例を紹介し、またM5stackというデザイン思考に適したプロトタイピング・ツール（マイコンボード）の体験と、それを用いたアイデア出しからプロトタイピングまでの実践を行う。(秋田 純一)</p> <p>B. 機械加工法、工学的締結法、空力や流体力学などの知識を養う。またエンジニアはデザイナーと違って感覚的な判断をせず、設計理論に基づききっちり計算して答えを出す。しかしお互い協力しないと良い製品は生まれない。上記の内容について事例を交えて講義する。(永原 隆)</p> <p>C. 感性評価分野から、工学的数値分析とデザインの間関係を講義する。印象評価実験の手法、分析方法等の講義と、対比較法のワークショップを通して、心理尺度の構成を体験しながら学ぶ。(長田 典子)</p> <p>D: WorldConnector: カメラへの身体性付与による映像世界へ入り込むインターフェース ビデオゲームにおいて一人称視点として画面内にアバターの身体の一部を映すことによって、アバターに寄りきったかのような臨場感を高める工夫がされていることがある。授業では、記録装置のカメラと再生装置の画面に物理的な棒を取り付ける方法を用いることによって、利用者が画面の中に入った、画面内へ介入しているような感覚を実現するWorldConnectorを体験する。授業ではWorldConnectorのシステム実装について述べ、WorldConnectorを利用したさまざまなコンテンツの可能性について事例を紹介しながらシステムの可能性について考察する。 (渡邊恵太)</p>		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	A. 各自PCを持参すること (秋田) B. C. D. 特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	レポート提出3回、受講態度を総合して評価する。 [A]各分野のテーマに対する内容分析等を、高いレベルで積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [B]各分野のテーマに対する内容分析等を、積極的に自己のデザイン活動に活かす手法として取り入れられている。 [C]各分野のテーマに対する内容分析等を、自己のデザイン活動に活かす手法として理解されている。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-24	履修コード	3643Z1
科目名	製品計画論	科目英語名	Theory of Product Planning
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	製品デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	研修室
単位	1	定員	20名
担当教員	○村中 稔 (非常勤) 稲垣 揚平		
授業概要	製品デザインのプロセスや方法論をはじめ、広く商品開発の視点に立って、さまざまな「モノ」や「サービス」や「情報」がどのように形成されていくか具体的な事例を通して学ぶ。		
到達目標	独創的な提案をより強化する「構想力」「書類力」を高め、デザインの現場で必要となるコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。		
授業計画	<p>1、プロダクトデザインとは 経営戦略から商品戦略まで インハウスデザイナー フリーランスデザイナー</p> <p>2、商品開発のプロセス 市場調査【DR0】 製品企画：企画立案・製品企画書【DR1】 基本設計：基本デザイン・1次試作【DR2】 詳細設計：詳細デザイン・詳細設計【DR3】 試作：2時試作・試作評価【DR4】 量産試作：量産試作【DR5】 生産準備：工程管理・品質管理・副資材【DR6】 初期流動：工場引継・検査【DR7】</p> <p>3、流通市場構造と商品、価格について マーケティング 知財 コスト試算</p> <p>4、販促 ブランドマネージメント・ブランディングについて</p> <p>5、プレゼンテーション：企画書作成による実践形式にて 企画書の作成ポイント プレゼンテーションの準備</p>		
予習・復習	初日にテーマ設定し、授業経過に沿って企画書を作成し、プレゼンテーションする。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	PRODUCT DESIGN 商品開発に関わるすべての人へ 発売：ワークスコーポレーション 編集：日本インダストリアルデザイナー協会 ISBN978-4-86267-063-2 C3055 ¥3200E		
教材	サンプル商品や各種資料。コンピュータを用いて説明する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。 [A] 製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が高いレベルに到達している。 [B] 製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が充分なレベルに到達している。 [C] 製品デザインについての諸能力を基に、個々の提案における構想力や書類力が一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-25	履修コード	4167Z1
科目名	製品デザイン演習 (四)	科目英語名	Practice of Industrial Design (4)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年製品デザイン演習室・工房
単位	6	定員	20名
担当教員	○根来貴成・村中 稔・浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭・池田晶一 (客員教授) 益田文和		
授業概要	3年までに学んだ製品デザインの技術知識を総動員して実践的なデザインワークに取り組む。		
到達目標	デザインすべき課題の発見、仮説の構築、アイデア展開、モデル制作、検証実験を経てプレゼンテーションをおこなう。内容が濃く完成度の高いデザインワークをおこなう。		
授業計画	<p>A、スタートデザイン 前期最初 (村中・浅野・河崎・安島・根来) 新1年生と合同によるグループ制作。毎年、社会性のある大きなテーマで製品を短期にデザインする。3年までに修得したデザインの手法、技術の確認とデザイナーとしてのリーダーシップの養成を目指す。</p> <p>B、公共用品のデザイン：インクルーシブ・デザイン (安島・池田) 車いすユーザーや視覚障害ユーザーをゲストとして招き、ユーザーと学生と一緒に現状の環境のアクセシビリティ・ユニバーサル性について調査確認する。それぞれのユーザーの動作特性を実際に取材記録しビジョン・タスクを作成する。プロトタイピングのプロセスを経て実効性のある製品デザインを追求する。使用可能な1/1モデルにより、ゲストユーザーによる検証をおこない評価と改善検討をおこなう。インクルーシブ・デザインの実践を通し、現実世界の問題を解決する人材を育成する。</p> <p>C、産学連携製品開発課題 (浅野) 企業からのテーマに対して、または提案型製品開発課題としてデザイン研究する。調査、企画、アイデア、デザイン、プレゼンテーションを、より実践的なプロセスによって体験する。専門知識や技術、若いアイデアを産業を通して積極的に社会へ発信する。地域社会への活性化にも貢献する。産学連携活動を通して社会発展に寄与する人材を育成し、デザイン教育に生かす。</p> <p>D、サステナブルデザイン (益田) 地球規模で進む気候変動と環境問題、深刻化する社会問題。持続不可能であると思われる現代の産業・経済と文明・社会。その傾向が明らかになった20世紀後半からの半世紀余りは、現代デザインが発展を遂げてきた道のりと重なる。デザインの役割とは本来何であったのだろうか、デザインには何ができるのだろうか? そのことを確認するために、大都会、大企業、グローバルマーケティングから離脱し、原点からデザインをやり直す。</p>		
予習・復習	調査や実践に基づいた考察を毎回しっかりとおこなうこと		
教科書	資料を配付する。		
参考書	ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ 寛裕介著 英治出版 生きのびるためのデザイン ヴィクター・パパネック著 阿部公正訳 晶文社		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	プロセスごとの課題提出 (数回)、最終作品 (モデル含む) およびプレゼンテーション。 個々の課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 授業への積極的な参加度 (20%) 課題への取り組み方と作品の水準 (60%) プレゼンテーション・展示 (20%) 全体で50%以上のポイントを取得した学生に単位を認定する。 [A] 製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを高いレベルで理解することができた。 [B] 製品デザインについて諸能力を基に視野を広げ、個々の提案におけるコンセプト立案や発想、検証に基づいた機能性や造形表現などを理解することができた。 [C] 製品デザインについて諸能力を基に視野を広げることができた。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-26	履修コード	4168Z1
科目名	製品デザイン特論	科目英語名	Theory of Product Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	1	定員	20名
担当教員	村中 稔		
授業概要	デザイナーに必要な能力と求められる役割について解説する。 テーマを設定し、イメージ収集と発表および討議をおこなう。		
到達目標	デザイン関連の現状や今後の動向を意識した発想や思考ができる。		
授業計画	<p>1、デザイン活動におけるデザイナーの役割</p> <p>2、イメージ収集とプレゼンテーションについて解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマに合う被写体を撮影する。 ・和文、英文のタイトルを考える。 <p>3、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「静」と「動」</p> <p>4、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「光」と「影」</p> <p>5、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「重」と「軽」</p> <p>6、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「白」と「黒」</p> <p>7、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「長」と「短」</p> <p>8、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「静」と「動」</p> <p>9、イメージ収集とプレゼンテーション テーマ：「明」と「暗」</p> <p>10、授業で発表したイメージをまとめてプレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDF形式、A3サイズ1枚 		
予習・復習	授業の冒頭に収集する写真のテーマを伝え、設定されたテーマの写真を撮影または探して準備しておく。 留意点：日頃から積極的にイメージに対して意識しておくこと		
教科書	適宜指示する。		
参考書	特になし。		
教材	過去の学生作品などをコンピュータを用いて解説する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>個々の課題の到達度、積極的な授業態度、プレゼンテーション能力を総合して評価する。</p> <p>[A] テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] テーマに対する理解と分析、イメージ表現における技術と工夫などが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-27	履修コード	4169Z1
科目名	卒業制作	科目英語名	Graduation Work
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	製品デザイン専攻4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	4年製品デザイン演習室・工房
単位	10	定員	20名
担当教員	○根来貴成・村中 稔・浅野 隆・河崎圭吾・安島 諭		
授業概要	テーマ設定・基礎調査・仮説設定・アイデア検討・機能検討モデル制作・分析評価・モデル制作・検証・プレゼンテーションまでを主体的、計画的に進めていく。		
到達目標	学部で学んだことの総力を結集し、創造的なデザイン研究やデザイン基礎研究等に挑戦しまとまりのある仕事をする。		
授業計画	<p>1、卒業制作企画（前期） デザインと社会について、グループで情報収集し調査分析から論議して時代性のある企画やテーマを導き出す。プレゼンテーション資料にまとめ、発表する。</p> <p>2、卒業制作 自分独自の視点でテーマを設定し、企画からデザイン検討、プロトタイプ設計制作、検証、完成までを自ら管理し実施する。完成度の高いデザインモデルを作成すること。 全教員で指導するが、各人のテーマに対応して以下のように担当する。</p> <p>○卒業研究指導（村中） ・情報機器の創造プロセス ・インターフェイスデザイン ・作品提案におけるプレゼンテーション手法</p> <p>○卒業研究指導（浅野） ・自動車および乗り物全般 ・公共交通機関 ・搬送ワゴン全般 ・作品制作における加工技術の指導</p> <p>○卒業研究指導（河崎） ・家電品、日用品のデザイン ・作品制作におけるCAD-CAM加工技術の指導</p> <p>○卒業研究指導（安島） ・公共のデザイン、デザイン開発全般 ・卒業制作企画（グループ課題） ・プロトタイピングによるデザインアプローチを指導 ・卒業制作展に関する展示指導、作品集原稿制作指導</p> <p>○卒業研究指導（根来） ・家具、インテリア製品全般 ・日用品を含む生活のデザイン ・作品制作における素材構造計画、加工技術の指導 ・卒業制作展に関する展示指導、作品集原稿制作指導</p>		
予習・復習	テーマとする領域の製品や、その状況感を調査取材しモチベーションを高めておくこと。各ステップにおける考察をしっかりとおこなうこと		
教科書	適宜指示する。		
参考書	デザイン全書、過去の卒業制作概要集、各研究室図書		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	徹底したスケジュール管理と、これまでに学んできたデザインプロセスを適用し、完成度の高いリアリティの有る制作物を完成させること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>コンセプト審査、1次ラフモデル審査、1/1モデル審査、中間審査、最終モデル審査、最終プレゼンテーション審査（モデル、提出資料含む）と共に、個々の積極的な受講態度、研究プロセスを総合して評価する。</p> <p>[A] 4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を高いレベルで図ることができた。</p> <p>[B] 4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得され、実験と検証の中から独創性と社会性のあるデザイン提案として制作の深化を図ることができた。</p> <p>[C] 4年間に学習すべき諸能力が総合的に習得されている。</p>		

成績評価（平成
30年度以降入学者）

平成31年度シラバス

番号	(B6)-28	履修コード	4170Z1
科目名	環境デザイン演習（一）	科目英語名	Practice of Environmental Design (1)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	1年デザイン科演習室
単位	4	定員	20名
担当教員	坂本英之・〇角谷 修・鏑 隆弘・畝野裕司・北村賢哉（非常勤）品野與四寛・中 晴夫		
授業概要	「空間デザインの基礎」 空間デザインの基礎を、現存する自然及び人為環境を題材として取り組むことにより、スケール感の把握、空間への意識の出発点とする。また、空間デザインの表現手法として建築製図の基礎を学ぶ。		
到達目標	デザインの基礎とプロセスを修得し、空間デザインに対する理解と表現に対する多様な能力を身につける。		
授業計画	<p>1. 空間造形と測量 30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 実際の屋外や屋内の空間を測量し、特徴を理解することで、空間の持つ魅力を探り、空間造形の基礎を修得する。 ・実地における空間量と造形物について測量 ・計測データをもとに製図</p> <p>2. 建築製図基礎演習 60時間（建築士試験指定科目「建築設計製図」2単位） 空間デザインの表現手法のひとつとして、建築設計製図の基礎を学ぶ。数種類の線の引き方、線の意味、表現規則から始め、木造住宅建築に必要な平面図、立面図、断面図、矩計図の描き方を、学内に保存されている木造建築において仕上げ材料や形態を確認しながら習得する。 ・用具の説明と線の練習 ・平面図、立面図、断面図、展開図、詳細図、天井伏図</p> <p>3. 空間デベロップメント 30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 空間の基礎概念を学習し、既存の空間を読み解く方法や、新たな空間をイメージする能力を身に付ける。柱・壁・床・天井といった空間の基本要素を使って、多様な空間の表現能力を身につける。 ・空間の基本要素 ・構造と形態 ・建築の表現</p> <p>4. パース・ドローイング 30時間（建築士試験指定科目「その他」1単位） 透視図法を基本に外観と内観に分けて表現の訓練を行う。人物や素材感、ディティールの描き方等、空間を表現するベースとして身に付ける。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。事前に資料を配布して、その読込む必要がある。内容については各授業に応じて事前に指定する。		
教科書	特になし。		
参考書	手塚貴晴の手で描くパース（彰国社） 新建築2012年9月号（新建築社）		
教材	パース関連の参考資料（平面図、立面図）を配布		
履修上の注意	授業に集中し、一つ一つを修得し、成果として制作物を完成し提出すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポートや成果物の提出物を総合して評価する。 [A] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポートや成果物の提出物を総合して評価する。 [S] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達していることが秀でた内容で示された。 [A] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-29	履修コード	3652Z1
科目名	建築史 I	科目英語名	History of Architecture I
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	必修	教室	第3教室
単位	2	定員	20名
担当教員	○坂本英之（非常勤）未定		
授業概要	歴史的に発展してきた建築空間の特質（形態や使われ方など）について学習する。とりわけ金沢は近世以降の歴史を今にとどめており、生きた教材を通して学ぶことが可能である。		
到達目標	歴史的視点を通して、建築の形態や機能等の本質を理解する能力を養う。		
授業計画	<p>講義は下記の項目に従って進められる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築の原型（先住民族の竪穴住居、稲作の伝来と高床住居） 2. 農家型（田の字型・ヒロマ型）の文化圏と建築様式 3. 支配階級の建築（寝殿造から書院造まで） 4. 近世城下町の建築文化（武家屋敷・足軽屋敷・町家） 5. 建築文化と情報化技術（CG・GIS・シミュレーション技術の応用） 		
予習・復習	スケジュールおよび配付プリントによる予習と復習。見学会後の整理と復習。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	平井 聖『図説日本住宅の歴史』学芸出版社 増田達男『金沢まちなみそぞろ歩き』金沢市		
教材	配付プリント		
履修上の注意	短期間の内にフィールド（金沢市内）に出かける授業もあり、遅刻、欠席のないように。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>テスト、レポート、学習態度から総合的に評価する。</p> <p>[A] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 [B] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 [C] 建築・デザインに関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>テスト、レポート、学習態度から総合的に評価する。</p> <p>[S] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を極めて高いレベルで考察することができた。 [A] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を高いレベルで考察することができた。 [B] 建築・デザインに関する視野を広げ、自身の研究或いは制作を考察することができた。 [C] 建築・デザインに関する視野を広げることができた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-30	履修コード	4171Z1
科目名	材料学演習（木材）	科目英語名	Practice of Material Processing (Wood)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	
担当教員	北村賢哉		
授業概要	木材を使用して、立体を造形する。木材加工の手順と機器の使い方を習得すると共に、基本的な知識を獲得する。		
到達目標	木材を使った立体造形から、工具・機器による木材の加工技術の基礎を修得する。また、制作を通じて構造・意匠・機能の三位一体となった造形のあり方を修得する。		
授業計画	<p>1. 作業手順と工房使用ルールの理解 配布資料を用いた座学と実際に工房を順に巡りながら使い方を学ぶ。</p> <p>2. 木材を使用した家具について概論 木材が空間構成に果たす役割を配布資料やスライドを用いて解説する。</p> <p>3. 木材の基礎知識 多種多様な木材の種類やその特徴を解説する。</p> <p>4. 木材加工道具の基礎知識 基礎加工を実際に行う中で道具の使い方を習得する。</p> <p>5. 木材加工機器の基礎知識 基礎加工を実際に行う中で加工機器の使い方を習得する。</p> <p>6. 木材を使用するの形態の追求 材料の特性を考慮しながら与えられたテーマを具現化するために設計する。</p> <p>7. 木材加工 習得したスキルと工房の加工機器を駆使して実際に作品を制作する。仕上げの美しさに影響する精度にこだわって作業する。</p> <p>8. 仕上げ 表面処理に関して座学で講義を受けた後、実際に作業を行う。</p> <p>9. プレゼンテーション 各自が作品に意図を伝え、全員で評価を行う。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。集中授業なので、作業日程等計画をたて、随時チェックしながら進める。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	プリント資料を配付する。		
教材	木工道具		
履修上の注意	安全に作業を進めるための服装や身なりで出席すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	個々の課題の到達度と作品の精度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B] 木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C] 木材とその加工に関する視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	個々の課題の到達度と作品の精度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を優れたレベルで図ることができた。 [A] 木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を高いレベルで図ることができた。 [B] 木材とその加工に関する視野を広げ、制作の深化を図ることができた。 [C] 木材とその加工に関する視野を広げることができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-31	履修コード	3653Z1
科目名	環境デザイン工学 I	科目英語名	Engineering of Environmental Design I
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	(非常勤) 鈴木啓泰		
授業概要	<p>建築は、もともと外敵や(外部)気候に対するシェルターとしてつくられた。いまでは建築で防御する外敵はいなくなったが、気候についてはなおシェルターとして機能しているものの、それは自然の過酷な気候への防御ではなく、「快適性」を確保するための新たな機能である。この「快適性」を得るためには建築に関わる物理現象について学び、建築環境の調整する技術(建築設備)を理解する必要がある。</p> <p>本授業においては、建築環境工学を概観するとともに、建築設備(計画)の考え方に触れる。建築環境工学とは、建築に関わる物理現象を扱う学問であり、ここでは主に日照・日射、熱、空気、音、光、色及び地球環境や省エネルギーについて学ぶ。</p>		
到達目標	建築の「快適性」に影響を与える様々な要素を把握し、それらと形態との関わりを理解する。		
授業計画	<p>講義は下記の項目について進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境デザイン工学I概説 2. 太陽と地球、日照・日射 3. 温熱環境と熱環境 4. 空気の性質と空気環境 5. 空気質と換気 6. 音環境と光環境 7. 環境調整技術と建築設備 8. 復習または試験 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	田中俊六、他「最新建築環境工学」井上書院 村上周三「CASBEE入門」(JSBC) 加藤信介他「図説テキスト 建築環境工学」彰国社		
教材	特になし。		
履修上の注意	実際に現地を視察する場合があるので、事前の案内に注意していること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。</p> <p>[A] 設備についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 設備についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 設備についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。</p> <p>[S] 設備についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A] 設備についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 設備についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 設備についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-32	履修コード	3654Z1
科目名	環境デザイン工学Ⅱ	科目英語名	Engineering of Environmental Design II
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	(非常勤) 小西康孝・萩野紀一郎		
授業概要	建築構造力学の実践的理解を図るために、演習を中心に建築設計に必要な構造力学の基礎的事項を修得する。		
到達目標	建築構造力学の基礎的事項を学び、簡単な数値計算や図解を通して力の流れを把握することによって、力学と構造形態との関わり合いについて実感できるようになることを目標とする。さらに、実例によってさまざまな構造形態のヴィジュアルな解説を試み、建築における構造の役割について理解を深める。		
授業計画	<p>建築構造力学の下記の基礎的事項に力点をおいて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史 ・力の釣合い ・荷重 ・静定・不静定構造 ・力と変形 <p>講義は、一部演習を取り入れて進めるので、授業には常に電卓を持参すること。 実施例について、外力に対する抵抗メカニズムを説明するので、自分なりに力の流れを描いてみることによって、構造についての理解を深めること。</p>		
予習・復習	適宜、指示する。		
教科書	藤本・和田『建築構造力学入門』実教出版株式会社		
参考書	日本建築学会「ちからとかたち」のプリントを併用する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	それぞれの単元を理解した上で、次の単元を学習すること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。</p> <p>[A] 構造についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 構造についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 構造についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。</p> <p>[S] 構造についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A] 構造についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 構造についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 構造についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-33	履修コード	3655Z1
科目名	環境デザイン演習(二)	科目英語名	Practice of Environmental Design (2)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	2年環境デザイン演習室
単位	9	定員	20名
担当教員	坂本英之・角谷 修・〇鐸 隆弘・畝野裕司・北村賢哉 (非常勤) 山本孝幸・北川勝明・丸岡喜市・橋本浩司・吉村寿博・未定		
授業概要	「空間デザインの応用」 空間及び環境を題材にデザインを表現するための基本的テーマに取り組むことにより知識と感覚と技術を養う。あわせて写真撮影等の表現技法を身につける。		
到達目標	空間と人間の関わりを考え、ヒューマンスケールや表現できる力を修得することで、潜在能力を引き出し、作品化する能力を身につける。		
授業計画	<p>1. ディスプレイ・ショーウィンドウ 30時間 ショーウィンドウのデザインを通し、自己の空間に対する「潜在能力」を引き出し、独自の「作品」を制作する。制作を通じて独創的な表現力を持つショーウィンドウを作品化する。</p> <p>2. 建築材料演習(コンクリート) 30時間(建築士試験指定科目「建築材料」1単位) コンクリート・セメントや骨材・鋼材の実験を通して、コンクリート材料の知識と加工法、素材の特質を習得し、併せて立体造形への感覚を養う。</p> <p>3. 庭園デザイン 60時間(建築士試験指定科目「その他」2単位) 敷地の自然環境である土地、人為環境である建築との関係を理解しながら、住宅や文化施設、商業施設の庭園をデザインする。庭園の演出手法や屋外で使う素材を扱いながら、屋外空間の美しい形を探る。做うこととして、市内に点在する庭園の見学を行なう。</p> <p>4. ディスプレイ・体験 60時間(建築士試験指定科目「その他」2単位) 共同で仮設の展示あるいは店舗を設計、製作、運営する。自ら企画した原寸大の空間を設計、施工するプロセスで、空間演出の機能的、感性的側面を経験的につかむと同時に、空間を体験しデザインの成果を検証する。</p> <p>5. 住空間 30時間(建築士試験指定科目「その他」1単位) 人間の営みにとって最も基本的な「住む」ことのデザインを通し、空間の持つ魅力を探り、表現する能力を身につける。「内と外」、「公と私」、「閉と開」等の空間の基本関係からインテリアと環具までを理解し作品の場の表現に活かす。学生それぞれが金沢市内に敷地を求め、金沢の街との関わりの中で、具体的な可能性や課題を追求する。</p> <p>6. 建築構造力学演習 30時間(建築士試験指定科目「構造力学」1単位) 主要構造の解析を行い構造物が荷重を受けたときに生じる応力や変形などを知るための力学を学ぶ。先行課題の住宅デザインと一部連動し、実践的な構造解析を修得する。 ・構造法の基本事項 ・構造一般概論 ・素材と構造形式</p> <p>7. 建築材料演習(応用) 30時間(建築士試験指定科目「建築材料」1単位) 木・鉄・コンクリート・石から適宜、材料を選び出し、その性質を知るために、構造物の模型制作等を通し、材料と形態の合理的関係性を把握する</p> <p>8. 研修旅行 主に実際の空間デザイン事例を見学する。空間の捉え方、演出方法、素材などデザインの手法についての理解を深める。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。事前にデザイン・設計の概要を配布して、その読み込みと調査をしておく。		
教科書	関連の専門書を授業内にて指示する。		
参考書	関連の専門書を授業内にて紹介する。		
教材	デザイン・設計対象の図面や情報を記載したプリントを配布		
履修上の注意	授業に集中し、ひとつひとつを修得し、成果として制作物を完成し提出すること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	個々の理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート及び成果物を総合して評価する。 [A] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)	個々の理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート及び成果物を総合して評価する。 [S] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達していることが秀でた内容で示された。 [A] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-34	履修コード	3656Z1
科目名	建築史Ⅱ	科目英語名	History of Architecture Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	必修	教室	第1教室
単位	2	定員	20名
担当教員	○坂本英之・(非常勤)未定		
授業概要	ヨーロッパ建築の造形を古代から近世まで理解し、ヨーロッパ建築空間の構成の展開を理解する。		
到達目標	建築の歴史的変遷の概要について学び、古代から近世に至る空間造形の思想的基礎を修得する。		
授業計画	<p>以下の内容を、建築写真、図面を豊富に用いながら、造形、空間構成を視覚的に確認しつつ分析する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ギリシア神殿建築の造形と空間構成 2. ローマ建築の造形と空間構成 3. 初期キリスト教建築及びビザンチン建築の造形と空間構成 4. ロマネスク建築の造形と空間構成 5. ゴシック建築の造形と空間構成 6. ルネサンス建築の造形と空間構成 7. バロック建築の造形と空間構成 8. ヨーロッパ近世建築の概観 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	森田慶一著『西洋建築入門』東海大学出版会		
教材	特になし。		
履修上の注意	それぞれの単元を理解した上で、次の単元を学習する。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。</p> <p>[A] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>講義の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。</p> <p>[S] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 西洋建築史についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-35	履修コード	4172Z1
科目名	コンピュータ演習	科目英語名	Computer Practice
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	2	定員	20名
担当教員	(非常勤) 山田憲子		
授業概要	コンピュータによる建築製図法 (CAD) の基礎を学び、二次元から三次元までの幅広い表現方法を習得する。		
到達目標	二次元CADでは基本的知識および操作を習得し、住宅規模の建築物の平面図、立面図、断面図、詳細図を作図できることを目標とする。三次元CADにおいては、制作した二次元図面を使用し三次元空間の表現を目標とする。		
授業計画	第1回 二次元CAD、三次元CADの現状、基本概念に関する講義と演習 第2回 二次元CADの基本知識に関する講義、操作演習 第3~第9回 平面図、立面図、断面図、詳細図の作図演習 第10回 三次元CADの基本知識に関する講義、操作演習 第11~第12回 三次元データの作成、モデリング練習 第13~第14回 レンダリング練習 第15回 フィニッシュワーク (画像の調整および出力)		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	使用ソフト ベクターワークス レンダーワークス		
参考書	使用ソフト ベクターワークス レンダーワークス解説書		
教材	特になし。		
履修上の注意	授業に集中し、ひとつひとつを修得し、成果として制作物を完成し提出すること。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	演習の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	演習の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] コンピュータについての基本的な知識や技術が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-36	履修コード	3658Z1
科目名	建築製図法	科目英語名	Practice of Architectural Drafting
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻2年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○坂本英之		
授業概要	製図は設計者と製造者との間のコミュニケーションツールである。そこには物語のひとつひとつの単語にあたる線や図面記号があり、それらが組み合わさって文章にあたる構成単位を成し、ひとつのまとまったかたちを第三者に伝える。この文章構成のルールにあたるものが製図法である。演習の中では、デザインの目的や機能について、製図教材に使う実例を通して広く学び、それらの実践の意義を確認する。1年次に修得した製図法基礎をもとに、評価の高い建築の図面のトレースを繰り返しながら、自らデザインした造形物の図面化を行う能力を身につける。		
到達目標	建築の本質は空間にある。表面的な形態や機能の奥に潜む建築の魅力を見つけ出し、図面上の建築と実体験した空間とのなかで、スケール感や建築的デザインを行う力を身につける。 建築はインテリア空間と人の営みを包み込む容器であると同時に、都市やランドスケープを形成する要素でもあり、幅広い環境デザインのそれぞれの分野を繋ぐものと考えられる。デザインの部分と全体との関係を考える視点を獲得することを目標とする 表現においては、客観的に理解される図面の制作能力とプレゼンテーション能力の向上を目指す。		
授業計画	第1回 授業の説明、準備する用具、ウォームアップ 第2回 これまでの自作品の製図（平面図、立面図、断面図） 第3回 パーススケッチの練習 第4回 自作品の製図（展開図） 第5回 自作品の製図（詳細図） 第6回 パーススケッチの練習 第7回 M点法による室内空間の図化 第8回 室内空間のパース内での陰影の描出 第9回 自分の部屋のパース図の制作 第10回 現存する木造建築物（本部長公舎）の実測（内部） 第11回 実測結果に基づく製図（平面図） 第12回 実測結果に基づく製図（展開図） 第13回 実測結果に基づく製図（展開図） 第14回 実測結果に基づく製図（断面図） 第15回 自分の部屋のパース図の制作仕上		
予習・復習	毎回、演習までに2枚以上の空間に関するスケッチを仕上げてくる。		
教科書	超入門建築製図		
参考書	「建築のかたちと空間をデザインする」 フランシス・D.K. チン著 太田邦夫訳 彰国社 ISBN4-395-05079-4 「インテリアの空間と要素をデザインする」 フランシス・D.K. チン著 太田邦夫訳 彰国社 ISBN4-395-05087-5 「眼を養い手を練れ 宮脇檀住宅設計塾」 宮脇塾講師室編 彰国社 ISBN4-395-00643-4		
教材	特になし。		
履修上の注意	授業に集中し、ひとつひとつを修得し、成果として制作物を完成させて提出すること		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A] 製図についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 製図についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 製図についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [S] 製図についての基本的な知識や技術が習得され、極めて高いレベルに到達している。 [A] 製図についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 製図についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 製図についての基本的な知識や技術が習得されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B6)-37	履修コード	4173Z1
科目名	環境デザイン演習 (三)	科目英語名	Practice of Environmental Design (3)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年環境デザイン演習室
単位	10	定員	20名
担当教員	坂本 英之・角谷 修・鐔 隆弘・畝野 裕司・○北村 賢哉 (非常勤) 吉永 光秀・村上 章彦・洪恒夫・吉橋 昭夫・未定		
授業概要	「空間デザインの実践」 現場での実践を意識した設計及びデザイン課題を行い、リアリティの高い作品づくりを通して、プロに内容が伝わるポートフォリオ制作を行う。		
到達目標	これまで培ったデザインスキルをもとに、独創的な空間デザインに加え、より実現性の高い課題成果を追求する。学年を通して、空間全体と部分の設計を細部まで扱えるようにすることを目標とし、「空間デザインの実践」を目指す。ファイリングを通して、就職活動に持参するポートフォリオ制作し、これまでの作品を訴求力のある一冊にまとめる。		
授業計画	<p>1. 空間デザイン(照明計画を含む)30時間(建築士試験指定科目「建築設計製図」1単位) 専門店の設計を行なう。店舗において扱う商品、店名から店舗ファサードまでを含む空間全体の提案を行なう。提案においては照明計画による空間の演出についても検討する。</p> <p>2. 色彩計画(インテリアマネージメント(生産管理)を含む)60時間(建築士試験指定科目「建築生産」1単位及び「その他」1単位) インテリア工事標準仕様書を中心に建築法規(消防法、防火区画)への認識や建材・材料の知識及び原材料等の成分についての基本的な姿勢とその対応、また積算の方法や契約書等の見方について確認する。さらに確認申請書や公的機関の検査の方法についても必要性和共に解説する。上記の事項を押さえながら実際の材料・建材を使用することを基本に演習を実施する。その中で特にマテリアルボード(材料を中心にした見本帳)を作成し空間での色合いや素材感を重視して取り組む。建築材料学や建築施工を基礎に、コストと行程を意識した設計を行うことで、より現実的な提案に結びつける。</p> <p>3. 建築構法 90時間(建築士試験指定科目「建築一般構造」3単位) 木造等の軸組構造の性能に関して、主として実験的に調べながら、デザインにつながる特徴を探る。まず構法についての基礎知識を習得し、木造建築を中心とした軸組、屋根、壁、床等の各部の成り立ちについて理解を深める。さらに、それらが、どのような順序で組み立てられるものであるかをあらかじめ把握し、それによって構法的に特徴づけられるデザインを検討し提案する。 ・木構造基本 ・木構造概論 ・構造計算法と耐震</p> <p>4. 複合施設 30時間(建築士試験指定科目「建築設計製図」1単位) 美術館とレストラン、図書館とカフェ、駅舎とショップ、ホテルロビーとガーデン等の異なる機能が同居する中規模の施設の設計を行う。建築構造法について解説を行いながら、構造と材料、構法を意識した設計を行うことで、より現実的な提案に結びつける。構造がデザインに密接にリンクしていることを理解することを目的に、構造計画、断面設計について演習を行う。</p> <p>5. ランドスケープデザイン 60時間(建築士試験指定科目「その他」2単位) 金沢のまちなか区域の広見や河川敷、用水、公園、寺社境内、斜面緑地などのオープンスペースを都市生活における快適空間と位置づけ、空間全体や照明、ファニチャーなどの設計を行なう。※それぞれの課題では、1~2回の中間審査を行い、最終日にはプレゼンテーションを行なう。</p> <p>6. パース・ドローイング 30時間(建築士試験指定科目「その他」1単位) 透視図法を基本に外観と内観に分けて表現の訓練を行う。人物や素材感、ディテールの描き方等、空間を表現するペースとして身につける。</p> <p>7. 一部の課題において、英語によるプレゼンテーション材料の作成および制作内容の説明を行う。説明を母国語とは異なる言語で検討することにより、自身の制作内容をよりわかりやすくすることを目標とする。</p> <p>8. 研修旅行 主に実際の空間デザイン事例を見学する。空間の捉え方、演出方法、素材などデザインの手法についての理解を深める。</p>		
予習・復習	演習は、現地調査や他学生とのディスカッションを含む。これらに臨む際にはある程度の下調べが予習として要求される。 また、演習の時間中だけでは制作は完結するものではない。演習時間中の教員による講義、エスキースチェックを反映したスタディスケッチ、モデルスタディが復習として要求される。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各課題において配付		
履修上の注意	就職活動を意識し、それぞれの作品の完成度を高めること。		
	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。		

成績評価（平成29年度以降入学者） 成績評価（平成30年度以降入学者）	[A] 課題についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 課題についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 課題についての基本的な知識や技術が習得されている。
------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(B6)-38	履修コード	3660Z1
科目名	景観論	科目英語名	Theory of Field Landscape
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	隔週・集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	前期：月曜7・8限 後期：1～4限
履修区分	必修	教室	3年環境デザイン演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	○鏑 隆弘、畝野 裕司、北村 賢哉、（非常勤）未定		
授業概要	<p>景観とは私たちを取り巻く環境への眺めのことである。その範囲は、私たちが手に触れることのできる机上のものから遠方の山中の自然環境まで広いスケールに及ぶ。また、私たちの活動は、これら眺めを作る構成要素に常に影響を与え、景観はその姿を変える。景観の本質は、眺める私たちと眺められる要素である対象物との関係性にあるといえる。</p> <p>授業では眺められる対象物が私たちによってどう捉えられ、景観としてどのように形作られているか、様々なスケールの事例を扱いながら学ぶ。</p>		
到達目標	<p>景観を構成する人為物、自然物の形態と成り立ちについて認識を深め、それらのあり方について自身の意見を明確にすること。また、それらを扱う行政団体などの施策について知識を深める。</p>		
授業計画	<p>ランドスケープデザインで扱う自然林や草原、水域など広大なスケールの景観および自然物が形成する景観について、それらの構成要素の特性と人間の知覚の面から講義を行なう。</p> <p>前期 第1回から第9回</p> <p>4/15 第1回 「景観」とは／景観の構成要素／見ること</p> <p>4/22 第2回 気候帯、植物、植生、植生遷移について</p> <p>5/13 第3回 世界遺産：世界遺産について（景観・デザインの視点から）</p> <p>5/27 第4回 世界遺産：フランスの世界遺産を中心に、具体例を挙げて考察</p> <p>6/10 第5回 世界遺産：学生による調査発表、講評</p> <p>6/24 第6回 過去の景観 「電器」がもたらした景観と暮らしの変化</p> <p>7/8 第7回 現在の景観 「情報」がもたらしている景観と暮らしの変化</p> <p>7/22 第8回 未来の景観 「AI・IoT」がもたらすかもしれない景観と暮らしの変化</p> <p>8/5 第9回 ランドスケープデザインについて デザインの拠り所／作品のコンテンツ</p> <p>後期</p> <p>10/1 第10回 金沢市の景観施策 文化的景観とその構成要素 金沢の重要伝統的建造物群保存区域の景観 屋外広告物のあり方</p> <p>10/2 第11回 金沢市内の景観特性を実際に活用した現場の体験</p> <p>10/3 第12回 生態系サービス、自然景観、生物多様性 非常勤講師</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	それぞれの領域の内容を理解し、全体を俯瞰した視点からレポートを作成すること		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業内のレポートにより評価を行う。</p> <p>[A] 上記到達目標を高いレベルで達成することができた。</p> <p>[B] 上記到達目標を達成することができた。</p> <p>[C] 上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-39	履修コード	4174Z1
科目名	地域空間論 I	科目英語名	Theory of Regional Planning I
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	3年環境デザイン演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○鏑 隆弘 (非常勤) 上坂 達朗		
授業概要	<p>私たちを取り巻く環境は、気候や地形、それらに伴う植生をベースとした風土に対し、人々が様々な関わり方をすることで多様な様相を見せている。デザインする対象の大小に関わらず、これら環境との関わりを断つことは難しい。空間デザインが見せる形態は、その関わり方であり、関わり方がデザインの本質である。</p> <p>授業では、市街地から里山近くまでという生活環境のスケールにおいて、異なる環境を実際に見て回る。環境に対する人々の関わり方と、それらが作る空間の形に対しての理解を深める。</p>		
到達目標	<p>自身が生活する金沢の風土の特質を、自然景観やまちなか空間の形態を通して理解し認識すること。他の地域の風土、文化の特性についても、その場所の空間形態から読み取ることができるようになること。</p>		
授業計画	<p>都市内部および周辺を訪れながら、講義とグループディスカッションを元に、それぞれの形についての自身の解釈を明確なものとする。</p> <p>重要な視点としては、性質の異なる空間の形が接するインターフェースの部分について、考察を深めることである。旧市街地と新市街地、商業地と住宅地、郊外住宅地と非住宅地など、異なる性質の空間が接する部分では、必ず両者の力が作用、影響しあい、一つの種類の空間内部には見られないダイナミックな形が生まれやすい。空間単位の内部と前衛を理解することで、その本質を見ることが出来る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金沢の街の自然的背景、骨格など的人為的様相とそれらの捉え方についての講義 2. 城下町の形を巡るフィールドワーク 3. 異なる性質の空間についての講義 4. グループディスカッション 5. グループプレゼンテーション 6. 「空間のインターフェース部分に関する考察」レポートの作成 		
予習・復習	授業には課題も設定されるので、それらについて予習・復習を行う。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	金沢を歩く：山出保（岩波新書）		
教材	古地図および現況の地図		
履修上の注意	短期の集中講義であり、日程に注意することと。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業内のレポートにより評価を行う。</p> <p>[A] 上記到達目標を高いレベルで達成することができた。 [B] 上記到達目標を達成することができた。 [C] 上記到達目標をある程度達成することができ視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-40	履修コード	3642Z1
科目名	屋内計画論	科目英語名	Theory of Interior Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	LAVC室・視聴覚教室
単位	1	定員	20名
担当教員	○角谷 修（非常勤）村上章彦		
授業概要	インテリアをデザイン・設計することを目的に、建築計画との関連をベースにその要点を解説する。また最新情報の紹介と共に、内装材の選定やエコマテリアルの応用等について解説する。さらに現実の現場を想定した説明を実施して建築法規との関連等を含んで、よりリアルな企画、設計を指導する。		
到達目標	時代性を重視するインテリアデザインの現状を理解して、そのデザイン展開方を学ぶと共に建築計画との連動を心掛ける。また最先端の情報の取り入れ方と、その活用について訓練する。その他什器、家具、照明器具等を含めたインテリアデザインアイテムの設計についても積極的な取り組みを目指す。		
授業計画	<p>1、 建築基準法 単体規定、集団規定、SI方式(スケルトンインフィル) 建築からインテリアへ</p> <p>2、 プログラミング 環境、安全、快適性、娯楽、情報発進、知的満足、ユニバーサル デザイン:社会、文化、経済、建築、環境 SI方式区分:スケルトン-長寿命化、インフィル-設計・対応・容量 修繕対象:屋根、外壁 境界部位:クラディング</p> <p>3、 契約書、仕様書 積算:設計図書(材料、工料、機械、損料、人件費) 合算→実行予算(原価) 見積:実行予算+利益=売価 経済的作業 概算積算、概算見積→プログラミング業務(コストプランニング) 実施積算、実施見積→実行予算、売価 請負 クライアントから業者(設計施工、直営方式、一般請負方式) 一般請負方式→一式請負、分割請負、JV 契約→約定業務(随意契約、競争入札契約) 特命 一般競争入札契約 素材について:調湿材、建材の実演と実験(珪藻土を使用した)</p> <p>4、 室内環境汚染 工法、建材、高気密、高断熱 化学物質 SHS SBS シックハウス、シックビル(めまい、吐気、下痢、呼吸困難) 化学物質過敏症 接着剤、塗料、合板、既製家具、既製建具、家庭雑貨等 人体への影響:20年で増加、蓄積 H15年基準法の改正 24時間換気システム、設備環境による汚染(火気使用室) 温湿度環境による汚染:温暖化、海水温度の上昇、内陸部への影響(高温多湿) 相対湿度(%)と絶対湿度(g) VOC運搬と水蒸気 カビダニの細菌汚染、換気設備対策、温湿度環境対策</p>		
予習・復習	初日の授業時に授業用のプリントおよび参考資料を配布するので、一読して次回からの講義に備える。		
教科書	授業内にて専門関連のプリントを配布する。		
参考書	授業内にて参考となる専門書を紹介する。		
教材	素材サンプル、専門カタログ等		
履修上の注意	最終日もしくは後日、試験を実施するので講義の要点について理解と確認をしておく。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	毎回配布する資料の理解度と最終試験の成績を総合して評価する。 [A] 講義内容を毎回の専門資料をもとに高いレベルで理解できている。 [B] 講義内容を毎回の専門資料をもとに十分なレベルで理解できている。 [C] 講義内容を毎回の専門資料をもとに理解できている。		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-41	履修コード	417521
科目名	映像演習	科目英語名	Practice of Visual Image Processing
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	コンピュータ室
単位	1	定員	20名
担当教員	○北村賢哉・(非常勤)橋本 謙次郎		
授業概要	自身が提案する新たなサービスや空間デザインの魅力を伝えるプレゼンテーション用映像作品の制作		
到達目標	サービスの概要や空間デザインの魅力を伝えるための映像制作の基礎を修得し、プレゼンテーションの伝達力を高める。		
授業計画	<p>1 ガイダンス ・映像制作のプロフェッショナルに学ぶ</p> <p>2 コンセプトメイク ・先行事例から学ぶ ・アイデアの抽出</p> <p>3 アイデアの展開 ・アイデアの可視化手法を学ぶ ・絵コンテでラフ案制作～決定</p> <p>4 デジタル絵コンテ ・動画制作の基礎を学ぶ ・絵コンテのデジタル化、動画化を行う ・発表、上映会および講評会</p> <p>5 映像制作 ・デジタル絵コンテを具体的な動画制作につなげる ・作品発表、上映会を行う</p>		
予習・復習	デザインプレゼンテーションに用いられる様々な映像を鑑賞しておくこと。		
教科書	概要を印刷したものを配付する。		
参考書	適宜、配付する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が高いレベルに達している。</p> <p>[B]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が十分なレベルに達している。</p> <p>[C]映像制作の基本的な操作スキルが習得され、それを活かして作品が一定のレベルに達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-42	履修コード	3665Z2
科目名	環境デザイン特論	科目英語名	Applied Theory of Environmental Design
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	隔週
専攻・年次	環境デザイン専攻3年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	○坂本英之・畝野裕司・北村賢哉		
授業概要	世界が求め、世界に通用する空間デザインを理念とビジュアルで明示する。空間デザインに関する領域、特にディスプレイからインテリア、建築における空間デザインを捉え、それらに通底する考え方の基本を示す。併せて社会での展開例を示す。		
到達目標	一人一人の潜在能力を引き出し、自分独自の空間デザインを創造して、作品化する起点とする。小論文「私の空間デザイン」にまとめる。		
授業計画	<p>A、空間デザイン</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、最小の空間デザイン 2、生命／自然の空間デザイン 3、凝縮／小宇宙の空間デザイン 4、無／間の空間デザイン 5、デジタルの空間デザイン 6、散／乱の空間デザイン 7、時間の空間デザイン 8、アジアの空間デザイン <p>B、社会での展開例</p> <p>C、小論文</p>		
予習・復習	適時指示する		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	使用しない		
履修上の注意	スライドを中心とした、講義形式をとる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業の理解度、積極的な取り組み姿勢と提出物を総合して評価する。 [A] 課題についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 課題についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 課題についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-43	履修コード	3664Z1
科目名	環境デザイン演習（四）	科目英語名	Practice of Environmental Design (4)
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年環境デザイン演習室
単位	6	定員	20名
担当教員	坂本英之・角谷 修・鏑 隆弘・○畝野裕司・北村賢哉		
授業概要	「空間デザインの探求」 3年生までに培ってきた諸課題をもとに、各自の進路と卒業制作を視野に入れながら個別にテーマを設定し、制作、研究を進める。		
到達目標	各自の進路を確実にするための「ポートフォリオ」の充実と卒業制作につながることをテーマに調査、研究を行う。		
授業計画	<p>■ スタートデザイン 1年生とグループを作り、与えられたテーマについて制作を行う。 この授業はデザインの一般的包括的な基礎的内容をすべて含んでいる。3年生までに修得してきたデザインスキルを活用しテーマに取り組むことで、デザインの目的や考え方の概要を理解するとともに創造的で感動的な、生活や社会を豊かにする目的の空間、環境をデザイン提案することを学ぶ。1年生と共同作業することは、アイデアを引き出すスキルの向上やディレクションに触れることを目的としている。</p> <p>その後、期間を二つに分けて制作、研究を行う。</p> <p>■ 前半 卒業制作を視野に入れてテーマ探求を行う。テーマ探求のきっかけを見つけられるよう、それぞれの学生が興味を持つインテリア・ディスプレイ、建築、ランドスケープなどの空間デザイン分野における、様々なデザイン事例や他校の卒業制作について調査する。 また並行して、「ポートフォリオ」制作コンペ等にも取り組む。</p> <p>■ 後半 「地域連携」と題し、地域環境にある実際の課題を取り上げ、解決するためのデザインを行う。プレゼンテーションでは、現場に関わる方からの講評を頂く。</p>		
予習・復習	各自の進路を明確にするための事前調査、資料収集をおこなってアドバイスを生かせるよう努める。		
教科書	特になし。		
参考書	各自のテーマに合わせた参考資料を紹介する。		
教材	配付プリント・PC		
履修上の注意	各自の進路や卒業制作を意識して取り組む。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート提出物を総合して評価する。 [A] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 演習についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 演習についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-44	履修コード	3624Z2
科目名	環境造形計画論	科目英語名	Theory of Environmental Art
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	○坂本英之（非常勤）内田祥哉・西村幸夫・隈研吾		
授業概要	環境造形という幅広い分野を都市計画、建築、ランドスケープ等の各分野からの先駆的第一人者によるオムニバス講義によって理解する。		
到達目標	環境デザインという広範な分野における専門領域を認識し、環境デザインから得られる造形の方法論を考察し、自身のデザインの手法に活かす術を見出す。		
授業計画	<p>(内田祥哉) 建築構法の立場から、様々な建築の構想から成り立ちに至るプロセスと、それをかたちづくるという実践的な活動を支える構法という分野のものの見方や考え方を講義していただく。建築のディテールとモジュールについて詳しく講義し、それらが持つ世界観をデザイン活動に活かす方法を修得する。</p> <p>(西村幸夫) 都市計画（まちづくり）の立場から、歴史的環境の保全と活用について、様々な事例を通じた取り組みを取り上げ講義していただく。個人の作品とはならず、また、常に変化する環境の中で為されるまちづくりの手法を学び、別の次元のデザイン活動を知ること、幅の広いものの見方、考え方を習得する。</p> <p>(隈研吾) 建築設計の立場から、建築デザイン及び、空間デザイン全体の世界的な潮流について、自身の作品を通じて講義していただく。個人の作品が、社会の中で成立し得る作品性について、建築デザインの領域から学び取り、自身の作品制作に活かす方法論を探る。</p>		
予習・復習	授業の中で適宜、指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	パワーポイント		
履修上の注意	上記、授業計画にあるとおり、いくつかの領域にわたるオムニバス形式です。それぞれの授業を理解した上で、レポートをまとめることが重要です。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート提出物を総合して評価する。 [A] 講義についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 講義についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 講義についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-45	履修コード	3663Z2
科目名	建築法規	科目英語名	Architectural Code
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	
履修区分	必修	教室	
単位	1	定員	20名
担当教員	(非常勤) 高屋利行		
授業概要	建築の計画や設計を行うにあたっての必須知識である関係法令について、建築基準法を中心に解説する。		
到達目標	個々の建築物の防災、衛生的な見地から質的向上を図るための建築規制（単体規定）ならびに集合としての建築に秩序を与え、良好な生活環境の実現を図るために必要な建築制限（集団規定）を習得する。		
授業計画	<p>講義は、パソコンによるプレゼンテーションにて行う。 毎回講義終了時に効果測定（ミニテスト）を行う。</p> <p>(1) 法規を学ぶ為に 用語の定義、面積算定、階数算定 (2) 単体規定 構造全般、防火・避難関係規程 (3) 単体規定 天井高さ、階段の勾配、居室の採光 (4) 集団規定 道路関係、用途地域、健ぺい率、容積率 (5) 集団規定 斜線制限、日影規制 (6) 集団規定 総合設計制度、防火上の地域 (7) その他 建築関連法規、手続き規定など</p>		
予習・復習	状況に応じて、適宜指示する		
教科書	「建築法規用教材 2014」日本建築学会		
参考書	基本建築基準法関係法令集2009年版		
教材	プロジェクター		
履修上の注意	各回のミニテストを必ず提出すること		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期末レポート、学期末試験、積極的な取り組み姿勢を総合して評価する。 [A] 講義についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 講義についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 講義についての基本的な知識や技術が習得されている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-46	履修コード	4176Z1
科目名	地域空間論Ⅱ	科目英語名	Theory of Regional Planning Ⅱ
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	専攻演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○坂本英之（非常勤）未定		
授業概要	地域によって空間にはそれぞれ特徴がある。気候風土をはじめとして、歴史、文化などの地域の特質を与えている要素にはさまざまあるが、ここでは町並み景観をはじめ、住空間や公共空間の具体例を取り上げながら、いかにして地域が持っている特性を引き出して魅力ある空間づくりをするかを論ずる。地域空間論Ⅱは世界的視野を持ちながら、地域空間の特質について考えてみる。		
到達目標	世界の風土の特質を、景観や住空間の形態を通して理解し認識すること。 異なった地域の風土、文化の特性をその場所の空間形態から読み取ることができること。		
授業計画	地域空間をデザインすることを目的に、建築設計や都市デザイン、ランドスケープをベースに要点を解説する。地域が持つ潜在的な魅力を引き出し、生活している人たちの声に耳を傾けながら、地域の歴史性、文化性、固有性等を紡ぎ出す訓練をする。地域空間論Ⅱは、それらの応用的な知識を得る場として位置づけられる。 地域をデザインする上で必要な視点、とりわけ表層の変化を楽しむ空間づくりと深層の変わらないものによる質の保証による総合的な空間操作の方法を修得することを目指す。地域空間論Ⅱは応用的な知識を習得することを目指して進める。 ここでは地域性とその要素について世界的事例について検証する。 1. ヨーロッパと日本、風土の違い 2. ヨーロッパと日本、建築空間の違い 3. 日本の風土と木造建築 4. 木造建築の保存再生		
予習・復習	授業には課題も設定されるので、それらについて予習・復習を行う。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	コピー及びビデオ、PCなどのビジュアル資料		
履修上の注意	短期の集中講義であるので、日程に注意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	理解度、積極的な取り組み姿勢と各講義についてのレポート提出物を総合して評価する。 [A] 講義についての基本的な知識や技術が習得され、高いレベルに到達している。 [B] 講義についての基本的な知識や技術が習得され、十分なレベルに到達している。 [C] 講義についての基本的な知識や技術が習得されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B6)-47	履修コード	4177Z1
科目名	卒業制作	科目英語名	Graduation Work
科目区分	デザイン科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	環境デザイン専攻4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	4年環境デザイン演習室
単位	10	定員	20名
担当教員	坂本英之・角谷 修・鏑 隆弘・○畝野裕司・北村賢哉		
授業概要	これまで専攻演習を中心に修得した専門知識や表現力等をもとにテーマを設定する。学部を締めくくるとして社会性を重視すると共に学生の立場から新規の発想や提案を伴うよう考慮する。最終成果のみならず、途中経過を重視することにより研究としての完成度を高める。		
到達目標	テーマ、企画の設定を重視する。途中経過を3段階（企画審査、モデル審査、プレゼン・記録）に分けて、各審査を目標に計画的に進める。		
授業計画	<p>学生を担当教員5名をもとに5チームに分けて、各チーム内で計画的にミーティング、プレゼンテーションを実施して段階的に進行させる。 各教員の担当領域について以下の通り。</p> <p>建築・都市計画領域（坂本） 都市計画、建築デザインを主体にその関係の分野を指導する。</p> <p>商環境・展示計画領域（角谷） 商業施設、展示デザインを主体にその関係の分野を指導する。</p> <p>庭園・屋外空間領域（鏑） 緑地、ランドスケープを主体にその関係の分野を指導する。</p> <p>ブランディング・ディスプレイ（畝野） 商品企画、ディスプレイデザイン全般を主体にその関係の分野を指導する。</p> <p>プロダクト・什器計画（北村） 住環境、設備・什器デザインを主体にその関係の分野を指導する。</p> <p>チーム内の授業と並行して全体の審査を定期的に以下のように実施する。 1、企画審査／テーマ、企画に基づきプレゼンテーションを行う。 2、モデル審査／図面等を基本に空間への変換としてモデルやそれに相応しい表現に置き変える。 3、プレゼン・記録審査／最終のプレゼンの評価とその記録について審査する。</p>		
予習・復習	各自のテーマに基づき調査、取材を事前に実施する。		
教科書	各自のテーマに基づき専門関連の図書を指示する。		
参考書	各自のテーマに基づき専門関連の図書等を紹介する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	各自の制作計画を早めて立てると共に、その進行について毎回確認を怠らない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	各チーム内での進捗確認と定期的なプレゼンテーションの成果を総合して評価する。 [A]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが高いレベルでできている。 [B]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりが十分なレベルでできている。 [C]テーマの確立と計画的な制作工程を踏んでいることと最終的な仕上がりを確認できた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-01	履修コード	4187Z1
科目名	工芸演習（一）	科目英語名	Practice of Craft (1)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	5	定員	20名
担当教員	畠山耕治・田中信行・山村慎哉・山本健史・原 智・大高 亨・池田晶一・〇足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・水代達史		
授業概要	工芸に関わる歴史・文化・社会的な視点を理解し、目的・機能・用途・使用環境の内容を、制作などを通して包括的に学習する。素材別に大きく4コース（染織、漆・木工、陶磁、金工）にわけ、それぞれの基礎的な技法、方法論を学ぶとともに、各自の希望に基づき適正と方向を確認する。		
到達目標	<p>工芸分野における素材・材料・道具・工具の基本的理解とその使用や管理における安全性の確認、制作意図に応じた方法・技術を理解する。工芸素材の使用を体験し、表現の基礎を習得するとともに制作意識の向上を図る。</p> <p>〔染織コース〕 繊維素材の特徴について基礎知識の習得。基本的な繊維加工プロセスを論理的に理解し、作品制作へ応用が可能な技術を習得する。</p> <p>〔漆・木工コース〕 木材の基礎的な加工技術・工具の扱い方を習得する。 漆の基礎的な技法や工程を理解し、それに伴い意匠の考え方や加飾表現の原理について理解する。</p> <p>〔陶磁コース〕 土の基本的な知識と扱い方を習得すると共に、陶磁の制作工程を学ぶ。 また土による造形表現の原理について学ぶ。</p> <p>〔金工コース〕 金工の基礎知識を習得し、その特性を生かして制作を体験する。</p>		
授業計画	<p>工芸全般を歴史や文化的意義あるいは表現の特質から理解する。素材の特性を知り、工芸における発想法、表現の方法、さらに目的に即した技法・技術を理解する。</p> <p>各コースの専門分野について、導入・第一部・第二部に分けて演習を行う。 演習終了後にオリエンテーションを行い、担当者が各コースの概略を説明し、専門のコースを各自選択、決定する。 その後各コースの基礎演習を行う。</p> <p>〔染織コース〕 担当：大高、足立、加賀城 繊維素材と人類との関わり、伝統的な繊維素材の加工法と最先端の繊維素材についての講義から、初歩的な加工体験を行ない、素材と技法の関連や表現についての理解を図る。また同時に素材に対する自己の適性を探る機会とする。 第一部・第二部 染色と織物の基礎一糸から布へ ・「織物の制作1 平織」 ・「織物の制作2 織物の構成要素」 ・「繊維素材の加工と染色」 ・「素材を糸にする」演習、「糸の知識」 ・「作品制作」織物の構想と設計、素材の選定、製織の基礎を実制作を通じ習得する。 ・「合評」制作プロセスに注視し、素材、技法への理解を深める。</p> <p>〔漆・木工コース〕 担当：田中・山村・青木 漆および木材の基礎的な知識や制作技術を習得する。 第一部 一木工一 木材の特性や性質を知り、その加工技術や道具の扱い方を習得し、あわせて木材における造形の基礎的な考え方や方法論を学ぶ。また仕上げとして漆による拭き漆仕上げを体験する。 第二部 一漆芸一 塗りと加飾を体験し、漆芸の基礎的な知識及び素材、道具の扱い方を習得する。 具体的な課題としては、用意した漆パネルに加飾（蒔絵・螺鈿・変わり塗り等）を施す。</p> <p>〔陶磁コース〕 担当：山本・池田・宮永 第一部 土の特性や性質を知り、造形表現の可能性と展開方法を学ぶ。成形から焼成までの流れを知り、各段階における作業内容について基本的な理解をする。 ・手びねりによる成形</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ロクロによる成形 ・鑄込みによる成形 □・焼成 <p>第二部 土と焼成について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土と自身とのかかわりについて改めて考える。 ・野焼きによる焼成を通じて土がやきものになるということを体感する。 ・上絵付けによる加飾を行う。 <p>〔金工コース〕 担当：畠山・原・水代</p> <p>彫・鍛金と鑄金の分野に別れ、それぞれ第一部・第二部の日程で、金属工芸に関する基礎知識の向上を図り、作品の制作を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑄金分野 蠟原型制作から鑄込み、仕上げまでの制作を行う。 ・鍛金分野 銅板から基本手紋りにより、回転体を制作する。 ・彫金分野 鍛金技法で制作した胎に、銀線象嵌を行う。 <p>まとめ（講評） 制作した作品の鑑賞と講評を通し、工芸領域におけるの表現の方法、素材の活用を理解する。自然と工芸の関わりあるいは社会や生活における工芸の役割などを考え、日本・アジア・諸外国などの伝統や地域工芸文化の理解を深める。</p>
予習・復習	予習、復習を要する。詳細は授業において指示する。
教科書	適宜指示する。
参考書	資料を配付する。
教材	適宜指示する。
履修上の注意	特になし。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。</p> <p>[A]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C]それぞれのコースにおける造形素材について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B7)-02	履修コード	3702Z1
科目名	描出演習	科目英語名	Practice of Representation
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○原 智・浅野隆・荒木恵信		
授業概要	もの作りに必要な発想、展開にかかわる描写力の幅を広げ、創作思考の能力を養う。		
到達目標	演習を通して、目的に合った描写方法を選択し、効果的な表現が出来ることを学ぶ。		
授業計画	<p>鉛筆・毛筆による描出演習</p> <p>描出道具とその扱い並び技法について、描写や講義を通して学ぶ 創作工程に応じた描出の表現方法を体験する。</p> <p>授業計画Ⅰ（原）</p> <p>作品制作に於ける描出の重要性について学ぶ。 それぞれのコースに於いて制作する物に対して的確な表現を行う様に描出の基本を演習を通して学び表現する。</p> <p>授業計画Ⅱ（浅野） 工芸作品の基礎的表現力、自身の発想や考え方を美しく魅力的な造形に落とし込み、第三者が共感する作品をプレゼンテーションできる方法を講義する。 マーカースケッチ 1、スケッチの種類と現場での使われ方をスライドにより紹介。 2、パースの基本（2消点基本図法、簡略図法、円、球体、分割、増殖、角R、明暗・陰影、立方体デッサン 3、ハイライトレンダリング（電話器） 4、マーカー・パステルスケッチの基礎（時計、家電製品、カメラ、車） 5、ラフスケッチ（カメラ）スケッチフォーマット、構図、大きさ、パース、配色、光と影、線の種類、マーカーの塗り方、背景、引き出し線、文字、リフレクション、素材表現、魅力あるグラフィック表現の解説。</p> <p>授業計画Ⅲ（荒木） 日本古典絵画（平安時代の仏画または絵巻物）の模写（臨模）を通して毛筆による線描を学ぶ ・秒線についての説明 鉄線描や肥瘦線など図版を参照しながらそれぞれの描線の特徴を理解する ・文房四宝についての説明 線描に必要な道具である筆や硯の特徴や各部分の名称、使い方と保存方法を解説する 線描に用いる材料である紙と墨についても取り扱い方やそれぞれの原材料、製造工程等を解説する ・模写の実施 手本となる日本古典絵画を横に置き和紙に写すことで線描の基礎を習得する 1、和紙にドーサ液で滲み止めを施す 2、仮張りにかける 3、仮張りからはずし、模写を実施する</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において支持する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	学生準備 植物、クロッキー帳、イラストボードA3、鉛筆デッサン用具、墨（墨汁不可）、硯、面相筆数本（穂先のあるものを準備）、水張りテープ 教材費 約500円（和紙とドーサ液の代金として）		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	演習を通して描出の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [A] 描出表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、平面表現が高いレベルに達している。 [B] 描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力が十分なレベルに達している。		

	<p>[C] 描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力がある一定のレベルに達している。</p>
<p>成績評価（平成30年度以降入学者）</p>	<p>演習を通して描出の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。 [S] 描出表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、平面表現が主特に秀でた高いレベルに到達している。 [A] 描出表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、平面表現が高いレベルに達している。 [B] 描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力が十分なレベルに達している。 [C] 描出表現を行うための基礎的な知識が習得され、平面表現を行うための思考力や描写力がある一定のレベルに達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B7)-03	履修コード	3703Z1
科目名	形態演習	科目英語名	Practice of Modeling
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○田中信行・畠山耕治・山本健史・足立真実		
授業概要	表現に必要な基礎的な造形感覚を養うことを目的とする。演習を通して素材と表現の関係、造形の考察、形と質感、造形とリズム、立体と空間に対する理解を深める。		
到達目標	各自の創造的な制作活動を行う上での基礎的な造形力の習得。		
授業計画	<p>1、現代社会における工芸の役割と可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 工芸とアート、デザインについて考察する。 <p>2、表現すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現する者としての視点を獲得する。 ○ 素材が持つ特性と表現との関係を考える。 ○ 自分が関心を持つモノやコトを表現へと発展させる。 <p>3、段ボールを用いて「自然」をテーマに表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○素材と表現の関係を考える。 ○サイズは自由とする。 ○空間と作品の関係を考える。 ○構造について考える。 <p>4、展示室に作品展示し学生が主体となって講評会を行う。</p>		
予習・復習	作業の性質上時間外の制作が必要になることがある。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	演習に関わる費用は自己負担。 段ボールの入手方法は各自で考えること。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>演習を通して造形の諸要素に対する基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[A]表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、思考力や表現力が高いレベルに達している。</p> <p>[B]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力が十分なレベルに達している。</p> <p>[C]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力がある一定のレベルに達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>演習を通して造形の諸要素に対する基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[s]表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、思考力や表現力が特に高いレベルに達している。</p> <p>[A]表現を行うための基礎的な知識が十分に習得され、思考力や表現力が高いレベルに達している。</p> <p>[B]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力が十分なレベルに達している。</p> <p>[C]表現を行うための基礎的な知識が習得され、思考力や表現力がある一定のレベルに達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-04	履修コード	3704Z1
科目名	色彩演習	科目英語名	Practice of Coloring
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	大高 亨		
授業概要	色彩基礎及び実用的色彩表現		
到達目標	理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見		
授業計画	<p>講義 色彩とは 色彩学を基本にした色の体系 色彩の3要素と色立体の把握 配色計画</p> <p>制作 ・色相環の制作 ・グレースケールの制作。 ・明度対比：色相対比：彩度対比など各種色彩対比を体験する。 ・色彩分析：絵画作品から色彩を抽出して、イメージ化（配色計画）につなげ、色彩による表現手法を学ぶ。 ・描出演習でのドローイングから、色彩と文様やパターンへの関係を探る。 ・立体と色彩：素材、造形と色彩の関係を探り、表現へと展開する。</p>		
予習・復習	色彩の能力向上のためには色に関心を持ち続ける事が大事です。漠然と見てないで、色を観察してください。 そのためには、事前の予習と終了後の実践が何より大切です。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	色彩の書物は沢山出版されている、目的にあった書物を選ぶことが、必要です。		
教材	日本色彩研究所など色彩に関する資料。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	自己評価としての合評会を制作終了の都度行う。 成績は各制作品、授業態度を総合的に判断し評価する。 [A] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見が、高いレベルで実践、作品化できている。 [B] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をしており、一定のレベルで実践、作品化できている。 [C] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をし、実践、作品化されている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	自己評価としての合評会を制作終了に行う。 成績は各制作品、授業態度を総合的に判断し評価する。 [S] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見が、非常に高いレベルかつ深く実践、作品化できている。 [A] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握と発見が、高いレベルで実践、作品化できている。 [B] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をしており、一定のレベルで実践、作品化できている。 [C] 理論的色彩基礎の理解及び色彩表現の可能性の把握をし、実践、作品化されている。		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-05	履修コード	3705Z1
科目名	材料学演習（繊維）	科目英語名	Practice of Material Science (Fiber)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	21名
担当教員	○加賀城健・大高 亨・足立真実		
授業概要	作品制作を通して繊維素材（布）及び染色に関する基本的な知識や技法を習得する。		
到達目標	作品制作を通して繊維素材（布）への模様づくりについて理解すると共に、基本的な設備や道具の扱いについての習得を目標とする。		
授業計画	<p>○レクチャー 繊維素材（布）や道具、技法など、染色に関する基礎知識を身につける。</p> <p>○制作 布に模様をつける技術を学び、素材としての特質を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ステンシル <ul style="list-style-type: none"> ・ 図案作成 ・ 型彫り ・ 染色 ・ 定着、仕上げ 2. 藍染 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図案作成 ・ 絞り ・ 染色 ・ 仕上げ <p>○講評 制作した作品を鑑賞講評し、繊維素材（布）や染色の可能性及び自己の適正を考察する。</p>		
予習・復習	繊維素材に関わる造形作品など参考となる文献やウェブサイトをチェックし、繊維素材特有の素材感を体得する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業態度、制作プロセス、提出作品により総合的に評価する</p> <p>[A] 素材に関する知識技術を体験的に理解し、それを生かしたオリジナルの造形表現の試みが高いレベルに達している。</p> <p>[B] 一定の素材体験がなされ、素材に対する基礎知識が体得できている。</p> <p>[C] 最低限の素材体験がなされた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業態度、制作プロセス、提出作品により総合的に評価する</p> <p>[S] 素材に関する知識技術を高いレベルで実践、理解し、それを生かしたオリジナルの造形表現が非常に高いレベルに達している。</p> <p>[A] 素材に関する知識技術を体験的に理解し、それを生かしたオリジナルの造形表現の試みが高いレベルに達している。</p> <p>[B] 一定の素材体験がなされ、素材に対する基礎知識が体得できている。</p> <p>[C] 最低限の素材体験がなされた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-06	履修コード	4188Z1
科目名	材料学演習（粘土）	科目英語名	Practice of Material Science (Clay)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	山本健史・池田晶一・○宮永春香		
授業概要	造形材料としての土、粘土の基本的な知識を理解し、材料体験を通して加工技術と表現方法を習得する。		
到達目標	造形材料としての土、粘土の基本的な知識と扱い方を習得する。		
授業計画	<p>○材料学 材料表現の基礎知識や、素材、技法、焼成を体系的に理解し造形材料としての土、粘土について考察する。</p> <p>○土の特質を学び、造形材料としての取り扱い方や表現方法を習得する。</p> <p>①ろくろ実習 ろくろ成形において土とろくろの回転により造形する技術を理解する。</p> <p>②手びねり実習 土を積み重ねて面を構築する技術を理解する。</p> <p>③タララ、練り込み実習 タララ(板状の粘土)を用い、成形する技術を理解する。また、練りこみにより、様々な模様を作り出す技術を理解する。</p> <p>④上絵実習 絵具の磨り、描画、盛絵という上絵の基本的行程を理解する。</p> <p>⑤焼成実習 野焼焼成を体験し、焼成工程を理解する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-07	履修コード	4189Z1
科目名	材料学演習（石膏）	科目英語名	Practice of Material Science (Plaster)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H28～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	池田晶一・○青木千絵		
授業概要	造形材料として石膏の基本的な知識を理解し、材料体験を通して加工技術と表現方法を習得する。		
到達目標	造形材料としての石膏の基本的な知識と扱い方を習得する。		
授業計画	<p>○材料学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に造形や型の素材としての、石膏についてレクチャーを行い、石膏の扱いに関する知識の習得や技術を身につける。 <p>①石膏の特質を学び、造形材料としての取り扱い方を習得する。</p> <p>②石膏を利用した成型方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏の取り扱いと注意 ・石膏を利用した成型方法について説明 <p>③石膏を用いた型の制作について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型の設計についての注意点 ・目的に応じた型の制作について <p>○原形制作実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のテーマを設定し、原形の制作を行う。 <p>○石膏型制作実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原形から、石膏型の制作を行う。 ・型の設計 ・型の制作 <p>○石膏型から形を起こす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・型に石膏を流し込み、原形の形を石膏に置き換える。 ・仕上げ加工 		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが非常に高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。</p> <p>[C] 石膏の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-08	履修コード	4178Z1
科目名	材料学演習（木材）	科目英語名	Practice of Material Science（Wood）
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	田中信行		
授業概要	作品制作を通して木材及び漆についての基礎的な知識、制作工程、道具の扱いについて習得する。		
到達目標	制作体験を通して木材及び漆の魅力に触れると共に、素材についての基本的な知識を理解し、合わせて制作工程、道具の扱いについて習得することを目標とする。		
授業計画	<p>1 レクチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風土と素材 ・木材と漆に関する基礎知識 ・素材の特質と可能性について <p>2 作品制作</p> <p>課題 1「手に優しい形」 2「生命」</p> <p>テーマにそって木材及び発泡スチロールを加工して形を制作し、課題1は拭き漆仕上げ、課題2は乾漆技法による制作を行う。</p> <p>課題 1,2 ・形の検討（粘土、発砲スチロール等を用いて形を考える）</p> <p>課題 1,2 ・工程及び道具の説明</p> <p>課題 1 ・木材切削 加工 課題 2 ・発泡スチロール切削 加工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木地調整 ・麻布貼り ・拭き漆による仕上げ ・下地 ・漆塗りによる仕上げ <p>3 講評</p> <p>制作した作品の鑑賞と講評を通して、木材及び漆の魅力、素材と表現の可能性について考察する。</p>		
予習・復習	事前に課題に対する構想、アイデア、形態を考えておくこと。		
教科書	授業において適宜指示する。		
参考書	木工の鑑賞基礎知識 漆芸品の鑑賞基礎知識 日本の美術 No. 254 乾漆仏		
教材	筆記用具、カッター、定規、スケッチブック、作業着 材料費として2000円程度が必要となる。		
履修上の注意	素材の性質上かぶれる恐れがあります。授業中にかぶれについての予防策及び対応策について説明します。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業への積極的な参加姿勢及び提出作品を以下の視点から総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業への積極的な参加姿勢及び提出作品を以下の視点から総合して評価する。 [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高い		

レベルに達している。

[B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。

[C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。

平成31年度シラバス

番号	(B7)-09	履修コード	4179Z1
科目名	材料学演習（金属）	科目英語名	Practice of Material Science (Metal)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	1	定員	20名
担当教員	○畠山耕治・原 智・水代達史		
授業概要	金属工芸材料の基本的な加工技術、並びに表現の可能性を講義し、材料の使用体験を通して、各種金属に対する知識を持たせると共に専門技法を修得させる。		
到達目標	金属の種類やその特性を講義し、基本的な加工技術と素材表現、工具や道具の使い方を体験することで修得させる。		
授業計画	<p>○金属工芸の歴史と表現についてレクチャーをする。 また実際に画像・参考資料を使いながら解説をする。 日本に於いて、金属工芸はその技法により三つに分類されてきた。 鑄金・彫金・鍛金である。 本演習ではそれぞれの技法によって生かされる素材について具体的に実践を通して理解し、表現の幅を広げる。</p> <p>○伝統的な金属加工技術に関してレクチャーをする。 金属を加工するに当たり、素材を扱うために使用する道具類も重要になる。 鑄金では鑄型を制作するためのヘラや仕上げに使用するヤスリや鑿、彫金では金属を彫るための鑿、鍛金では金属を叩いて絞るための金鎚と当て金などである。 本演習では実際にそれらの道具を扱うことと自身で加工整備することにより一層の理解を深める。</p> <p>○実際にワークショップ形式で実演して、金属の塑性加工を解説する。 高温で加熱し金属の塑性を変化させたり、薬品を使用して発色させることで、素材ごとの加工特性を理解する。</p> <p>○金工作品の制作方法を工程サンプルなどの提示を通して解説する。 プランニングから最終形態に至るまでを実際に提示し、加工工程をくまなく理解する。</p> <p>○鑄金・彫金・鍛金技法で制作された作品を鑑賞し、帰納法的にその作品の成り立ちを考える。</p>		
予習・復習	演習に際し、制作する作品の加飾をデザインする。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	金属加工道具、工具一式。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[A] 金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、金属素材に対する意識が高いレベルに達している。</p> <p>[B] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、金属素材による表現を行うための思考力や描写力が十分なレベルに達している。</p> <p>[C] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、金属素材による表現を行うための思考力や描写力がある一定のレベルに達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[S] 造形素材としての粘土の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、金属素材に対する意識が高いレベルに達している。</p> <p>[B] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、金属素材による表現を行うための思考力や描写力が十分なレベルに達している。</p> <p>[C] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、金属素材による表現を行うための思考力や描写力がある一定のレベルに達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-10	履修コード	4180Z1
科目名	写真演習	科目英語名	Practice of Photograph
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	1	定員	20名
担当教員	○池田晶一、鈴木康雄		
授業概要	写真の基礎知識と撮影の基本(機材、照明、デジタル処理など)を学び、写真表現とその技術を修得する。		
到達目標	実習を通して、作品やモチーフ、資料などの写真撮影が可能になることを目標にする。		
授業計画	<p>写真の基礎と撮影の基本を全8回に分けて講義、演習する。</p> <p>「写真の基礎」</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真撮影の基礎知識 カメラ、レンズ、感光素材の種類と構造 写真撮影の基本技術 写真撮影の基本技術と道具の種類や使用方法 <p>「撮影」</p> <ul style="list-style-type: none"> スタジオの使い方、ライティング(鈴木康雄) <p>「撮画像処理」</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルデータの加工と扱い方 撮影1 自己の作品をモチーフに、構図、照明、パソコンでの画像処理を体験する。 撮影2 テーマを与え、そのテーマに沿って作品制作を行う。 資料作成 ポートフォリオの作成の基礎を学ぶ 		
予習・復習	各回ごとにテーマを設け写真撮影などを指示する。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じて資料を配付する。		
教材	デジタル撮影機器を用意すること。(詳細は別途指示する。)		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 写真について基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、授業課題への取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 写真について基礎的な知識や技法・技術を理解し、授業課題への取り組みが一定のレベルに到達している。</p> <p>[C] 写真について基礎的な知識や技法・技術を学び、授業課題に取り組めた。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 写真について基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、授業課題への取り組みが非常に高いレベルに到達している。</p> <p>[A] 写真について基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、授業課題への取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] 写真について基礎的な知識や技法・技術を理解し、授業課題への取り組みが一定のレベルに到達している。</p> <p>[C] 写真について基礎的な知識や技法・技術を学び、授業課題に取り組めた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-11	履修コード	4185Z1
科目名	デザインプロセス	科目英語名	Practice of Design Process and Techniques
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	○池田晶一、水代達史		
授業概要	工芸におけるデザインの一連のプロセスを理解した上で、自らのクリエイションを社会に送り出す手法について理解を深める。また、そのための技術を理解する。		
到達目標	社会背景を見据えたりサーチを元に、プレゼンテーションの基礎的知識を理解し活用できるよう身につける。		
授業計画	<p>1. レクチャー 現代社会における工芸の役割と、工芸表現の広がりや可能性を考察する。</p> <p>2. プレゼンテーションの基本を学ぶ プレゼンテーションに必要な画像資料の作成方法（Illustrator、Photoshop、PowerPointなど）や表現手法を学ぶ。</p> <p>デジタルデータの扱い、活用方法を理解し、具体的にポートフォリオの作成に必要なことを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Illustrator 線の描き方、曲線の描き方から思い通りの描画、図面を描く技術を学ぶ ・ Photoshop 画像処理の方法を学ぶ <p>3. プレゼンテーション プレゼンテーション・ディスカッションを通して、作品や製品を社会へ送り出す手法について学ぶ。また、工芸からプロダクトデザイン等多様な領域への広がりを総合的に学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PowerPointでの資料作成、プレゼンの基礎を学ぶ 		
予習・復習	詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[A] デザインのプロセスや必要な知識を深く理解し、授業課題への取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] デザインのプロセスや必要な知識を理解し、授業課題への取り組みが一定のレベルに到達している。</p> <p>[C] デザインのプロセスや必要な知識を学び、授業課題に取り組めた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合的に評価する。</p> <p>[S] デザインのプロセスや必要な知識を非常に深く理解し、授業課題への取り組みが非常に高いレベルに到達している。</p> <p>[A] デザインのプロセスや必要な知識を深く理解し、授業課題への取り組みが高いレベルに到達している。</p> <p>[B] デザインのプロセスや必要な知識を理解し、授業課題への取り組みが一定のレベルに到達している。</p> <p>[C] デザインのプロセスや必要な知識を学び、授業課題に取り組めた。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-12	履修コード	4190Z1
科目名	伝統文化論	科目英語名	Theory of Traditional Culture
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度	H30～	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科1年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	必修	教室	工芸科1年演習室
単位	2	定員	24名
担当教員	原 智・○足立真実（非常勤）矢地幸子・奈良宗久		
授業概要	日本には茶道などに代表される伝統的な作法や形式からくる美意識が存在する。金沢美術工芸大学はそれら日本文化の色濃く残る金沢という土地にあり、身近に日本文化への知見を深められる環境である。金沢にある茶道・古典芸能・食文化の体験を通して、伝統文化を学ぶ。講義と茶道具類の拝見、茶道体験を通じて日本美とその文化性を学ぶ。華道の歴史と文化的背景を講義によって学び、華道を体験することによって美意識を学ぶ。古典芸能の見方や道具、衣装の構成などの講義と鑑賞を通して日本文化の美と工芸との関係を知る。和食にある日本文化やそこにある美意識を体験から学ぶ。		
到達目標	日常生活に於ける美の心と伝統文化の根ともいえる室町から江戸にかけての日本文化を茶道と古典芸能を通して学び、工芸との関わりについて理解を深める。		
授業計画	<p>○茶道(奈良) 茶道の歴史を通して日本の伝統文化の変遷を下記の項目で説明する。 1、中国のお茶と日本のお茶の比較。 2、お茶の伝播と日本の茶文化の関係。 3、日本の各時代における茶道と社会のつながり。 4、茶道の歴史とその意義。茶道が日本文化にもたらしたものは何か。 5、茶道が金沢に与えた文化面の影響。 6、茶道具の種類と見方、設えについて。 茶道体験と茶室の構成、作法を知る体験と茶道具の解説、拝見。</p> <p>○華道(矢地) 華道の歴史や成り立ちを講義形式で説明する。 華道実習では、池坊流派の基本的な形式を指導し、それぞれの美意識によって花を活ける。</p> <p>○古典芸能 古典芸能の鑑賞、能または日本舞踊の鑑賞と説明を受け、そこに用いる道具類、衣装の役割と使い方を学ぶ。 特に金沢の能楽は、加賀藩前田家武家の式楽として保護、育成を図り広く奨励したことから「加賀宝生」として独自の発展を遂げた。「加賀宝生」は無形文化財に指定され、「能楽」はユネスコの無形文化遺産に登録されている。 金沢市能楽美術館に於いては貴重な美術品と伝統芸能を直に触れ能楽の魅力を感じ取る。</p> <p>○和食 「和食」は2013年12月4日、ユネスコ無形文化遺産に登録された。 ここでいう「和食」は味噌汁や懐石料理といった料理そのものではなく、日本人の食におけるさまざまな社会的習慣を指す。金沢市近郊にある老舗割烹にて実際に懐石料理を食することで直に食の文化の一端を経験し、工芸のみならず日本文化に対する理解を深める。</p>		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。 実習にかかる費用を適宜集める。およそ1万円から1万5千円程度。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)			
成績評価(平成30年度以降入学者)	体験実習とレポート、課題到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する特に秀でたレベルに到達している。 [A] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する高い能力が認められる。 [B] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する能		

力が認められる。
[C] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。

平成31年度シラバス

番号	(B7)-13	履修コード	3852Z1
科目名	工芸演習（二）染織	科目英語名	Practice of Craft (2) Textile
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	12	定員	20名
担当教員	大高 亨・足立真実・○加賀城健（非常勤）平木三重子・吉本大輔・安達大悟・弘田朋実		
授業概要	染織作品制作のための基礎として諸技法の習得と、素材の性質の理解、染料の理論と実際を学ぶ。伝統工芸、テキスタイルアート、テキスタイルデザインの領域に対し、学生が柔軟な姿勢で制作に励むことが可能な授業展開を行う。		
到達目標	染織基礎技法を習得しながら、繊維素材の魅力と表現の可能性を体験的に習得し、専門性を深め追求する姿勢を養う。		
授業計画	<p>各演習講座を1～5週かけて開講する。2つの演習を同時期に平行して行う場合がある。講座では必要に応じ、映像資料、実物資料を用いる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 染織の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> 染色とは、染まるとは、繊維素材と織物組織、模様をつくるとはどういう事か、その方法とは等。 素材研究－糸紡ぎ、自然発酵建藍仕込み、藍生葉染（弘田） 織物制作に関する基礎知識：演習と講義（大高・平木三重子） <ul style="list-style-type: none"> 「織物の多様性の理解」 <ul style="list-style-type: none"> 歴史的視点、機能的視点、美術的感性で織物をとらえる。 「糸と素材の知識」 <ul style="list-style-type: none"> a. 織物の素材としての各種繊維素材の特性の理解 b. 製糸、紡績、紡毛のしくみと特徴の理解 d. 糸の番手の理解。実際的な計算法。 c. 糸の扱い方の実際 「織物のしくみ」 <ul style="list-style-type: none"> a. 線から面へ。織物組織の理解と構造物としての織物のしくみの理解。 b. 組織図作成、読み取りの習得。 「製織の実際」 組織サンプルの制作 <ul style="list-style-type: none"> a. 機の基礎知識－歴史的、地域的、文化的な視点から機の構造を見る－ b. 織物のデザインプロセスの理解。（企画から設計の流れ） c. 製織作業の実際（糸の管理と扱い、整経、経糸の巻き取り、機の整備、製織） d. 織物の仕上げ加工の知識と実際 e. コンピュータードビーのデモンストレーション f. 紋紙ジャカードのデモンストレーション 絞染（浸染法の実際） 演習（加賀城・安達） <ul style="list-style-type: none"> 歴史、技法、道具と材料、染色技法の講義、実演。 絞りによる表現サンプルを作る。 表現における絞り染め技法の意義と造形性の考察をもとに作品制作。 蠟防染と糊防染（加賀友禪）（蠟と糊による手描） 演習（加賀城・吉本） <ul style="list-style-type: none"> 歴史、技法、道具、材料の解説。 蠟の性質、糊の性質を知る。 基礎的な技術と表現の組みあわせを学ぶ。 表現における蠟染と加賀友禪の意義と可能性の考察をもとに作品制作。 デジタルテキスタイルプリント（大高） <ul style="list-style-type: none"> デジタルテキスタイルソフトの専門的ツールの実践。 基本的パターン展開を学ぶ。 テキスタイルデジタル機器のしくみ、制約等を学ぶ。 基礎知識を踏まえ、制作を行う。 緋の織物 演習（足立） <ul style="list-style-type: none"> 歴史と地域、道具についての解説。 経緋、緯緋の技法の理解、習得と、意匠表現の特徴を理解する。 この技法による視覚特性を活かした図案の構想と、織物の設計。 各自の構想と設計に基づいた、経緋と緯緋それぞれのサンプルピースの制作。 羊毛、絹を中心とした動物繊維の特性の理解、染色、加工、仕上げの実際。 型染 演習（加賀城） <ul style="list-style-type: none"> 伝統的な型染めの技法・道具に関する基礎的な理解。 スケッチ、図案作成、型彫り、染色まで、一連の工程を習得する。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手彫り型紙による表現を理解し、生地白の魅力を体験する。 ・ 型染の特長を踏まえた小品の制作を試みる。 <p>9. スクリーンプロセス 演習（大高）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な工程の理解から、材料・道具の使用に習熟する。 ・ 連続パターンの視覚的効果の研究から、独自のプリント生地を制作。 ・ スクリーンプロセスの表現の自由さを生かした個性的な作品制作を期待する。
予習・復習	<p>十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。</p> <p>予習：科目ごとに適時指示する。</p> <p>復習：演習作業、レポート／サンプル帳等の作成</p>
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
教材	学生が手配する必要があるれば事前に指示する。
履修上の注意	特になし。
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>演習における制作プロセス、提出作品、レポートにより評価する。</p> <p>[A] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。</p> <p>[B] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が活かされている。</p> <p>[C] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が用いられている。</p>
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>演習における制作プロセス、提出作品、レポートにより評価する。</p> <p>[S] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が非常に高いレベルで活かされている。</p> <p>[A] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。</p> <p>[B] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が活かされている。</p> <p>[C] 素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が用いられている。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B7)-14	履修コード	3853Z1
科目名	工芸演習（二）漆・木工	科目英語名	Practice of Craft (2) Urushi・Wood
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室
単位	12	定員	20名
担当教員	田中信行・山村慎哉・○青木千絵（非常勤）山岸一男・田村一舟・荒川文彦・金田一司・酒井 忍		
授業概要	漆および木工の基礎的な知識、技術を習得する事を目標とする。特に素地の調整・制作と、さまざまな基礎的技法について学び、知識、技術の向上をはかる。		
到達目標	漆工用具の制作を行い、扱い方の理解を作品制作と共に修練する。木地、乾漆、割物、指物などの漆素地制作と下地法、漆塗り法、蒔絵、沈金、螺鈿、卵殻などの加飾技法を学び、各種基礎的技法の習得を目標とする。		
授業計画	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漆工用具（山村・青木） 制作で使用する道具（篋、塗師刀、砥石作り等）を学ぶ。 ・手板制作（青木） 漆の基礎技術（素地調整、下地、塗り、呂色法等）を各工程順に学び、その成り立ちと制作方法を習得する。 漆刷毛の使用法、上塗りの技法について学ぶ。（荒川） ・沈金技法（山岸） 道具（沈金刀、砥石等）の使用法および材料について学び、沈金による手板制作を行う。 <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蒔絵技法（田村） 平蒔絵、研出蒔絵、高蒔絵の制作方法や各種粉の表現方法、仕上げの技術について学ぶ。 ・螺鈿、卵殻技法（山村） 薄貝、卵殻を用いた加飾技法を習得する。 ・漆箱制作（山村） 漆箱のデザイン、製図、制作方法について学ぶ。 指物技法における道具（鉋、鋸）の使用法を学び、箱木地の制作を行う。（酒井） ・乾漆基礎（田中） 器の制作を通して基本的な乾漆技法を習得する。 ・割物技法（金田） 道具（鑿、彫刻刀）の研ぎの技術の取得、割物による造形制作を行う。 		
予習・復習	参考書を中心とした事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	授業時にプリントを配布。		
参考書	沢口五一『日本漆工の研究』美術出版 『蒔絵』、片岡華口『螺鈿』（無形文化財記録シリーズ）第一法規出版 小松大秀・加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 各種図録 *図書館で利用可		
教材	漆工道具一式、漆、下地材料多種。制作時に随時指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	漆工用具の製作、扱い方の理解、各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：呂色仕上げ手板（朱、黒）、沈金手板、蒔絵手板、漆箱、器物（乾漆）、器物（割物） [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。		

成績評価（平成30年度以降入学者）	漆工用具の製作、扱い方の理解、各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：呂色仕上げ手板（朱、黒）、沈金手板、蒔絵手板、漆箱、器物（乾漆）、器物（割物） [S] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。
--------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(B7)-15	履修コード	3854Z1
科目名	工芸演習(二)金工	科目英語名	Practice of Craft (2) Metal
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	12	定員	20名
担当教員	○畠山耕治・原 智・水代達史 (非常勤) 桂 盛仁・川合純司・宮崎 匠・平戸香菜・上田 剛		
授業概要	鑄金・彫金・鍛金に於いて、工具の整備を始まりとし、各種道具に対する理解を深めさせる。また金属加工に於ける基礎的技術と技法を演習する。		
到達目標	金属工芸の基礎を学び、金属加工全般に関する知識を広める。		
授業計画	<p>鑄金・彫金・鍛金 畠山・原・水代(非)桂・川合・宮崎・平戸・上田</p> <p>鑄金コース前期 鑄金の一般的概念、技法、並びに専用工具の使用方法を体得し、鑄金に於ける基礎表現手段を実践・認識する。 ○道具整備 制作に必要な道具類を整備・加工する。 ○真土型基本演習 石膏挽型原型の制作の後、真土型鑄造の基本実践を行う。</p> <p>鑄金コース後期 ○惣型基本演習 挽型用木型制作の後、惣型鑄造の基本実践を行う。 ○鑄の挽型回転体の鑄造演習 中子に伴う蠟の概念を理解し真土型鑄造法にて制作する。</p> <p>彫金・鍛金コース前期 金属工芸の一般的技法、並びに専用工具の使用方法を体得し、基礎的な鍛金・彫金・鑄金に於ける表現手段を実践・認識する。 ○道具整備 制作に必要な道具類を整備・加工する。特に前期では金鋸と鑿、ヘラの制作が中心となる。 ○接合技法演習 銀口ウを主とする口ウ付け、切削工具の取扱い、並びに実践演習を行う。 ○基本手絞り回転体 桶の制作 1枚の銅板から桶状の形態を絞り出す事で基本的な鍛金作業を体感する。 ○彫金技法演習 彫金の原理を講義によって学び、彫金技法に必要な道具製作をはじめ、彫金の基礎演習を行う。</p> <p>彫金・鍛金コース後期 作品を制作する工程を通して理論を理解する。その経験を基に、より具体的な表現に結びつける。 ○高肉打ち出し演習 銅板打ち出しによる帯留めもしくはブローチの制作 モチーフを各自選び、銅板上に構成し打ち出し技法を中心とした高肉レリーフ表現を行う。 ○鍛造演習 主に鉄材を使用して、実際に使えるものをデザインし制作する。 ○機械加工演習 旋盤、溶接機や電解腐食等の機械制作に必要な機械の使用方法を体得し、機械加工を用いた制作方法を学ぶ。</p>		
予習・復習	各自、実習ノートを作成する。		
教科書	金工の伝統技法・金工の着色技法		
参考書	参考資料を配布する。 本学の金属工芸に関する収蔵品など適時提示する。		
教材	参考作品を適時提示		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年)	提出作品、課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。		

<p>度以前入学者)</p>	<p>[A] 金工について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B] 金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C] 金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>
<p>成績評価（平成30年度以降入学者）</p>	<p>提出作品、課題の到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 金工について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが特に秀でた高いレベルに到達している。 [A] 金工について基礎的な技法・技術を理解し、造形表現のための素材を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B] 金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C] 金工について基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。</p>

平成31年度シラバス

番号	(B7)-16	履修コード	3855Z1
科目名	工芸演習(二)陶磁	科目英語名	Practice of Craft (2) Ceramic
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	12	定員	20名
担当教員	山本健史・池田晶一・○宮永春香・(客員教授)中村錦平・(非常勤)武腰潤・手島敦・中田雅巳・竹内智恵・未定		
授業概要	陶磁作品制作に関する知識と技術について幅広く習得する。陶による作品制作のための様々な素材や技術を身につけ、各自のテーマを具現化する礎を築く。		
到達目標	土をはじめとした様々な素材に関する知識と、それらを扱う技術を体系的に習得する。また完成に至る一連の流れを理解することにより、各段階で必要な作業について主体的に判断できるようにする。 陶磁に対する制作意識の向上と表現のための思考力を養う。		
授業計画	<p>◎成形技法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手びねり成形(成形の基本と粘土の特性を習得する。) ○ロクロ成形(粘土の特質を理解し、基本的ロクロ技術を習得する) ○石膏型による成形 <ul style="list-style-type: none"> ・石膏による原型制作 ・石膏ロクロによる原型制作 ・型的设计・鑄込み成形 ・型起こし成形 <p>◎釉薬に関する知識と技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高温用釉薬 <ul style="list-style-type: none"> ・調剤実習(釉薬の基礎知識として、基本的な調合と展開の概要を習得する) ・焼成実習(焼成機材の操作と焼成方法) ○低温用釉薬 <ul style="list-style-type: none"> ・低温釉薬の基礎(基礎釉薬、種類と役割) ・低温釉薬による加飾(和絵具による表現・赤絵細描による表現・洋絵の具による表現) <p>◎加飾技法の基礎を習得する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な原料の特質を知る ・土の表情とマチエール ・金属や顔料の添加混入や塗布 ・材料の重層による効果 <p>◎焼成に関する知識と技術の習得</p> <p>電気炉・ガス炉・灯油炉の焼成方法について実習体験を通じて学ぶ</p> <p>◎工房見学、製土及び原料業者見学</p>		
予習・復習	技術の習得のために授業時間外の工房使用を奨励する。詳細は授業において指示する		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	課題制作を通して経験する陶磁作品制作のために必要な知識や技術の習得・理解度について、また作品内容および授業態度を総合的に評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を十分に理解し、造形表現と主体的取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的取り組みが十分なレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術をある程度理解し、造形表現と主体的取り組みが一定のレベルに達している。		
成績評価(平成)	課題制作を通して経験する陶磁作品制作のために必要な知識や技術の習得・理解度について、また作品内容および授業態度を総合的に評価する。		

30年度以降入学者)	[S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を十分に理解し、造形表現と主体的取り組みが特に秀でた高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を十分に理解し、造形表現と主体的取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的取り組みが十分なレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術をある程度理解し、造形表現と主体的取り組みが一定のレベルに達している。
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成31年度シラバス

番号	(B7)-17	履修コード	3856Z1
科目名	素材技法演習（染織）	科目英語名	Practice of Material Technique (Textile)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	大高 亨・〇足立真実・（非常勤）関島寿子・平木有二		
授業概要	繊維を素材とする加工物は我々の生活の中に多様に存在する。伝統的技法から現代的技法まで技法領域を広く捉え、繊維素材を扱う様々な技法と加工法を学ぶ。		
到達目標	繊維素材に関わる多様な基礎技法の習得。 今後の作品制作への応用、展開のための基礎的な知識の習得。		
授業計画	<p>年間を通じ、以下のスポット授業を開講する。（演習）</p> <p>1. 染料に関する講義と実験（平木、足立） ・自然から染める事を始点に、天然染料から化学染料までを科学的に理解すると共に、染料の実際的な使用法を習得する。 「染織材料の発達」 染織材料の進歩の過程を、古代から現代、世界と日本の視点から考える。 「精練・漂白と浸染法」 a. 染色理論（繊維素材等への染料の染着に関する理論） b. 染料の化学構造と繊維の物理構造（この関係による染色性の相違点） c. 均一染色の要素（染色中の染料の挙動、添加薬剤の効果、染色条件） d. 染色堅牢度（染料の種類と染色物の用途に対応する染色堅牢度の関係） 「捺染法」模様染めとしての捺染法 a. 捺染の種類と方法（直接捺染、防染、抜染の特徴と問題点） b. 捺染用薬剤（染料溶解剤、防染剤、抜染剤及び併用薬剤の組成と効果） c. 捺染用糊剤（特性と使用染料及び併用薬剤との適合性） d. 顔料捺染（天然高分子、合成高分子などの顔料固着材の捺染特性と効果） 「引染法」手工的捺染としての引染法 a. 引染用染料の選定（刷毛むら、乾燥むら等を防止するための選定法） b. 防染の種類別による注意点（糊防染、蠟防染の場合の刷毛あと及び変色対応） c. 地入法（乾燥むら防止のための地入および刷毛むら防止対策） 「総糸の浸染法」 a. 精練、浸染のための糸と総の管理法 b. 手工総糸浸染の実際（均染法、むら染めの活用）</p> <p>2. 「バスケットリー」（関島）演習、スライドレクチャー ・構造物の抽出と分類 組織 ・平面を組む 制作による基礎技法の習得と、アイデア抽出 ・立体を組む 制作による基礎技法の習得と、造形への応用、展開</p> <p>3. 「繊維加工演習」（大高）演習、スライドレクチャー ・シルク、ウールの塩縮加工 理論と技法演習 ・フェルトの制作 理論と技法演習 ・オパール加工の理論と技法演習 ・ニードルパンチの理論と実践 ・意匠糸加工の理論と実践 ・その他の繊維加工法の知識と、技法の複合的研究</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業において指示する。 予習：レポート2部（バスケットリー）。その他は適時、課題を与える。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	各種繊維素材、生地等を授業時配布。各自入手する物がある場合は、事前に指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	提出作品およびサンプル。レポートおよび授業態度により総合的に評価する。 [A]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。 [B]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が活かされている。 [C]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされており、作品に素材と技法の特長等が用いられている。		

**成績評価（平成30
年度以降入学者）**

提出作品およびサンプル。レポートおよび授業態度により総合的に評価する。
[S]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟が積極的
になされており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。
[A]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされ
ており、作品に素材と技法の特長等が効果的に活かされている。
[B]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされ
ており、作品に素材と技法の特長等が活かされている。
[C]素材と技法についての科学的理解、理論的な理解と、技法についての体得的習熟がなされ
ており、作品に素材と技法の特長等が用いられている。

平成31年度シラバス

番号	(B7)-18	履修コード	3857Z1
科目名	素材技法演習（漆・木工）	科目英語名	Practice of Material Technique (Urushi・Wood)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室ほか
単位	2	定員	20名
担当教員	○青木千絵・（非常勤）中嶋虎男・荒川文彦・名雪園代		
授業概要	漆技法の習得のために木材挽物素地を用い生活のための漆工芸を考え制作する。		
到達目標	「漆に触れ、漆を知り、漆に慣れる」をテーマにさまざまな角度から漆について考察し素材を知る。また木と漆をテーマに生活のための器づくりを体験し、漆器の良さ、使用する意味を実制作の中から習得する。		
授業計画	<p>木材と漆 木に漆を塗る意味とその歴史、作品に触れものづくりに対する意識やその広がりについて学ぶ。</p> <p>製図 挽物素地制作のための製図法（青木） 完成予想図（レンダリング）をもとに轆轤制作のための製図法を学ぶ。</p> <p>挽物 木材で回転体を制作するための木工轆轤技法（中嶋） 木工轆轤の構造、刃物の種類、小道具の使用法、仕上げ法を学ぶ。 実際に木材を削るための知識を学び、自己の製図を元に木工轆轤を体験する。</p> <p>課題 お椀-塗物（青木・荒川・名雪） 挽物素地の下地から上塗りまで以下の制作方法を学ぶ。</p> <p>下地法 挽物素地の下地法および道具作り 素地調整 刻字法（節、割れ等）、木材の狂い・動き防止のための木地固め法 布着せ 縁周りの布着せと惣身付け 蒔地法 地粉の種類と地付け法 下地 篋作りと丸物篋付け法、丸物素地の研ぎと砥石作り 中塗り 丸物のきゆう漆法 上塗り 上塗り技法、仕上げ</p>		
予習・復習	参考書を中心とした事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	授業時にプリントを配布。		
参考書	梅田総太郎『木工の伝統技法』理工学社 佐々木英『漆芸の伝統技法』理工学社 * 図書館で利用可		
教材	挽物素地（櫻、栃、水目桜）、漆工材料各種、製図用具		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：お椀（本堅地上塗り仕上げ）、盛器（拭き漆による完成品） [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	漆工用具の製作、扱い方の理解、各種基礎的技法の習得、提出作品、授業態度等を総合して評価する。 提出作品：呂色仕上げ手板（朱、黒）、沈金手板、蒔絵手板、漆箱、器物（乾漆）、器物（割物） [S]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが非常に高いレベルに達している。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-19	履修コード	3858Z1
科目名	素材技法演習（金工）	科目英語名	Practice of Material Technique (Metal)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	2	定員	20名
担当教員	畠山耕治・○原 智・水代達史		
授業概要	金属工芸に於ける素材の特性を認識し表現に結びつけることは、非常に重要なファクターとなる。本授業では、鑄金・彫金・鍛金法に準じた素材研究をする。		
到達目標	素材特性の研究と表現方法の相関性について考察する。		
授業計画	<p>金属の特性と作品との関係は、金属工芸での表現を志す場合無視できない重要な要因である。本演習では、それぞれの金属が持つ塑性加工性や酸化・硫化による金属表面の着色方法を研究する。</p> <p>○金属の塑性加工 金属素材の各配合や組成による融点、硬度や発色等の特性を理解し、金属塑性加工を研究する。 また、伝統技法に見られる金属加工技術を検証する。 多角的に素材・技法を研究し金属の可能性を模索する。</p> <p>彫金技法・彫り技法、接ぎ合わせ技法、象嵌技法、ロウ付け技法 鍛金技法・鍛造、機械加工、接合技法 鑄金技法・真土型鑄造技法、ガス型鑄造など 道具整備・金鋸加工整備、各種鑿整備</p> <p>○金属の表面処理 金属特性を理解して、それに準じた発色(着色)方法を研究する。 素材表面の処理による色の違いを研究する。 着色技法を伝統的な日本金属工芸の中で重要な要素として考察する。</p> <p>古典的着色技法・煮色着色、緑青着色、硫化着色 腐蝕加工・電解腐蝕、薬品腐蝕 その他着色・電気着色、鍍金、箔押し</p> <p>○サンプル制作 研究データを基に、各金属を手板形式でサンプル制作する。 データは各自でアーカイブ化を行い。独自の資料として充実をさせる。</p>		
予習・復習	サンプルについてのデータの整理、手板の作製。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント並び適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	提出作品、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 金属素材に関する視野を広げ、造形表現について高いレベルで理解することができた。 [B] 金属素材に関する視野を広げ、造形表現について理解することができた。 [C] 金属素材に関する視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	提出作品、課題の到達度、および積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 金属素材に関する視野を広げ、造形表現について特に秀でた高いレベルで理解することができた。 [A] 金属素材に関する視野を広げ、造形表現について高いレベルで理解することができた。 [B] 金属素材に関する視野を広げ、造形表現について理解することができた。 [C] 金属素材に関する視野を広げることができた。		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-20	履修コード	3859Z1
科目名	素材技法演習（陶磁）	科目英語名	Practice of Material Technique (Ceramic)
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	2	定員	20名
担当教員	○池田晶一・山本健史・宮永春香		
授業概要	陶磁の土から焼き物になるまでの工程を体験し、土とは何か、成形とは、加飾とは、焼成とは何かを理解する。また、制作における準備から片付けまで、ものづくりの心得を身に付け、陶磁制作に関わる理解と知識を深める。		
到達目標	適切な素材と技法を選択し、素材の特性を生かす技術の必要性を理解し学ぶ。		
授業計画	<p>◎陶磁に携わる基礎的な知識の体験と習得。 作業の工程や、それぞれの工程における技術、注意点を理解する。 素材の扱いや道具の扱いについて理解し、基本技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 陶磁原料の種類と特徴 陶磁で扱う素材の原材料の知識の習得 2. 道具の準備 道具の扱い、手入れの方法 竹、木、帯板での道具制作 3. 土の扱い 原料である土の理解と調整および管理 4. 機器の扱い ロクロやセラローラー等、制作における機器の扱い 5. 成形についての概要 ・手捻り、タタラによる成形 ・ロクロによる成形 ・石膏型による成形 6. 加飾技法についての概要 下絵、上絵、化粧等 7. 釉薬の扱いについての概要 釉薬の調合、調整。釉掛け技法 8. 窯の扱いと焼成についての概要 素焼きと本焼成（酸化焼成と還元焼成） 窯の手入れ 		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定の必要なレベルに到達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [S] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を高度に理解し、造形表現と主体的な取り組みが非常に高いレベルに到達している。 [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定の必要なレベルに到達している。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-21	履修コード	4186Z1
科目名	古美術演習	科目英語名	Seminar of Ancient Arts
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科2年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	学外
単位	2	定員	20名
担当教員	○加賀城健・足立真実		
授業概要	古都で育まれた様々な美術を鑑賞し、有形・無形の文化遺産を尋ねて、日本の美術的土壌を体感する。		
到達目標	各専攻コースの視点から、歴史的な工芸作品・建造物・仏教美術に関する認識を広め、現在の工芸のあり方を捉えることを目標とする。		
授業計画	<p>・実際に博物館や工房、寺院等を訪ね、美術品、工芸品の実物を目にする事で、それらへの理解を深める機会とする。</p> <p>・見学の以前に、各自のテーマに沿った資料編集による事前研究を行う。またこの研究をもとに見学時のリサーチ計画書を作成し、見学現場を設定。見学現場にてリサーチを行い、研究書としてまとめ、美術品、工芸品への理解の一助とする。 以下のプロセスで授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「研究会」 <ul style="list-style-type: none"> 主な見学先の紹介 事前研究についての説明 各自の研究テーマを設定し、資料編集を中心とした事前研究を行う。（個人、グループ） 「研究旅行」 <ul style="list-style-type: none"> 実際に博物館や工房、寺院等を訪ね見学、調査を行う。（主に京都、奈良） リサーチ結果をもとに、研究報告書をまとめる。（個人、グループ） <p>提出物 レポート「研究報告書」独自のテーマに基づく、実地調査を交えた研究</p>		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意			
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。</p> <p>[B] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。</p> <p>[C] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[S] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する特に高い能力が認められる。</p> <p>[A] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。</p> <p>[B] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。</p> <p>[C] 古美術に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-22	履修コード	3861Z2
科目名	現代工芸論	科目英語名	Formation and Future of Art and Crafts in Japan
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	必修	教室	工芸科3年演習室
単位	2	定員	20名
担当教員	島山耕治・〇田中信行・山村慎哉・山本健史・原 智・大高 亨・池田晶一・足立真実・加賀城健・宮永春香・青木千絵・水代達史		
授業概要	各教員が自己の研究領域や研究作品を通してオムニバス方式で授業を行い、多様な視点から工芸について講義する。		
到達目標	工芸に関わる歴史、文化、現代において多様化する工芸領域の表現の特質、可能性、社会的役割について理解する。		
授業計画	<p>第1回 現代の工芸について（田中）</p> <p>第2回 素材と技術をとおして表現を考える（山本）</p> <p>第3回 生活環境における造形物の機能と作用—陶造形の可能性—（池田）</p> <p>第4回 陶による造形思考とその展開について（宮永）</p> <p>第5回 色金と金属工芸の関係性について（原）</p> <p>第6回 現代の金属造形について（島山）</p> <p>第7回 彫金技法と造形表現について（水代）</p> <p>第8回 漆工芸における加飾表現の可能性とその制作法について（山村）</p> <p>第9回 漆による造形の可能性について（青木）</p> <p>第10回 社会と染織—産業資材からアウトサイダーアートまで（大高）</p> <p>第11回 織物と素材・伝統・芸術の関係性について（足立）</p> <p>第12回 染色と現代美術—作品への展開から現在の動向まで（加賀城）</p> <p>第13回 テーマに沿ってレポートの作成</p> <p>第14回 同上</p> <p>第15回 同上</p>		
予習・復習	適時指示する。		
教科書	特になし。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適時指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への積極的な参加姿勢及び提出されたレポートを下記の基準により総合的に評価する。</p> <p>[A]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して幅広い視野と理解が高いレベルで得られている。</p> <p>[B]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して、幅広い視野と理解が一定のレベルで得られている。</p> <p>[C]工芸における表現の特質、社会的役割、可能性に関して、十分ではないが理解が得られている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-23	履修コード	3713Z1
科目名	工芸演習（三）染織	科目英語名	Practice of Craft (3) Textile
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	12	定員	20名
担当教員	○大高 亨 ・ 足立真実・加賀城健（非常勤）宮越仁美・金谷勉		
授業概要	表現に関わる基礎演習から、表現にふさわしい技法を習得し展開をする。専門分野に関わり、文化と歴史に対する知識を養う。繊維における製品デザインのプロセスを学ぶ。		
到達目標	専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、より高度な作品の企画力と制作力を習得する。		
授業計画	<p>「表現・技法の習熟」（大高） 提示したテーマに基づき各人がイメージを創出し、作品制作を行う。 ・イメージ抽出と図案制作の基礎と実際（PC、写真技術なども応用） ・創意に基づいた技法と素材を各人が選定し、作品制作を行う。 ・実制作を通じ、表現と技法への習熟を目指す。 ・合評では、各自の制作の成果についてディスカッションを行う。</p> <p>「テキスタイルプロダクトデザイン」（大高・金谷） ・衣装・インテリアなど生活と密着したテキスタイルの企画立案から制作に至るプロセスを、実際のビジネスとして社会に関わるかたちで実践し、専門家とのディスカッションの中で進めていく。 ・テキスタイルの素材（特に新合繊）をとりあげ、テキスタイルデザインの一助とする。 ・天然繊維から新合成繊維まで、繊維の歴史や分類、性質や用途について学ぶ。</p> <p>「着尺の製織」（足立） ・着物制作のための設計の知識 ・絹素材の手工的な精練、染色法と、絹糸の扱い及び管理 ・紬の製織法、仕上加工法</p> <p>「刺繍の基礎」（宮越） ・文化的、歴史的な観点からとらえた刺繍の知識を学び、基礎的な刺繍技法を習得する。</p> <p>「特別制作」（大高・足立・加賀城） 各人の表現や創意を、適切な素材と技法により具現化するプロセスを習得する。 ・各人の創意を基礎とする適切なテーマ設定を行う。 ・その具現化のために制作計画をたてる。 ・創意の具現化のために、素材や技法の的確な選定を行う。 ・失敗を恐れず試行を積み重ね、技法と素材への理解を深める。 ・工芸科教員全員による2回の研究会を通じ、各人にとって適切な表現を模索する。</p> <p>「デジタルテキスタイル」（大高） ・デジタル紋織 ・デジタルテキスタイルソフトの専門的ツールの実践。 ・基本的パターン展開を学ぶ。 ・テキスタイルデジタル機器のしくみ、制約等を学ぶ。 ・基礎知識を踏まえ、制作を行う。</p> <p>※見学（伝統的工芸染織工房、繊維企業、石川県工業試験場、繊維リソースセンター等）</p>		
予習・復習	十分な予習、復習を要する。詳細は授業において指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	各種繊維素材、生地等を授業時配布。各自入手する物がある場合は、事前に指示する。		
履修上の注意	工芸演習（二）染織および、素材技法演習（染織）の単位を取得した者あるいは同等以上の学力を有すると認めたもののみ履修することができる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作プロセス、提出作品、レポートにより総合的に評価する。 [A]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、より高度な作品の企画力と制作力を高いレベルで習得、実践、作品化できている。 [B]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企		

	画力と制作力を習得、実践、作品化できている。 [C]各専門分野の演習を通じ、創造への意識を高め、現代における表現の意義を考察し、作品の企画力と制作力を習得、実践、作品化できていると認められる。
成績評価（平成30年度以降入学者）	

平成31年度シラバス

番号	(B7)-24	履修コード	3714Z1
科目名	工芸演習（三）漆・木工	科目英語名	Practice of Craft (3) Urushi・Wood
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室
単位	12	定員	20名
担当教員	○田中信行・山村慎哉・青木千絵（非常勤）大藪泰		
授業概要	漆芸に関する各種技法、素材の専門的な研究を体験的に行い、個性豊かな作品を制作する。		
到達目標	材料、技術、道具の各側面から漆を考察し、客観的な制作法の手順を体験しさらに深い漆芸の世界観を体得できることを目的とする。		
授業計画	<p>前期</p> <p>箱の加飾及びパネルの制作 2年生で制作した指物の塗り木地をもとに蒔絵・螺細・変塗等の加飾を主体に考察し、漆箱を完成させる。また漆の各種技法を用いて平面パネルを制作する。（山村）</p> <p>漆造形表現 工芸演習（二）で学んだ乾漆技法をもとに造形作品の制作を行う。また造形素材としての漆の可能性について考察する。（田中）</p> <p>変わり塗り技法Ⅰ 鞘塗にみられる基本的な古典技法を体験し漆におけるテクスチャー、マチエールについて学習する。（山村）</p> <p>その他 平文技法 金属と漆の加飾技法の応用を学ぶ（山村）</p> <p>後期</p> <p>技法・素材研究 漆あるいは他素材との組み合わせなどこれまでの概念にとらわれない、新たな技法への挑戦や素材への試みを目的とし制作・研究する。（山村）</p> <p>特別制作 これまでに学んだ漆の技術、技法をさらに展開・発展させ個性豊かな創造性あふれる自由な作品を制作する。 工芸科全体研究会前のコース内事前研究会の実施10月、11月（田中、山村、青木）</p> <p>その他 螺細技法 薄貝を用いた加飾技法の習得、螺鈿のカットについて学習する（山村） 漆工技法・材料(非常勤講師)</p>		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	沢口五一『日本漆工の研究』美術出版 『蒔絵』、片岡華口『螺鈿』（無形文化財記録シリーズ）第一法規出版 小松大秀・加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 各種図録 *図書館で利用可		
教材	漆工道具、蒔絵道具、その他各種材料		
履修上の注意	年間を通しての最も重要な授業である。学生として授業に臨む生活リズムを早期に身につけ積極的に制作・研究に取り組むことが重要となる。 工芸演習（二）漆・木工および、素材技法演習（漆・木工）の単位を取得した者あるいは同等以上の学力を有すると認められたもののみ履修することができる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業への積極的な参加姿勢及び提出された課題作品を下記の基準により総合的に評価する。 [A] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を深く理解し、作品制作への取り組みが高いレベルに達している。 [B] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、作品制作への取り組みが一定のレベルに達している。 [C] 素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を学び、作品制作に取り組んだ。		

平成31年度シラバス

番号	(B7)-25	履修コード	3715Z1
科目名	工芸演習（三）金工	科目英語名	Practice of Craft (3) Metal
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	12	定員	20名
担当教員	畠山耕治・○原 智・水代達史（非常勤）上田 剛		
授業概要	各自の作品制作において、鑄金・彫金・鍛金に関する各種技法、素材の専門的な研究を体験する。		
到達目標	金属工芸に関する専門的な技術・技法を習得し、独自の表現を展開する力を身につける。		
授業計画	<p>鑄金コース 畠山（非常勤）上田 剛 一年を通じて多様な鑄金技法を学び、より高度な表現を考察する。特に後期の特別制作では、個性を重視し、表現の展開を中心に考察する。 前期 塑造を伴った真土型鑄造又はガス型鑄造の演習</p> <p>後期 ○鑄造演習 デザインからアートまで各自のテーマにより制作する。鑄造法ならびに素材等自由選択。 ○特別制作 各自テーマを設定し、明確なコンセプトの基に制作研究をする。</p> <p>彫・鍛金コース 原・水代（非常勤）未定 基礎技術と素材の関係に対する研究を通じ、作品への意識を向上させる。感性・技術・表現の接点を考察し、より高い次元での表現へと発展させる為の知識を広める。前期では彫金・鍛金共に、基本的な技術の修得を目指し、後期においては特別制作を課題として、時代性に沿った思考並びに感性を、2年次、3年次に行った課題を基に自由な発送と表現の展開を結びつけた作品制作をする。特別制作は進級制作的意味を持つ。 前期 伝統技法修得（伝統的な彫金・鍛金技法を検証、実践する） 立体・平面作品・複合表現</p> <p>○変形絞り 自由形態制作 1枚の銅板から有機的な形を絞り出し、形態を創作する。 ○ジュエリー制作 主に銀材を用いてジュエリーを制作する、基本的な口ウ付け技法を応用してより高度な表現を習得する。 また貴石に関する知識を深め、爪留め、福輪留めを用いて銀に装着する技法を習得する。</p> <p>後期 ○金属加工演習 電解腐蝕によるエッチング、通電セラミック蒸着着色などの加工技術と伝統的加飾技法を複合的に扱い表現の可能性を探る。 ○接合演習 電気溶接機（Tig）の基本的な使用方法を学習し、接合を行う。 ○特別制作 各自テーマを設定し、明確なコンセプトの基に制作研究をする</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細は授業にて指示する。		
教科書	〔彫・鍛金〕金工の伝統技法・金工の着色技法 〔鑄金〕美術鑄物の手法		
参考書	参考資料を配布する 本学収蔵作品		
教材	参考作品を適時提示		
履修上の注意	工芸演習（二）金工および、素材技法演習（金工）の単位を取得した者あるいは同等以上の学力を有すると認められたもののみ履修することができる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出2回（学期末）、合評2回（学期末）、研究発表4回（随時） レポート提出2回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[A] 金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [B] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。</p>		

成績評価（平成30年度以降入学者）

平成31年度シラバス

番号	(B7)-26	履修コード	3716Z1
科目名	工芸演習（三）陶磁	科目英語名	Practice of Craft (3) Ceramic
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	12	定員	20名
担当教員	山本健史・○池田晶一・宮永春香・安島諭・（客員教授）中村錦平・（非常勤）田 聡美		
授業概要	素材・技法研究及び陶磁造形研究を大きな柱とし、専門的な技法・技術の習熟に加え、造形表現の展開について学ぶ 陶磁器における製品デザインのプロセスを学ぶ		
到達目標	独自の表現追求へ向け、やきものにおける基礎知識・技術を発展的に展開し、各自の研究テーマ・領域を明確にする		
授業計画	<p>◎陶磁造形研究（山本、宮永、池田） 自身のもとする造形表現のために必要な素材や技法の選択とその習熟、造形思考の展開について学ぶ</p> <p>◎セラミックプロダクトデザイン（池田、安島） ・生活空間におけるセラミックプロダクトのあり方についての提案とその製品企画、及び制作を行う （デザイン開発の進め方、石膏を用いたモデリングの基礎、鑄込み用の石膏型の作成、作品制作、プレゼン資料の作成などを行う）</p> <p>◎ガラス基礎造形 ・キルンキャスト技法を用いた作品制作を通じて、ガラスの特性を理解する。</p> <p>◎特別制作 ・これまでの研究を踏まえ展開・発展させたテーマを各自が設定し、独自性のある創造性あふれる自由な作品制作を行う ・各自のテーマ及びコンセプトに即し、的確な素材や技法・技術の選択と実験を重ね、本制作に結び付ける ・工芸科全体の研究会とは別にコース内事前研究会を行う（コース年間授業計画を目安に学生がセッティングする）</p>		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	工芸演習（二）陶磁および、素材技法演習（陶磁）の単位を取得した者のみあるいは同等以上の学力を有すると認められたもの履修することができる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが十分なレベルに到達している。 [C]素材や制作工程の基礎的な知識や技法・技術を理解し、造形表現と主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-27	履修コード	3860Z1
科目名	地域工芸演習 I	科目英語名	Practice of Regional Art Crafts I
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	学外
単位	2	定員	20名
担当教員	○加賀城健・宮永春香・青木千絵・水代達史		
授業概要	伝統的工芸産地に出向き、見学や体験実習等を通して、産地の現状や職人の高度な技術を実地見聞、研修する。また卒業後の進路を鑑み、今後の制作活動の参考とする。		
到達目標	伝統的工芸産地に興味関心を持ち、材料や技術について新たに知識を習得し、今後の制作活動に活用できるようにする。		
授業計画	<p>授業日数（時数） 二泊三日ないし三泊四日の実地研修および事前の研究会、事後の反省会、報告書の作成等で、延べ5～6日（60時間）程度の期間を当てるものとする。</p> <p>研修における留意点 基本的に各コース単位での研修活動となる。各コースで単なる見物に終わることがないように事前調査を充分に行い、現地では材料や技術に関する知識を深めるべく積極的に質問し、必要に応じてデモンストレーションをお願いし、また可能であれば体験実習にも取り組む。得られた知見は確実に記録し後ほど報告書にまとめる。</p> <p>報告書について 画像データなどを活用し、後の制作活動に活用し得る資料として作成する。各自の資料としてまた後輩の資料ともなるよう複数作成し、ファイリングして提出する。必要に応じて担当教員が保管する。</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。随時担当教員より指示する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。</p> <p>[A] 地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。</p> <p>[B] 地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。</p> <p>[C] 地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-28	履修コード	3864Z1
科目名	地域工芸演習Ⅱ	科目英語名	Practice of Regional Art Crafts II
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中（夏季休業期間含む）
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	終日
履修区分	必修	教室	学外
単位	2	定員	22名
担当教員	○山本健史・原 智・足立真実・青木千絵		
授業概要	金沢および全国の工芸産地には各種の工芸素材を基にした産業や製品を作る場が多く存在する。学内のみで行われてきた授業形態からさらに社会へ目を向け、地域に係わることによって工芸の本質あるいはその意味また社会の中での工芸のあり方を考える。		
到達目標	繊維、陶磁、漆、金属それぞれの生産の場実際に係わることによって初めて見えてくる生の現場を体験し、今後の進路、制作、研究に生かすための方策をさぐる。		
授業計画	<p>この授業の形態は大きく3つに分けて構成する。</p> <p>1. 事前授業 自己の専門にあわせて実習先となる受け入れ先の選択。 受け入れ先の事前調査を行い、その概要・目的や生産の方法論などを把握する。 社会人としての意識、心構えを学ぶ。</p> <p>2. 学外授業（インターンシップ） 各自の選んだ受け入れ先でそれぞれ実習を行う。 実習期間は最低5日間、毎日の実習ノートの作成を課す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 染織コース 繊維関連会社、販売店、染織工房、作家工房、デザイン企画会社等 ・ 陶磁コース 窯業関係各種会社、陶磁器生産工場、作家工房、デザイン企画会社等 ・ 漆木エコース 漆関係会社、塗師、蒔絵師、金箔業界、仏壇業界、作家工房等 ・ 金属コース 金属関係各種会社、象嵌工房、作家工房、金箔業界等 <p>3. 事後 体験を通して学んだ事柄を各自発表し今後の制作、研究、進路決定に役立てる。 終了レポートの提出。</p>		
予習・復習	研修先の情報を収集し、事前に十分な予習を行った上で研修に取り組むこと。事後はそれぞれの制作活動に研修の成果を活かせるよう心がける。		
教科書	特になし。		
参考書	各分野の専門性に則り、適宜指示する。		
教材	地域工芸演習Ⅱ実習ノート		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	実習ノートの提出、課題の到達度、積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する高い能力が認められる。 [B] 地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における工芸の展望について考察する能力が認められる。 [C] 地域工芸に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-29	履修コード	3863Z1
科目名	複合素材演習	科目英語名	Practice of Compound Material
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	必修	教室	工芸科3年教室・各制作室
単位	2	定員	20名
担当教員	畠山耕治・山村慎哉・○加賀城健・宮永春香		
授業概要	陶磁・漆木工・染織・金工、それぞれのコースにおいて培った技法・素材を中心に、選択コース以外の素材及び技法を積極的に取り入れた表現を研究する。それにより、多角的見地から工芸を捕らえる。		
到達目標	複数の工芸素材とそれに準ずる技法を修得し複合的に扱うことにより、独自の表現を展開する力を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 複合素材を扱うことに対する意識とその可能性について説明 陶磁・漆木工・染織・金工それぞれの特性 専門とするコース以外の素材・技法研究 専門コース以外のコースとのディスカッションを繰り返す中で複合素材を扱うことの意味と可能性を模索し研究する。 テーマ・コンセプトの構築 造形物や装身具等の制作を主なテーマとして設定し、実際に制作するもののプラン設計と具体的な研究目標を定める。 研究及び制作 プランに基づき、研究及び試作をする。 中間発表 作品および研究途中経過のプレゼンテーション。 本制作 作品提出並びに最終プレゼンテーション 		
予習・復習	予習 専門とするコースで3年次にいたるまで研究した事柄を整理し、知識としてより確実なものとする。 制作・研究に関する資料を収集する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	各専門コースに対応する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	提出作品、課題の到達度、プレゼンテーションを総合して評価する。 [A] 工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を高いレベルで理解することができた。 [B] 工芸素材に関する視野を広げ、造形表現を理解することができた。 [C] 工芸素材に関する視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-30	履修コード	3717Z1
科目名	工芸企画演習	科目英語名	Practice of Craft Planning
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	必修	教室	映像メディア室・工芸科3年演習室・企画情報室
単位	2	定員	22名
担当教員	○畠山耕治・大高 亨・鈴木康雄・加賀城健・下浜臨太郎・非常勤講師（未定）		
授業概要	<p>工芸と社会とをテーマに自己の制作研究活動を伝えるためのプレゼンテーション能力と工芸分野のマネージメントの方策を探る。授業は大きく2つのテーマに分けて実施する。</p> <p>1. 自己を社会に発信するためのポートフォリオ等の制作とその伝達手段の研究。 2. 工芸家及びクリエイターとして活動している諸氏の実経験の紹介。</p>		
到達目標	<p>授業を通し、実際に工芸科として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り応用できることを目的とする。</p>		
授業計画	<p>前期（畠山耕治 大高亨 加賀城健 鈴木康雄 下浜臨太郎）（非常勤講師）未定</p> <p>1) 授業概要説明・プレゼンテーションとポートフォリオの意義について</p> <p>2～3) イラストレーターを使ってのポートフォリオの作成(富山総合デザインセンターよりの派遣技官)</p> <p>4～5) 写真撮影の実技</p> <p>8～14) フォトショップ、イラストレーターを使ってのポートフォリオの作成</p> <p>15) 合評会</p> <p>後期（畠山耕治 大高亨 加賀城健 （非常勤講師）未定</p> <p>16) 工芸マネージメントを中心とした社会参加の活動について：畠山耕治</p> <p>17) 工芸マネージメント染織編：安達大悟</p> <p>18) 工芸マネージメント陶磁編：森岡希世子</p> <p>19) 工芸マネージメント漆木工編：黒田沙知子</p> <p>20) 工芸マネージメント金属工芸編：上田剛</p> <p>21～29) 自己のマネージメントについてのイメージポートフォリオ作成</p> <p>30) 合評会</p>		
予習・復習	授業以外の課題制作。コンピュータの使用等が必要となる。特に授業後の反復実習が大切である。		
教科書	特になし。		
参考書	特になし。		
教材	パソコンなどのOA機器		
履修上の注意	毎回、課題の進行状況の経過報告と問題点の解決を個々に指導するため出席の有無が重要となる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>プレゼンテーションのための資料制作およびプレゼンテーション。ポートフォリオの提出。レポート提出。</p> <p>[A]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、高いレベルで実践できている。</p> <p>[B]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探り、実践できている。</p> <p>[C]実際に工芸家として或いは社会活動を行うためのさまざまな手段を学び、制作活動とは違った側面からの自己アピールの方策を探ることができている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-31	履修コード	3718Z1
科目名	伝統文化論	科目英語名	Theory of Traditional Culture
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度	～H29	毎週・集中	集中
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	必修	教室	工芸科4年演習室
単位	2	定員	24名
担当教員	原 智・○足立真実（非常勤）矢地幸子・奈良宗久		
授業概要	日本には茶道などに代表される伝統的な作法や形式からくる美意識が存在する。金沢美術工芸大学はそれら日本文化の色濃く残る金沢という土地にあり、身近に日本文化への知見を深められる環境である。金沢にある茶道・古典芸能・食文化の体験を通して、伝統文化を学ぶ。講義と茶道具類の拝見、茶道体験を通じて日本美とその文化性を学ぶ。華道の歴史と文化的背景を講義によって学び、華道を体験することによって美意識を学ぶ。古典芸能の見方や道具、衣装の構成などの講義と鑑賞を通して日本文化の美と工芸との関係を知る。和食にある日本文化やそこにある美意識を体験から学ぶ。		
到達目標	日常生活に於ける美の心と伝統文化の根ともいえる室町から江戸にかけての日本文化を茶道と古典芸能を通して学び、工芸との関わりについて理解を深める。		
授業計画	<p>○茶道 茶道の歴史を通して日本の伝統文化の変遷を下記の項目で説明する。 1、中国のお茶と日本のお茶の比較。 2、お茶の伝播と日本の茶文化の関係。 3、日本の各時代における茶道と社会のつながり。 4、茶道の歴史とその意義。茶道が日本文化にもたらしたものは何か。 5、茶道が金沢に与えた文化面の影響。 6、茶道具の種類と見方、設えについて。 茶道体験と茶室の構成、作法を知る体験と茶道具の解説、拝見。</p> <p>○華道 華道の歴史や成り立ちを講義形式で説明する。 華道実習では、池坊流派の基本的な形式を指導し、それぞれの美意識によって花を活ける。</p> <p>○古典芸能 古典芸能の鑑賞、能または日本舞踊の鑑賞と説明を受け、そこに用いる道具類、衣装の役割と使い方を学ぶ。 特に金沢の能楽は、加賀藩前田家武家の式楽として保護、育成を図り広く奨励したことから「加賀宝生」として独自の発展を遂げた。「加賀宝生」は無形文化財に指定され、「能楽」はユネスコの無形文化遺産に登録されている。 金沢市能楽美術館に於いては貴重な美術品と伝統芸能を直に触れ能楽の魅力を感じ取る。</p> <p>○和食 「和食」は2013年12月4日、ユネスコ無形文化遺産に登録された。 ここでいう「和食」は味噌汁や懐石料理といった料理そのものではなく、日本人の食におけるさまざまな社会的習慣を指す。金沢市近郊にある老舗割烹にて実際に懐石料理を食することで直に食の文化の一端を経験し、工芸のみならず日本文化に対する理解を深める。</p>		
予習・復習	授業計画に基づく。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	配付プリント。実習にかかる費用を適宜集める。およそ1万円から1万5千円程度。		
履修上の注意			
成績評価（平成29年度以前入学者）	体験実習とレポート、課題到達度および積極的な授業態度を総合して評価する。 [A] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する高い能力が認められる。 [B] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、独自の観点で現在における伝統文化を考察する能力が認められる。 [C] 伝統文化に対する知識や歴史的背景を理解し、課題等の内容が満たされている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-32	履修コード	4181Z1
科目名	工芸演習（四）染織	科目英語名	Practice of Craft (4) Textile
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1~4限
履修区分	選択必修	教室	染織コース諸演習室
単位	16	定員	20名
担当教員	○大高 亨・足立真実・加賀城健 （客員教授）須藤玲子 （非常勤）福本繁樹・八幡はるみ		
授業概要	学生個々のテーマに応じた、より高度で専門的な知識・技術・素材による試行を積み重ね、研究制作を行う。		
到達目標	研究制作を通じ、学生個々の専門性に応じた素材と技術に精通する。現代における作品制作の意義をふまえ、個々の発想を具現化する計画性と制作力を養い、高い完成度を目指す。		
授業計画	<p>以下のプロセスで個々の学生の研究に応じた指導を行う。</p> <p>「研究テーマに応じた自主制作」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代における各自の創造の意義と社会性に注視し、個々の研究テーマを設定する。 ・学生個々の研究テーマに応じ、制作物の視覚イメージを捻出。 ・学生個々の研究テーマに応じ、研究目標を定める。 ・研究目標に従い、各自の研究計画を設定し、計画書を作成する。 ・試作、研究を重ね、より高度で専門的な知識の学習と、制作技術を習得する。 ・試作による研究成果を活用し、各自の創意やイメージを、作品として具現化する。 ・作品と制作過程、研究過程をふりかえり、研究成果の確認と問題点の認識をはかる。 <p>a. 研究会 1 研究テーマ発表 ー学生、教員によるディスカッション形式ー</p> <p>b. 研究会 2 中間発表 ー研究制作の経過を学生、教員により考察ー</p> <p>c. 作品提出 作品合評</p> <p>提出物：研究計画書、研究テーマ説明書、制作物の視覚イメージ資料、作品、研究報告資料</p> <p>卒業制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作テーマの提出（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示（2月） 		
予習・復習	各自の研究に即した、多様な知識技術について、常に自学自習に取り組む。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	研究および制作に必要な資料、材料は、学生自身で入手する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	制作プロセス、提出作品、レポートにより総合的に評価する。 [A]素材・技術・表現において、バランス良く研究しており、さらに高度な研究へと進める十分なスキルを有する。 [B]素材・技術・表現において、一定の能力を習得した。 [C]素材・技術・表現において、最低限の成果が得られた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-33	履修コード	4182Z1
科目名	工芸演習（四）漆・木工	科目英語名	Practice of Craft (4) Urushi・Wood
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	漆実習室
単位	16	定員	5名
担当教員	○山村慎哉・田中信行・青木千絵		
授業概要	これまでに培った各種技法や自己の研究を基に、個々の制作テーマに添い、現代性あふれる、個性豊かな作品造りを通し卒業制作の試作、準備として位置付ける。		
到達目標	自己の目指す制作コンセプト、プロセス、研究課題を明確化し、卒業制作への展開を図れることを目標とする。また制作の論理付け、意義を自己に問い、今後の制作の方向付けとなるよう、自らが作業を進めていく。		
授業計画	<p>課題1 変わり塗り技法Ⅱ（山村） 漆のマチエールをテーマに変わり塗りの応用技法を学習する。 基本的な変わり塗りを元に自己の発想による新しい変わり塗り技法を実験研究し手板として5枚以上制作する。</p> <p>課題2 自由制作（田中・山村・青木） 卒業制作を踏まえ、制作コンセプトを明確化し、今後に繋がっていくための制作を行う。実験、試作、諸問題を確認し、研究テーマについて深く考察する</p> <p>上記2課題共に5月、6月、7月にコース内研究会を実施</p> <p>卒業制作 ・制作テーマの提出（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示（2月）</p> <p>卒業制作については次の教員が漆・木工の造形表現について指導する。 （田中 信行）漆による造形表現の指導 （山村 慎哉）伝統技法に基づいた全般、総合的な加飾表現を指導 （青木 千絵）漆芸基礎技法の指導</p>		
予習・復習	事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作も必要となる。		
教科書	特になし。		
参考書	日本漆工の研究、漆の伝統技法、漆工芸辞典、漆芸品の鑑賞基礎知識、 漆工材料・漆工用具（日本芸術協会）、各種図録 * 図書館で利用可		
教材	漆工道具、蒔絵道具、その他各種材料、変わり塗り参考文献集		
履修上の注意	年間を通しての最も重要な授業である。学生として授業に臨む生活リズムを早期に身につけ積極的に制作・研究に取り組むことが重要となる。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>学期ごとの課題提出 前期2課題、後期1課題 平素の授業への積極的な取り組みが大きく制作にも影響されるため特に重要となる 各種技法研究 素材の把握、道具の扱いの習得、工程・技法の発展的理解および作品提出、制作への取り組み課題の到達度、を総合して評価する。 [A]漆芸の技法を理解し応用的技術を身に付け、表現および主体的な取り組みが高いレベルに到達している。 [B]漆芸の技法を理解し応用的技術を身に付け、表現および主体的な取り組みが一定のレベルに到達している。 [C]漆芸の技法を理解し応用的技術を身に付け、表現および主体的な取り組みがなされた。</p>		
成績評価（平成			

30年度以降入
学者)

平成31年度シラバス

番号	(B7)-34	履修コード	4183Z1
科目名	工芸演習（四）金工	科目英語名	Practice of Craft (3) Metal
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	鑄金・彫金・鍛金制作室
単位	16	定員	20名
担当教員	畠山耕治・○原 智・水代達史（非常勤）安藤 泉・平戸香奈・上田剛・未定		
授業概要	これまで習得した技法や研究を応用し、独創的な表現を考察する。		
到達目標	個々のテーマに基づき、より高度な素材技法などの研究を通じ、表現の具体化を図り、現代性あふれる個性豊かな作品を卒業制作としてあらわす。		
授業計画	<p>○前期制作 金属工芸技法を応用した作品制作</p> <p>鑄金 畠山（非）平戸、上田 ・自由制作 鑄金技法を応用した作品制作。卒業制作を見据え、独自の作品表現を目指す。</p> <p>彫・鍛金 原・水代（非）安藤 ・複合作 専門分野で研究した鍛金・彫金技法の特性を理解し、複合的に素材、技法、表現を扱い高度なレベルで融合させる事で独自の作品表現を目指す。 卒業制作に向けた実験的要素を併せ持つ。</p> <p>○卒業制作 ・制作テーマの提出（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示（2月）</p> <p>卒業制作については次の教員が金工の造形表現について指導する。 （畠山耕治）鑄金技法と造形の指導 （原 智）鍛金技法と造形の指導 （水代達史）彫金技法と造形の指導を補助する</p>		
予習・復習	十分な予習・復習を要する。詳細については授業に於いて支持する。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	資料を配付する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>課題提出・合評2回（学期末）、研究発表4回（随時） 課題提出2回（学期末）、合評2回（学期末）、研究発表4回（随時） レポート提出2回（学期末） 演習を通して金属素材の基礎的な理解が得られたかを提出作品・授業態度などから総合的に評価する。</p> <p>[A] 金属工芸を行うための基礎的な知識が十分に習得され、技法・知識・独自性が非常に高いレベルで表現に結びついている。 [B] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性が十分なレベルに達している。 [C] 金属工芸を行うための基礎的な知識が習得され、技術・知識と独自性がある一定のレベルに達している。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(B7)-35	履修コード	4184Z1
科目名	工芸演習（四）陶磁	科目英語名	Practice of Craft (4) Ceramic
科目区分	工芸科専攻科目	授業形態	演習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎日
専攻・年次	工芸科4年次	曜日・時限	1～4限
履修区分	選択必修	教室	陶磁制作室ほか
単位	16	定員	20名
担当教員	○山本健史・池田晶一・宮永春香・（客員教授）中村錦平		
授業概要	3年次までで培ってきた素材に対する理解と技術をさらに高める。またテーマについては社会性を視野に入れた思考を構築する。作品と空間の関係を意識し、その存在が帯びる意味を計画する。 内容について言語化する努力をすること。		
到達目標	集大成となる卒業制作に関わる応用研究や実験的な試作を計画的に実行し制作に結び付ける。作品制作では社会性を意識した取り組みを行い、独自の表現に結び付く創作を行う。		
授業計画	<p>◎テーマ制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの策定 ・作品へと向かうために必要な素材と技術について検討する ・研究計画の立案 ・素材実験と技法に関する試行を行う ・テーマや表現内容についてプレゼンテーションする ・作品の制作 ・構想から計画、実験、制作を経て展示、プレゼンテーションまでの流れを記録しファイルすること <p>上記の項目についてコース内研究会を5月6月7月に実施する（コース年間授業計画を目安に 学生がセッティングする）</p> <p>提出物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマおよび研究計画書 ・制作のための資料（資料原稿・スケッチなど） ・実験結果資料 ・作品 <p>◎卒業制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作テーマの提出（前期中頃） ・研究会（9月・10月） ・中間審査（11月） ・最終審査（12月） ・写真撮影と図録作成（12月～1月頃） ・卒業制作展展示（2月） <p>卒業制作については次の教員が陶磁の造形表現について指導する。 （山本 健史）陶磁の造形表現、成形技法の指導・作品展示に関する指導 （池田 晶一）陶磁の技法と表現の実技指導 （宮永 春香）陶磁技法及び造形表現の指導</p>		
予習・復習	表現のために必要な素材実験や技術の習得を常に行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。材料費などについては各自負担とする。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	提出作品、制作過程での取り組み、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。 [A] 4年間に学習すべき知識・技術が総合的に高いレベルで習得され、創造性の高い作品制作ができている。 [B] 4年間に学習すべき知識・技術が総合的に習得され、創造性のある作品制作ができている。 [C] 4年間に学習すべき知識・技術が一定レベル習得され、創造性が感じられる作品制作ができている。		
成績評価（平成			

30年度以降入学者)

平成31年度シラバス

番号	(C1)-01	履修コード	7401Z1
科目名	教育の本質と目的	科目英語名	History of Education and Educational Thought
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	「教育」概念の意味範囲を学校教育に限定することなく、近代社会における「教育」の機能を多面的に理解することを目指す。教育史を学びつつ、文献資料を読みながら自らの考えを深め、議論する。※本科目は、教職課程への入門、という性格をもっています。		
到達目標	学校教育を考える基礎として、「教育」を学校教育に必ずしも限定せずに、さまざまな教育思想、実践を学ぶ。さらに、それぞれが受けてきた教育に関わる体験を手がかりに、「教育」という現象を対象化し、理論的かつ実践的にアプローチするために必要な教育学的思考方法の基礎について学修する。		
授業計画	<p>第1回：「原始の教育」からみた現在の教育 昔のイヌイットの教育を手がかりに</p> <p>第2回：古代ギリシャの教育：ソクラテス、プラトン、アリストテレス</p> <p>第3回：古代ローマ、中世の教育：自由七科、クインティニアヌス、大学の発生</p> <p>第4回：近世の教育①：エラスムス、ルター</p> <p>第5回：近世の教育②：実学主義、コメニウス、ロック</p> <p>第6回：近代の教育①：ルソー、開発と形成</p> <p>第7回：近代の教育②：ペスタロッチ</p> <p>学校教育の目的とは（宇佐美寛「読書好きにするのこそが良い教育なのだ」を手がかりとして）</p> <p>第8回：近代の教育③：フレイベル、ヘルバルト</p> <p>第9回：近代の教育④：フィヒテ、ヘーゲル、シュライヘルアマハー</p> <p>学習内容の選択（サドベリー・バレー校の取り組みを手がかりとして）</p> <p>第10回：現代の教育：エレンケイ、モンテッソーリ、ナトルプ、ケルシェンシュタイナー</p> <p>第11回：日本の教育の歴史①：古代～近世</p> <p>第12回：日本の教育の歴史②：明治～昭和</p> <p>第13回：現代における生徒の社会化</p> <p>第14回：教育現象を歴史的観点から見る（具体的な教育政策の分析）</p> <p>第15回：生涯学習社会における学校の役割 まとめ 試験</p> <p>※教育時事問題等に対応して、順番を変える可能性がある。</p>		
予習・復習	教育時事、および教育に関わる言説にできる限りふれることを勧める。		
教科書	原則として資料を配付する。教科書にふさわしい文献があれば使用することも検討する。		
参考書	汐見稔幸他編著『よくわかる教育原理』（ミネルヴァ書房、2011年）、柴田義松・斉藤利彦編『教育史』（学文社、2005年）など、授業内で適宜紹介する。		
教材	必要に応じて視聴覚教材を使用的。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>毎回の授業への参加状況と期末試験の総合により単位認定を行う。参加状況（20%）、期末試験（80%）。</p> <p>期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。</p> <p>[A]教職課程における「教育原理」の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。</p> <p>[B]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。</p> <p>[C]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>毎回の授業への参加状況と期末試験の総合により単位認定を行う。参加状況（20%）、期末試験（80%）。</p> <p>期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。</p> <p>[S]教職課程における「教育原理」の基本的知識を修得しており、それをもとに具体的に考えることができる。</p> <p>[A]教職課程における「教育原理」の基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。</p> <p>[B]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。</p> <p>[C]教職課程における「教育原理」の基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(C1)-02	履修コード	7402Z1
科目名	教育心理学	科目英語名	Educational Psychology
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	水曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	100名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義は、教職科目として、教師として必要となる心理学的知識について解説を行う。講義では、発達と学習、教育評価の他、障害児教育なども扱う。		
到達目標	教職科目として、教育実践に必要な心理学的知識の習得を目的とする。特に教員採用試験で問われる項目を重点的に扱い、要点の完全学習を目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育心理学の目的と内容（オリエンテーション） 2 発達1 乳児 3 発達2 幼児・児童・知能 4 発達3 青年 5 発達4 生涯発達と老年期 6 学習の基礎 7 教え方いろいろ -学習指導法- 8 上手に教える -教育工学- 9 教育評価1 教育評価の方法 10 教育評価2 テストの科学 11 学級集団 12 障害の理解 13 教育心理学の実際 14 講義のまとめ 15 試験 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	荷方・安齋編 「使える」教育心理学 北樹出版		
参考書	特になし。		
教材	特になし。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） 客観式テストを行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言、小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している 		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） 客観式テストを行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業における発言、小課題（客観式）での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [S] 上記の基準の上1と2で90%以上のポイントを獲得している [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している 		

平成31年度シラバス

番号	(C1)-03	履修コード	7404Z3
科目名	教職論	科目英語名	Guide to Teacher Education and Training
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	現代日本における専門職としての教職に、どのような資質と職務遂行能力が求められているかを検討する。グループ討議、学生の発表等を取り入れながら授業を進める。		
到達目標	1) 専門職としての教職の使命を自覚し、教職への志向を形成する。 2) 教員の職務内容の概略を理解できる。 3) 各自が自分の「教師像」を自覚することができる。		
授業計画	<p>第1回：教職課程カリキュラムの構造（オリエンテーション） 第2回：教職という仕事の特徴、「教師」の視点を持つ① 教師の行動と目的 第3回：「教師」の視点を持つ② 複数の観点から考える 第4回：学び続ける教師「行為の中の省察」 第5回：「教師」の視点を持つ③ 保護者との関係 第6回：社会の中の学校（教職課程における介護等体験の意義） 第7回：チーム学校運営 第8回：教員の義務と権利（教員が守るべき事柄と研修機会の確保等） 第9回：教員の生活 第10回：教職の実際（ゲストスピーカー） 第11回：授業を組み立てる 第12回：教師の歴史について「職業として教師」の発生 第13回：近代日本における教職制度の確立 第14回：教員に求められる資質と能力① 個人作業とグループディスカッション 第15回：教員に求められる資質と能力② 発表 ※ゲストスピーカーのご都合で、一部順番を変更することがある。</p>		
予習・復習	優れた教師の実践記録を読むことを薦める。 また、有志の学生による発表機会を設けますので、積極的に発表してください。		
教科書	なし		
参考書	大村はま『教えるということ』（ちくま学芸文庫、1996年）、秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門 改訂版』（有斐閣アルマ、2015年）片山悠樹・内田良・古田和久・牧野智和編『教育社会学』（大月書店、2017年）他、適宜授業の中で紹介する。		
教材	視聴覚教材を適宜用いる。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業時における課題発表と小課題、期末レポートを総合して単位認定を行う。 参加状況（30%）、発表と期末レポート（70%）。 レポートの評価基準は以下のとおりである。 [A]自分や他の学生の体験とともに、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [B]自分の体験と、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [C]自分の体験を通して、教員の資質について考えることができる。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業時における課題発表と小課題、期末レポートを総合して単位認定を行う。 参加状況（30%）、発表と期末レポート（70%）。 レポートの評価基準は以下のとおりである。 [S]自分や他の学生の体験とともに、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持ち、発信することができる。 [A]自分や他の学生の体験とともに、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [B]自分の体験と、教える側から教育現場を垣間見ることを通して、教員の資質について自分なりの考えを持つことができる。 [C]自分の体験を通して、教員の資質について考えることができる。		

平成31年度シラバス

番号	(C1)-04	履修コード	7405Z1
科目名	教育課程論	科目英語名	Theory of Curriculum Making
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	教育課程の考え方を、歴史的、理論的背景を俯瞰しつつ、学習指導要領に示された教育課程を理解する。さらに、今後、どのようなカリキュラムが求められ、具体的にはどのようなカリキュラムが考えられるのかを探る。		
到達目標	1) 教育課程に関する基本的知識を修得する。また、社会の変化を受けて「学習指導要領」が変化していることを理解し、「学習指導要領」の影響を理解する。 2) カリキュラム編成の基本原則を理解し、学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。		
授業計画	<p>第1回：教育課程とは 第2回：教科課程から教育課程へ 教科とは 第3回：ナショナルカリキュラムとしての学習指導要領の必要性 第4回：学習指導要領の変遷と社会的背景① 第5回：学習指導要領の変遷と社会的背景② 第6回：新学習指導要領の特徴 第7回：子どもの発達とカリキュラム① 履修原理 第8回：子どもの発達とカリキュラム② カリキュラムの多様化・複線化、カリキュラム・マネジメント 第9回：カリキュラムの構造① スコープとシーケンス 第10回：カリキュラムの構造② 学習の転移を利用したカリキュラム 第11回：カリキュラムの構造③ 選択の基準とカリキュラム（経験主義、学問中心主義） 第12回：カリキュラムの構造④ 選択の基準とカリキュラム（科学計画法） 第13回：カリキュラムの構造⑤ カリキュラムの分化と統合 第14回：顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 第15回：生徒・学校の特徴とカリキュラム・マネジメント、期末試験 教育時事問題に対応して、順番を変える可能性がある。</p>		
予習・復習	必要に応じて指示する。		
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）		
参考書	田中耕治編著『教育方法と授業の計画』（協同出版、2017年）※教育方法論のテキスト この他、適宜、紹介する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	単位不認定の場合（3年次までに）、教育実習を許可しないことがある。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加状況（20%）と期末試験（80%）を総合して単位認定を行う。 期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。 [A]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加状況（20%）と期末試験（80%）を総合して単位認定を行う。 期末試験の評価の基準は、以下のとおりである。 [S]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識を修得しており、それをもとに多面的に考えることができる。 [A]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識を修得しており、それをもとに考えることができる。 [B]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、それをもとに考えることができる。 [C]教育課程、学習指導要領に関する基本的知識をだいたい修得しており、少しはその知識をもとに考えることができる。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(C1)-05	履修コード	7406Z1
科目名	教育方法論	科目英語名	Study of Teaching Methods
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	水曜7・8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	学校教育実践を支える教育方法に関する主要理論を最新の知見に基づき解説するとともに、その実践的有効性について考察する。また、優れた実践事例を紹介し、その実践の拠って立つ方法原理について学習する。適宜、視聴覚教材を使用する。また、学生による発表の機会を設ける。その際、他の学生は発表者について適切な意見を述べられるようにする。		
到達目標	学校教育を支えている主要な教育方法理論を理解し、美術教育法や教科以外の教育法の基礎を培う。		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（授業の概要と教職課程における位置づけの説明） これからの子供たちに求められる資質・能力と教育方法（主体的・対話的で深い学びの実現）</p> <p>第2回：授業デザインと学習指導案</p> <p>第3回：教材・教具・学習環境の整備（ICTを利用した教育方法を含む）</p> <p>第4回：教師の指導言（説明・指示・発問など）</p> <p>第5回：教育評価の方法</p> <p>第6回：主体的で深い学びを促す教育方法の事例：ジグソー法</p> <p>第7回：学習指導案の構成と教材</p> <p>第8回：模擬授業① 導入の仕方</p> <p>第9回：模擬授業② 生徒への説明、発問の工夫</p> <p>第10回：模擬授業③ 評価方法の適切さ</p> <p>第11回：教科以外の教育：特別活動の内容と目的・目標</p> <p>第12回：特別活動の指導① 学級活動、生徒会活動</p> <p>第13回：特別活動の指導② 学校行事、家庭・地域・他機関との関係</p> <p>第14回：特別活動の企画、評価、改善（小課題）</p> <p>第15回：主体的で深い学びを促す教育方法の事例：ゲーミング理論を用いる まとめ</p>		
予習・復習	授業で紹介された参考文献等を精読すること。		
教科書	田中耕治編著『教育方法と授業の計画』（協同出版、2017年）		
参考書	山田浩之『特別活動論』（協同出版、2014年）、松下佳代『ディープ・アクティブラーニング』（勁草書房、2015年）、藤田晃之編著『新学習指導要領の展開 特別活動編』（明治図書、2017年）他、適宜紹介する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	単位不認定の場合（3年次末までに）、教育実習を許可しないことがある。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業内での小課題（30%）および、発表課題（40%）および参加状況（30%）をもとに総合的に評価する。課題の評価の基準は、以下の通りである。 [A]教育方法に関する基本的知識をもとに、具体的に考え、表現することができる。 [B]教育方法に関する基本的知識をもとに、具体的に考えられているようであるが、表現するところではさらに工夫が必要である。 [C]教育方法に関する基本的知識をもとに、ある程度までは考えられているものの、表現することがあまりできていない。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	授業内での小課題（30%）および、発表課題（40%）および参加状況（30%）をもとに総合的に評価する。課題の評価の基準は、以下の通りである。 [S]教育方法に関する基本的知識をもとに、具体的に、発展的に考えることができ、表現できている。 [A]教育方法に関する基本的知識をもとに、具体的に考え、表現することができる。 [B]教育方法に関する基本的知識をもとに、具体的に考えられているようであるが、表現するところではさらに工夫が必要である。 [C]教育方法に関する基本的知識をもとに、ある程度までは考えられているものの、表現することがあまりできていない。		

平成31年度シラバス

番号	(C1)-06	履修コード	7407Z1
科目名	美術教育法 I	科目英語名	Study of Art Education I
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目 (中高美術)	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	(非常勤) 森田ゆかり		
授業概要	美術教育とは何か、何ができるのか? 教育の場を学校に限定せず多方面からアプローチし、これまでの美術教育の問題点を探るとともに在り方を問い直す授業としたい。 ※毎回テーマに関する感想、気づき、考え、疑問などをワークシートに記し提出する。		
到達目標	美術大学で美術を学ぶことも含め、美術教育の役割や意義、可能性について柔軟かつ主体的に思考する第一歩とする。		
授業計画	第1回：美術教育とは何か 第2回：美術教育への誤解 第3回：芸術と人間形成 第4回：美術教育と心理学 第5回：感性と美術教育 第6回：触覚について考える その1 第7回：触覚について考える その2 第8回：見ることと描くこと 第9回：子どもと立体 第10回：子ども観の変遷と美術教育 第11回：幼児教育と造形教育 第12回：創造的な美術鑑賞を目指して 第13回：インクルーシブ美術教育 第14回：社会へと広がる美術教育 第15回：再び、美術教育とは何か ※順番は変える可能性がある。		
予習・復習	配布資料を読み込み、関連する資料などを参考に復習する。		
教科書	神林恒道、ふじえみつる監修『美術教育ハンドブック』（三元社） (美術教育法Ⅲでも使用する。)		
参考書	必要に応じて資料を配布する。		
教材	ビデオ、スライドなどを使用する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価 (平成29年度以前入学者)	期末レポートで単位認定を行う。3分の1を超えて欠席した場合は認定しない。 [A] 「美術教育」に関する視野を広げ、美術大学で学ぶことの意味を主体的に思考することができた。 [B] 「美術教育」に関する視野を広げ、対象者の視点で思考することができた。 [C] 「美術教育」に関する視野を広げることができた。		
成績評価 (平成30年度以降入学者)	期末レポートで単位認定を行う。3分の1を超えて欠席した場合は認定しない。 [S] 「美術教育」に関する視野を広げ、その役割や意義、可能性についてより深く主体的に思考することができた。 [A] 「美術教育」に関する視野を広げ、美術大学で学ぶことの意味を主体的に思考することができた。 [B] 「美術教育」に関する視野を広げ、対象者の視点で思考することができた。 [C] 「美術教育」に関する視野を広げることができた。		

平成31年度シラバス

番号	(C1)-07	履修コード	7408Z1
科目名	道徳教育研究	科目英語名	Study of Moral Education
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	木曜7・8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	(非常勤) 寺井雅樹		
授業概要	中等教育にたずさわる教員として、「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」について理解するとともに、学校での道徳教育の推進と道徳の授業ができる基本的な事項の習得を図る。理解の深化やスキルの定着を目的に協議や演習を行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」について理解できる。 ・学校における「道徳教育」と「道徳の授業」の指導の基本的な事項が習得できる。 		
授業計画	<p>第1回： 教職課程における本科目の位置づけと意義・目的</p> <p>1. 道徳教育の概要</p> <p>第2回： 1) 「道徳」とは何か、「道徳」の存在意義について</p> <p>第3回： 2) 日本における道徳教育の歴史と諸外国の道徳教育</p> <p>第4回： 3) 日本の小・中・高等学校における道徳教育</p> <p>2. 学校教育における道徳教育</p> <p>第5回： 1) 道徳教育の内容について</p> <p>第6回： 2) 教育活動全体を通じて行う道徳教育について(全体計画)</p> <p>第7回： 3) 「特別の教科 道徳」と年間指導計画</p> <p>3. 「特別の教科 道徳」の実施</p> <p>第8回： 1) 「特別の教科 道徳」授業映像(DVD)視聴と協議</p> <p>第9回： 2) 「特別の教科 道徳」の授業における要点</p> <p>第10回： 3) 「特別の教科 道徳」の指導案作成の要点</p> <p>4. 「特別の教科 道徳」の実際</p> <p>第11回： 1) 道徳の授業の指導案作成 ①授業プラン作成</p> <p>第12回： 2) 道徳の授業の指導案作成 ②指導案作成</p> <p>第13回： 3) 模擬授業 ①説明、指示</p> <p>第14回： 4) 模擬授業 ②発問・声かけ</p> <p>第15回： 5) 「特別の教科 道徳」の授業実施上の要点授業計画</p> <p>※教育時事等に関連して、一部変更する可能性がある。</p>		
予習・復習	「道徳教育」や心の育成に関わる新聞記事を読むとともに、記事をスクラップする。		
教科書	「中学校学習指導要領」(平成29年3月告示) 文部科学省編 「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成29年7月) 文部科学省編		
参考書	適宜、授業で紹介する。		
教材	必要に応じて視聴覚教材を使用する。		
履修上の注意	単位不認定の場合、中学校での教育実習を許可しない場合があります。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>授業への参加状況と、授業における課題発表、レポートの内容を総合して単位認定を行う。 授業の出席状況(20%)、発表とレポート(80%) 発表とレポートの評価基準は以下のとおりである。</p> <p>[A] 「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得ができている。</p> <p>[B] 「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得が概ねできている。</p> <p>[C] 「道徳教育」と「学校教育における道徳教育」の理解と、「道徳教育」、「特別の教科道徳の授業」の指導のための基礎の習得がある程度できている。</p>		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-08	履修コード	7410Z1
科目名	美術教育法Ⅱ	科目英語名	Study of Art Education II
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（中高美術）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週（集中含む）
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	水曜9・10限、集中
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	100名
担当教員	（非常勤）○江藤 望・鷺山 靖・西澤 明・桑村 佐和子		
授業概要	学校教育における美術科のあり方や現状の問題点について、彫刻・デザイン・絵画の各分野について、中学校、高等学校で実際に教えた美術教師による、より実践を意識した学習および演習を行う。		
到達目標	中学校および高等学校美術科に関わる基礎的な知識(技術)、彫刻・デザイン・絵画の各分野の授業技能の習得と、それをもとにした考察および具体的な授業計画活動の実践能力を養う。		
授業計画	<p>第1回：授業ガイダンス（桑村） 美術科の目標と内容（平成29年版 学習指導要領を中心に）（江藤） 第2回：彫刻題材の学習内容とカリキュラム（技法、材料、用具、造形要素の観点から）（江藤） 第3回：彫刻題材の指導と評価（受動的授業と能動的授業）（江藤） 第4回：教科書に基づいた彫刻題材の授業案（教科書分析と学習指導案の作成）（江藤） 第5回：模擬授業1（表現領域）（江藤） 第6回：模擬授業2（鑑賞領域）（江藤） 第7回：デザイン分野の教材特性（鷺山） 第8回：デザイン分野のスコープとシーケンス（鷺山） 第9回：デザイン分野の指導ポイント（鷺山） 第10回：デザイン分野の題材検討（鷺山） 第11回：絵画分野の授業の現状と課題（西澤） 第12回：絵画分野の教材特性（西澤） 第13回：絵画分野の題材計画と指導計画（西澤） 第14回：絵画分野の評価（西澤） 第15回：まとめ（西澤、桑村）</p> <p>※第7～10回、第11～15回はそれぞれ集中講義で実施します。掲示に注意してください。</p>		
予習・復習	適宜指示する。教育実習前の教育方法に関する科目であり、教育実習を念頭に置きながら、各自質問、復習をすること。		
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』		
参考書	特になし。		
教材	配付プリント		
履修上の注意	毎週開講と集中講義が組み合わせて実施される授業であるので、掲示に注意すること。評価方法について説明するため、第1回の授業ガイダンスには必ず参加すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	各教員が示す課題及び出席状況で総合的に判断する。 [A] 授業技術の基本的な知識を習得し、それを基に自分なりの授業計画を立てることができる [B] 授業技術の基本的な知識は習得しているものの、それをもとにした授業計画が十分ではない。 [C] 授業技術の基本的な知識に大体は修得しているものの、具体的には十分に考えておらず、それをもとにした授業計画ができていない。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-09	履修コード	7411Z1
科目名	美術教育法Ⅲ	科目英語名	Study of Art Education Ⅲ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（中学美術）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	木曜7・8限
履修区分	選択	教室	第1教室
単位	2	定員	100名
担当教員	(非常勤) 新保甚平		
授業概要	中等美術教育の目的、目標、内容、方法について理解を深め、実践を意識した授業を行う。		
到達目標	中等教育の美術科教師として必要な知識、技能、態度など基本的な授業方法を修得でき、基本的な指導力を身につけ、有意義な授業が出来るようにする。特に鑑賞教育の意義、教育現場での実践事例の検討を元に、自ら授業をデザインし、学習指導案を作成できるようにする。		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：美術教育の目的について 第3回：日本の美術科教育：臨画と自由画、創造美術教育 第4回：美術に対する多様な考え 第5回：鑑賞教育の意義 第6回：学校と美術館との連携による鑑賞教育 第7回：学校の中でできるワークショップ 第8回：鑑賞教育の授業デザイン（教材の選定と展開） 第9回：学習指導案の作成 第10回：グループに分かれての模擬授業 ①（導入について） 第11回：グループに分かれての模擬授業 ②（題材について） 第12回：グループに分かれての模擬授業 ③（机間巡視、指導方法について） 第13回：グループに分かれての模擬授業 ④（指導観の展開） 第14回：学習指導案の修正 第15回：全体のまとめと確認</p>		
予習・復習	適宜指示する。配付する資料を事前に読んでくること。 模擬授業の準備。		
教科書	『中学校学習指導要領解説 美術編』（最新版） ※授業始めに販売してもらいますので、持っていない人は購入してください。 神林恒道、ふじえみつる『美術教育ハンドブック』三元社、2018年（美術教育法Ⅱで使用した教科書）		
参考書	『高等学校学習指導要領解説 美術編』（最新版）		
教材	配付プリント・ビデオ・DVD		
履修上の注意	教職に興味があるか、または教師を目指そうという心構えをもって参加すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	レポート1回と期末試験とを総合して単位認定を行う。 [A]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を高いレベルで理解することができた。 [B]美術教育に関する視野を広げ、学習指導を理解することができた。 [C]美術教育に関する視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-10	履修コード	7412Z1
科目名	工芸教育法 I	科目英語名	Study of Craft Education I
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（高校工芸）	開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	LAVC室
単位	2	定員	20名
担当教員	(非常勤) 鷲山 靖		
授業概要	中学校・高等学校における工芸教育の意義、目標、内容、方法、評価について理解を深め、その授業方法の基本を学ぶ。		
到達目標	工芸の意味を伝える授業方法の基本を修得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 工芸の概念 3. 工芸教育の意義 4. 工芸教育の種類と教育理論 5. 工芸教育の授業目標とその題材タイプ 6. 工芸授業のポイント①：技法指導、学習指導、個人差の認識 7. 工芸授業のポイント②：学習指導の工夫、教具・図解（情報機器の活用を含む） 8. 工芸授業のポイント③：指導言、授業の基本構造、指導案の作成 9. 工芸授業のポイント④：評価の基礎理論 10. 工芸授業のポイント⑤：評価規準とワークシートの作成 11. 工芸授業のポイント⑥：評価規準による生徒作品の制作 12. 工芸授業のポイント⑦：評価規準による生徒作品の評価・評定 13. 模擬授業の準備（教材、指導案の作成） 14. 模擬授業と討議 15. まとめ 筆記試験 		
予習・復習	演習の準備		
教科書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽美術工芸書道）編』（最新版）		
参考書	適宜紹介する。		
教材	資料をスクリーンに提示する他、受講生持参物を事前に連絡する。		
履修上の注意	特になし。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	模擬授業と筆記試験とを総合して単位認定を行う。 [A] 工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を高いレベルで理解することができた。 [B] 工芸教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。 [C] 工芸教育の視野を広げることができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-11	履修コード	7413Z1
科目名	工芸教育法Ⅱ	科目英語名	Study of Craft Education II
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分	教職選択科目（高校工芸）	開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	工芸科3年次	曜日・時限	火曜7・8限
履修区分	選択	教室	第2教室
単位	2	定員	20名
担当教員	(非常勤) 横江昌人		
授業概要	将来、教育現場で直面する様々な事例とその対応策を探求する。		
到達目標	<p>①工芸科教育の目標を理解し、内容や方法について説明することができる（指導案の作成と模擬授業の実施を含む）。</p> <p>②工芸科教育の状況（史の変遷を含む）を捉え、望ましい教師像や今日的課題について持論を説明することができる。</p> <p>生徒の成長や社会の変化に対応しながら、的確な判断と実践をなし得る教師としての自覚を高め、工芸教育の指導法を研究、修得する。制作者ではなく指導する立場から、客観的に「つくる」行為を捉える意識が大切です。</p>		
授業計画	<p>1・オリエンテーション</p> <p>2・教師の姿勢・工芸教育の目的を考え、各人の考える理想の教師像を探る。レポート</p> <p>3・工芸教育の現状・その歴史・特性・「触覚」について（触れることの意味・素材との出会い、素材との対話）</p> <p>4・教育現場の諸問題を考察し環境の整備と幅広く技術を駆使するための工夫を考える。</p> <p>5・実習、実技への心得・制作上の安全面を踏まえ、生徒の実習心得について研究する。</p> <p>6・発想の定着・種々の課題の持つねらいを、いかに形として定着させるべきかを研究する。</p> <p>7・指導と評価・生徒の能力や知性を把握し、その製作表現力をいかに評価していくかを探る。</p> <p>8・学習指導計画書の作成</p> <p>9・学習指導年間計画書の作成</p> <p>10・各単元の教材の研究（情報機器及び教材の活用を含む）</p> <p>11・各単元の学習指導案の作成</p> <p>12・鑑賞 作品の鑑賞解説 ができるように実践する。レポート</p> <p>13・模擬授業 ① 導入、教材研究</p> <p>14・模擬授業 ② 学習指導、評価 小テスト</p> <p>15・まとめ レポート作成</p>		
予習・復習	配付資料の読み込み。教科書に沿ってテーマを出します。予め内容を把握し、自分の視点（感想・意見）を持って臨むこと。テーマに関する自分なりの考え、思い、疑問などを記し提出する。		
教科書	「工芸Ⅰ」（日本文教出版）		
参考書	文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽美術工芸書道）編 音楽編美術編』（最新版）		
教材	配付プリント		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>到達目標①②を評価の観点として、（レポート・小テスト3～4回）：50%、学習指導計画書指導案：40%、模擬授業（自評及び相互評価）：10% を総合的に評価する。提出物は成績評価の対象になる為 注意して下さい。</p> <p>[A] 到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を高いレベルで理解することができた。</p> <p>[B] 到達目標①②に関する視野を広げ、到達目標①②を理解することができた。</p> <p>[C] 到達目標①②に関する視野を広げることができた。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-12	履修コード	7420Z1
科目名	教育相談研究	科目英語名	Practice of School Counseling
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	金曜9・10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	80名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	本講義では、学校における教育相談に関わる基礎を学習し、日常の教育活動においてどのような形で生徒に支援を行うかについて講義を行う。また実習を積極的に導入し、「人と向かい合う」ために必要なスキル・態度を身につけ、現実の対応における問題を考える。		
到達目標	教職科目として、教育相談に必要な心理学的知識の習得、および実際の相談を理解するための体験を行うことを目的とする。また教員採用試験で問われる項目を重点的に扱い、要点の完全学習を目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学校心理学1 新しい学校における教育サービス 3 学校心理学2 心理教育的援助サービスとは(1) 4 学校心理学3 心理教育的援助サービスとは(2) 5 学校心理学4 援助の基本的概念と方法 6 学校における問題1 青年期の心理的問題と不適応 7 学校における問題2 発達の障害と不適応 8 学校における問題3 家庭・社会との関係づくり 9 心理アセスメントの方法と実際 10 教育相談の方法1 援助チームの活動・先生として接する 11 教育相談の方法2 臨床活動の流れと主要な面接技法 12 教育相談の方法3 実際に接する 人と向かい合うためのワークショップ(1) 13 教育相談の方法4 実際に接する 人と向かい合うためのワークショップ(2) 14 まとめ 学校における心理・教育的援助サービス 15 期末評価 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	安斎・荷方(編) 「使える」教育心理学 北樹出版 石隈利紀著 「学校心理学」誠心書房		
教材	特になし。		
履修上の注意			
成績評価(平成29年度以前入学者)	<p>到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数(50%) 客観式テストないしはレポート課題を行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価(50%) それぞれの課題や参加については、授業内でポイント(点数)を提示する。 授業内の小課題(概ね40%)、発言や積極的参加(概ね10%) 授業における発言、小課題での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している 		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-13	履修コード	7414Z1
科目名	教育制度と社会	科目英語名	Educational Systems and Society
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	水曜9・10限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	100名
担当教員	桑村佐和子		
授業概要	教育制度の基本原則や学校体系、教育行財政、学校経営組織等に関わる諸問題を考えるための基本的な知識について講義し、今後の教育制度について受講生同士で議論しながら考察する。		
到達目標	<p>(1) 日本の公教育制度の概要を把握する。</p> <p>(2) 学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる諸概念を理解する。</p> <p>(3) 地域との連携、学校安全への対応など、学校が取り組んでいる課題を認識し、その意義と実際を理解する。</p> <p>(4) 理解した諸概念を用いて、社会の変化に対応した学校を巡る現状について制度的な観点から説明し、自己の意見を展開できる。</p>		
授業計画	<p>下記の項目について講義するとともに、授業中に示す課題について学生の意見の発表機会を設ける。</p> <p>第1回：「教育制度」を規定する要因</p> <p>第2回：公教育の範囲と組織原理、日本の教育制度の基本原則</p> <p>第3回：学校体系の類型 — 諸外国との比較を通して</p> <p>第4回：学校の設置者とその多様化 — 新しい学校種、オルタナティブスクール</p> <p>第5回：義務教育を実現するために</p> <p>第6回：特別の教育的ニーズがある生徒への対応（子どもの貧困への対応、日本語教室など）</p> <p>第7回：学校安全への対応</p> <p>第8回：通学区域制度と学校選択制度</p> <p>第9回：学校の組織と運営（教員組織、学校評議員制度）</p> <p>第10回：学校と地域の関係（学校支援地域本部、コミュニティスクール）</p> <p>第11回：学校運営に関する評価</p> <p>第12回：日本の教育行政の仕組み</p> <p>第13回：教科書制度</p> <p>第14回：教員の職務に係わる制度</p> <p>第15回：まとめ—社会の変化に対応した教育制度の在り方</p>		
予習・復習	予習は必要に応じて授業中に指示する。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	教育制度研究会『要説 教育制度』（新訂第三版）（学術図書、2011年）、坂田仰、他『新訂第3版 図解・表解 教育法規』（新訂第3版、増補改訂）（教育開発研究所、2010年）、苅谷剛彦『学力と階層』（朝日文庫、2012年）その他、適宜紹介する資料等を参考とすること。		
教材	視聴覚資料を用いる場合がある。		
履修上の注意	教育実習、博物館実習等で出席できない場合にはあらかじめ連絡すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>期末のレポート（70%）と毎回の授業への参加状況（30%）を総合して評価する。</p> <p>レポートの評価基準は、以下のとおりである。</p> <p>[A] 教育制度に関わる状況とその背景にある考え方を示しつつ、自分の意見をまとめられている。</p> <p>[B] 実態に対する教育制度的な分析が十分とは言えないが、自分の意見はまとめている。</p> <p>[C] 実態の分析が十分とは言えないが、自分の意見はまとめている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-14	履修コード	7415Z1
科目名	生徒指導論	科目英語名	Theory of Student Guidance
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	選択	教室	研修室
単位	2	定員	100名
担当教員	荷方邦夫		
授業概要	学校教育において、教科教育や特別活動と平行して生徒指導による介入・支援が不可欠である。本講義では生徒指導が学校の教育目標を達成するための重要な機能の1つであることを明らかにしていく。また、生徒指導の方法、問題行動に対する指導について具体的な事例を通して学習していく。		
到達目標	教職科目として、生徒指導に必要な知識・教育法規の学習を目的とする。また生徒指導に関する社会的問題に対する意見・指摘ができるよう、考える力を育てる。特に教員採用試験で問われる項目を重点的に扱い、要点の完全学習を目標とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒指導の目的と内容（オリエンテーション） 2 生徒指導の概念(1) 生徒指導のねらい・歴史の変遷 3 生徒指導の概念(2) 生徒指導の領域と運営のポイント 4 学校における生活指導(1) 指導の課題とタイプ 5 学校における生活指導(2) 教育的懲戒 6 生徒指導のトピックス(1) 不登校といじめの問題 7 生徒指導のトピックス(2) 荒れる学校の問題と非行 8 進路指導 キャリアアップの指導とその実際 9 事例から考える生徒指導(1) 問題行動を中心として 10 事例から考える生徒指導(2) 家庭との連携と方法 11 事例から考える生徒指導(3) 就業の問題とノート 12 期末課題(1) 期末評価についてのガイダンス 13 期末課題(2) 課題の実習とその支援 14 まとめ 生徒指導の可能性と限界 15 期末評価 		
予習・復習	授業の中で随時指示を行う。学生の自学自習を積極的に求める。		
教科書	資料を配付する。		
参考書	小泉編「よくわかる生徒指導・キャリア指導」（ミネルヴァ書房）		
教材	特になし。		
履修上の注意	開講時は教育実習（1ヶ月）に重なる。このため授業計画のうち一部は、これに配慮した対応が実施される。各自授業担当者からの指示に注意するように。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終レポートをもとに評価を行う。学期末に行われる試験の点数と授業への参加状況が基本的な評価となる。1%を1ポイントとして換算する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 期末試験の点数（50%） 客観式テストないしはレポート課題を行い、点数を直接の評価とする。 2 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの課題や参加については、授業内でポイント（点数）を提示する。 授業内の小課題（概ね40%）、発言や積極的参加（概ね10%） 授業における発言、小課題での回答をそのつどカウントする。 <p>評価の基準</p> <ul style="list-style-type: none"> [A] 上記の基準の上1と2で80%以上のポイントを獲得している [B] 上記の基準の上1と2で60%以上のポイントを獲得している [C] 上記の基準の上1と2で50%以上のポイントを獲得している 		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-15	履修コード	7419Z1
科目名	教職実践演習（中・高）	科目英語名	Seminar for Teaching Practice
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	選択	教室	事務局前に掲示
単位	2	定員	80名
担当教員	○桑村佐和子・荷方邦夫（非常勤）寺井雅樹・西澤 明		
授業概要	4年間の教職課程の総まとめとして、また、理論や知識を学ぶ「大学」と、それを活かす「教育現場」との橋渡しとして、教壇に立った時に必要となる知識や技術、ものの考え方や問題解決の方法等を実践的に学ぶ。さらに、講師には学級経営や教科指導のエキスパートである現任教員を迎え、教育現場の最前線の理解を図る。 授業は、単に講義にとどまらず、少人数でのグループ討議や、ロールプレイング等、多様な形態で行う。受講者は、目標に掲げたような能力・感性を身につけ、かつそれらを教壇での確に表現・発揮できるよう、この授業に積極的に参加することが求められる。		
到達目標	本授業では、教育実習の体験を踏まえ、大学で学んだ知識・理論を教育現場でいかにして応用するかを考察し、同時に教師の使命や責任への思いを新たにする過程を通じて、「学生」が豊かな指導力と強い責任感を兼ね備えた「教員」へと成長できるようにする。具体的には以下のような能力の修得を目指す。 (1) 使命感や責任感、教育的愛情 (2) 社会性や対人関係能力 (3) 生徒理解や学級経営力 (4) 教科内容の指導力		
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンスと総論（荷方）</p> <p>第2回～第3回 「教師」になるとはどういうことか（荷方・桑村）</p> <p>第4回～第8回 グループ別プログラム - その1：教育現場を知る - （全教員担当） （以下の4テーマについての講義およびグループ討議） テーマ1 学級経営の実際（寺井） テーマ2 生徒・社会に対応するためのトレーニング（荷方） テーマ3 現代の教育における諸課題（桑村） テーマ4 美術科・工芸科の教員に求められるもの（西澤）</p> <p>第9回 プレゼンテーション課題の提示とガイダンス（荷方）</p> <p>第10回～第14回 グループ別プログラム - その2：プレゼンテーション - （桑村・荷方） （受講生が教育実習を通じて感じた授業の進め方や、学級経営に関する課題とその解決方法を提示することで、全受講生が追体験できるような発表を行う。）</p> <p>第15回 プレゼンテーションの講評と授業のまとめ・確認（桑村・荷方）</p>		
予習・復習	授業中に随時指示する。		
教科書	4年間の教職課程において使用した教科書・資料等。		
参考書	適宜指示する。		
教材	適宜指示する。		
履修上の注意	特になし		
成績評価（平成29年度以前入学者）	到達目標に示された課題についての達成状況と考え方・見方の深化について、授業内でのミニレポートおよび最終試験ないしはレポートをもとに評価を行う。 期末試験の点数（50%） 授業内での小課題および積極的な参加の評価（50%） それぞれの内容について、5（優秀）から1（努力を要する）の5件法で評価を行い、合算して到達度とする。 評価の基準 [A] 上記の2つの基準から、教職について深い理解と実践の力を有していると認める。 [B] 上記の2つの基準から、教職について必要な理解と実践の力を有していると認める。 [C] 上記の2つの基準から、教職について一定の理解と実践の力を有していると認める。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-16	履修コード	7417Z1
科目名	教育実習事前事後指導	科目英語名	Guide to Teaching Practice
科目区分	教職に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	事務局前に掲示
履修区分	選択	教室	事務局前に掲示
単位	1	定員	100名
担当教員	○桑村佐和子・荷方邦夫（非常勤）未定		
授業概要	教育実習前には、実習に必要な手続きと心構えについて認識を新たにし、授業実習に必要な知識と技能について解説し、模擬授業の形式で実習する。講師として現職の教員および金沢市教育委員会指導主事をお招きする。 また、事後には教育実習を振り返り、教職について再確認する。		
到達目標	1)教育実習の意義が認識できること。 2)教育実習に必要な技能と知識（学習指導案の作成、職務内容の理解等）の定着。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・4月から5月にかけて「事前指導」の時間を設定し、教育実習の目的・方法・心得等について講義する。特に、実習生としての職務内容、学習指導案の作成および教材の準備について入念に確認する。 ・学外から専門家を招き（現職の教員あるいは教育委員会指導主事）教育実習と学校教育の実際について理解を深め、教育実習に備える。 ・教育実習終了後、事後指導としてセミナー形式による実習体験の反省・問題点・成果等について考察し、実習経験を共有する。事前指導同様、外部の講師をお招きする予定である。 		
予習・復習	一日目に配付する「教育実習手帳」の内容を把握しておくこと。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	事前指導に正当な理由なく欠席した場合、教育実習を許可しない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	参加の状況と実習後に提出するレポート及び実習中に作成した「学習指導案」を総合して評価する。それぞれ40%、50%、10%とする。 レポートの評価基準は、以下のとおりである。 [A] 自分の教育実習の結果を示しつつ、事後指導等での他学生の教育実習の結果も合わせて、教職への理解が深められている。 [B] 自分の教育実習の結果は示されており、体験をもとに教職への理解が深められている。 [C] 自分の教育実習の結果は示されており、その範囲で教職への自分の考えがまとめられている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-17	履修コード	7409Z1
科目名	教育実習 I	科目英語名	Teaching Practice I
科目区分	教職に関する科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	実習校
単位	2	定員	100名
担当教員	○桑村佐和子・荷方邦夫		
授業概要	教員免許状取得に必修の教育実習を中学校あるいは高等学校において行い、教員に必要な知識・技能・態度を実践的に学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教員として必要な資質は何かを、「実感」すること。 2) 実践的指導能力(教科指導、生徒指導、道徳教育、特別活動等を含め)の修得。 3) 学校経営(学級経営を含む)の実際を体験的に把握すること。 4) 教員としてのモラルに思いを致すこと。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主として5月下旬から7月上旬の4週間(3週間の場合もある)、金沢市内、石川県内および石川県外の出身中学・高等学校において実習を行う。 2. 実習開始前に、実習校で事前指導を受ける。その日程、事前準備等の詳細については実習校と連絡を密にすること。 3. 実習期間中、金沢市内および県内実習校については本学担当教員が現場訪問し、必要な指導を行う。 ※該当する学生は、日程調整のための連絡を、大学と確実に取ること。 4. 県外についても可能な限り、巡回指導を行う。 		
予習・復習	それぞれ実習校と相談の上、必要な予習および復習を行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	実習の特性からして遅刻、欠席、早退は原則として許されません。実習は「勤務」です。実習生としてのモラルをしっかり守り、指導教諭の指示に従うことが大切です。実習中に問題が生じ、自力で解決できない時はすぐに大学に連絡すること。		
成績評価(平成29年度以前入学者)	各実習校から報告される評価表に基づき単位認定を行う。その際、「実習手帳」の記述内容を評価のための参考資料として重視する。「実習手帳」は教育実習と教育実習事後指導の後、事務局に提出すること。		
成績評価(平成30年度以降入学者)			

平成31年度シラバス

番号	(C1)-18	履修コード	7418Z1
科目名	教育実習Ⅱ	科目英語名	Teaching Practice Ⅱ
科目区分	教職に関する科目	授業形態	実習
資格区分	教職選択科目（中学美術）	開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	実習校
単位	2	定員	100名
担当教員	○桑村佐和子・荷方邦夫		
授業概要	教員免許状取得に必修の教育実習を中学校あるいは高等学校において行い、教員に必要な知識・技能・態度を実践的に学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教員として必要な資質は何かを、「実感」すること。 2) 実践的指導能力（教科指導、生徒指導、道徳教育、特別活動等を含め）の修得。 3) 学校経営（学級経営を含む）の実際を体験的に把握すること。 4) 教員としてのモラルに思いを致すこと。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主として5月下旬から7月上旬の4週間（3週間の場合もある）、金沢市内、石川県内および石川県外の出身中学・高等学校において実習を行う。 2. 実習開始前に、実習校で事前指導を受ける。その日程、事前準備等の詳細については実習校と連絡を密にすること。 3. 実習期間中、金沢市内および県内実習校については本学担当教員が現場訪問し、必要な指導を行う。 ※該当する学生は、日程調整のための連絡を、大学と確実に取ること。 4. 県外についても可能な限り、巡回指導を行う。 5. 実習期間が3週間の場合、残余の期間について補習的な指導を手当てし、4週間と同じ教育効果があがるよう配慮する。 		
予習・復習	それぞれ実習校と相談の上、必要な予習および復習を行うこと。		
教科書	適宜指示する。		
参考書	適宜指示する。		
教材	特になし。		
履修上の注意	<p>実習の特性からして遅刻、欠席、早退は原則として許されません。実習は「勤務」です。実習生としてのモラルをしっかり守り、指導教諭の指示に従うことが大切です。</p> <p>実習中に問題が生じ、自力で解決できない時はすぐに大学に連絡すること。</p> <p>また、本学では原則として「教育実習Ⅰ」および「教育実習Ⅱ」は一括して実施する。詳細については、ガイダンスその他を参考にすること。</p> <p>※中学校の教員免許状取得を目指している学生は、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の両方の履修申請をすること。</p>		
成績評価（平成29年度以前入学者）	各実習校から報告される評価表に基づき単位認定を行う。その際、「実習手帳」の記述内容を評価のための参考資料として重視する。「実習手帳」は教育実習と教育実習事後指導の後、事務局に提出すること。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(D1)-01	履修コード	7306Z1
科目名	博物館資料論	科目英語名	Theory of Cultural Properties for Museum
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻1年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	60名
担当教員	(非常勤) 山崎達文		
授業概要	“博物館資料”とは何か。その対象となる多様な事物はどのような理念や方法論をもって博物館資料としての意義や価値を与えられるのか、具体的事例を通して検討する。また、調査研究、保存管理、活用公開など一連の博物館活動の目的や内容、理解を踏まえながら博物館資料の基礎を学ぶ。		
到達目標	博物館活動の中心的課題である博物館資料の収集、整理、保存、活用の理論的理解を図り、博物館資料とは何かを総合的に理解できる基礎的能力を身に付ける。		
授業計画	<p>第1回 博物館資料とは何か 1 博物館機能との関わりを通してその意義を学ぶ</p> <p>第2回 博物館資料とは何か 2 資料の種類についての具体的な事例検討による理解</p> <p>第3回 博物館資料とは何か 3 資料化のために必要な視点とそのプロセス</p> <p>第4回 博物館資料の収集 1 収集の理念、倫理の重要性、関連法規の理解</p> <p>第5回 博物館資料の収集 2 資料情報の記録、所蔵・登録に必要な手続き</p> <p>第6回 博物館資料の収集 3 資料の整理・分類、および目録作成の考え方と方法</p> <p>第7回 博物館資料の収集 4 管理、登録、目録等、一連の書式作成を体験する</p> <p>第8回 博物館の調査研究活動 1 博物館資料研究の意義とその内容</p> <p>第9回 博物館の調査研究活動 2 資料の保存管理に関する研究とその内容</p> <p>第10回 博物館資料の活用 1 多様な表現様式、形体、素材による資料展示と留意点</p> <p>第11回 博物館資料の活用 2 資料取扱いの実際とその留意点</p> <p>第12回 博物館資料の活用 3 資料のメンテナンスー保存管理と修理修復</p> <p>第13回 博物館研究 1 学んだ資料論的視点による美術系博物館考</p> <p>第14回 博物館研究 2 学んだ資料論的視点から多様な博物館の実際を知る</p> <p>第15回 まとめ、学習到達度の確認</p>		
予習・復習	恒常的に博物館を訪れ、展示等に接してその特性を把握し、授業を通して得た知見を館の現場に当てはめることで、改めて実際的理解や新たな疑問を作り出すよう努めること。		
教科書	特に使用しない。必要に応じて関係資料を配布する。		
参考書	『博物館学ハンドブック1』（関西大学出版部）、水藤真『博物館学を学ぶ』（山川出版社）、その他授業内で紹介する。		
教材	配布資料、関連映像やWeb情報などを利用して授業内容を補完する。		
履修上の注意	博物館学芸員は、豊かな社会性をもって生涯学習教育に携わる人材としての素養が求められる。履修には明確な目的意識に裏打ちされた学修意欲と自己管理能力が必要である。博物館学芸員資格取得に必要な科目なので最終学年までに履修し、未履修ということのないように履修年度に注意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	[A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	[S]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができ、かつ特に秀でた学術レベルにある。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(D1)-02	履修コード	7307Z1
科目名	博物館経営論	科目英語名	Theory of Museum Management
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	月曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷 拓		
授業概要	ミュージアム（美術館や博物館など）の経営形態と管理運営の実態について、基本的な知識を学ぶ。		
到達目標	設置者側の視点からミュージアムの役割と位置づけを理解し、ミュージアム経営の今日的課題について意見を持てるようにする。		
授業計画	<p>第1回 ミュージアムは誰が運営している？（イントロダクション）</p> <p>第2回 ミュージアムで働く・ミュージアムと働く</p> <p>第3回 ミュージアムはお金がかかる【1】 展覧会</p> <p>第4回 ミュージアムはお金がかかる【2】 資料収集と施設管理</p> <p>第5回 ミュージアムは儲かるか？</p> <p>第6回 ミュージアムは評価される</p> <p>第7回 ミュージアムはリスクに備える</p> <p>第8回 ミュージアムの年間スケジュールを考えてみる</p> <p>第9回 ミュージアムの事業を広報する</p> <p>第10回 ミュージアムと協同する</p> <p>第11回 ミュージアムをつくる</p> <p>第12回 ミュージアムで地域振興する</p> <p>第13回 ミュージアムも閉鎖されることがある</p> <p>第14回 ミュージアムは連携する</p> <p>第15回 まとめ</p>		
予習・復習	ミュージアム運営に関する各種報道を積極的に読むようにすること。ミュージアムを訪れる際に、各館の経営形態や経営の目的について知る努力をすること。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	倉田公裕・矢島國雄著『新編 博物館学』東京堂出版、佐々木亨・亀井修著『博物館経営論』放送大学教育振興会など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[A] ミュージアムの経営に関する知識を高い水準で修得している。</p> <p>[B] ミュージアムの経営に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] ミュージアムの経営に関する一定の知識を持っている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[S] ミュージアムの経営に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。</p> <p>[A] ミュージアムの経営に関する知識を高い水準で習得している。</p> <p>[B] ミュージアムの経営に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] ミュージアムの経営に関する一定の知識を持っている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(D1)-03	履修コード	7308Z1
科目名	博物館展示論	科目英語名	Theory of Display for Museum
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷 拓		
授業概要	ミュージアム（美術館や博物館など）における展示活動に関して、その考え方・歴史・解説活動・今日における課題などを学ぶ。		
到達目標	ミュージアムの現場で資料を展示するために必要となる基本的な知識を修得するとともに、学生自らがその知識を展示活動に活かすことができるようにする。		
授業計画	<p>第1回 「展示する」ということ（イントロダクション）</p> <p>第2回 アート・ミュージアムの展示【1】 歴史</p> <p>第3回 アート・ミュージアムの展示【2】 解説、ガイド機器、キャプション</p> <p>第4回 アート・ミュージアムの展示【3】 結界、ケース、展示作業、動線</p> <p>第5回 アート・ミュージアムの展示【4】 展覧会図録</p> <p>第6回 展示の場【1】 ホワイト・キューブ</p> <p>第7回 展示の場【2】 オルタナティヴ・スペースとサイト・スペシフィック</p> <p>第8回 展示のいろいろ【1】 常設展</p> <p>第9回 展示のいろいろ【2】 特別展</p> <p>第10回 展示のいろいろ【3】 生態展示</p> <p>第11回 展示のいろいろ【4】 屋外彫刻</p> <p>第12回 展示のいろいろ【5】 異文化の展示</p> <p>第13回 展示のいろいろ【6】 展示の変更・中止</p> <p>第14回 展示と権利</p> <p>第15回 まとめ</p>		
予習・復習	ミュージアム見学の際に、資料のみならず、展示全体のコンセプトを読み取ったり、解説資料に目配りしたりするよう心がけること。また日頃から「展示すること」「展示されること」について広い文脈で考えるよう心がけること。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	倉田公裕・矢島國雄著『新編 博物館学』東京堂出版、川口幸也編著『展示の政治学』水声社、木下直之著『美術という見世物』ちくま学芸文庫、など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート採点の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験の評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[A] ミュージアムの展示活動に関する知識を高い水準で修得している。</p> <p>[B] ミュージアムの展示活動に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] ミュージアムの展示活動に関する一定の知識を持っている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート採点の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験（70%）。</p> <p>期末試験の評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[S] ミュージアムの展示活動に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。</p> <p>[A] ミュージアムの展示活動に関する知識を高い水準で習得している。</p> <p>[B] ミュージアムの展示活動に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] ミュージアムの展示活動に関する一定の知識を持っている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(D1)-04	履修コード	7309Z1
科目名	博物館資料保存論	科目英語名	Theory of Museum Preservation
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	火曜9・10限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷 拓		
授業概要	ミュージアム（美術館や博物館など）において資料を保存することの意義や、資料を良好に保存・継承していくための方法と環境について科学的・実践的観点から学ぶ。		
到達目標	ミュージアムの現場で、学芸員として資料保存に携わるために必要となる基本的知識を修得する。		
授業計画	<p>第1回 展示活用と保存は表裏一体の関係である（イントロダクション）</p> <p>第2回 展示と保存の環境を考へてみる【1】 光</p> <p>第3回 展示と保存の環境を考へてみる【2】 温湿度と空気質</p> <p>第4回 展示と保存の環境を考へてみる【3】 生物被害とIPM</p> <p>第5回 展示と保存の環境を考へてみる【4】 伝統的保存方法</p> <p>第6回 展示と保存の環境を考へてみる【5】 ファシリティ・レポート</p> <p>第7回 屋外彫刻の状態を観察する【1】 【状態調査】</p> <p>第8回 屋外彫刻の状態を観察する【2】 【調査結果の発表】</p> <p>第9回 資料を修復する</p> <p>第10回 資料を輸送する／展示する</p> <p>第11回 知っておきたい【1】 文化財保護法</p> <p>第12回 知っておきたい【2】 エコミュージアム</p> <p>第13回 知っておきたい【3】 被災文化財のレスキュー</p> <p>第14回 知っておきたい【4】 ポストコロナリズムと文化財</p> <p>第15回 まとめ</p>		
予習・復習	ミュージアム見学の際に、資料のみならず展示環境を観察するよう心がけること。制作・研究をしながら、その作品・資料がどのように保存されるべきか考える習慣を持つこと。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	石崎武志編著『博物館資料保存論』講談社、日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい、など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[A] 博物館資料の保存に関する知識を高い水準で修得している。</p> <p>[B] 博物館資料の保存に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] 博物館資料の保存に関する一定水準の知識を持っている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークに取り組む姿勢）と、期末試験もしくはレポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>[S] 博物館資料に関する知識を高い水準で修得し、制作・研究活動との関係において自らの見解を示すことができる。</p> <p>[A] 博物館資料に関する知識を高い水準で修得している。</p> <p>[B] 博物館資料に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>[C] 博物館資料に関する一定水準の知識を持っている。</p>		

平成31年度シラバス

番号	(D1)-05	履修コード	7310Z1
科目名	博物館情報・メディア論	科目英語名	Theory of Information & Media for Museum
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	後期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻2年次	曜日・時限	金曜7・8限
履修区分	選択	教室	視聴覚教室
単位	2	定員	60名
担当教員	(非常勤) 山崎達文		
授業概要	博物館における情報メディアの意義、歴史などの基礎知識を学ぶとともに、その理論と実践実例を検討しながら、情報発信の新しい技術や関連法令、現場での課題などを考える。		
到達目標	博物館における情報の意義と活用、情報発信などに関する理解を通して、博物館の情報提供やその活用についての基礎的かつ実際的な能力を身につける。		
授業計画	第1回 はじめに 情報とは何か、メディアとは何か 第2回 博物館における情報・メディアの展開 第3回 ICT社会と博物館 第4回 情報教育の意義 第5回 情報の管理と公開 第6回 博物館のドキュメンテーション 第7回 資料のデータベース化 第8回 所蔵資料情報のデジタル化と課題 第9回 博物館展示のデジタル化と課題 第10回 博物館と知的財産権 第11回 権利関係処理とその実務 第12回 デジタル・アーカイブの現状 第13回 デジタルミュージアムの課題と展望 第14回 博物館広報における課題 第15回 まとめ、学習到達度の確認		
予習・復習	授業外で自主的に多くの博物館を訪問し、その館における情報メディアに関する対応状況やその特性などの理解把握に努め、自らの学習に反映させるようにすること。		
教科書	特に使用しない。必要に応じて関係資料を配布する。		
参考書	『博物館学Ⅲ』（学文社）、ほかにも授業内で紹介する。		
教材	配布資料、関連映像やWeb情報などを利用して授業内容を補完する。		
履修上の注意	博物館学芸員は、豊かな社会性をもって生涯学習教育に携わる人材としての素養が求められる。履修には明確な目的意識に裏打ちされた学修意欲と自己管理能力が必要である。博物館学芸員資格取得に必要な科目なので最終学年前までに履修し、最終学年において未履修ということのないように履修年度に注意すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	[A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）	[S]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができ、かつ特に秀でた学術レベルにある。 [A]問題を良く理解し、論理的に思考するとともに有意な見解を提示することができた。 [B]問題を良く理解し、論理的に思考することができた。 [C]問題を理解することができた。		

平成31年度シラバス

番号	(D1)-06	履修コード	7311Z1
科目名	博物館実習 I	科目英語名	Practice of Museum Study I
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻3年次	曜日・時限	月曜9・10限
履修区分	選択	教室	前期：視聴覚教室 後期：研修室・第4教室
単位	2	定員	60名
担当教員	○渋谷 拓（非常勤など）未定		
授業概要	見学や学内実習による現場体験を通じて、ミュージアム施設の業務を幅広く学ぶ。		
到達目標	様々なミュージアム施設の運営・活動の実際、資料や計測機器の基本的な取扱い、展示企画に関する業務などを学び、仲間と協力して学芸員として働くための実践的能力を養う。		
授業計画	<p>【1】 個人もしくはグループワークで以下の内容を学ぶ。 ・金沢市内・近郊のミュージアムの展示を見学して発表する。 ・実現したい展覧会企画を作成して発表する。 ・作品や資料の鑑賞・観察をし、作品ガイドを執筆して発表する。 ・空気質、温湿度、有害虫の調査を行い、発表する。</p> <p>【2】 資料の取扱い実習については、受講者を2グループに分けて実施する場合がある。 ・油彩、日本画、版画、彫刻、工芸品などの各資料の展示・梱包・照明を行う。</p> <p>【3】 原則として調整期間内に、前期・後期にそれぞれ近県（福井、富山など）のミュージアム見学旅行を日帰りで行う。 ・見学後にレポートを課す場合がある。 ・見学旅行に参加できない受講者は、申告の上、独自にミュージアムを見学してレポートを提出することとする。</p> <p>【4】 本科目において、4年次配当の博物館実習Ⅱを履修するにあたってのガイダンスを実施する。</p>		
予習・復習	予習として、自らが制作した作品の保存・取扱いについて考えてみたり、研究をミュージアムでどのように事業化できるのかを考えてみたりすること。また履修済みの博物館に関する科目全般について復習しておくこと。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	並木誠士・吉中充代・米屋優編『現代美術館学』昭和堂、石崎武志編著『博物館資料保存論』講談社、日本博物館協会編『博物館資料取扱いガイドブック』ぎょうせい、など		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。 見学したミュージアムのチラシやパンフレットなどを教材にする場合がある。 資料取扱いのために白手袋、メジャーなどを準備すること。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。 近県のミュージアムに日帰りの見学旅行を実施するので、できるだけ参加すること。 実習科目という性質上、本科目の単位を取得していない者は、原則として4年次配当の博物館実習Ⅱの履修が認められないものとする。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	授業への参加状況（出席および発表やグループワークに取り組む姿勢）、技能、レポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況と技能（70%）、レポート（30%）。発表内容・技能・レポートの評価基準は以下のとおりとする。 [A] 学芸員の業務に必要な基礎的知識・技能を習得している。 [B] 学芸員の業務に関する基礎的知識を修得している。 [C] 学芸員の業務に関する一定の知識を持っている。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(D1)-07	履修コード	7312Z1
科目名	博物館教育論	科目英語名	Theory of Museum Education
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	講義
資格区分		開講学期	前期
入学年度		毎週・集中	毎週
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	火曜5・6限
履修区分	選択	教室	第3教室
単位	2	定員	60名
担当教員	渋谷 拓		
授業概要	社会教育施設としてのミュージアム（美術館や博物館など）の理念と実態について、基本的な知識を学ぶ。		
到達目標	学びの場としてのミュージアムという観点に立ち、学生が自らの制作・研究活動の実感を加味しながら、ミュージアムの教育活動について意見を持てるようにする。		
授業計画	<p>第1回 ミュージアムで何を学ぶ？（イントロダクション）〔ミュージアム教育の意義〕</p> <p>第2回 来館者のいろいろ【1】 家族〔地域・楽しみの場〕</p> <p>第3回 来館者のいろいろ【2】 学校〔地域・学校教育との関係〕</p> <p>第4回 来館者のいろいろ【3】 大人〔生涯学習・ボランティア〕</p> <p>第5回 来館者のいろいろ【4】 研究者〔研究協力・人材育成〕</p> <p>第6回 来館者のいろいろ【5】 「異文化」のひとたち〔異文化コミュニケーション〕</p> <p>第7回 学びのいろいろ【1】 知識を得る〔生涯学習・人材育成〕</p> <p>第8回 学びのいろいろ【2】 感受性を育てる〔VTS・ワークショップ〕</p> <p>第9回 学びのいろいろ【3】 人間性を育てる（ユニバーサルミュージアム）</p> <p>第10回 教材のいろいろ【1】 作品と資料</p> <p>第11回 教材のいろいろ【2】 資料の情報と情報機器</p> <p>第12回 教材のいろいろ【3】 ミュージアムそのもの</p> <p>第13回 ミュージアム・エデュケーションの歴史</p> <p>第14回 ミュージアムの外へ（パブリックアート・画廊・芸術祭など）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
予習・復習	ミュージアムを見学する際に、ワークシートを実際に試したり、ワークショップに参加してみるように心がけること。訪れたミュージアムや展覧会で、自分ならどんな教育活動をするかを考えてみることに。		
教科書	特に使用しない。		
参考書	大高幸・端山聡子著『博物館教育論』放送大学教育振興会、アメリカ・アレナス著『なぜ、これがアートなの？』淡交社、広瀬浩二郎『ひとが優しい博物館』青弓社など。		
教材	映像資料（DVDやビデオ）、パワーポイントを使用する場合がある。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	<p>授業への参加状況（出席およびグループワークの際の取り組み姿勢）と、期末試験もしくはレポート評価の総合により単位認定を行う。参加状況（30%）、期末試験もしくはレポート（70%）。期末試験もしくはレポートの評価基準は以下のとおりとする。</p> <p>〔A〕 ミュージアムにおける教育活動に関する知識を高い水準で修得している。</p> <p>〔B〕 ミュージアムにおける教育活動に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>〔C〕 ミュージアムにおける教育活動に関する一定の知識を持っている。</p>		
成績評価（平成30年度以降入学者）			

平成31年度シラバス

番号	(D1)-08	履修コード	7313Z1
科目名	博物館実習Ⅱ	科目英語名	Practice of Museum Study II
科目区分	博物館に関する科目	授業形態	実習
資格区分		開講学期	通年
入学年度		毎週・集中	集中
専攻・年次	全専攻4年次	曜日・時限	終日
履修区分	選択	教室	学外のミュージアム施設
単位	1	定員	60名
担当教員	渋谷 拓		
授業概要	ミュージアム施設で学芸員の実務を体験する。		
到達目標	実務を体験して学芸員として働くための実践的能力を養うとともに、学生自身が学芸員の視点から自らの制作・研究活動を眺めることができるようにする。		
授業計画	<p>【1】 実習館確保のための事前説明・指導</p> <p>【2】 各実習館での実習例 第1日目：実習館の概要・施設についてのガイダンス（館内見学） 第2日目：実習館における資料の取扱いについて（概要と実務） 第3日目：実習館における展覧会業務について（概要と実務） 第4日目：実習館における教育活動について（概要と実務） 第5日目：担当学芸員の業務アシスタント（1） 第6日目：担当学芸員の業務アシスタント（2） 第7日目：担当学芸員の業務アシスタント（3）、実習全体のまとめ</p> <p>【3】 実習ノートの提出</p>		
予習・復習	原則として出身地のミュージアム施設が実習先となる。出身地の施設を調べたうえで、専攻を勘案した実習館候補を複数選定し、それぞれ募集時期や手続きなどを把握しておくこと。また博物館に関する科目全般について復習し、応募書類としてレポートの提出が求められる場合に備えること。		
教科書	実習ノート（事前説明会で配布する）		
参考書	実習館の作品・資料目録、パンフレット、カレンダー、年報、HPの情報など。		
教材	各実習館が用意する教材とする。		
履修上の注意	博物館学芸員資格の取得を希望する者は必ず履修すること。 原則として出身地のミュージアム施設が実習先となるので、実習館の候補を複数選定したうえで担当教員の指導を受けること。法人・団体としてのミュージアムとのやり取りが生じるので、ひとりの成人としてのマナーに充分留意すること。 実習科目という性質上、3年次配当の博物館実習Ⅰの単位を取得していない者は、原則として本科目の履修が認められない。		
成績評価（平成29年度以前入学者）	実習館での評価／実習ノートの内容に加え、実習館確保のための行動力も評価する。 [A] 実習館で高い評価を受け、実習での学びと実習館の活動に関する自分なりの洞察を報告する実習ノートを提出できた。 [B] 実習館を確保し、実習での学びを報告する実習ノートを提出できた。 [C] 実習館を確保し、実習ノートを提出することができた。		
成績評価（平成30年度以降入学者）			